ヲイカルマイ遺跡

道道上幌内早来停車場線特改1種工事（道州）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1

2013.3
厚真町教育委員会

カラー図版1

1. 陶磁器　碗・急須・仏飯器・仏花瓶（染付・手描色絵）

2. 陶磁器　碗（型紙摺絵）

3. 陶磁器　碗（銅版転写・吹き絵）

4. 陶磁器　碗・湯呑み（染付・銅版転写）

カラー図版2

1.陶磁器　皿(型紙摺絵)

2.陶磁器　皿(銅版転写)

序　文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する大いなる田園都市であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物への恩恵を授ける大切な河川でもあります。この広大な穀倉地帯をつなぐ道路は生活や産業の重要な基盤となっており、道道上幌内早来停車場線特改1種工事（道州）が着工されました。

さて、本書はこの道道改良工事と共に、地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査されたヲイカルマイ遺跡の報告書であります。調査により明治時代以降の開拓期のものと考えられる遺構や遺物が見つかっております。吉野地区周辺は明治17年に農業開拓のために和人が入植しています。また、明治44年には造材運搬などを目的に早来馬車軌道が施設されており、この軌道跡や枕木等も見つかっています。このほか陶磁器やガラス製品、金属製品など近代の遺物も大量に見つかっております。

これらの発掘成果から、先人たちはこの厚真の自然と共に豊かな文化を育んでいたことが克明に分かってきました。

これらの貴重な埋蔵文化財の発見は、厚真町の歴史のみに留まらず、北海道の歴史を考えるうえでも重要な成果と受け止めております。今後は出土品の公開は勿論のこと、地域の教育的資源、文化的財産としてより豊な厚真町を育むための活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また、本書が広く埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、発掘調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係機関ならびに関係諸氏に、深く感謝を申し上げる次第であります。

厚真町教育委員会
教育長　兵頭　利彦

例　言

1. 本書は、平 22・23 年度に行った道道上幌内早来停車場線特改 1 種工事（道州）事業に伴い発掘調査されたヲイカルマイ遺跡（登載番号：J-13-128）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、北海道室蘭建設管理部の委託を厚真町教育委員会が受託した。
3. 調査・整理は以下の体制で行った。

   調査担当者：荻野幸男、奈良晋法（平成 23 年度）、乾 哲也

   調査補助員：山田和史（平成 22 年度）

   測量技能作業員：渡辺博道・畑嶋朝江（平成 23 年度）

   整備技能作業員：小林輝男（平成 22 年度）、佐伯憲吾・日野　修（平成 23 年度）

   荻野：土器・陶磁器実測・撮影・ガラス製品実測、遺構・遺物図版作成、写真図版作成

   山田：土器・石器実測、遺構図作成

   乾　：統括、渉外、金属製品実測・撮影、第Ⅰ章

   ※ 遺構図は各担当者で作成した。

   発掘調査・整理業務協力：天方博章(現羅臼町教育委員会)、岩橋由久、服部一雄、松井昭、宮崎美奈子

   （厚真町教育委員会嘱託職員）
4. 本書の編集は荻野が行い、各節の執筆は、Ⅰ章を乾、それ以外を荻野が行った。
5. 関連諸科学の同定分析については、以下の機関および個人に依頼した。

   AMS 法 ^{14}C 年代測定：株式会社　加速器分析研究所

   動物遺存体同定：千歳市埋蔵文化財センター　高橋　理

   炭化種子同定：札幌国際大学博物館　椿坂恭代

   樹種同定：財団法人 北海道埋蔵文化財センター　田口 尚
6. 陶磁器の分類について弘前大学　関根達人教授に御指導を頂いた。
7. 陶磁器、ガラス製品、金属製品の一部、石器、復元土器の写真撮影：有限会社スタジオクリーク　佐藤雅彦
8. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
9. 調査・報告にあたって下記の機関および個人より御指導御協力を頂き、記して感謝申し上げます。

   北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物課、札幌国際大学、弘前大学、北海道開拓記念館、財団法人 北海道埋蔵文化財センター、千歳市埋蔵文化財センター、浦河町立郷土博物館、白老町教育委員会、小樽市総合博物館、上ノ国町教育委員会、函館市教育委員会、日高町教育委員会、岩手県立博物館、岩手県大槌町教育委員会、瀬戸蔵ミュージアム、瀬戸市埋蔵文化財センター、岐阜県陶磁資料館、多治見市文化財保護センター、岐阜県近代陶芸美術館、厚真町吉野自治会、(有) 講神組。

   阿部千春、荒井章一、池田貴夫、石神　敏、伊藤昭和、岩井　理、岡本直久、春日美海、鎌田精造、川内谷修、工藤研治、講神正男、小林孝二、高木典利、高橋和樹、田才雅彦、田中　博、立花　昭、塚田直哉、中田久人、中田　守、中野晴久、平野敦史、廣田早和子、福井沙織、　藤原秀樹、松崎水穂、蓑島栄紀、武藤忠司、山際秀紀、吉田正明、若尾正成。

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

〔遺構〕 住物跡：H　土坑：P　焼土：F　灰集中：AS　杭穴・小ピット：XSP　溝跡：MIZO

〔遺物〕 土器：P　陶磁器：CP　剥片石器：FT　礫石器：ST　フレイク・チップ：FC　礫：S

鉄製品：IP　銅製品：BP　真鍮製品：BR　石製品：SP　炭化種子：SD　ガラス製品：G　漆製品：JP

〔遺物等集中〕 土器片集中：PB　礫集中：SB　獣骨集中：BB

2. 地層等について下記の略号を用いた。

〔堆積土〕 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a　樽前Ⅱa0 砂質降下火山灰：Ta-Ⅱa0

駒ヶ岳 c2 砂質降下火山灰：Ko-c2　樽前 b 降下軽石：Ta-b　有珠 b 降下火山灰：Us-b

白頭山-苫小牧火山灰：B-Tm　樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c　樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1

樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2.p　撹乱：KR

〔色調〕 小山・竹原編著（1994）『新版 標準土色帳』に従った。

〔注記〕 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については（ ）内に粒径（単位：mm）、状態を記載した。

混入土の比率

A ＋ B：A と B が同量比混じる　A－B：A を主体に B が多量に混じる

A ＝ B：A を主体に B が少量　A≡B：A を主体に B が微量

φ：粒径（単位・mm）　↓：以下　（状態）：斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木撹乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また、一覧表中には下記の略号を用いている。

U：上位　M：中位　L：下位

〔焼土〕 被熱による土壌赤色化の度合い等の表現に以下のトーンを用いた。

3. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

基本土層：1/50　遺構周辺図：1/1000、1/250、1/200、1/80、1/50　住物跡：1/80、1/20　土坑：1/40、1/20

杭穴・小ピット：1/50、1/40、1/20　溝跡・焼土・灰集中：1/250、1/200、1/50、1/40、1/20

集中遺物出土状態：1/50、1/20　土器実測図：1/3　土器拓影図：1/3　剥片石器実測図：1/2

礫石器実測図：1/3、1/4　陶磁器実測図：1/3　石製品実測図：1/2　ガラス製品実測図・拓影図：1/4、1/2

鉄製品実測図：1/3　銅製品・真鍮製品実測図：1/2　木製品実測図：1/4、1/10　骨製品実測図：1/2

4. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

〔線種〕 －－－－－－：オーバーハング　――――：トレンチ　――・――：撹乱・トレンチによる遺構推定

〔柱穴〕 平地式住居跡柱穴の断面図において、しまりの強い壁面に斜線を用いている。

〔断面〕 ▨：柱穴の壁面周辺が強くしまる部分

5. 土器・石器・金属製品の挿図および写真図版の番号に後続する枝番号は同一個体表記である。

6. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

〔断面〕 V———V：たたき痕 |———|：剥片石器 微細剥離 ／ 礫石器 擦り痕・滑沢面

〔平面〕 ：滑沢面範囲 ：被熱による赤色化/付着物範囲

7. 一覧表中の石材については、山田・荻野が肉眼観察で分類し、下記の略号を用いた。

〔火成岩 他〕 Obs：黒曜石 Da:デイサイト（石英安山岩） And：安山岩 Po：ひん岩

Gb：はんれい岩 Gni：片麻岩 Bs：玄武岩 Gbs：玄武岩（緑色岩化）

Gdo：ドレライト（粗粒玄武岩,緑色岩化） Ser：蛇紋岩 Gra：花崗岩

〔火砕岩 他〕 Pm：軽石 LpTf：火山礫凝灰岩 Tf：凝灰岩 Wtf：溶結凝灰岩

〔堆積岩〕 Sa：砂岩 Mud：泥岩 Con：礫岩 Sh：頁岩 Di-Mud：珪藻質泥岩

Che：チャート Dsp：固結蛇紋岩質砕屑物 Tu：凝灰岩

Aga：メノウ（化学的沈殿岩。晶洞に沈殿したので、周囲の母岩はあるが、置換した原石はない）

〔熱水変質岩〕 SiⅠ：珪化岩Ⅰ（メノウ質頁岩に相当。透明感強い。原岩を置換するが詳細不明）

SiⅡ：珪化岩Ⅱ（透明感にやや乏しい。原岩を置換するが、詳細不明。または沈殿物であるが、透明感に乏しい） Ssh：珪質頁岩（原岩が泥質岩）

〔変成岩〕 Amp：角閃岩 Dio：閃緑岩 Qu-Sch：石英片岩 Bl-Sch：青色片岩 Gsh：緑色片岩（片理発達）

Gsh-ao：アオトラ型緑色岩（変成度は緑色片岩相だが片理発達せず。原岩は玄武岩質の粒子からなる凝灰質砂泥質岩）

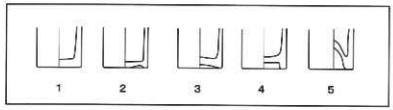
〔その他〕 Ftr：木化石 Tul：滑石

8. 出土品の材質については下記の略号を用いた。

鉄：Fe. 銅：Cu. 真鍮：Br. 錫：Su. 石炭：Cha.

9. ガラス製品のうち主にビンの形態について口の形状-底部形状、色調-気泡の大きさ-量について、以下の模式図・基準を基に属性表に記載した。

気泡の大きさ	気泡の量
0：なし	0：なし
1：1mm以下	1：少量
2：1～2mm	2：中量
3：2mm以上	3：多量



例：コルク-5 緑-2-3

口の形状：コルク栓-底部形状：深い上げ底 色調：緑色-気泡の大きさ：気泡1～2mm-気泡の量：多量

本文目次

序　文
例　言
凡　例
第Ⅰ章　調査の概要
第１節　調査要項と体制…… 1
　１．調査要項…… 1
　２．調査体制…… 1
第２節　調査に至る経緯…… 1
　１．道道上幌内早来停車場線
　　特改１種工事（道州）…… 1
　２．発掘調査までの経緯…… 2
第３節　調査の方法…… 3
　１．調査範囲と期間…… 3
　２．グリット設定…… 3
　３．調査対象の区別…… 3
　４．包含層及び遺構調査の方法 …… 4
　５．整理作業…… 5
第４節　遺物の分類…… 7
　１．土器…… 7
　２．剥片石器…… 7
　３．礫石器…… 7
　４．陶磁器…… 8
　５．ガラス製品…… 8
　６．金属製品…… 8
第５節　調査結果の概要…… 9
第６節　遺跡の位置と周辺の環境…… 10
　１．厚真町の概要…… 10
　２．遺跡の位置と周辺の環境…… 15
　３．調査区内の地形と地質…… 25
　４．地震による液状化跡…… 26
第Ⅱ章　近代の調査
第１節　建物跡…… 32
第２節　軌道跡…… 36
第３節　溝跡…… 36
第４節　焼土…… 62
第５節　土坑跡…… 62
第６節　柵列跡…… 75
第７節　包含層出土遺物…… 75
　１．陶磁器・陶磁製品…… 75
　２．ガラス製品…… 75
　３．金属製品…… 75
　４．石製品…… 86
第Ⅲ章　アイヌ文化期の調査
第１節　灰集中…… 112
第２節　焼土…… 112
第３節　道跡…… 113
第４節　獣骨集中…… 116
第５節　礫集中…… 116
第６節　包含層出土遺物…… 121
　１．石器…… 121
　２．金属製品…… 121
第Ⅳ章　撚文・続縄文文化期の調査
第１節　撚文文化期土坑…… 124
第２節　撚文文化期焼土…… 125
第３節　撚文文化期礫集中…… 126
第４節　撚文・続縄文文化期の土器集中及び
　包含層出土遺物…… 128
　１．土器…… 128
　２．石器…… 131
第Ⅴ章　自然科学及び動植物遺存体分析
第１節　ヲイカルマイ遺跡における放射性炭素年代
　(AMS 測定) …… 133
第２節　平成 22・23 年度北海道勇払郡厚真町
　ヲイカルマイ遺跡の動物…… 135
第３節　厚真町ヲイカルマイ遺跡から検出された
　植物種子…… 143
第４節　厚真町ヲイカルマイ遺跡から出土した木製
　遺物の樹種同定…… 147
写真図版
図版…… 156 ～ 183
引用・参考文献
報告書抄録

挿図目次

第Ⅰ章

図Ⅰ-1 基準杭の位置とグリッド配置図 …… 6
図Ⅰ-2 町内埋蔵文化財包蔵地分布図 …… 11
図Ⅰ-3 ヲイカルマイ遺跡位置図 …… 15
図Ⅰ-4 遺跡周辺の地形図（平成14年測量）… 16
図Ⅰ-5 遺跡周辺の周辺の地形図（大正5年測量）…… 18
図Ⅰ-6 遺跡周辺の周辺の地形図（明治29年製版）…… 18
図Ⅰ-7 基本土層柱状図 …… 20
図Ⅰ-8 基本土層断面 位置図及び調査区断面図 …… 21
図Ⅰ-9 発掘調査区セクション図（1）…… 22
図Ⅰ-10 発掘調査区セクション図（2）…… 23
図Ⅰ-11 発掘調査区セクション図（3）…… 24
図Ⅰ-12 発掘調査区セクション図（4）…… 25
図Ⅰ-13 液状化跡及び断面（1）…… 27
図Ⅰ-14 液状化跡及び断面（2）…… 28
図Ⅰ-15 遺構配置図 …… 29

第Ⅱ章

図Ⅱ-1 OH-04 平面図及び断面図 …… 32
図Ⅱ-2 OH-04 出土遺物（1）…… 33
図Ⅱ-3 OH-04 出土遺物（2）…… 34
図Ⅱ-4 OH-05 平面図及び断面図 …… 35
図Ⅱ-5 OH-05 出土遺物 …… 36
図Ⅱ-6 軌道跡平面図及び断面図 …… 37
図Ⅱ-7 MIZO-01・02 平面図及び断面図 …… 38
図Ⅱ-8 MIZO-03～06 平面図 …… 39
図Ⅱ-9 MIZO-03 断面図及び遺物出土状態 …… 40
図Ⅱ-10 MIZO-03-D 出土遺物（1）…… 41
図Ⅱ-11 MIZO-03-C 出土遺物（2）…… 42
図Ⅱ-12 MIZO-03・MIZO-03-B 出土遺物（3）…… 43
図Ⅱ-13 MIZO-03 出土遺物（4）…… 44
図Ⅱ-14 MIZO-03 出土遺物（5）…… 45
図Ⅱ-15 MIZO-03 出土遺物（6）…… 46
図Ⅱ-16 MIZO-03 出土遺物（7）…… 47
図Ⅱ-17 MIZO-03 出土遺物（8）…… 48
図Ⅱ-18 MIZO-03 出土遺物（9）…… 49
図Ⅱ-19 MIZO-03 出土遺物（10）…… 50
図Ⅱ-20 MIZO-03 出土遺物（11）…… 51
図Ⅱ-21 MIZO-04 断面図（1）…… 52
図Ⅱ-22 MIZO-04（2）・MIZO-06 断面図・出土遺物 …… 53
図Ⅱ-23 MIZO-04 出土遺物（1）…… 54
図Ⅱ-24 MIZO-04 出土遺物（2）…… 55
図Ⅱ-25 MIZO-04 出土遺物（3）…… 56
図Ⅱ-26 MIZO-07 平面図 …… 57
図Ⅱ-27 MIZO-07 断面図 …… 58
図Ⅱ-28 MIZO-07 出土遺物（1）…… 59
図Ⅱ-29 MIZO-07 出土遺物（2）…… 60
図Ⅱ-30 MIZO-07 出土遺物（3）…… 61
図Ⅱ-31 Ⅰ F-01 断面図 …… 62
図Ⅱ-32 Ⅱ P-01 平面図及び断面図・出土遺物 …… 62
図Ⅱ-33 OP-01 平面図及び断面図 …… 63
図Ⅱ-34 OP-01・03 出土遺物 …… 64
図Ⅱ-35 OP-04・05 出土遺物 …… 65
図Ⅱ-36 OP-06 出土遺物（1）…… 66
図Ⅱ-37 OP-06 出土遺物（2）…… 67
図Ⅱ-38 OP-06 出土遺物（3）…… 68
図Ⅱ-39 OP-06 出土遺物（4）…… 69
図Ⅱ-40 OP-07 出土遺物 …… 70
図Ⅱ-41 OP-08・09・12 出土遺物 …… 71
図Ⅱ-42 OP-11 出土遺物 …… 72
図Ⅱ-43 OP-13・14・15・16・17 出土遺物 …… 73
図Ⅱ-44 OP-18・19 及び XSP-24・32 出土遺物… 74
図Ⅱ-45 XSP 平面図及び断面図（1）…… 76
図Ⅱ-46 XSP 平面図及び断面図（2）…… 77
図Ⅱ-47 包含層出土陶磁器（1）…… 78
図Ⅱ-48 包含層出土陶磁器（2）…… 79
図Ⅱ-49 包含層出土陶磁器（3）…… 80
図Ⅱ-50 包含層出土陶磁器（4）…… 81
図Ⅱ-51 包含層出土陶磁器（5）…… 82
図Ⅱ-52 包含層出土陶磁器（6）…… 83
図Ⅱ-53 包含層出土陶磁器（7）・陶磁製品 …… 84
図Ⅱ-54 包含層出土ガラス製品（1）…… 85
図Ⅱ-55 包含層出土ガラス製品（2）…… 86
図Ⅱ-56 包含層出土金属製品（1）…… 87

図Ⅱ-57　包含層出土金属製品 (2) …… 88
図Ⅱ-58　包含層出土金属製品 (3)・石製品 …… 89
第Ⅲ章
図Ⅲ-1　Ⅲ AS-01 平面図及び断面図…… 113
図Ⅲ-2　Ⅲ F-01・02・Ⅲ BB-03
平面及び断面図・出土礫…… 114
図Ⅲ-3　道跡 01・02 平面図及び断面図 …… 115
図Ⅲ-4　Ⅲ BB-01・02・04 平面図…… 117
図Ⅲ-5　Ⅲ SB-01 ～ 03 平面図 …… 118
図Ⅲ-6　Ⅲ SB-01 ～ 03 出土遺物 …… 119
図Ⅲ-7　アイヌ文化期包含層出土石器 …… 122
図Ⅲ-8　アイヌ文化期包含層出土金属製品 … 123
第Ⅳ章
図Ⅳ-1　Ⅲ P-01 平面図及び断面図 …… 124
図Ⅳ-2　Ⅲ F-03・05 ～ 08 平面図及び断面図 125
図Ⅳ-3　Ⅲ F-04・Ⅲ SB-04
平面図及び断面図…… 126
図Ⅳ-4　Ⅲ SB-04 出土遺物…… 127
図Ⅳ-5　土器集中 平面図 …… 129
図Ⅳ-6　擦文・続縄文文化期包含層出土土器 130
図Ⅳ-7　擦文・続縄文文化期包含層出土石器 131

挿表目次

第Ⅰ章
表Ⅰ-1　時代別概要一覧表 …… 9
表Ⅰ-2　ヲイカルマイ遺跡出土遺物一覧表 …… 9
表Ⅰ-3　周辺の埋蔵文化財包蔵地 …… 19
第Ⅱ章
表Ⅱ-1　近代遺構一覧表 …… 31
表Ⅱ-2　OH-04 出土陶磁器属性表 …… 90
表Ⅱ-3　OH-04 出土ガラス製品属性表 …… 90
表Ⅱ-4　OH-04 出土金属製品属性表 …… 90
表Ⅱ-5　OH-05 出土金属製品属性表 …… 90
表Ⅱ-6　MIZO-03 出土陶磁器属性表 (1) …… 90
表Ⅱ-7　MIZO-03 出土陶磁器属性表 (2) …… 91
表Ⅱ-8　MIZO-03 出土陶磁器属性表 (3) …… 92
表Ⅱ-9　MIZO-03 出土ガラス製品属性表 …… 93
表Ⅱ-10　MIZO-03 出土金属製品属性表 (1) …… 93
表Ⅱ-11　MIZO-03 出土金属製品属性表 (2) …… 94
表Ⅱ-12　MIZO-03 出土金属製品属性表 (3) …… 95
表Ⅱ-13　MIZO-03 出土石製品属性表 …… 95
表Ⅱ-14　MIZO-03 出土木製品属性表 …… 95
表Ⅱ-15　MIZO-04 出土陶磁器属性表 (1) …… 95
表Ⅱ-16　MIZO-04 出土陶磁器属性表 (2) …… 96
表Ⅱ-17　MIZO-04 出土ガラス製品属性表 …… 96
表Ⅱ-18　MIZO-04 出土金属製品属性表 …… 96
表Ⅱ-19　MIZO-04 出土木製品属性表 …… 96
表Ⅱ-20　MIZO-06 出土金属製品属性表 …… 97
表Ⅱ-21　MIZO-07 出土陶磁器属性表 …… 97
表Ⅱ-22　MIZO-07 出土ガラス製品属性表 (1) … 97
表Ⅱ-23　MIZO-07 出土ガラス製品属性表 (2) … 98
表Ⅱ-24　MIZO-07 出土金属製品属性表 …… 98
表Ⅱ-25　Ⅱ P-01 出土金属製品属性表 …… 98
表Ⅱ-26　OP-01 出土ガラス製品属性表 …… 98
表Ⅱ-27　OP-01 出土金属製品属性表 …… 98
表Ⅱ-28　OP-01 出土木製品属性表 …… 98
表Ⅱ-29　OP-03 出土陶磁器属性表 …… 99
表Ⅱ-30　OP-03 出土ガラス属性表 …… 99
表Ⅱ-31　OP-03 出土金属製品属性表 …… 99
表Ⅱ-32　OP-04 出土ガラス製品属性表 …… 99
表Ⅱ-33　OP-04 出土金属製品属性表 …… 99
表Ⅱ-34　OP-04 出土骨製品属性表 …… 99
表Ⅱ-35　OP-05 出土陶磁器属性表 …… 100
表Ⅱ-36　OP-06 出土陶磁器属性表 (1) …… 100
表Ⅱ-37　OP-06 出土陶磁器属性表 (2) …… 101
表Ⅱ-38　OP-06 出土ガラス製品属性表 …… 101
表Ⅱ-39　OP-06 出土金属製品属性表 (1) …… 101

表Ⅱ-40 OP-06 出土金属製品属性表 (2) …… 102
表Ⅱ-41 OP-06 出土木製品属性表 …… 102
表Ⅱ-42 OP-07 出土陶磁器属性表 …… 102
表Ⅱ-43 OP-07 出土ガラス製品属性表 …… 102
表Ⅱ-44 OP-08 出土陶磁器属性表 …… 102
表Ⅱ-45 OP-08 出土ガラス製品属性表 …… 103
表Ⅱ-46 OP-09 出土陶磁器属性表 …… 103
表Ⅱ-47 P-11 出土陶磁器属性表…… 103
表Ⅱ-48 OP-11 出土ガラス属性表 …… 103
表Ⅱ-49 OP-11 出土骨製品属性表 …… 104
表Ⅱ-50 OP-12 出土陶磁器属性表 …… 104
表Ⅱ-51 OP-13 出土陶磁器属性表 …… 104
表Ⅱ-52 OP-13 出土ガラス製品属性表 …… 104
表Ⅱ-53 OP-13 出土金属製品属性表 …… 104
表Ⅱ-54 OP-14 出土金属製品属性表 …… 104
表Ⅱ-55 OP-15 出土金属製品属性表 …… 104
表Ⅱ-56 OP-16 出土ガラス製品属性表 …… 105
表Ⅱ-57 OP-16 出土金属製品属性表 …… 105
表Ⅱ-58 OP-17 出土陶磁器属性表 …… 105
表Ⅱ-59 OP-17 出土ガラス製品属性表 …… 105
表Ⅱ-60 OP-17 出土金属製品属性表 …… 105
表Ⅱ-61 OP-18 出土陶磁器属性表 …… 105
表Ⅱ-62 OP-18 出土ガラス製品属性表 …… 105
表Ⅱ-63 OP-18 出土金属製品属性表 …… 106
表Ⅱ-64 OP-18 出土石製品属性表 …… 106
表Ⅱ-65 OP-19 出土陶磁器属性表 …… 106
表Ⅱ-66 OP-19 出土金属製品属性表 …… 106
表Ⅱ-67 XSP-24 出土陶磁器属性表…… 106
表Ⅱ-68 XSP-32 出土ガラス製品属性表…… 106
表Ⅱ-69 包含層等出土陶磁器属性表 (1) …… 106
表Ⅱ-70 包含層等出土陶磁器属性表 (2) …… 107
表Ⅱ-71 包含層等出土陶磁器属性表 (3) …… 108
表Ⅱ-72 包含層等出土陶磁器属性表 (4) …… 109
表Ⅱ-73 包含層等出土陶磁器属性表 (5) …… 110
表Ⅱ-74 包含層等出土ガラス製品属性表 …… 110
表Ⅱ-75 包含層出土金属石製品属性表 …… 111
表Ⅱ-76 包含層出土金属石製品属性表 …… 111

第Ⅲ章

表Ⅲ-1 アイヌ文化期遺構一覧表 …… 112
表Ⅲ-2 Ⅲ F-01 出土礫属性表 …… 113
表Ⅲ-3 Ⅲ SB-01 出土石器属性表 …… 116
表Ⅲ-4 Ⅲ SB-01 出土礫属性表 …… 120
表Ⅲ-5 Ⅲ SB-02 出土礫属性表 …… 121
表Ⅲ-6 Ⅲ SB-03 出土礫属性表 …… 121
表Ⅲ-7 アイヌ文化期包含層出土石器属性表 122
表Ⅲ-8 アイヌ文化期包含層出土金属製品属性表 …… 123

第Ⅳ章

表Ⅳ-1 擦文・続縄文文化期遺構一覧表 …… 124
表Ⅳ-2 Ⅲ SB-04 出土礫属性表 …… 128
表Ⅳ-3 Ⅲ SB-04 出土石器属性表 …… 128
表Ⅳ-4 擦文・続縄文文化期包含層出土土器属性表 …… 132
表Ⅳ-5 擦文・続縄文文化期包含層出土石器属性表 …… 132

写真目次

図版 1-1 吉野・東和・富里地区鳥瞰写真 …… 156
図版 1-2 遺跡遠景 …… 156
図版 2-1 調査前現況 …… 157
図版 2-2 G-35 区 基本土層 …… 157
図版 2-3 G･H-09 区 液状化跡検出 …… 157
図版 2-4 G･H-09 区 液状化跡断面 …… 157
図版 2-5 G･H-09 区 液状化跡土層断面 …… 157
図版 3-1 OH-03 柱穴検出 …… 158

図版 3-2　0H-05 遺物出土状態 …… 158
図版 3-3　0H-04 堆積 …… 158
図版 3-4　0H-04 床面金属製品出土状態 …… 158
図版 3-5　0H-04 床面滑車出土状況 …… 158
図版 3-6　MIZO-01 完掘 …… 158
図版 3-7　MIZO-01 断面 …… 158
図版 3-8　G-19 区 II 層獣骨出土状態 …… 158
図版 4-1　MIZO-03A 断面 …… 159
図版 4-2　MIZO-03 断面 …… 159
図版 4-3　MIZO-03B 覆土中遺物出土状態 …… 159
図版 4-4　MIZO-03 遺物出土状態 …… 159
図版 4-5　MIZO-03C 掘り具痕完掘 …… 159
図版 4-6　MIZO-03C 枕木出土状態 …… 159
図版 4-7　MIZO-03 作業状況 …… 159
図版 5-1　MIZO-04 1 ～ 5 完掘 …… 160
図版 5-2　MIZO-04 1 ～ 5 完掘 …… 160
図版 5-3　MIZO-04 1 ～ 5 断面 …… 160
図版 5-4　MIZO-04 土留め遺構検出 …… 160
図版 5-5　MIZO-04 角杭断面 …… 160
図版 5-6　MIZO-07 完掘 …… 160
図版 5-7　MIZO-07C 完掘 …… 160
図版 6-1　MIZO-07C 完掘 …… 161
図版 6-2　MIZO-07 断面 …… 161
図版 6-3　A 地区軌道跡 検出 …… 161
図版 6-4　B 地区軌道跡 完掘 …… 161
図版 6-5　A 地区軌道跡 完掘 …… 161
図版 7-1　II P-01 断面 …… 162
図版 7-2　OXSP-24 陶磁器出土状態 …… 162
図版 7-3　OP-01 断面 …… 162
図版 7-4　OP-01 漆椀出土状態 …… 162
図版 7-5　OP-01 完掘 …… 162
図版 7-6　OP-02 柱材出土状態 …… 162
図版 7-7　OP-03 玉磯？出土状態 …… 162
図版 8-1　III P-01 完掘 …… 163
図版 8-2　III P-01 断面 …… 163
図版 8-3　III AS-01 検出 …… 163
図版 8-4　III AS-01 断面 …… 163
図版 8-5　III F-01・III BB-03・III AS-01 検出 … 163
図版 8-6　III F-01・III BB-03 検出 …… 163
図版 8-7　III BB-02 検出 (1) …… 163
図版 8-8　III BB-02 検出 (2) …… 163
図版 9-1　道跡 01・02 検出 …… 164
図版 9-2　道跡 02 断面 TR01 …… 164
図版 9-3　III SB-01・02 検出 …… 164
図版 9-4　III SB-01 検出 …… 164
図版 9-5　III BB-04 獣骨出土状態 …… 164
図版 10-1　G-53 区 蝦夷太刀出土状態 …… 165
図版 10-2　G-53 区 鉄鏃出土状態 …… 165
図版 10-3　G-56 区 銅製品出土状態 …… 165
図版 10-4　G-56・57 区 III 層遺物出土状態 …… 165
図版 10-5　51 ～ 55 区 III 層調査状況 …… 165
図版 10-6　59 ～ 64 区 III 層調査状況 …… 165
図版 10-7　III 層遺物出土状態 …… 165
図版 10-8　15 ～ 18 区 III 層調査状況 …… 165
図版 11-1　III F-02 検出及び断面 …… 166
図版 11-2　III F-05 検出 …… 166
図版 11-3　III F-07 検出 …… 166
図版 11-4　III F-07 断面 …… 166
図版 11-5　III SB-04 検出状態 …… 166
図版 11-6　III PB-01 出土状態 …… 166
図版 11-7　III PB-02 擦文土器出土状態 …… 166
図版 11-8　III PB-02 擦文土器出土層位断面 … 166
図版 12　0H-04・05 及び MIZO-03 出土遺物 (1) 167
図版 13　MIZO-03 出土遺物 (2) …… 168
図版 14　MIZO-03 出土遺物 (3) …… 169
図版 15　MIZO-03 出土遺物 (4) …… 170
図版 16　MIZO-03 出土遺物 (5) …… 171
図版 17　MIZO-04 出土遺物 …… 172
図版 18　MIZO-07 出土遺物 …… 173
図版 19　OP 出土遺物 (1) …… 174
図版 20　OP 出土遺物 (2) …… 175
図版 21　OP 出土遺物 (3) …… 176
図版 22　近代包含層等出土ガラス製品 …… 177
図版 23　近代包含層出土金属製品 (1) …… 178
図版 24　近代包含層出土金属製品 (2)・石製品 … 179
図版 25-1　III F-01・III SB01 ～ 04 出土石器・礫 180
図版 25-2　アイヌ文化期包含層出土石器 …… 180
図版 26　アイヌ文化期包含層出土金属製品 … 181
図版 27　擦文・続縄文文化期土器集中及び
　包含層出土土器 …… 182
図版 28　擦文・続縄文文化期III SB-04・
　包含層出土石器 …… 183

第Ｉ章　調査の概要

第1節　調査要項と体制

1. 調査要項

事 業 名：道道上幌内早来停車場線特改１種工事（道州）に伴う埋蔵文化財発掘調査業務
委 託 者：北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部
受 託 者：厚真町教育委員会
遺 跡 名：ヲイカルマイ遺跡（Ｊ－13－128）
所 在 地：北海道勇払郡厚真町字吉野 202-4，203-3，206-2，215-2，237-4，239-6 他
調査面積：平成 22 年度　2,400 ㎡　　平成 23 年度　637 ㎡　　合　計　3,037 ㎡
受託期間：平成 22 年 8 月 6 日 ～ 平成 23 年 3 月 31 日
　　平成 23 年 9 月 15 日 ～ 平成 24 年 3 月 31 日
　　平成 25 年 3 月 7 日 ～ 平成 25 年 3 月 26 日
調査期間：(発掘)平成 22 年 9 月 1 日 ～ 平成 22 年 11 月 30 日
　　(整理)平成 22 年 12 月 1 日 ～ 平成 23 年 3 月 16 日
　　(発掘)平成 23 年 10 月 1 日 ～ 平成 23 年 11 月 16 日
　　(整理)平成 23 年 11 月 17 日～平成 24 年 3 月 16 日　　(乾)

2. 調査体制

厚真町教育委員会　教育長　兵頭 利彦
　生涯学習課　参　事　佐藤 照美
　　学芸員　乾 哲也（調査担当者）
　　〃　奈良 智法（調査担当者・平成 23 年度）
　　嘱託職員　荻野 幸男（調査担当者）
　　〃　山田 和史（調査補助員・平成 22 年度）
　　〃　佐々木 都（事務員・平成 22 年度）
　　〃　鈴木 直樹（事務員・平成 23 年度）
　　臨時職員　測量技能作業員　渡辺博道・畑嶋 朝江（平成 23 年度）
　　整備技能作業員　小林 輝男（平成 22 年度）
　　〃　佐伯 憲吾・日野 修（平成 23 年度）
　　平成 22 年度　発掘作業員 6 名　整理作業員 2 名
　　平成 23 年度　発掘作業員 20 名　整理作業員 5 名　(乾)

第2節　調査に至る経緯

1. 道道上幌内早来停車場線特改１種工事(道州)

本事業は、北海道広域連携（道州制）モデル事業の「災害に強い地域づくり」の一事業として計画されたものである。事業は吉野地区を含む厚真町北部地区と厚真町市街地の幹線道路となっている道道上幌内早来停車場線（一般道道 235 号・起点厚真ダム～終点 JR 室蘭本線早来駅、以下、道道）の部分改良工事で、落石や冬季間の雪崩が多発する吉野－朝日地区間の道道切替工事と吉野地区中心部の狭隘区間の改良拡幅による安全確保と円滑な通行確保を目的としたものである。

事業主体は北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部（旧室蘭土木現業所。以下、室建管で統一）で、苫小牧出張所（以下、室建管苫小牧）が設計施工を所管している。工事区間は2区間に分かれ、北部の吉野地区は延長786.5mの拡幅改良工事で、現道の東側へ盛土造成による路線を拡幅し、新たに歩道を敷設する施工内容である。南部の朝日地区は、厚真川直線化の河川改修に伴って、道道も延長約90mにわたる急カーブ路線の改良切替工事が計画された。平成21年より吉野地区における改良工事を実施し、平成25年度には、全区間の改良切替工事が全て完了する計画となっている。（乾）

2. 発掘調査までの経緯

本事業は平成21年より吉野地区の北部を起点に現地施工が着手されたが、厚真町教育委員会（以下、町教委）へ埋蔵文化財保護に係る事前協議がないままに進められていた。施工区間において周知の埋蔵文化財包蔵地はないものの、吉野地区には施工区域に近接する沖積低地内に吉野1遺跡（J-13-102）が登載されており、本区間内にも未確認の埋蔵文化財包蔵地が存在する可能性があった。

平成22年2月中旬に北海道教育委員会（以下、道教委）へ報告し、室建管苫小牧と協議した結果、町教委経由で埋蔵文化財保護に係る事前協議書（平成22年2月16日付け室土苫出第724号）が道教委へ提出され、「要試掘調査」の回答を得た（平成22年3月1日付け教文ス第3585号）。なお、同一事業である朝日遺跡については、既に平成15年9月に事前協議書が提出され、平成15年11月14日に道教委より「要発掘調査及び遺構確認調査」回答を得ている。

試掘調査は平成22年3月3日及び4日の2日間にわたって道教委によって実施され、現道に並行して沖積低地側に17ヶ所のトレンチが掘開された（図Ⅰ-15）。この結果、樽前b火山灰（1667年降下）より上層からの打ち込み柱跡1基、樽前a火山灰より上層の土坑1基とエゾシカの遊離歯、陶磁器類が出土した。陶磁器は、幕末期と思われる染付碗（上ノ国町教育委員会塚田直哉氏ご教示）や幕末～明治中期にかけて新潟県で生産された焼酎徳利が出土している。多くは、近代の撹乱層中からの出土であるものの、一部に樽前a火山灰より上層で暗褐色シルト層の堆積を確認しており、近世末期の出土遺物帰属層位と想定された。厚真町周辺では苫小牧市弁天貝塚の事例があることから、これらの遺構遺物を幕末期の所産とし、発掘調査の対象との判断が下され、「要発掘調査（遺構確認）」の回答となった（平成22年3月23日付教文ス第3793号）。対象範囲は道路設計センターの延長で378m、歩道部分の設計範囲を除き、現道下や側溝掘削設計部分を含めた幅約10mで約3,800㎡となった。調査対象の遺物包含層は、出土遺物及び検出遺構から遺構確認面層位も含め、樽前a火山灰の上層から樽前b火山灰の直下のⅢ層上位までとなった。

本遺跡は今回の試掘調査によって新たに確認された埋蔵文化財包蔵地として、吉野地区の旧地名から「ライカルマイ遺跡」（J-13-128）として、道教委によって登載された（平成22年4月22日付　教照第546号）。発掘調査にあたっては、平成22年4月に町教委と苫小牧出張所との協議によって、平成22年8月以降に現道の東側拡張部、平成23年度に現道下の道路施工部分の発掘調査を行うこととなった。また改良工事費用の中に発掘調査費用を含めることや電柱、埋設物の移設についても協議が進められた。

（乾）

第3節　調査の方法

1. 調査範囲と期間

本事業は現道拡幅工事であり、現道下も発掘調査対象となったことから、平成 22 年度に道路拡張部分と取付道路、平成 23 年度に現道部分下の改良道路掘削範囲の発掘調査を実施することで、施工担当の苫小牧出張所と調整した。この結果、平成 22 年度の発掘調査区は現道東側の 2,400 ㎡で、残る現道下部分については、迂回路敷設後の平成 23 年度秋以降となった。なお、当初、平成 23 年度は同一事業による発掘調査対象となっていた朝日遺跡（J-13-3）も調査実施の計画であったものの、用地取得等の諸事情により平成 24 年度へ延期となっている。

平成 22 年度の調査期間は、本事業が道州制に係る国庫補助事業であることから 8 月上旬以降から表土除去や調査区境界杭及びグリッド杭設定などの現地準備に着手し、発掘調査は 9 月 1 日から 11 月 12 日までの期間となった。なお、平成 22 年度の発掘調査で中世アイヌ文化期の獣骨集中区や金属製品等の出土のほか擦文文化期の遺物も出土し、調査対象層位の追加変更が生じ、11 月 30 日までの延長となった。

平成 23 年度は厚幌ダム事業のオニキシベ 5 遺跡発掘調査を終えた 10 月 1 日から 11 月 16 日までの期間で現道下部分の一部を発掘調査した。

調査範囲は平成 22 年度と比べると狭小で調査区の幅は 2m～5m であった。さらに現道の盛土により調査面との比高は約 1.2m以上となることから、地区住民の通行への安全確保のため部分的な発掘調査範囲とした。範囲の選定にあたっては、平成 22 年度の調査結果から、近代遺物が多量に出土した範囲と擦文・アイヌ文化期の遺物が出土した範囲に隣接する部分の 637 ㎡となった。

なお、調査区範囲は平成 22 年度に㈲幅田測量設計に委託し道路設計幅の境界杭打設を委託した。平成 23 年度については、苫小牧出張所側で改良道路幅の西端ラインを現道アスファルトのカットにより調査範囲の指示を頂いた。　（乾）

2. グリッド設定

調査区グリッドは改良道路設計センターの IP№2（世界測地系 X：-138726.965　Y：-27559.745）と IP№3（世界測地系 X：-138895.244　Y：-27826.717）を結線したセンターライン（N-57.49° -W）を利用し、IP№2 より約 1.5m南東に H-5 の杭としてグリッド網の基準点とした。5m四方メッシュでグリッド網を設定した。センターライン上のＹ軸をアラビア数字、Ｘ軸をアルファベッド名とし、グリッド網起点 A-0 はグリッド網の左上とし調査区の北方に位置する。現地におけるグリッド杭打設は、調査開始前に㈲幅田測量設計に委託し、センターライン（Ｊライン）上が調査区境界ににほぼ相当することから、控え杭も含め現地表面に 15～25m間隔で 16 本設置した。　（乾）

3. 調査対象の区別

本遺跡は試掘調査の結果を踏まえ、幕末～戦前までの厚真町の交通発達史や農業開拓の歴史を記録保存することを目的の一つとして発掘調査の実施に至った。通常「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」（平成13年4月16日 教文第5005号 各教育局長、市町村教育委員会教育長あて　北海道教育委員会教育長通知）の第１条の「埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲」に指示されている事項として、下記の２項目が発掘調査の対象基準となっている。

(1) 近世までに属する遺跡は、種別に関係なく対象とする。

(2) 近現代の遺跡については、市町村において取扱いを定めたものを対象とする。

今回のヲイカルマイ遺跡の発掘調査にあたり、上記（2）により、町教委内部で下記の理由によりヲイカルマイ遺跡の発掘調査対象を昭和20年の終戦以前に構築、生産されたものと決定した（平成22年3月8日付け町教委起案文書）。

(1) 吉野地区は富里地区と並び厚真町の内陸部における農業開拓の先駆的地域であり、農業の町、厚真町の礎を築いた先人たちの開拓精神とその苦労の歴史を伝えていくうえで、重要な情報を得ることができる。

(2) 現道下には明治37年から昭和24年にかけて敷設されていた軌道跡が存在する可能性が高い。軌道は厚真の林産資源や農産物の物流を支え、厚真町北部地域の発展に大きく寄与した存在である。現在、軌道に関する記録がほとんど残っていないことから道道改良工事を機に発掘調査による記録保存することが望ましい。　（乾）

4. 包含層及び遺構調査の方法

平成22年度は調査区の西側が道道、東側は農道であり、排土捨て場の確保が困難な状況であったことから、延長約350mにおよぶ発掘調査区を約20m毎に区切り、重機で除去した表土や盛土と包含層調査排土を調査区内で、仮堆積と埋め戻しを繰り返し行うこととした。調査排土の搬出等の経費節減の効果はあったものの、遺構・遺物の検出状態に応じての埋め戻し調整や隣接する道道通行車両や電話線等への安全配慮などの負担が生じた。平成23年度は前年度調査の反省点から路盤や道路体盛土、調査排土を約1.9km南の朝日地区道路敷地内へ搬出した。

包含層調査は、現代の盛土までを調査員や作業員が立会の下、重機で掘削除去し、近代の粘土質シルトやⅢ層上面などのプライマリーな層準面を検出してから、ジョレンや移植ゴテを用いて行った。調査対象層位はⅢ層上面より上層であったことから、黒色土のⅢ層については、柱穴などの検出を目的とした遺構確認面精査を行った。しかしG-51～F-62区周辺などにおいて、中世アイヌ文化期の礫や未被熱獣骨の集中群や鉄鏃片などの金属製品が出土したことから、これ以降、樽前c火山灰上面までを調査対象として包含層の調査を行った。なお部分的に基盤層の堆積状況を確認するため樽前d火山灰まで重機でトレンチを掘開した部分もあるが、縄文時代の遺物は出土していない。

遺構、遺物や調査区などの平面記録は全て光波式トータルステーションを用いてXYZ座標位置での記録を行っている。記録データの図化においては、㈱シン技術コンサルの「遺跡管理システム」を利用している。遺構は、プライマリーなシルト層上面や樽前a火山灰、樽前b火山灰、Ⅲ層黒色土上面などで平面形等を確認し、半裁過程において帰属年代を推定し「遺構扱い」かの判断を行った。遺構調査では半裁による堆積状態の確認、撮影、実測作業を行った後に完掘し、平面形などの記録を行っている。堆積状態については調査担当者、調査補助員が分層と実測、土層注記を行い、平成23年度については測量技能作業員が堆積状態の実測図作成を行った。また、焼土や炭化物集中などの場合は、土壌を全量回収し、フローテーション処理を行っている。各調査過程における写真記録は35m/mのデジタル一眼カメラとデジタルコンパクトカメラを用いた。

遺物の取上げは明治～戦前と判断できる遺構出土の遺物はXYZ座標位置を記録し、包含層

の0層（近代以降の撹乱層）は、グリッド一括で取上げた。この際、プラスチックやゴム製品など、明らかに戦後以降と判別できる出土品は、廃棄物として回収処分している。樽前b火山灰（1667年降下）より下層のⅢ層中の遺物は全点、XYZ座標位置（公共座標世界測地系）と層位を記録して取上げた。この時、手簿（日付・グリッド・層位・遺物名等）の記載も行い、データ入力ミスの補完を行っている。なお中世アイヌ文化期所産の未被熱の動物遺存体については、非常に気弱であるため、発掘調査現場での取上げ段階で酢酸ビニル系樹脂（木工用ボンド）を希釈したものを塗布し、強化保存している。　（乾）

5. 整理作業

整理作業は平成22年度と23年度に各調査年度の出土遺物を対象に実施し、平成24年度は報告書原稿執筆と編集校正作業、印刷刊行業務を行った。

一次整理は、遺物種別毎などで分担し、担当の調査員が調査区遺構名や層位、種別、細分類、分類等を行い、グリッド一括取上げ資料については、個別番号を付番したうえで、注記作業を行っている。なお注記作業では大量に出土した陶磁器は時間と労力を検討し、油性マジックで行っている。

金属製品の保存処理は、アイヌ文化期の資料は全て（財）岩手県埋蔵文化財事業団へ委託した。開拓期の資料は、ベンチやワイヤーブラシで錆落しした後に、加熱処理し、エポキシ樹脂系錆転換型防錆剤を塗布している。新しい時期の金属製品であるため、資料の劣化が他の考古資料と比較して進行していないため、十分に本来に近い形状を復元し、安定的に保管することができている。コスト面においても保存処理の外部委託と比較して大幅に安価な方法であった。

平成23年度は柱材や杭、桶部材などの木製品も多量に出土した。これらはコンテナやプールにて水中に一時保管し、泥などの洗浄後にパラロイドB72（アクリル系樹脂）の希釈用液を刷毛で2回以上の塗布作業を行った。希釈濃度による含浸度合と乾燥による収縮、亀裂変形が生じ、処理に時間と費用を費やしたものの、出土状態時の現状を保つことは難しかった。

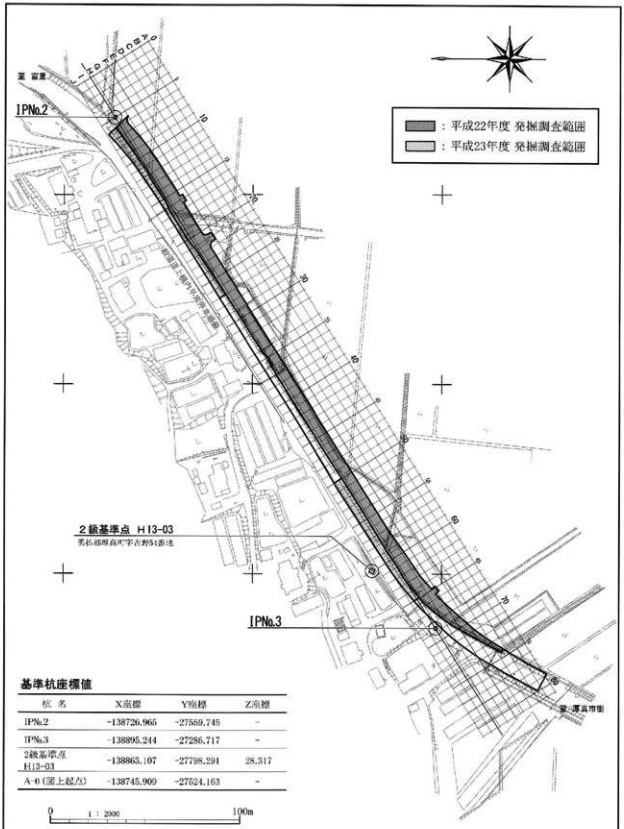
二次整理は、各種遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業を行い、平成23年度に出土した擦文文化期の復元土器実測は(株)トラスト技研へ委託した。実測遺構図等の第二原図の作成やトレース作業・編集は、パソコン(Os Windows Adobe IllustratorCS5)で行った。なお陶磁器については、内面文様の撮影もあることから、㈱CUBIC開発の遺物実測支援ソフト「遺物くん」をリース契約で用いた。撮影については整理担当者と(有)スタジオクリークの佐藤雅彦氏との分担で行った。金属製品等については、デジタルカメラで1点ずつ垂直撮影しパソコン上で写真実測を行った。撮影時の歪みを考慮し、高さ2m以上の位置から300㎜単焦点レンズを用いて撮影している。やや大型のものは数カットに分けて撮影し、これを組み合わせ、実測画像を作成している。

遺物の写真撮影は35㎜一眼レフデジタルカメラで行い、パソコン(Os Windows Adobe Photoshop CS5)でのコントラスト補正等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトで行い、本文のWord文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは調査区遺構及び分類毎にコンテナに収納し、町内の廃校舎に収蔵している。

なお発掘調査から整理作業までの一連の業務において、厚幌ダム事業各調査員の特段の協力で本報告書の刊行に至ったことを特筆しておく。

（乾）



基準杭座標値

杭　名	X座標	Y座標	Z座標
IP№.2	-138726.965	-27589.745	-
IP№.3	-138895.244	-27286.717	-
2級基準点 H13-03	-138865.107	-27798.294	28.317
A-0（国土起点）	-138745.909	-27524.163	-

0　1：2000　100m

図Ⅰ-1　基準杭の位置とグリッド配置図

第4節　遺物の分類

1．土　器

土器の分類については厚幌1遺跡（2010奈良）の分類を踏襲し、縄文時代早期から擦文文化期までの土器をローマ数字に群別し、アルファベットで型式、時期等の細分をした。なお、縄文時代の土器は今回出土していないため割愛した。

第Ⅶ群土器　続縄文文化期に属する土器群。

A1類　砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。
B1類　アヨロ2類土器並行の土器。
B2類　アヨロ3類相当の土器。
C1類　江別太1～3式土器。
C2類　後北B式土器。
C3類　後北C_1式土器。
C4類　後北C_2-D式土器。
D1類　宇津内Ⅱa式土器。
D2類　宇津内Ⅱb式土器。
E1類　北大Ⅰ式土器。
E2類　北大Ⅱ式土器。

第Ⅷ群土器　擦文文化期に属する土器群。

A類　北大Ⅲ式相当
B類　甕形
B1類 擦文「前期」に相当するもの。
B2類 擦文「中期」に相当するもの。
B3類 擦文「後期」に相当するもの。

2．剥片石器

石器の分類については定型的な資料がごく僅かなため、出土していないものについては器種のみとした。

ポイント類
石　錐
ナイフ・スクレイパー類
RF・UF
縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものをRF、使用によると思われる微細剥離のあるものをUFとして扱っている。
石　核

3．礫石器

石　斧
A　磨製石斧
B　未製品1
たたき石
敵打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。
Ⅰ　平面形が縦長のもの。
　A　扁平のもの。
1　素材礫の平坦面に敵打痕を有するもの。
2　素材礫の側縁後あるいは端部に敵打痕を有するもの。
3　1・2を並存するもの。
　B　棒状または角柱状のもの。
1　素材礫の平坦面に敵打痕を有するもの。
2　素材礫の側縁後あるいは端部に敵打痕を有するもの。
3　1・2が並存するもの。
Ⅱ　平面形が方形～不整形で幅広のもの。
　A　扁平のもの。
1　素材礫の平坦面に敵打痕を有するもの。
2　素材礫の側縁後あるいは端部に敵打痕を有するもの。

3　1・2を並存するもの。
B　厚さがあるもの。
1　素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
2　素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
3　1・2が並存するもの。
Ⅲ　平面形が円～楕円形のもの。
A　扁平のもの。
B　球形または棒状のもの。
Ⅳ　破片のため上記に分類不可のもの。
Ⅴ　礫片を素材としているもの。

擦石

A　断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。
B　断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。
C　扁平礫の側縁にすり面があるもの。
D　北海道式石冠
E　その他

砥石

素材礫の形状が変形する研磨面を有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。線条痕はほとんど観察できない。(Ⅲ層のみ)

線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が900ｇ以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

滑沢面と敲打痕のある大型礫

Ⅰ　表裏面にそれぞれが単独で認められるもの。
Ⅱ　一面に両方の痕跡が認められるもの。

加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が稜線状となるもの。

自然礫

加工痕や明瞭な使用痕が認められないもの。

Ⅰ　平面形が縦長のもの。
A：扁平のもの。
B：棒状または角柱状のもの。
Ⅱ　平面形が方形～不整形で幅広のもの。
A：扁平のもの。
B：棒状または角柱状のもの。
Ⅲ　平面形が円～楕円形のもの。
A：扁平のもの。
B：球形または棒状のもの。

4．陶磁器

陶磁器は磁器と陶器に大別した。磁器は碗類・皿類・鉢・その他の器種がある。またクロム青磁・透明釉・瑠璃釉・緑釉を施すものがある。陶器には擂鉢・甕・片口・徳利・土瓶などがあり、炻器と植木鉢など素焼きの土器を含めた。さらにA～Fの絵付け技法が見られた。下絵のものと上絵付けされたものの他、白磁がある。

A：染付　B：手描色絵　C：型紙摺絵　D：銅版転写　E：ゴム印版　F：吹き絵

5．ガラス製品

ガラス製品には容器とそれ以外のものがある。容器にはビール瓶・ワイン瓶・ウィスキー瓶、酒瓶・飲料水瓶・調味料瓶・薬瓶・化粧水瓶・糊瓶などがある。容器以外のものには板ガラス、瓶の蓋、オハジキ、ガラス玉、ランプの火屋や油壺などがある。これらの殆どは近代のもので、ガラス玉は近世アイヌ文化期に属する可能性もある。

6．金属製品

金属製品は鉄製品が大半を占め、他に銅製品・真鍮製品などがある。鉄製品には太刀・包丁・鎌・針・鉄鋲・ヤス・釘類・鎧・針金・蹄鉄・銭貨（鉄銭）・軌道関連部品などがある。銅製品には刀装具？・キセル・銭貨・足袋金具などの他、用途不明のものが出土している。

第5節　調査結果の概要

ヲイカルマイ遺跡は厚真町市街地の北東約4kmに位置し、厚真川中流域の標高約26～27mの低位河岸段丘に立地している。本遺跡と厚真川の間の沖積地には水田が、後背には標高80mほどの山地性丘陵が広がっている。厚真町吉野地区は明治17年に農業入植のため和人が移住している。また造材運搬のため早来から厚真町幌内を結ぶ早来軌道（馬車軌道）が明治44年に敷設されている。調査では続縄文時代から開拓期以降に及ぶ遺構や遺物を検出したが、これらは厚真町にとって貴重な資料であることから、早来軌道が廃線となる昭和24年までを調査対象とした。

遺構は続縄文時代の土器集中1ヶ所、擦文文化期の土坑1基、焼土6ヶ所、土器集中1ヶ所、礫集中1ヶ所、中世アイヌ文化期の焼土2ヶ所、灰集中1ヶ所、礫集中3ヶ所、獣骨集中3ヶ所、近世アイヌ文化期の道跡2条、近代の建物跡4棟、土壙跡2基などが発見された（表Ⅰ-1）。遺物は6,500点出土し、内訳は土器660点、剥片石器1点、剥片10点、礫石器24点、礫1,222点、陶磁器類3,036点、金属製品789点、ガラス製品586点、石製品18点、漆製品146点、その他8点である（表Ⅰ-2）。

1．近代の建物跡からは、幕末から明治頃の陶磁器や古銭、鉄製のヤス、シカやウマの骨、貝殻など和人文化に伴うと考えられる遺物が確認された。

2．アイヌ文化期　中世アイヌ文化期の遺構や遺物は調査区の南西側に集中している。焼土や灰集中の近くからは、蝦夷太刀（全長約50cm）一振と鉄鍋片などが出土した。集石は主に鍾石がまとまったもので、獣骨集中はシカの四肢骨や歯が集中したものである。近世アイヌ文化期の道跡2条は調査区北東端で見つかり、調査区外の南北方向へ更に延びている。

3．擦文・続縄文文化期　続縄文文化期と擦文文化期の遺物は、調査区北東側で北大式土器2個体、擦文土器1個体のほか、底部破片などが見つかった。擦文土器が出土した周辺には焼土も確認されている。

（荻野）

表Ⅰ-1　時代別概要一覧表

項　目	0～Ⅱ層	Ⅲ層		合計
	近代	アイヌ文化期	擦文・続縄文文化期	
建物跡	5	-	-	5
柵列跡	2	-	-	2
土坑	19	-	1	20
焼土	1	2	6	9
灰集中	-	1	-	1
溝跡	8	-	-	8
獣骨集中	-	4	-	4
礫集中	-	3	1	4
土器集中	-	-	2	2
遺物点数	4,588	1,912		6,500

表Ⅰ-2　ヲイカルマイ遺跡出土遺物一覧表

層位	土器	剥片石器	礫石器	礫	剥片類	細分類							計
						陶磁器	ガラス製品	鉄製品	銅製品	木製品	石製品	その他	
0～Ⅱ層	-	-	2	23	-	3,036	586	733	36	146	18	8	4,588
Ⅲ層	660	1	22	1,199	10	-	-	19	1	-	-	-	1,912
計	660	1	24	1,222	10	3,036	586	752	37	146	18	8	6,500

第6節　遺跡の位置と周辺の環境

1. 厚真町の概要

A　地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川水系に水田地帯が広がる、人口4,777人（平成25年2月末日現在）の農業の町である。町域の総面積は404.56㎢で、流路52.3kmの二級河川厚真川流域に広がり南北32.5km、東西17.3kmと細長く、南部は約6.5kmにわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。北海道の空の玄関口である新千歳空港から車で35分、海上物流の拠点である苫小牧港からは40分と現代社会において利便性に恵まれた位置でもある。町域を縦貫する厚真川は源流部から河口までの1河川流域で厚真町域のみを流下し、全国において1河川流域を有する自治体は数少ない。行政区域の北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南部の標高200～600mの山地が続き、総面積の約70％を山林が占める。東は夕張山地から続く低い山地を挟んで、むかわ町と接し、北西は標高100m前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯（以下、苫東地区）内で苫小牧市と接している。厚真の語源は3説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」（at-to-mam「向こうの湿地帯」）で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという（厚真村 1956）。

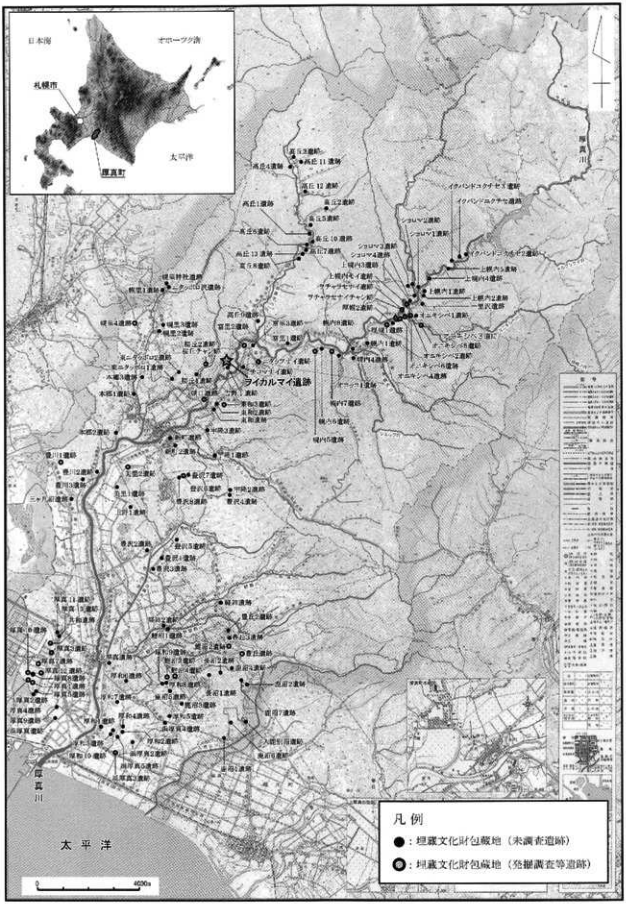
町内は、大きく4つの地区に分かれ、厚真川沿いに下流域の浜厚真・上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の幌内地区、むかわ町と接する入鹿別川流域の鹿沼地区がある。ここでは厚真川流域を中心に概略を述べる。

南部は砂浜が続き、明治期以前より地引網での鰊漁が盛んであったが、現在では、苫小牧沿岸にかけてホッキ貝（ウバガイ）の全国一の漁場となっている。かつては標高10m前後の砂丘列が発達し、背後には勇払原野の湿地帯が広がっていたが、現在は苫東地区の一部で、苫小牧東港や道内最大の火力発電所、石油備蓄タンク群等の工業用地となっている。また国道や高規格道路、鉄道があり、札幌圏から日高方面への主要幹線路ともなっている。地形的には、苫東地区の静川・源武台地と同じ様相を示し、樹枝状に開折された標高10～20m前後の支笏火山・樽前山の火山灰で構成される低平な台地と縄文海進期の海跡湖群、湿地が見られる。特に厚真川左岸から入鹿別川右岸にかけての厚和地区は静川台地と全く同じ地形・地質様相を呈している（仮称厚和台地・鯉沼台地）。

中部には厚真町の中心市街があり、鶴川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展していた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知決辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追山地南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中部以北では、厚真川は顔美宇川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。

北部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部で、本流とシュルク川、幌内川の3河川の合流点でもある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、昭和5年から24年まで早来駅とを結ぶガソリン機関車軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く（松野・石田 1960）。標高400m以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との1市2町の境界線付近、標高500m付近の夕張山地南域に源流部がある。

（乾）



図Ⅰ-2　町内埋蔵文化財包蔵地分布図

B　歴史的環境

(1) 埋蔵文化財包蔵地の概要

厚真町内には平成24年1月現在で136ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近世アイヌ文化期に至るまである（図Ⅰ-2）。遺跡の分布傾向として、開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区や厚真川下流域左岸から入鹿別川流域右岸にかけての仮称厚和台地や仮称鯉沼台地、厚真川中流域の支流河川沿い、北部の高丘地区及び幌内地区にやや集中する傾向がある。遺跡の立地は、南部において湿地と隣接する台地縁辺部や湧水地付近、中部では厚真川沿いや小河川との合流点付近の河岸段丘縁辺部に多い。北部の山間部では、頗美宇（はびう）川流域の高丘地区や厚幌ダム水没地域内に多く分布する。これらは安平町安平地区や夕張市滝之上地区、むかわ町穂別・豊田地区へ抜ける山越えのルート上の遺跡と考えられる。

時期的には、町内最古の遺跡として上幌内モイ遺跡で礼滑型細石刃核を伴う石器集中が1ヶ所検出されており、AMS法炭素年代測定の結果、補正年代3点の平均で14,591.69±60yrB.P.が得られている（厚真町教育委員会2006a）。縄文時代の最も古いものでは豊沢4遺跡の試掘調査で早期前半の物見台系貝殻文土器片1点が出土し、時期が下って浜厚真3遺跡で東釧路Ⅱ式土器がややまとまって出土している（北海道埋蔵文化財センター2003）。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の縄文尖底土器群の時期と考えられ、多量の被熱礫や補乳網の焼骨片が出土する遺跡が厚真町南部から北部に至るまで多数確認されている。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北筒・余市式期の遺跡数でピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけて遺跡数が激減し、晩期前葉以降、続縄文文化期に再び増加し、擦文文化期前期は遺跡数が再び減少する。この様な各時期における遺跡数の偏りは苫小牧市の傾向と概ね一致している。苫小牧市との差異として擦文文化期中期から中世アイヌ文化期にかけては遺跡数が増加する傾向がある。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究は、最初の記録として、大正5（1916）年に現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を教材として、学校に保管する許可書が発行されたことである（厚真村郷土研究会1956）。遺物の多くは縄文晩期初頭の土器片と思われ、数点の土偶片も出土している（厚真村郷土研究会1956、亀井1956、古井1961、北海道大学附属図書館HP 北方資料データベース）。以後、厚真町での埋蔵文化財に係る流れは大きく3期に分けることが可能である。

a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究（昭和20年代後半から40年代中頃）

元厚真村長で名誉町民の亀井喜久太郎氏の熱心な働きかけで昭和27年に八幡一郎氏、30年に大場利夫氏等が来村し、町内の遺跡・遺物を実見している。また、亀井氏は昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報『郷土研究』で遺物の紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を刊行している（厚真村郷土研究会1956）。現在、埋蔵文化財保護の基礎資料である埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「昭和31年7月　厚真村郷土研究会『厚真村古代史』」や「昭和47年12月　厚真町郷土史研究会 踏査」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残し、礎となっている。町内で初めての組織的な発掘調査は、昭和37年に厚真村郷土史研究会によって朝日遺跡と共和遺跡で行われた。調査に関する詳細は不明だが、縄文時代晩期初頭の土器片を中心とした出土遺物がコンテナにして5箱分、厚真町教育委員会に保管されている。また、昭和34年に宇隆地区公民館建設工事現場からの遺物出土の連絡を受け、道内で初めての出土となる愛知県常滑産と推定される12世紀中葉の広口壺を回収している。当初は、須恵器と判断されていたが、平成23年に常滑市民俗資料館 中野晴久氏によって確認された。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」（昭和48年から昭和54年）

昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、昭和59年までの12年間で厚真町域にかかるもので新規登載14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。調査成果として、昭和51年調査の厚真1遺跡（苫小牧市教育委員会1986）では、この地域で初めてのTピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」（赤石1999）の標識遺跡でもある。厚真7遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡8軒の検出と、石狩川中流域で数多く出土する「丸のみ形石斧」も出土している（苫小牧市教育委員会1987）。また、共和遺跡では苫東地区内で唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡2軒が調査されている（苫小牧市教育委員会1987）。これらの成果は苫小牧市教育委員会により『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』として報告書が刊行されている（苫小牧市教育委員会1986・1987・1990・1992）。整理・報告後の出土遺物等は平成13年度に町教委へ返却・保管されている。

なお、厚真町域における道教委による「埋蔵文化財包蔵地資料整備の一般分布調査」は、昭和54年9月行われ、52遺跡の包蔵地カードが作成されている。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始（平成10年以降）

近年は火山灰採取などの開発に伴う試掘調査や工事立会調査が増加し、道教委による豊川1遺跡（厚真町教育委員会2001）、鯉沼2遺跡（厚真町教育委員会2001）、鯉沼3遺跡（厚真町教育委員会2005・2006b・2008）などの調査が行われた。高規格道路日高自動車道の建設に伴う（財）北海道埋蔵文化財センターによる浜厚真3遺跡の調査では、187基のTピットが検出されている（北海道埋蔵文化財センター2003）。これらの調査結果では、縄文時代中期後葉以前にTピットが数多く構築されていることが分かり、周囲には比較的規模の大きい集落跡の存在が想定できる。

平成12年には北海道胆振総合振興局より厚幌ダム建設事業に係る埋蔵文化財保護の事前協議書が提出され所在踏査や試掘調査が開始された。発掘調査は平成14年から町教委により継続的に行われ、厚幌1遺跡（厚真町教育委員会2004）、上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会2006a・2007・2009）、オニキシベ5遺跡（印刷中）、ヲチャラセナイ遺跡・ヲチャラセナイチャシ跡（印刷中）、の調査を行い、平成24年度までの11年間の調査終了面積は約76,538㎡である。

平成15年には総延長24.5㎞に及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、所在確認踏査や試掘調査が行われている。試掘調査等は未了の箇所があるものの、現在11遺跡での要発掘・工事立会調査地点が確認され、平成19年度は厚真川中流域富里地区のニタップナイ遺跡（厚真町教育委員会2009）、20年度は厚幌1遺跡と幌内7遺跡（厚真町教育委員会2010a）、21年度は幌内5遺跡と富里2遺跡の発掘調査を行った（厚真町教育委員会2010b）。これらの大規模開発に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成27年度まで継続される予定であったが、平成22年度に厚幌ダム事業の再検証が行われたため、厚幌導水路に係る発掘事業は一時中止となり当初計画からのずれ込みが危惧されている。厚幌ダム、導水路事業以外にも平成22・23年度には厚真川中流域において道道上幌内早来停車場線改良事業に伴うヲイカルマイ遺跡（本書）や宿宅地造成事業での豊沢6遺跡、民間業者の火山灰採取に伴う東和3遺跡の発掘調査が実施された。近年の傾向として全町的に埋蔵文化財の発掘調査が進みつつあり、先史時代における厚真川流域の様相が解明されつつある。

(3) 歴史時代

厚真周辺の記録として、1643年に編纂された北海道最古の文書とされる『新羅之記録』（松前1643）によると、「松前以東は蝦川西は奥依地迄人間往古すする事、右大将頼朝卿進発して奥州の衣衡を追討し御ひし節、糠部津軽より人多く此国に逃げ渡って居住す。」とあり12世紀末葉には東北北部の和人が厚真周辺域まで進

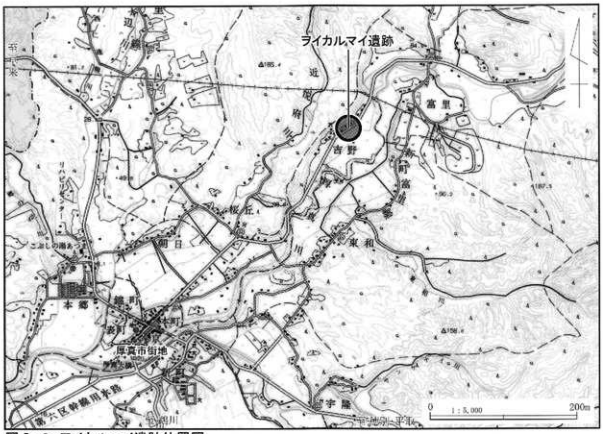
出していた可能性がある。厚真町とほぼ特定できる最初の記述は1692年に書かれた『蝦夷記』（野澤1692）で、シャクシャインの戦い（1669年）に関連し「於多久具印住處阿津摩ニテ討取ル」とある。厚真町中部に位置する桜丘チャシ跡との関連性が想定されていたが、平成21年度のトレンチ調査で樽前bテフラと生活硬化面との間に1～2cm程度黒色土が堆積し、より古い中世アイヌ文化期のチャシ跡であることが判明している。この時期の遺跡は厚真川上中流域の発掘調査で多数確認されており、今後も増加すると思われる。

これ以降の記録として、1700年の『松前家臣支配所持名前帳』には鳥屋支配所として「志古津ノ阿津満」と記され、2ヶ所の鷹打場が設けられている。シャクシャインの戦いに係わる『津軽一統志』（相坂兵右衛門1731）の中で、「あつまへつ～川有、戸田義兵衛　商場」と記されているが、産物や周辺のコタンについてなどの記述は見られない。1739年頃に成立した『蝦夷商賣聞書』には義経伝説を交えた記述の中に「右之山奥ニテツマト申所ニ城跡ト申而松柏之古木沢山ニ繁リテアリ～」や1785年の「三国通覧図説蝦夷国全図」に「アヅマ」と記載があり、注記に「鬼ヒノノ出処」と記されている（林子平1785）。しかし、寛政から文化年間（18世紀末～19世紀初）の『東蝦夷地道中記』（1791）や『蝦夷記行』（谷元旦1799）、『拾遺北日本地図全図蝦夷地出産交通略図』などの紀行文や古地図では僅かな記述にすぎず、1800年に八王子千人同心等、数名の和人が浜厚真に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物として干鮭や椎茸、シナ縄、鹿皮が挙げられているが詳述はなく、以降の紀行文や測量日誌にも交通路であった勇払と鵡川間の厚真川河口周辺の簡単な記述に留まっている。なお本町の和人定住者としては明治3（1870）年に新潟県人の青木与八が厚真川河口に渡船場を開業したことが始めとされている（厚真村1956）。

内陸部までの詳述は、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』（松浦・吉田1962、松浦・秋葉他1985）で、1857（安政5）年6月に苫小牧市勇払から厚真川河口を経てトンニカ（現富里）にて2泊している。蝦夷地探検の6回目で、町内には6ヶ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んに行われているが、直前に襲った厚真川の洪水によって畑地のほとんどが冠水したことも記され、かつてより氾濫の多い河川であったことが伺える。宿泊したトンニカコタンのイカシュ（乙名板蔵）の家中について「西同所の土人等とは大に違ひ、凡行器の三十も有、耳盥の七ツ八ツ、簞の弐ツ計、蝦夷太刀の二十五六振も懸、また此余短刀の七八本も有るよし語りけるなり。」（松浦・秋葉他1985）とあり漆器や刀剣類の宝物が多く、その裕福さに驚いている。苫小牧駒澤大学　養島栄紀氏は、これらの松浦武四郎の記録から古交通路について論じており、トニカコタンの記述や上幌内モイ遺跡の搬入系遺物の出土量から鵡川水系や夕張水系へのルートの存在について述べている（養島2005）。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム建設に係わる発掘調査で確認された厚幌1遺跡（厚真町教育委員会2004）、上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会2007a・2009a）の他、試掘調査でも上幌内2遺跡、一里沢遺跡があり、厚幌導水路建設事業関連でのニタップナイ遺跡（厚真町教育委員会2009b）や幌内7遺跡（厚真町教育委員会2010a）、富里2遺跡（厚真町教育委員会2010b）がある。その他、試掘調査で層位的確認がされた新町遺跡のほか、厚和1遺跡、幌内5遺跡では近世アイヌ墓が単独で発見されている。近年、発掘調査によってアイヌ文化期の遺跡が新たに発見されており、今後も資料の増加が期待される。

明治維新後、廃藩置県までは高知藩所管の時代があり、1873（明治6）年以降に開拓使苫小牧出張所や勇払郡役所の所管となる。現在の厚真町が行政単位としての始まりは1897（明治30）年に苫小牧外6ヶ村から分離独立し、厚真村戸長役場が桜丘地区（現専厚寺境内）に設置されたことによる。内陸部の和人開拓は明治10年代からで、手掘りによる石油掘削も始められ、明治21年には開拓使から農事指導員が派遣され西老軽舞（現吉野）へ集住させられたアイヌ民族への勧農政策も実施されている。1892（明治25）年には鉄道室蘭線が開通



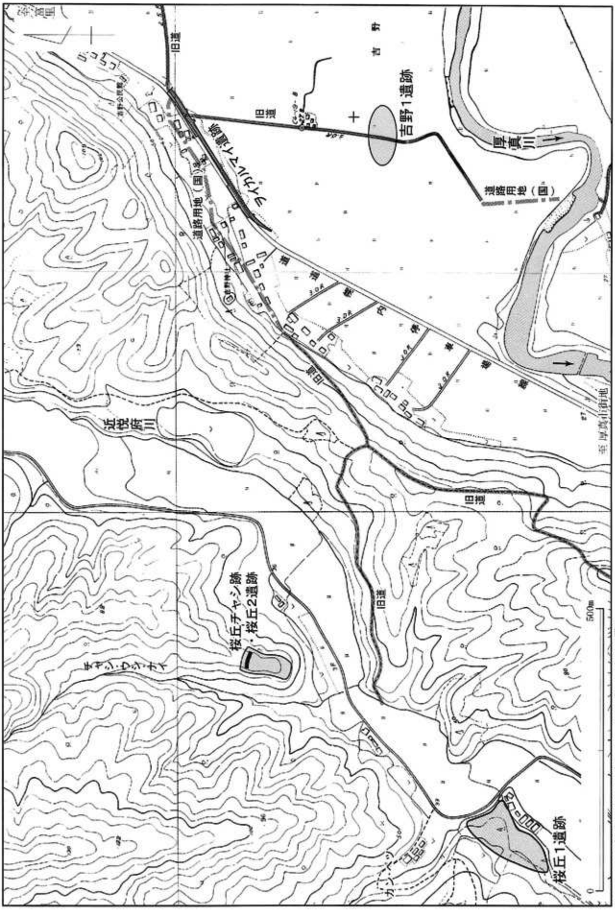
図Ⅰ-3 ヲイカルマイ遺跡位置図

し、近隣である厚真の内陸部も開拓移住者が増加した。これは明治19年の国有未開地の開放で北海道開拓の促進を図る「北海道土地払下規則」が制定されたことによる。以後、開拓移住者の増加が続き現在の農業の町厚真の礎が確立されていく。（乾）

2. 遺跡の位置と周辺の環境

A　自然地理的環境

ヲイカルマイ遺跡は厚真町市街地より4.1kmほど北東、厚真川河口より約22kmの中流域右岸に位置し、本遺跡は近悦府川によって開析され、南西方向へ半島状に突出する山地性丘陵の南東向き裾に形成された標高約30mの河岸段丘上に立地している。近接して北東に富里地区、厚真川を挟んで東に東和地区、西に桜丘地区、南東に朝日地区が存在している。遺跡前面に広がる沖積低地は標高約28mで樽前ｂ火山灰降下によって離水した可能性が高い。厚真川は小規模に蛇行しつつも、吉野地区と対岸の東和地区にかけて、弓状に大きく湾入し、遺跡周辺でやや広く沖積低地を形成している。厚真川は今回の調査区より南東側約400～560mの位置を北から南西方向へ流下し、河床は長軸3～5cm以下の泥岩の小礫が主体となっている。本遺跡が立地する河岸段丘面は現在の厚真川との比高差が約4mで、樽前ｂ火山灰降下以降に離水していることから上流域で発達している河岸段丘面の「T2面」（出穂2009）に相当するものと思われる。この沖積低地は現在、かんがい排水が整備され水田に利用されているものの、近年の農業基盤整備事業において開発以前はカツラやタモ類などの広葉樹を中心とした巨木が群生する森林であったことが判明している。この沖積低地の中央部に小規模な微高地が存在しており、吉野１遺跡が存在している。明治期においてはこの微高地に数件の家屋も記されている。なお、対岸のやや上流域の富里地区には「T2面」から「T3面」に相当するものと思われる河岸段丘面が広域的に形成されており、数多くの埋蔵文化財包蔵地が分布している。（乾）



図Ⅰ-4　遺跡周辺の地形図（平成14年測量）

B　人文地理的環境

(1)　埋蔵文化財包蔵地

吉野地区における周知の埋蔵文化財包蔵地は本遺跡以外に吉野1遺跡（J-13-102）がある。本遺跡より南230mの位置にある。平成17年に行われた水田ほ場整備事業によって削平されているが、旧地形図からは比高差1～3m前後の微高地であった。時期は縄文時代中期末葉北筒式・晩期中葉タンネトウL式で、地域住民によって表面採集され、町教委へ届けられている。この遺跡の発見により、沖積低地及びその縁辺部にも未発見の埋蔵文化財包蔵地の存在の可能性が高まり、今回の試掘調査等へ至った。本地区には現在のところヲイカルマイ遺跡と吉野1遺跡の2地点に留まるが、本遺跡の範囲の広がりも含め包蔵地は他にも存在する可能性が高いものと思われる。

吉野地区周辺の桜丘・朝日・東和・富里地区では厚幌導水路建設事業などによって数地点の発掘調査が行われており、主なものを以下に記す。

朝日遺跡（J-13-3）：本地区より厚真川下流側右岸でがある。過去の調査歴等は先述したとおりであるが、平成24年度の道道改良工事に伴う道埋文の発掘調査で、縄文晩期前葉の人骨を伴う土坑墓群や焼土群などと共に極めて多量の遺物が出土している。また、北大式期の土坑墓も数基ほど調査されている。出土遺物ではヒスイ製勾玉や土偶など縄文時代晩期を特徴づける資料も出土している。発掘調査は平成24年度で終了し、25年度に整理報告書刊行業務を行う予定となっている。

桜丘チャシ跡（J-13-16）：半島状の山稜を挟み西側の近世府川流域に所在する丘先式チャシ跡である。壕は上幅約12mと深さ約3mあり、先端部にも小規模な壕が検出された。樽前b火山灰（1667年降下）以前のチャシ跡で、廃棄後の黒色土堆積状態から14～15世紀代と想定される。明治29年製版の地形図「ヲイカルマイ」においても近世府川に「チャウシナイ」（チャシ・ウシ・ナイ＝チャシが・ある・川の誤記　亀井・池田1978）と記されている（図Ⅰ-6）。

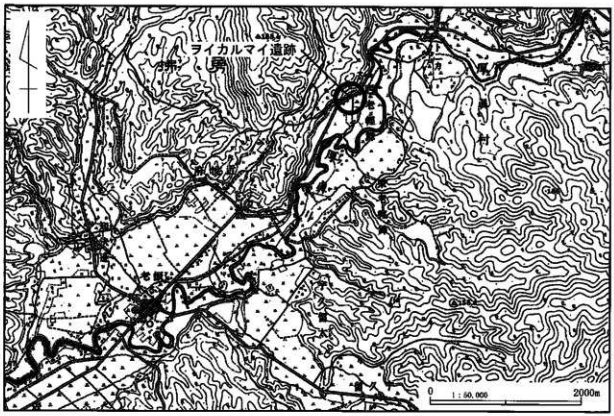
富里1遺跡（J-13-37）：厚幌導水路建設事業のため平成19年に試掘調査を行った結果、縄文前期前半の被熱礫が多量に出土している。地区住民の聞き取りでは現道改良工事の際に多量の古銭が出土とのことであり、アイヌ文化期所産と思われる。

ニタップナイ遺跡（J-13-104）：平成19年度に発掘調査、平成20年度に隣接地区の工事立会を行っている。本遺跡の最大の特徴は、樽前b火山灰降下以降、駒ヶ岳c2火山灰降下以前の1667～1694年の間に構築廃絶された住居跡4軒などを検出したことである。1669年のシャクシャインの戦いに関わる人々の住居跡と限定できる調査例は初例である。遺物も多量の金属製品が出土しており、和人と活発な交流交易の様相が伺える。

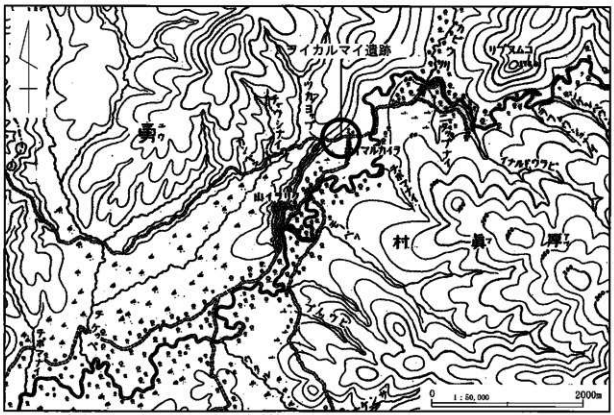
富里2遺跡（J-13-106）：平成21年度に厚幌導水路支線用水路建設のため発掘調査を行った。調査の結果、擦文文化期と近世初頭17世紀のアイヌ文化期の平地式住居跡のほか、擦文文化期から中世アイヌ文化期の所産とされる浅い溝による区画遺構が検出されている。本遺構の類似遺構は上幌内モイ遺跡でも調査されており13世紀のヲチャラセナイチャシ跡の前段階のチャシの初源的遺構と想定されている。

東和3遺跡（J-13-113）：平成23年度の調査で東釧路Ⅲ式土器を中心に早期後葉の土器群がややまとまって出土している。標高約40m で周囲の遺跡群の中で最も高い標高に立地している。当該期については、豊沢6遺跡でも調査されており、厚真川上流域の厚幌ダム建設事業においては過去11年間調査しているものの中茶路式以降からの出土であり縄文土器の拡散は海岸部から厚真川上流域へ拡散している可能性が想定できる。

（乾）



図Ⅰ-5　遺跡周辺の地形図（大正５年測量）



図Ⅰ-6　遺跡周辺の地形図（明治 29 年製版）

表Ⅰ-3　周辺の埋蔵文化財包蔵地

登載番号	種別	遺跡名	時期	所在地区	備考
3	遺物包含地	朝日遺跡	縄文中期～撚文	字朝日	平成24年発掘。
13	遺物包含地	東和遺跡	縄文	字東和	
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	中世アイヌ文化期	字桜丘	平成21年地形測量・トレンチ調査。
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	字桜丘	平成24年踏査。
37	遺物包含地	富里1遺跡	縄文前期・アイヌ文化期	字富里	古銭が多数出土(地域住民談話)。
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文	字富里	地域住民によって遺物を表面採集。
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中期・晩期	字吉野	平成17年。水田基盤整備後に発見。
104	集落跡	ニタップナイ遺跡	縄文前期前葉・後期、続縄文・撚文・近世アイヌ文化期(1667直前～1694年形成)	字富里	平成19年発掘、20年工事立会。
106	遺物包含地	富里2遺跡	縄文後期	字富里	平成20年発掘。
113	遺物包含地	東和2遺跡	続縄文	字東和	平成21年発掘。
116	遺物包含地	東和3遺跡	縄文早期後葉	字東和	平成23年発掘。
117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中期後葉	字桜丘	桜丘チャシ跡と同一地点。
128	遺物包含地	ヲイカルマイ遺跡	続縄文末葉・撚文・中世アイヌ文化期・近代	字吉野	平成22・23年発掘。本書。

(2) 松浦武四郎の記録と周辺のアイヌ語地名

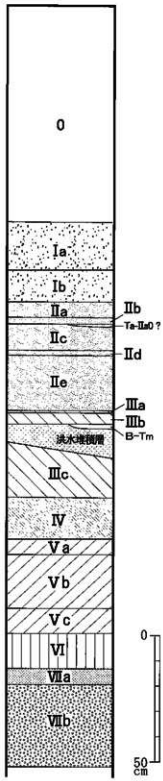
厚真川中流域と断定できる最初の記録としては、江戸時代末期の安政 5(1857)年に厚真を訪れた松浦武四郎（以下、武四郎）の『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』(松浦・吉田 1962、松浦・高倉・秋葉 1985)が最も古い記録である。

武四郎は現在の苫小牧市勇払を出発し、厚真川河口から徒歩で厚真川中流域左岸のトンニカコタン（現富里地区）へ入り、2泊ほど滞在する。本地区には2日目に訪れ「ヲイカラナイ　小山の下に有。ヲイカラとは蕁麻の事也。此の草西部にてはアイと云也。是多く有るよりして号しものなり。」と書き残している（松浦・高倉・秋葉 1985)。小山とはヲイカルマイ遺跡背後の山稜を指すものと思われ、コタン（集落)、フシココタン（集落跡）の記述が無い。本遺跡出土のものは中世アイヌ文化期であり、放射性炭素年代も 13 世紀後葉であることから、19 世紀中葉にまでは伝承として残らないことは容易に想定できる。ヲイカルマイの語源として「葛の生えているところ」とある（厚真村 1956)。

周辺の地名として下流側に「ナユケホチ　四岸に一ツ高山有。其名義は鍵（鉤）の事也。訳は此山峨々と聳えたる故に、鍵を上に懸けて是にて上に上ると云事なりとかや。此山トンニカの向岸に当る也。」と記述され、他の地名との位置関係より現在の桜丘一級基準点付近の標高 110m峰がこれにあたると思われる。さらにヲイカルマイより上流には、「キウシナイ　小沢也。此辺に来るや両岸も迫々山に成て、その岸崩れ平多く川底は平岩また赤土にして小石はなし。依て常に水濁りぬ。扨此川口蘆荻多きが故に此名有りとかや。此辺川巾凡十二三間也。其村にて（は）小舟が有て、是を以て此方彼方と往来はすれども、是にて浜に下る等の事なし。それは倒れ木多きに依ってせ。」と記述され、地名の記載順序などから吉野地区と富里地区との字名境界となっている排水路のこととされている（亀井・池田 1978)。

この他、対岸（左岸）の「フシコモウベツ」、「アシリモウベツ」、「チホマナイ」の東和地区の地名も記述され、昭和 32 年に行われた地番改正で、現在では河川名で地名が残っているに過ぎない。桜丘チャシ跡が所在する近悦府川流域に関わる記述はない。

（乾）



基本土層

0層：撹乱・耕作土・表土・盛土

Ⅰ層：洪水堆積層

a：灰色粘土層　5Y6/1 灰色 粘土と砂の互層でⅠb層との間に薄い黒色腐植土を挟む。

b：灰黄色粘土層 2.5Y7/2 灰黄色 粘土と砂の互層で近現代の遺物を含む。

Ⅱ層：近世火山噴出物及び黒色砂質腐植土

a：黒色砂質腐植土層 10YR2/1 黒色　近代の遺物包含層。

b：黒色粘質腐植土層 10YR1.7/1 黒色　近代の遺物包含層。

c：樽前aテフラ（Ta-a）10YR6/4 にぶい黄橙色　砂質降下火山灰 1739 年降下。層厚8cm前後。Ⅱc層直上にこれまで厚真町では確認されていなかったテフラ 10YR7/3 にぶい黄橙色 砂質降下火山灰が部分的に見られ 1804-1817 年に降下した Ta-Ⅱa0 火山灰の可能性がある。層厚1cm未満。

d：駒ケ岳c2テフラ（Ko-c2）10YR8/3 浅黄橙色　砂質火山灰 1694 年降下。Ⅱb層中に部分的に堆積している。

e：樽前bテフラ（Ta-b）2.5Y7/3 浅黄色 細礫質降下軽石 1667 年降下。層厚 20 cm前後。

f：有珠bテフラ（Us-b）2.5Y6/1 黄灰色　シルト質降下火山灰 1663 年降下。層厚数 mm。Ⅲa層上面に堆積。

Ⅲ層：黒色腐植土

a：砂質シルト 7.5YR2/1 黒色 Ⅱe層を斑状に含む。層厚1cm前後。近世初頭遺物包含層。

b：シルト 10YR1.7/1 黒色 やや粘性あり。層厚 10 cm前後。上位から中位が中近世アイヌ文化期の遺物包含層。下位が縄文文化期の遺物包含層。Ⅲb層とⅢc層との層境に白頭山苫小牧火山灰（B-Tm シルト質降下火山灰 10c 前半降下）が部分的に堆積する。また調査区西端と東側には洪水堆積層が認められた。7.5YR5/1 褐灰色 粘性が強い。特に調査区東側にかけては徐々に層厚を増し、最大 35 cmを測る。

c：砂質シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚10cm前後。縄文文化期の遺物包含層。

Ⅳ層：樽前cテフラ（Ta-c）10YR6/6 明黄褐色 砂質降下軽石。B.P.2,500 年前後降下。層厚 10 cm前後。

Ⅴ層：黒色腐植土

a：シルト 10YR3/2 黒褐色 層厚2cm前後。

b：シルト 10YR1.7/1 黒色 層厚 25 cm前後。

c：シルト 10YR2/3 黒褐色 層厚 15 cm前後。

Ⅵ層：漸移層 2.5YR4/6 褐色 暗褐色シルト。層厚 10 cm前後。

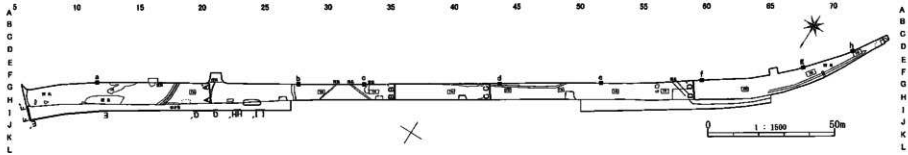
Ⅶ層：樽前dテフラ（Ta-d）B.P.8,000 年前後降下。

a：樽前d1テフラ（Ta-d1）5G4/1 暗緑灰色 細礫質降下スコリア（φ5↓）層厚 10 cm前後。部分的に堆積する。

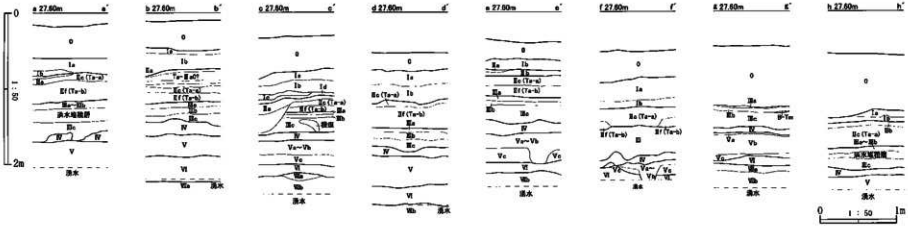
b：樽前d2テフラ（Ta-d2）5YR4/8 赤褐色 中礫質降下スコリア（φ20↓）層厚 50 cm以上。部分的に水性風化による粘土化が確認される。Ⅶ層まで掘り下げると遺跡内のほとんどで湧水が認められる。

図Ⅰ-7　基本土層柱状図

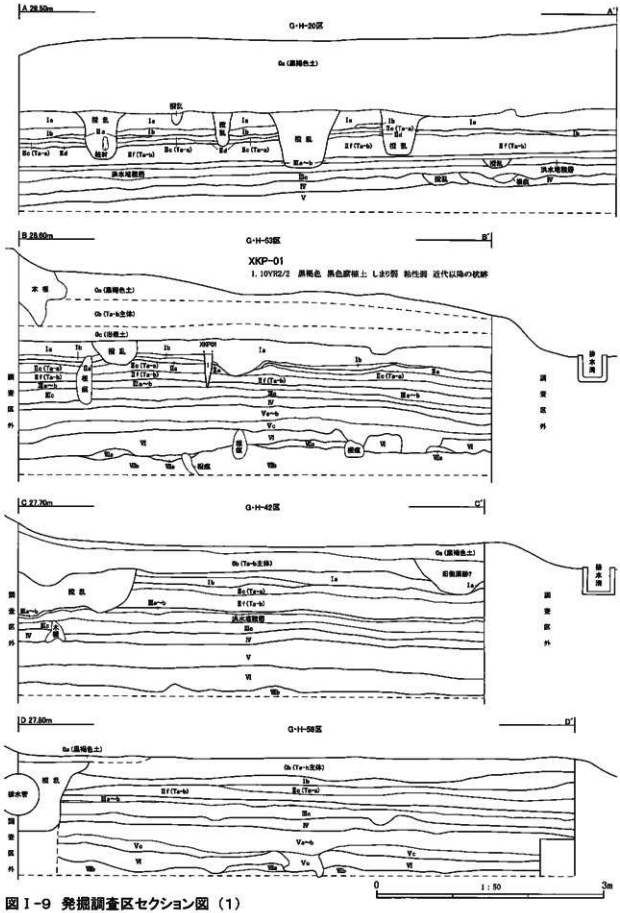
基本土層断面位置図



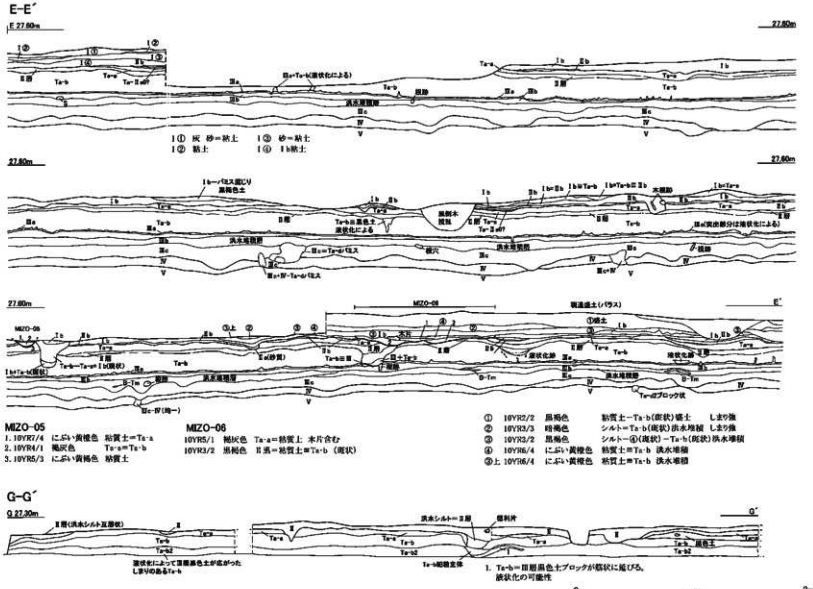
調査区東壁セクション図



図Ⅰ-8 基本土層断面 位置図及び調査区断面図

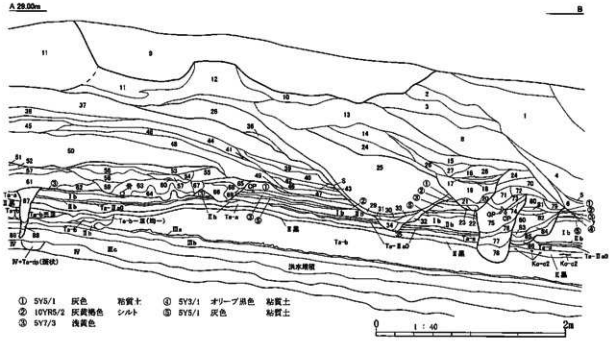


図Ⅰ-9　発掘調査区セクション図（1）



図Ⅰ-10 発掘調査区セクション図（2）

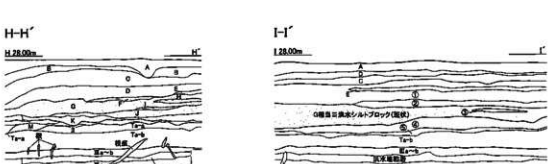
F-F′



F-F′

1.	10YR3/1	黒褐色	シルト質土－黄褐色粘土質ブロックφ50↓(斑状)－Ta-b(斑状)≡Ta-dパミス(斑状)
2.	7.5YR5/1	褐灰色	粘質土≡Ta-dp(斑状)
3.	7.5YR4/2	灰褐色	粘質土＝Ta-dp(斑状)
4.	7.5YR4/1	褐灰色	粘質土－黄褐色粘土質ブロック(斑状)φ50↓＝Ta-b≡Ta-dp(斑状)
5.	5Y7/2	灰白色	粘質土 洪水堆積
6.	5Y4/1	灰色	粘質土≡Ta-b(斑状)
7.	5Y4/1	灰色	砂＝Ta-b＝黄灰粘質土(斑状)
8.	7.5YR5/1	褐灰色	粘質シルト≡Ta-b(斑状)
9.	2.5Y3/1	黒褐色	粘質土－Ta-b(均一)盛土
10.	2.5Y4/1	黄灰色	シルト Ta-a＋Ⅰb(斑状)
11.	7.5YR6/2	灰褐色	砂礫層φ50↓ 路盤
12.	5YR3/1	黒褐色	シルト＋Ta-dp斑状 盛土
13.	7.5YR3/2	黒褐色	シルト－Ta-dp斑状 盛土
14.	7.5YR5/1	褐灰色	粘質シルト≡Ta-dp≡Ⅰb(斑状)
15.	7.5YR5/1	褐灰色	粘質シルト－Ta-dp－Ⅰb(斑状)
16.	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂
17.	2.5Y4/1	黄灰色	砂＋礫φ20↓(均一)
18.	2.5Y5/1	黄灰色	粘質土＋礫φ20↓(均一)
19.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dp＝礫φ30(斑状)
20.	7.5YR5/4	にぶい褐色	Ta-dp＝礫φ30(斑状) 13の崩れ
21.	5Y4/1	灰色	粘質土≡Ta-dp
22.	7.5YR5/4	にぶい褐色	粘質土＋礫φ20↓(均一)
23.	5Y4/1	灰色	粘質土≡Ta-dp
24.	7.5YR4/1	褐灰色	粘質土＝Ta-dp(斑状)
25.	7.5Y5/4	にぶい褐色	Ta-dp＝黒色土(V？)φ30↓ブロック斑状
26.	7.5YR3/2	黒色	シルト－Ta-dp(斑状)
27.	7.5Y5/1	褐灰色	シルト－Ta-dp(斑状)
28.	2.5Y4/1	黄灰色	粘質土≡砂礫φ20↓
29.	2.5Y4/1	黄灰色	粘質土
30.	5Y4/1	灰色	シルト ②の崩れ≡Ta-b(斑状)
31.	5Y5/2	灰オリーブ色	Ⅰbの崩れ
32.	5Y3/1	オリーブ黒色	①-②の崩れ
33.	5Y4/1	灰色	②の崩れ
34.	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土Ⅰb≡Ⅱb≡Ta-a(斑状)
35.	5Y4/2	灰オリーブ色	Ⅰb＋Ⅱb(斑状)崩れ
36.	5Y4/1	灰色	シルト≡砂礫φ20↓(斑状)
37.	5Y6/1	灰色	砂礫層φ50↓－粘質土
38.	5Y5/1	灰色	シルト≡砂礫φ20↓(斑状)
39.	5Y6/2	灰オリーブ色	粘質土－シルト≡Ta-b(斑状) 洪水堆積
40.	5Y6/2	灰オリーブ色	粘質土＝砂礫φ20↓
41.	5Y4/1	灰色	シルト
42.	5Y7/2	灰白色	粘質土
43.	5Y6/1	灰色	シルト－Ta-b＝礫φ20↓(斑状)
44.	5Y5/2	灰オリーブ色	粘土質＝砂礫φ20↓
45.	5Y5/1	灰色	シルト≡砂礫φ20↓(斑状)
46.	2.5Y6/2	灰黄色	シルト≡礫φ40↓(斑状)
47.	2.5Y4/1	黄灰色	粘質土≡礫φ20↓(斑状)
48.	5Y4/1	灰色	シルト＝礫φ40↓＝炭化物(斑状)
49.	5Y5/1	灰色	砂≡小礫φ5↓(斑状)
50.	5Y4/2	灰オリーブ色	砂－礫φ40↓(斑状) 道路路盤
51.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト≡Ta-b(斑状)
52.	10Y2/1	黒色	Ⅲc≡Ta-b≡Ta-c(斑状)
53.	5Y4/1	灰色	シルト＝Ta-b≡礫φ20↓＝炭化物(斑状)
54.	5Y5/1	灰色	シルト＝Ⅰb≡Ta-b(斑状)
55.	5Y5/1	灰色	シルト＝粘質土≡Ta-b≡礫φ20↓(斑状)
56.	5Y4/2	灰オリーブ色	50と同じ
57.	5Y3/2	オリーブ黒色	シルト－Ⅰb＝Ta-b(斑状)
58.	10YR2/1	黒色	Ⅲ層－Ta-b＝Ⅰb(斑状)
59.	10YR3/1	黒褐色	Ⅲ層＝Ta-b(均一)
60.	10YR2/1	黒色	Ⅲ層－Ta-b＝Ⅰb(斑状)
61.	5Y2/2	オリーブ黒色	シルト－Ta-b＝Ⅰb(斑状)
62.	10YR4/1	褐灰色	②層＝Ta-b(斑状) しまり強
63.	10YR4/1	褐灰色	Ⅲ層＋②＝Ta-b≡Ⅰb(斑状)
64.	10YR5/2	灰黄褐色	②＋①＝Ta-b(斑状)
65.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト≡Ta-b(斑状)
66.	5Y4/1	灰色	粘質土－①＝②≡Ta-b(斑状)
67.	2.5Y4/1	黄灰色	粘質土＝Ⅰb≡Ta-b(斑状)
68.	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土 ①＋②(斑状)
69.	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土－①の崩れ(ひっぱられた？)
70.	5Y5/2	灰オリーブ色	シルト≡Ta-dp(斑状)
71.	5Y4/1	灰色	シルト－Ⅰb(斑状)
72.	5Y4/2	灰オリーブ色	砂＝Ta-b＝Ⅰb(斑状)
73.	5Y5/3	灰オリーブ色	シルト＝Ⅰb≡Ta-b(斑状)
74.	7.5Y5/1	灰色	砂 47の崩れ
75.	5Y4/1	灰色	シルト＝Ta-b≡Ⅰb(斑状)
76.	5Y6/3	オリーブ黄色	粘土質Ⅰbの崩れ
77.	5Y5/1	灰色	砂 47の崩れ
78.	5Y5/2	灰オリーブ色	粘土質 Ⅰb－Ⅱbの＝Ta-a(斑状)
79.	5Y7/4	浅黄色	粘土質 (③と同質)
80.	7.5Y4/1	灰色	砂とTa-bの互層(下層ほどTa-b多くなる)
81.	5Y5/3	灰オリーブ色	砂－Ta-b(均一)
82.	5Y5/3	オリーブ黄色	砂 Ⅱ黒≡Ta-a
83.	5Y6/1	灰色	シルト＋Ta-b(均一)
84.	5Y5/2	灰オリーブ色	シルト
85.	5Y5/3	灰オリーブ色	シルト ③～⑥の崩れ
86.	5Y5/2	灰オリーブ色	シルト ⑤－Ta-a(均一)
87.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ⅰb≡Ta-a(斑状)
88.	10YR3/1	黒色	Ⅲ＝Ta-b(斑状)
89.	2.5Y4/1	黄灰色	Ⅰb－Ta-b(斑状)

図Ⅰ-11 発掘調査区セクション図（3）



H-H′

A	10YR4/2	灰黄褐色　砂・砂利の盛土
B	10YR5/3	にぶい黄褐色　砂質灰質の互層
C	10YR3/1	黒褐色　黒＝角礫パラス＝Ta-b(斑状)
D	10YR3/2	黒褐色　黒＝パラス・Ta-b(斑状)
E	10YR6/6	明黄褐色　粘土質シルト＝円礫・パラス(斑状)
F	7.5YR5/6	明褐色　Ta-a＝Ta-b＝パラス(斑状)
G	10YR3/2	黒褐色　黒＝Ta-b＝Ta-c パラス(斑状)
H	10YR6/6	明黄褐色　粘土質シルト＝黒色粘土(互層)
I	10YR4/3	にぶい黄褐色　砂＝Ta-b(斑状)
J	10YR3/2	黒褐色　Ta-b＝黒色砂(斑状)
K	10YR4/1	褐灰色　Ⅱ－洪水シルトブロック(斑状)
L	10YR3/1	黒褐色　Ⅱ＝洪水シルトブロック(斑状)
M	10YR3/2	黒褐色　Ta-b＝Ⅱ層起源・黒色土(均一)

I-I′

1.	10YR5/3	にぶい黄褐色　褐色土－角礫(φ20ｍ)＝細砂(均一)
2.	10YR3/1	黒褐色　褐色シルト＝Ta-b＝亜角礫(φ10ｍ)(均一)
3.	7.5YR5/8	明褐色　盛砂褐土
4.	10YR3/2	黒褐色　Ⅱ－洪水シルト(斑状)－Ta-b(均一)
5.	10YR4/1	褐灰色　Ta-a＝Ta-b(汚れた層)やビによる泥着層有
A	10YR4/2	灰黄褐色　砂・砂利の盛土
C	10YR3/1	黒褐色　黒＝角礫パラス＝Ta-b(斑状)
D	10YR3/2	黒褐色　黒＝パラス・Ta-b(斑状)

◎は◎の間にⅡ層プライマリーがある

図Ⅰ-12　発掘調査区セクション図(4)

3. 調査区内の地形と地質

調査区には耕作土や表土・盛土が堆積しており、これをⅠ層とした。Ⅰ層は水成シルトの洪水堆積層で調査区のほぼ全域に確認された。本層の直下には樽前-Ⅱａ0（1804-1814 年降下）が部分的に堆積しており、文化11（1814）年以降の洪水堆積層である。さらに、0H-04 はこのⅠ層・洪水堆積層（粘土質シルト層）を床面に直接被覆しており、被災した建物跡であることが分かっている。本地区の和人入植は明治24（1981）年からであり、明治24年以降の洪水堆積物であると考えられる。本町の洪水の記録として、厚真町史には明治31（1898）年に厚真川流域全域にわたって死傷者を出す大規模な洪水被害が記録されており、この堆積物と考えられる。

Ⅱ層は樽前山等を噴出起源主体とする近世火山噴出物と上層シルト質の明治 31 年以前の近代の遺物包含層である。本層の堆積は良好で、駒ヶ岳 c2 火山灰を挟在する黒色砂質層（新千歳空港関連調査における千歳市美々８遺跡の「０Ｂ層」相当層）も比較的安定的に堆積している。今回の調査で樽前ａ火山灰（1739 年降下）と近代の遺物包含層であるⅡb 層（明治31・1898 年）との間に町内で初めての確認例となる灰白色の細粒砂火山噴出物を局所的に確認した。推測の域を出ないものの樽前-Ⅱａ（文化元-11・1804-1814 年降下）またはⅢａ（明治７・1874 年降下）の火山灰と思われる。本層は火山灰同定を検討したが、標識試料が無いことから断念している。今後、本火山灰は近世末期から近代にかけての示準層位ともなりうることから、分析同定については今後の課題としたい。

Ⅲ層の黒色腐植土はａ～ｃに細分でき、Ⅲa 層は赤みを帯び、Ⅱ層の樽前ｂテフラ（1667 年降下）を斑状に含む。時期は近世アイヌ文化期初頭の遺物包含層であるが、本層から面的な遺物出土の状態は確認していない。。Ⅲb 層は漆黒の腐食土層で、大きく上位（ⅢbU）、中位（ⅢbM）、下位（ⅢbL）に区分した調査を行った。厚真町内における、これまでの発掘調査結果から上位は中世アイヌ文化期新段階（16・15 世紀頃）、中位は中世アイヌ文化期の古段階（14･13 世紀頃）と想定している。ただし、各遺跡、それぞれの地点で堆積

速度が異なることを配慮する必要がある。下位は擦文文化期中期後半・後期に相当する。Ⅲb層とⅢc層との層境には苫小牧白頭山テフラ（B-Tm）と洪水堆積層が部分的に堆積している。Ⅲc層も大きく上位、中位、下位に分かれ、上位は擦文文化期前期、中位は続縄文文化期の土器が出土する傾向にある。　（乾・荻野）

4. 地震による液状化跡

調査区内からは地震による液状化跡と思われる痕跡を13か所検出した。液状化跡01～03は溝状に検出されたもので、液状化跡05は地割れによる段差がみられ、液状化跡04では噴砂が確認されている。いずれも樽前b火山灰を除去し、Ⅲ層上面で確認した。

平成22年度の発掘調査において、G-9･10区に8.8×6.2mの帯状の範囲で、Ⅲ層上面が不整の階段状となっている部分を検出した（図Ⅰ-13・液状化05）。階段状の縁辺部はⅢ層黒色土が樽前b火山灰中に層状の剥がれ浮く状態であり、土坑や耕作地、掘り上げ土などの人為的様相とは異なることから自然営力によるものと推定した。また、近接するH-8･9区の調査区壁面において、樽前b火山灰のフォールユニットそのもの、樽前b火山灰とⅢ層上面との層境の擾乱（図Ⅰ-13・断面図E-E´）を確認できていたことから、上記平面の不整状態と合わせて検討した。同様な堆積状態は、調査区内の他の部分でも確認しており、調査区北東側の広範囲にわたって局所的に確認できることが判明した。

これらの特徴を下記に挙げる。

①樽前b火山灰を切り、その上面層境が窪み、樽前a火山灰が被覆している。

②Ⅲ層上面での確認で、平面形が不整形または直線状のものと2種類がある。前者はⅢ層上面で階段状、後者は溝状に擾乱している。溝状に落ち込むものは灰白色砂や樽前b火山灰が落ち込む。

③樽前b火山灰のフォールユニットを示す砂粒～角礫質の粒度における成層状態が擾乱し、粒度は一定でない。

④フォールユニットの保持に関わらず、樽前b火山灰は下層ほど灰褐色を呈し、Ⅲ層黒色土の汚れ影響がある。

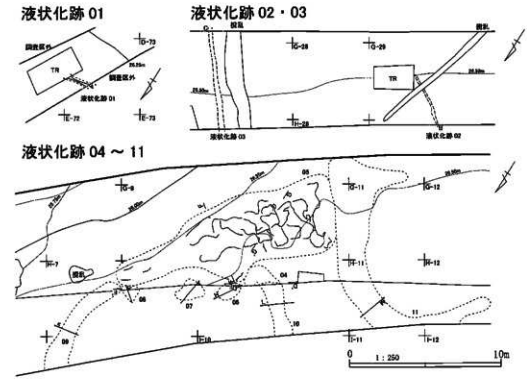
⑤上記範囲において調査区壁面などで確認できた堆積状態では、Ⅲa及びⅢb層が厚さ1～3cm程度の層状（剥離状態）に樽前b火山灰中に認められる。

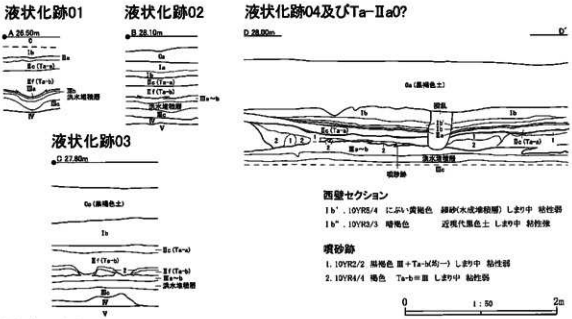
上記より、まず形成時期は降下年代の1667年より新しく、1739年より古い時期で17世紀後葉から18世前葉の約70年間に限定できる。Ⅲ層上面に顕著に表れたのは、土壌の粘性やしまり具合によるものであり、本来は樽前b火山灰上面で本現象が生じている。樽前b火山灰の汚れについては角礫質降下軽石であり空隙が発達していることから、Ⅲ層上面を不透層として、この空隙に噴出した泥水が浸透しているものと思われる。液状化現象の激しい1ヶ所については、Ⅲ層黒色土自体も本体層から乖離し、樽前b火山灰中に取り残されていると思われる。なお、層状の堆積については既に堆積している層序の中での発生であることから、風雨による風化を免れ、そのメカニズムを克明に残していると考えられる。

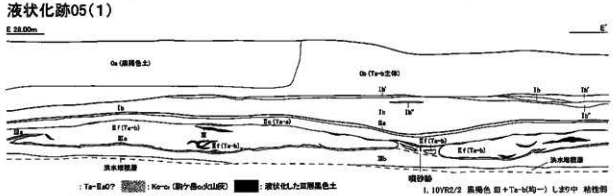
液状化跡と思われる痕跡は、町内において初例である。これまで平成15年9月に発生した「平成十勝沖地震」において厚真町南部を中心に液状化現象の発生が確認されている。この時の震度は5強とされており、本地点おいても、同規模以上の地震が発生していたものと思われる。

厚真川上流域においても約4,000年前頃の大規模地震の痕跡が確認されており、今後の防災資料として本記録は活用されうるものと思われる。

（乾・荻野）

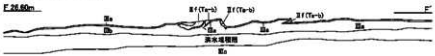






図Ⅰ-13 液状化跡及び断面（1）

液状化跡05(2)



液状化跡06

1. Ta-bのブロック
2. Ⅲ+Ⅲb層にTa-bまじる(泥状)

液状化跡05(3)

液状化跡07

1. Ta-bのブロック
2. Ⅲ層にTa-bまじる(泥状)

液状化跡08

1. Ta-bのブロック
2. Ⅲ層にTa-bまじる(泥状)

液状化跡09

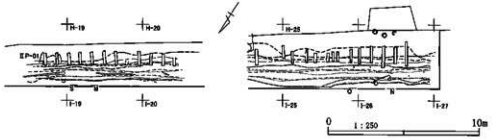
液状化跡10

液状化跡11

1. 10YR7/3　にぶい黄橙色　粘質土＝Ⅲb
　　(泥状)　しまり弱
2. 10YR4/1　褐灰色　粘質土＋Ⅲb
　　(泥状)　しまり弱

0　1：50　2m

液状化跡 12 ～ 13



0　1：250　10m

液状化跡12(1)

液状化跡12(1)
1. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＝灰白色砂(均一)
2. 10YR6/6　明黄褐色　Ta-b　洗い分離状にTa-bが落ち窪む
3. 10YR3/2　黒褐色　Ⅲ層＝Ta-b(均一)＝褐灰白砂(均一)　断層
4. 10YR2/1　黒色　Ⅲ層＝褐灰色砂(均一)　噴砂の影響か？
5. 10YR3/2　黒褐色　Ⅲ層＝Ta-b＋褐灰色砂(均一)　断層の影響か？

液状化跡12(2)
1. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＝灰白色砂(均一)
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　Ⅲ＋Ta-b＝灰白色砂(均一)
3. 10YR3/2　黒褐色　Ⅲ－灰白色砂(均一)＝Ta-c(均一)
4. 10YR3/1　黒褐色　Ⅲ＝Ⅴ＝灰白色砂(均一)

液状化跡13
1. 10YR2/1　黒色　Ⅲ層液状化と思われる黒色土の断面ややTa-b(均一)

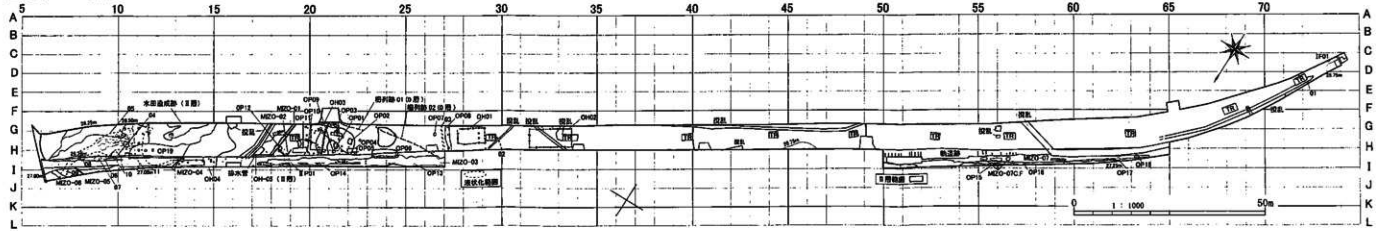
液状化跡12(2)

液状化跡13

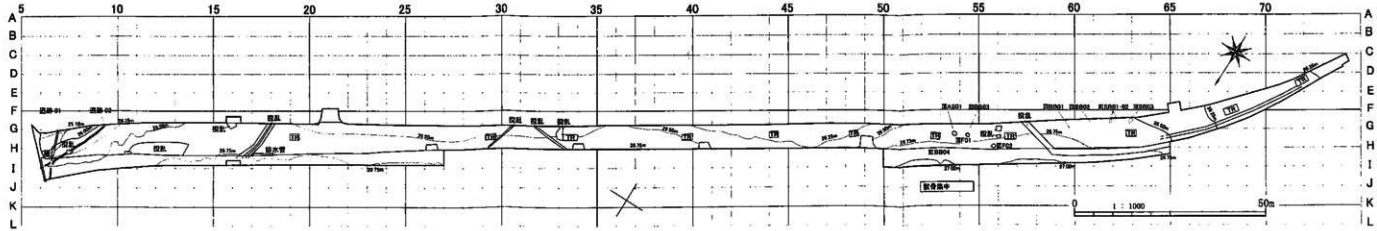
0　1：50　2m

図Ⅰ-14　液状化跡及び断面（2）

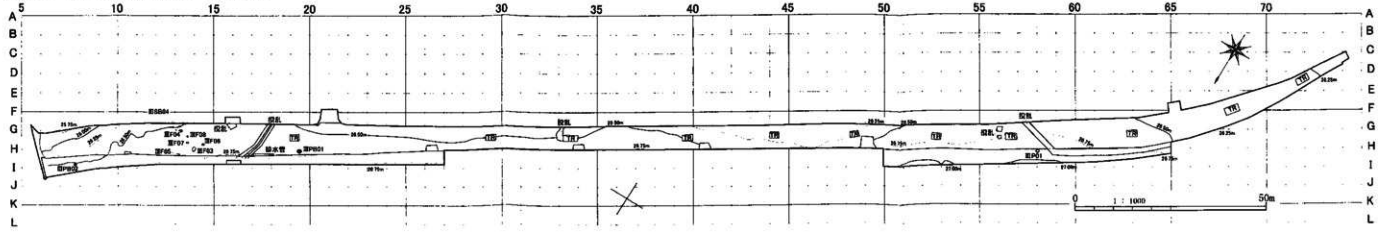
近代（0～Ⅱ層）



中世アイヌ文化期（Ⅲa～ⅢbM層）



続縄文・擦文文化期（ⅢbL～Ⅲc層）



図Ⅰ-15 遺構配置図

第Ⅱ章　近代の調査

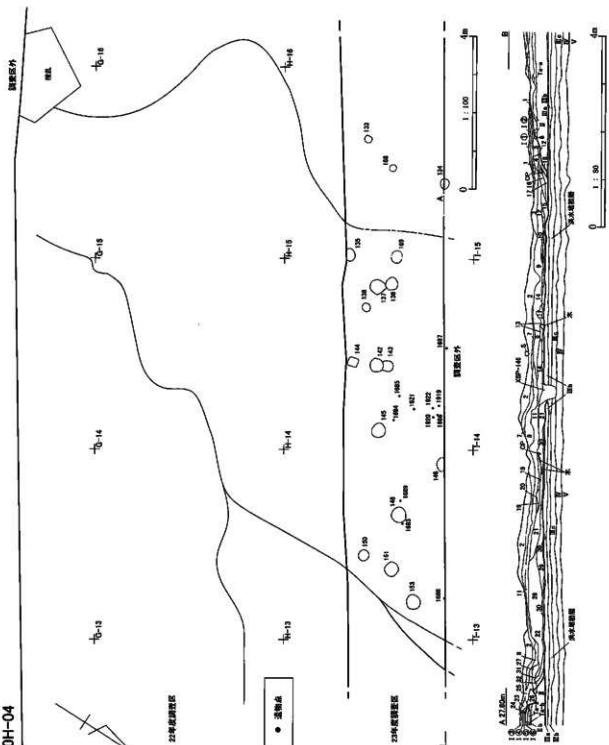
調査区のほぼ全域から近代の遺構・遺物を確認した。Ⅱ層は幕末以降の遺物包含層であるが、遺存状態は悪く調査区の約15%が残存するのみであった。現道下では早来軌道跡の枕木跡や溝跡が検出された。早来軌道が敷設されたのは明治44年で、その整地面を基準として新旧が捉えられる遺物も多く出土した。現道の法面下から東側ではⅠ層の洪水堆積層や0層の撹乱層から本来Ⅱ層にあったと推測される遺物が多く出土している。0層・Ⅰ層・Ⅱ層で確認された遺構・遺物について近代のものとして一括して扱った。　（荻野）

表Ⅱ-1　近代遺構一覧表

遺構名	規模(cm)			グリッド	層位	備　考
	長軸	短軸	厚さ・深さ			
0H-01	727	364	-	F·G·H-27·28·29	0	建物跡(4×2間)
0H-02	1091	455	-	F·G·H-31·32·33	0	建物跡(6×2.5間)
0H-03	818	697	-	G·H-20·21	0	建物跡
0H-04	(1360)	727	-	F·G·H-13～15	0	建物跡
0H-05	(319)	(274)	-	G·H-17	0	建物跡
軌道跡	3981、968、1020	125	-	H-19～27·H-51～57	0	枕木跡の長軸125cm、短軸15cm、間隔55cm
MIZO-01	(999)	92	44	F·G·H-17·18·19	0	溝跡
MIZO-02A	(203)	22	7	H-18	0	溝跡
MIZO-02B	(203)		8	H-18	0	溝跡
MIZO-03	(4557)	260	45	H-6～H-15	0	溝跡
MIZO-04	(4787)	261	59	H-17～H-26	0	溝跡
MIZO-05	(280)	22		H-6·I-7·8	0	溝跡
MIZO-06	(324)	107	10	I-6·7	0	溝跡
MIZO-07	(6892)		40	H-50～H-63	0	溝跡
ⅡP-01	144	58	27	H-19	Ⅱ	土坑
ⅠF-01	(145)	89	7	C-73	Ⅰ	焼土
柵列跡01	1267	-	-	F·G-21·22	0	柱穴間隔平均181cm
柵列跡02	567	-	-	F·G-23·24·25 H-26	0	柱穴間隔平均187cm
0P-01	176	116	88	G-21	0	土壙跡
0P-02	139	106	-	G-22	0	土壙跡
0P-03	294	117	-	G-21	0	馬橇等出土
0P-04	247	91	-	G·H-20·21	0	ゴミ穴
0P-05	(57)	44	-	H-22	0	ゴミ穴
0P-06	613	(99)	-	G·H-23·24	0	ゴミ穴
0P-07	80	62	-	G-26	0	ゴミ穴
0P-08	(646)	119	-	F·G·H-27	0	旧排水溝
0P-09	83	63	-	G·H-21	0	ゴミ穴
0P-10	127	(96)	-	H-19	0	ゴミ穴
0P-11	361	120	-	G·H-19	0	ゴミ穴
0P-12	(78)	79	-	G-18	0	ゴミ穴
0P-13	74	63	-	H-25	0	ゴミ穴
0P-14	96	48	-	H-20	0	ゴミ穴
0P-15	63	56	-	H-55	0	ゴミ穴
0P-16	57	45	-	H-57	0	ゴミ穴
0P-17	119	61	-	H-62	0	ゴミ穴
0P-18	130	51	-	H-63	0	ゴミ穴
0P-19	1619	364	-	G·H-10·11·12·13	0	ゴミ穴
水田造成跡	(1102)	(838)	-	F·G-12·13·14	Ⅱ	

第1節　建物跡

建物跡は調査区の中央からやや東側に0層で4棟、Ⅱ層で1棟検出した。0H-01・02・03は現道と並行して構築されている。0H-04は調査区の南北にⅡ層を掘り込んだ範囲が広範囲に認められるが建物の規模自体は不明である。0H-01が4×2間、02が6×2.5間、03は一部が調査区外へ広がっている。また0H-05は現道下に広がっていたと考えられるが、撹乱により失われていた。　(荻野)



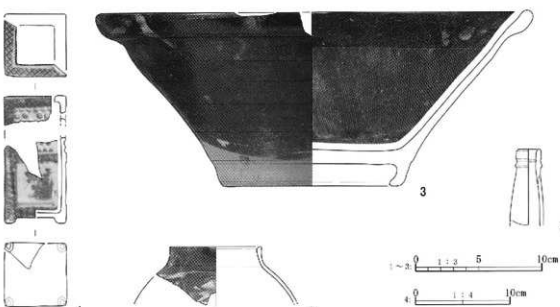
図Ⅱ-1　0H-04 平面図及び断面図

0H-04

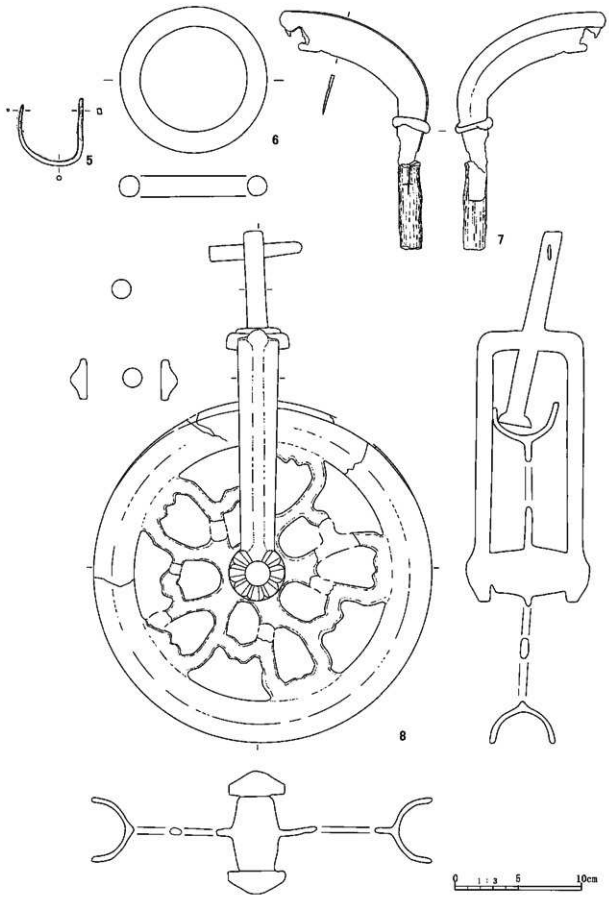
1	5Y3/2	オリーブ黒	粘質土＝Ta・b（現状）	17	5Y3/1	オリーブ黒	粘質土＝Ta・b（現状）
2	5Y3/1	オリーブ黒	粘質土＝Ta・b（現状）	18	5Y4/1	灰	Ta・b＝Ⅰb（現状）
3	5Y4/1	灰	シルト～オリーブ黒粘質土＝Ta・a（現状）	19	5Y3/1	オリーブ黒	粘質シルト＝Ⅰb（現状）＝木片まじる
4	5Y5/2	灰オリーブ	砂～Ta・b～Ⅰb（現状）	20	5Y5/2	灰オリーブ	Ⅰb＝Ta・c＝Ta・b（現状）
5	5Y4/2	灰オリーブ	粘質土～Ta・a（現状）	21	5Y5/1	灰	Ta・b＝Ⅰb（現状）
6	10Y5/3	にぶい黄褐	シルト Ta・c＝Ⅱb（現状）	22	10Y7/2/1	黒	砕質土　石炭～Ta・b（現状）
7	10YR6/3	にぶい黄褐	粘質土～シルト（現状）	23	10YR5/1	褐灰	砂～Ⅱb（現状）
8	10YR5/1	褐灰	砂 Ta・a～砕質土（現状）	24	10YR4/1	褐灰	砂＝Ⅱb（現状）
9	10YR5/1	褐灰	粘質 Ⅰ＝Ta・b（現状）	25	10YR5/2	灰黄褐	砕質土＝Ⅰb～Ta・b（現状）
10	5Y3/1	オリーブ黒	粘質土＝Ⅰb（現状）	26	10YR3/1	黒褐	砕質土＝Ⅰb＝Ta・b（現状）
11	5Y6/2	灰オリーブ	粘質土＋シルト（礫状）	27	10YR5/3	にぶい黄褐	砂～Ⅰb・Ta・b（現状）
12	5Y3/2	灰オリーブ	粘質土（木片まじる）	28	5Y5/1	灰	Ta・b～Ta・a～Ⅰb（現状）
13	7.5YR1/2	灰褐	粘質土（木片まじる）	29	5Y5/2	灰オリーブ	Ⅰb（粘質土）＋Ta・c～Ta・b（現状）
14	7.5YR1/1	黒褐	粘質土（木片まじる）	30	5Y7/3	浅黄	砕質土＝Ta・a（現状）
15	5Y6/2	灰オリーブ	砂～粘質土（現状）	31	10YR4/2	灰黄褐	砕質土～Ta・a（現状）
16	5Y3/2	灰オリーブ	シルト～Ta・b（現状）	32	10YR6/2	灰黄褐	砂（Ⅱ）＝Ta・b（現状）

建物跡04　[0H-04]　（図Ⅱ－1～3）

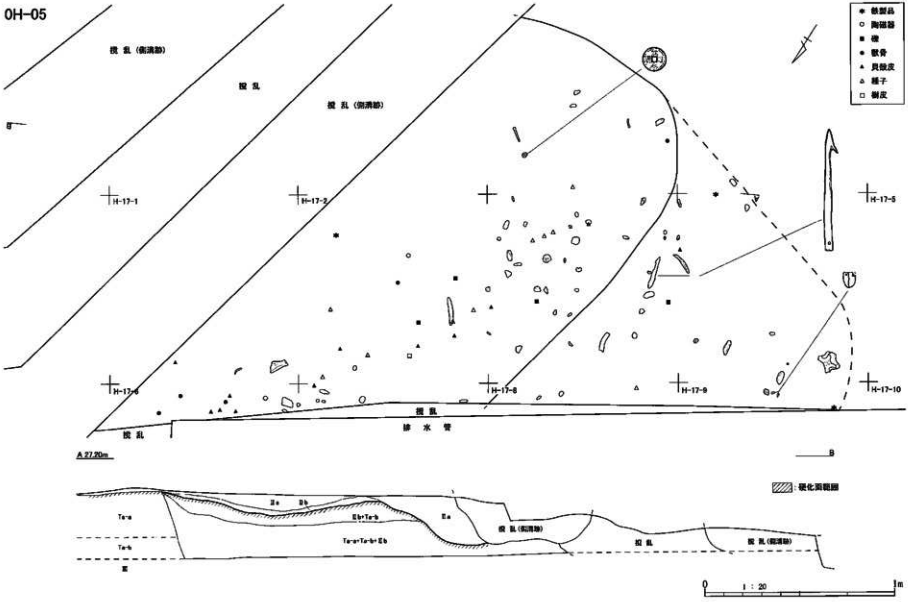
Ⅱ層調査中に樽前a・b火山灰が人為的に掘り込まれた範囲が見られ、その部分に集中して柱穴が検出された。土層断面の観察からMTZO-04-1～5よりも古いことが確認された。Ⅲ層上面まで削平し床面としている。床面からは滑車や鎌の他、マレックが出土している。　（荻野）



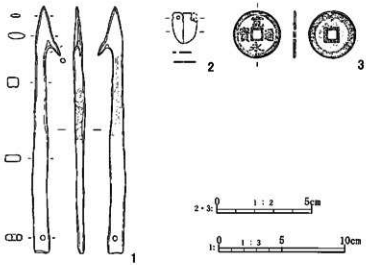
図Ⅱ-2　0H-04出土遺物（1）



図Ⅱ-3　OH-04 出土遺物(2)



図Ⅱ-4 0H-05 平面図及び断面図



図Ⅱ-5　0H-05 出土遺物

建物跡 05〔0H-05〕　(図Ⅱ-4・5)

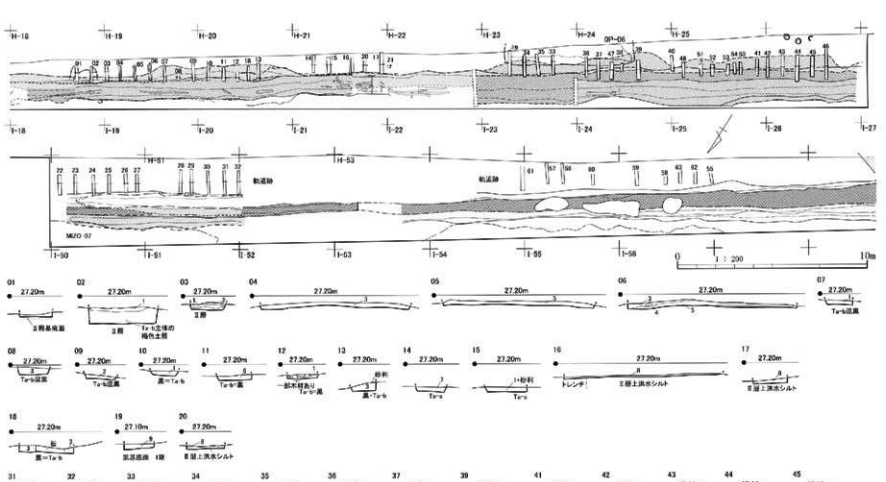
Ⅰ層からⅡ層調査中に遺物が集中する部分が見られ精査したところ、硬化面の広がりが確認された。トレンチで土層を確認したところ樽前 a・b 火山灰が人為的に掘り込まれ、その窪みと周辺に硬化面が広がることが確認できた。東側は旧側溝により破壊され、北西側は現道下に広がると考えられる。掘り込みは側溝に並行しており、水田の造成に係わるものの可能性もある。柱穴は確認できていない。遺物は陶磁器・金属製品・動物遺存体・貝殻・植物遺存体が出土している。陶磁器はいずれも細片のため図示していないが、磁器では染付、手描色絵、型紙摺絵の碗など、陶器では甕、焼酎徳利が見られる。鉄製品は片側に鋭い逆のついたヤスがあり基部には目釘穴が 1 か所見られる。(図Ⅱ-5-1)、洋釘、蹄釘、鉄鍋片、銅製品は足袋の甲駄 (図Ⅱ-5-2)、銭貨 (図Ⅱ-5-3) が出土している。獣骨はシカとウマが出土している (第Ⅴ章 2 節参照)。また植物遺存体ではクルミとブドウが出土した (第Ⅴ章 3 節参照)。　(荻野)

第2節　軌道跡　(図Ⅱ-6)

軌道跡は調査区の中央部からやや東寄りと西側の現道下から検出された。長軸 125cm、短軸 15cm で、枕木の間隔は約 55cm である。枕木を敷設する際の整地跡が認められた。一部ではバラスを伴うものの殆どは当時の表土を削平した面に直置きしている。土層断面の観察から溝跡との新旧関係が把握された。MIZO-03-C・D、MIZO-07-B・C には軌道跡の整地面から下層に、MIZO-03-A・B、MIZO-07-A は上層に相当する。また OP-06 の覆土も黒色土を挟んで下層は枕木跡よりも古く、上層は新しい。　(荻野)

第3節　溝跡　〔MIZO-01・02A・02B・03・04・05・06・07〕(図Ⅱ-6～30)

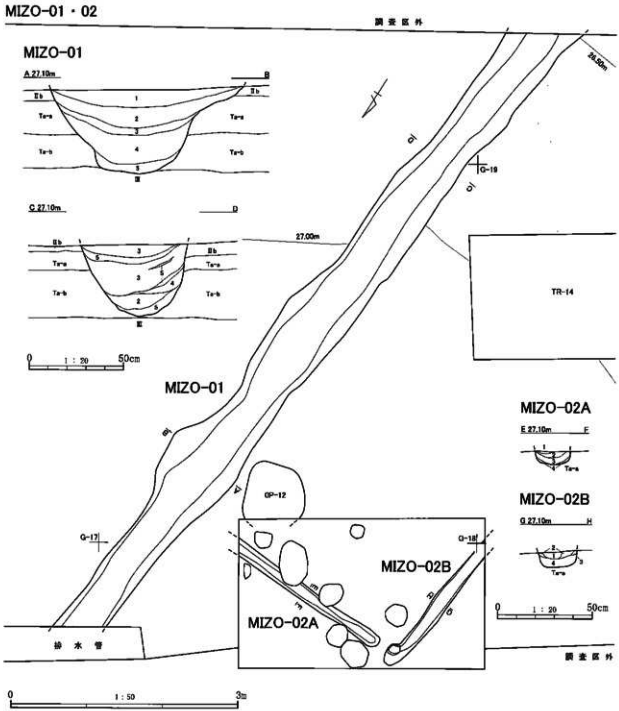
溝跡は調査区の中央部からやや東寄りに 6 列、西側で 1 列検出した (図Ⅰ-13)。いずれもⅡ層を掘り込んで構築されている。MIZO-01 は幅約 90 cmで南端は南北方向へ調査区外に延びている。MIZO-02A・02B は幅約 20 cmで MIZO-01 に並行する 02B と直行する 02A が L 字状に検出された。MIZO-03～06 は調査区東側で検出され 03 と 04 は現道とほぼ並行して延びている。また 03 と 04 は更に幾つもの溝が重複して検出されている。また MIZO-07 は調査区西側で検出されたものでMIZO-03・04 同様、現道とほぼ並行している。　(荻野)



軌道跡

1.	10YR2/1	黒色	やや粘性ある黒土＝Ta-b(均一)	8.	10YR2/2	黒褐色	粘性ある黒＝Ta-b(均一)
			部分的にTa-bしまり方にムラ有り	9.	10YR2/3	暗褐色	黒色土＝Ta-dp・Ta-b(均一)
2.	10YR3/1	黒褐色	砂土＝Ta-b(均一)にわり粘性強いため分別	10.	10YR3/2	黒褐色	淡水シルト＝黒色土(均一)
3.	10YR2/1	黒色	黒色土＝Ta-b(均一)＝細砂(均一)	11.	10YR3/4	暗褐色	粗粗黒＝シルト・Ta-bp(均一)
4.	10YR6/2	灰黄褐色	Ⅱ層上黒水シルト砂(均一) ブロック	12.	10YR2/3	黒褐色	黒＝シルト(均一)
5.	10YR2/1	黒色	黒色土＝Ta-b(粘一) 粒微	13.	10YR3/2	暗褐色	黒色土＝Ta-dp(均一)
6.	10YR3/4	暗褐色	褐色土＝砂＝Ta-b(均一)	14.	10YR2/1	黒色	黒＝Ta dp・Ta-b(均一)
7.	10YR2/1	黒色	黒色土＝砂利・砂・Ta-b(均一)	15.	10YR2/1	黒褐色	黒シルト＝礫(均一)

図Ⅱ-6　軌道跡 平面図及び断面図

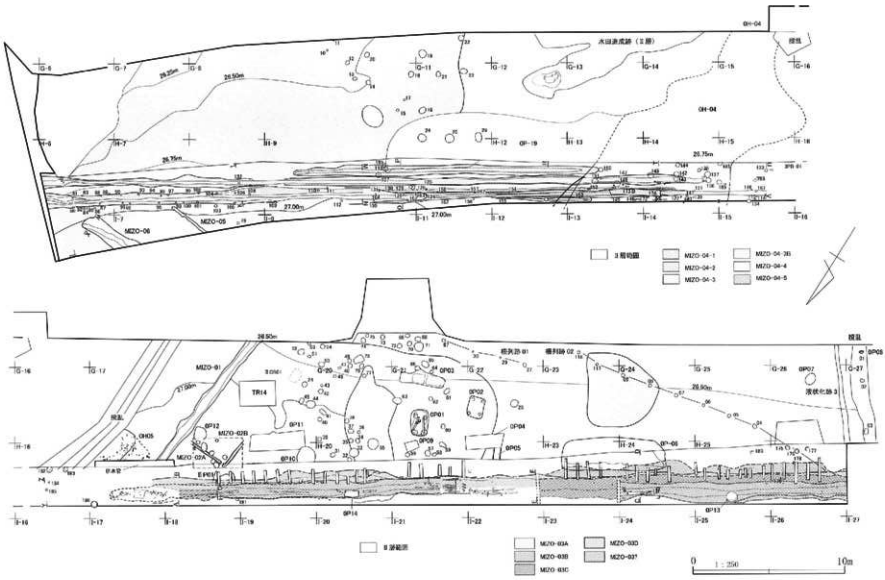


MIZO-01
1. 5YR8/1　灰白色　Hb＋Ta-a(粒状)しまり弱
2. 2.5Y7/2　灰黄色　Ta-b＝Hb(粒状)＝炭化物　しまり弱
3. 2.5Y7/2　灰黄色　Ta-a 崩落土(粒状)＝炭化物　しまり弱
4. 2.5Y4/1　黄灰色　Hb－Ta-a＋Ta-b
5. 2.5Y7/3　浅黄色　Ta-b 崩落土

MIZO-02A
1. 5YR3/1　黒褐色　Hb　しまり弱
2. 7.5YR4/3　褐色　Ta-a＝Hb　しまり弱
3. 5YR3/1　黒褐色　Hb＋Ta-a＝炭化物　しまり弱
4. 7.5YR4/3　褐色　砂　しまり弱

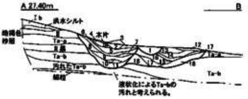
MIZO-02B
1. 10YR4/1　褐灰色　Hb－Ta-a(粒状)しまり弱
2. 10YR4/1　褐灰色　Hb　しまり弱
3. 10YR3/1　黒褐色　Hb　しまり弱
4. 10YR3/1　黒褐色　Hb－Ta-a(粒状)しまり弱

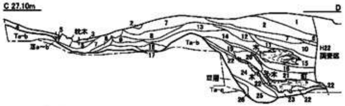
図Ⅱ-7　MIZO-01・02 平面図及び断面図



図Ⅱ-8 MIZO-03～06 平面図

MIZO−03



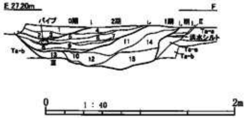


A−B

1.	10YR2/1	黒色	黒色土＝Ta-b＝Ta-b(均一)＝炭化物(斑状)
2.	10YR1.7/1	黒色	黒色土(Ⅲ層起源)＝Ta-b(均一)
3.	10YR2/3	黒褐色	Ta-b＝黒色土(均一)
4.	10YR2/2	黒褐色	黒色土＝Ta-b(均一)
5.	10YR2/3	黒褐色	黒色土＝Ta-b(均一)－砂(均一)
6.	10YR1.7/1	黒色	黒色土(粘土質)
7.	10YR4/1	褐灰色	砂(安定期の砂)
8.	10YR5/1	褐灰色	Ⅱ層洪水シルト
9.	10YR1.7/1	黒色	黒色土(粘土質)
10.	10YR3/3	暗褐色	黒色土＝Ta-b(均一)
11.	10YR3/2	黒褐色	Ta-b＝黒色土(均一)＝シルトブロック(斑状)
12.	10YR4/1	褐灰色	Ⅱ層上粘土質シルト
13.	10YR3/2	黒褐色	粘質土シルト＝洪水堆積ブロック(斑状)
14.	10YR2/3	黒褐色	Ta-b＝黒色土 汚れたTa-b
15.	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト＝Ta-b(均一)
16.	10YR5/3	にぶい黄褐色	洪水シルトブロック
17.	10YR3/2	黒褐色	シルト層＝Ⅱ層(均一)
18.	10YR3/4	暗褐色	黒色土－Ta-a(均一)

C−D

1.	10YR2/3	黒褐色	黒色土＝Ta-dp・Ta-b(均一)
2.	10YR3/4	暗褐色	Ta-dp＝黒色土(均一)＝バラス(斑状) 2期工事盛土
3.	10YR2/1	黒色	黒色土(Ⅲ層起源)＝Ta-b(均一)
4.	10YR4/1	褐灰色	Ⅱ層＝Ta-b
5.	10YR3/2	黒褐色	洪水シルト＝Ta-dp・Ta-a(均一) Ⅱ層と同じくらい
6.	10YR3/3	暗褐色	2層とほぼ同じで Ta-dpが少ない
7.	10YR2/1	黒色	Ⅲ層起源黒色土＝Ta-b(均一) 1期工事黒色土
8.	10YR7/3	にぶい黄橙色	Ta-b＝黒色土ブロック(斑状)
9.	10YR5/4	にぶい黄褐色	洪水シルト＝Ⅱ層 互層
10.	10YR5/4	にぶい黄褐色	洪水シルト＝Ⅱ層(均一)＝黒色土(斑状)9とほぼ同じ
11.	10YR2/2	黒褐色	黒色土(Ⅲ層)＝洪水シルトブロック＝Ta-b(均一)
12.	10YR4/2	灰黄褐色	Ⅱ＝シルトブロック・Ta-b(均一)
13.	10YR3/2	黒褐色	Ⅱ＝Ta-b・黒色土(互層)
14.	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-b－Ta-a＝Ⅱ(均一)
15.	10YR3/2	黒褐色	Ⅱ層－Ta-a＝Ta-dp(均一)
16.	10YR4/2	灰黄褐色	Ta-b＝Ⅱ(均一)
17.	10YR2/2	黒褐色	黒(Ⅲ層起源)＝Ta-b(均一)
18.	10YR5/4	にぶい黄褐色	Ⅱ＝洪水シルト(斑状)
19.	10YR5/6	黄褐色	洪水シルト＝Ⅱ(均一)
20.	10YR7/4	にぶい黄橙色	Ta-b＝黒色土(斑状)
21.	10YR3/2	黒褐色	Ⅱ＝Ta-a＝Ta-d(均一)
22.	10YR2/2	黒褐色	黒色土＝Ta-b(均一) 板材有
23.	10YR5/6	黄褐色	Ta-c＝Ta-b(ほぼプライマリー)
24.	10YR6/3	にぶい黄橙色	Ta-b－Ⅱ(互層)(崩落工)
25.	10YR7/6	明黄褐色	Ta-b＝黒色土(均一)(崩落工)
26.	10YR2/2	黒褐色	Ⅲ＝Ta-b(均一)



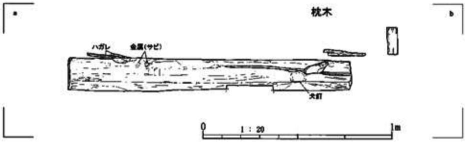
E−F

1.	10YR3/1	黒褐色	黒色粘土層(Ⅱ層起源)＝Ta-b 側溝埋立土
2.	10YR4/1	褐灰色	Ⅱ層 砂質層＝Ta-b(均一)
3.	10YR5/1	褐灰色	砂(中粒)安定期の流れに溜ったもの
4.	10YR2/1	黒色	黒色土＝Ta-dp(均一)
5.	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト＝Ta-dp(均一)崩落
6.	10YR4/6	褐色	Ta-dp主体＝黒色土(一部ブロック状に入る)埋め戻し
7.	10YR5/1	褐灰色	砂(中粒) 安定期の側線
8.	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト－砂(細粒)山側に流れる砂 7とほぼ同じだが粒度が異なる
9.	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト＝洪水シルトブロック(斑状)－黒色土 崩落
10.	10YR5/1	褐灰色	砂(細粒) 安定期 鉄サビ有
11.	10YR2/1	黒色	黒色土(Ⅲ層起源)＝Ta-b(均一)
12.	10YR2/1	黒色	黒色土＝砂質シルト
13.	10YR5/2	灰黄褐色	崩落したTa-b 最初の溝
14.	10YR3/3	暗褐色	黒色土とTa-a・Ta-b互層 最初の溝
15.	10YR4/4	褐色	Ta-a＝Ta-b 初期の流れ込み 最初の溝

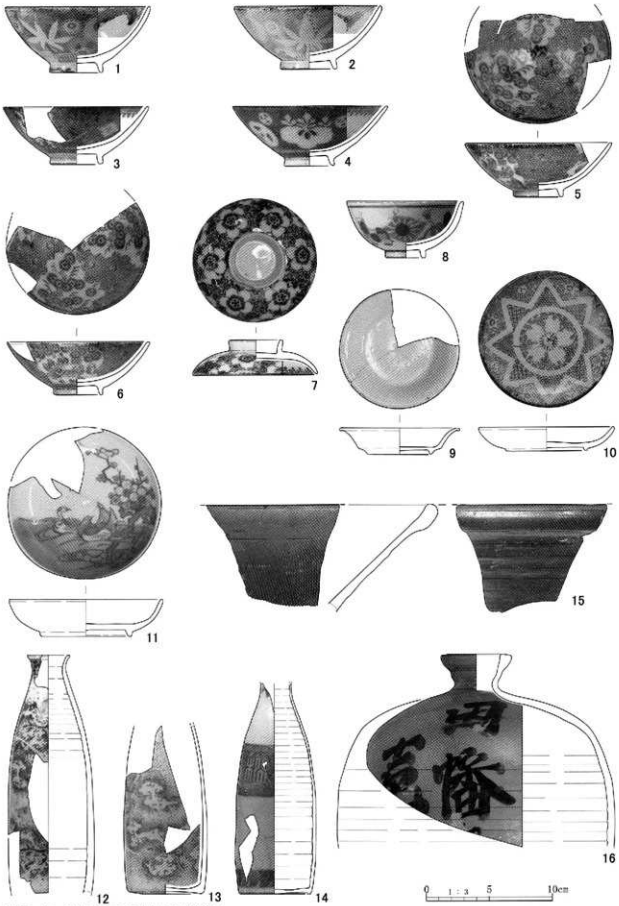
G−H

1.	10YR2/1	黒色	黒色土＝Ta-b＝Ta-b(均一)＝炭化物(斑状)
2.	10YR1.7/1	黒色	黒色土(Ⅲ層起源)＝Ta-b(均一)
3.	10YR2/3	黒褐色	Ta-b＝黒色土(均一)
4.	10YR2/2	黒褐色	黒色土＝Ta-b(均一)
5.	10YR2/3	黒褐色	黒色土＝Ta-b(均一)－砂(均一)
6.	MIZO-03-3	相当の黒色	砂互層(2期工事)
7.	MIZO-03-3	相当の黒色	砂互層(3期工事)
8.	10YR5/1	褐灰色	Ⅱ層洪水シルト
9.	MIZO-03-4	相当の黒色	(1期工事)
10.	MIZO-03-5	相当の黒色	(1期工事)

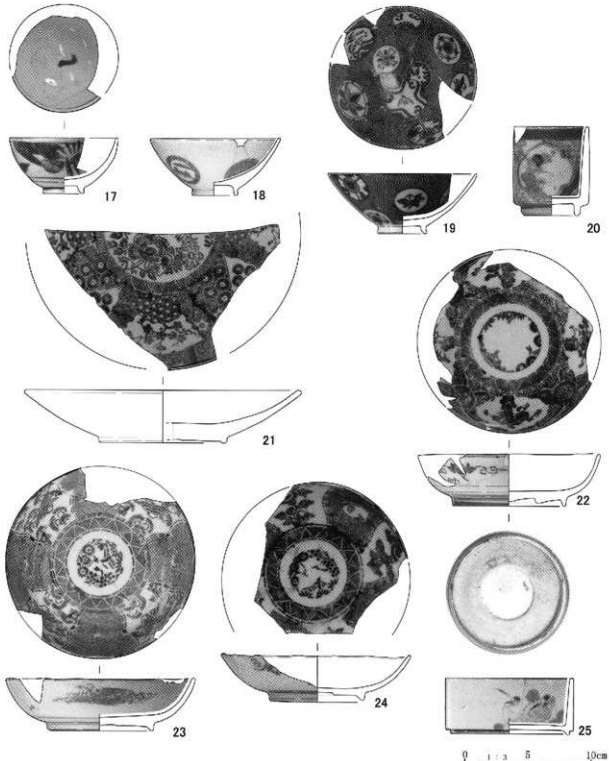
MIZO−03 断面図



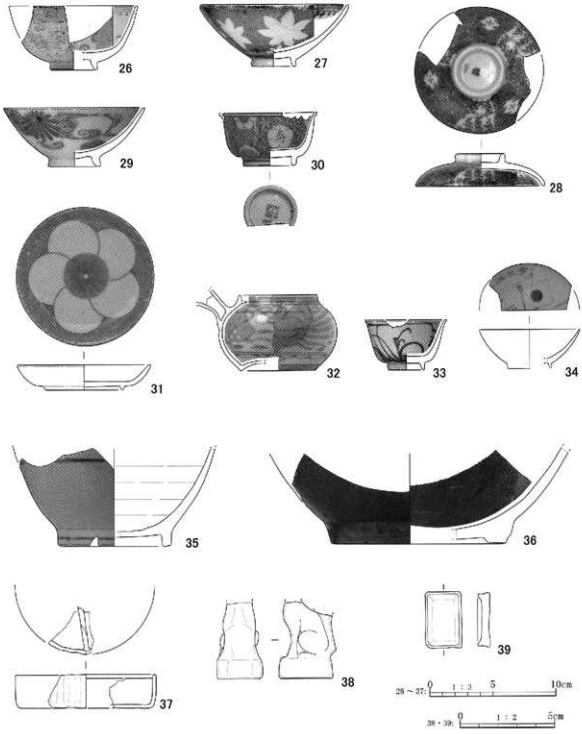
図Ⅱ−9 MIZO−03 断面図及び遺物出土状態



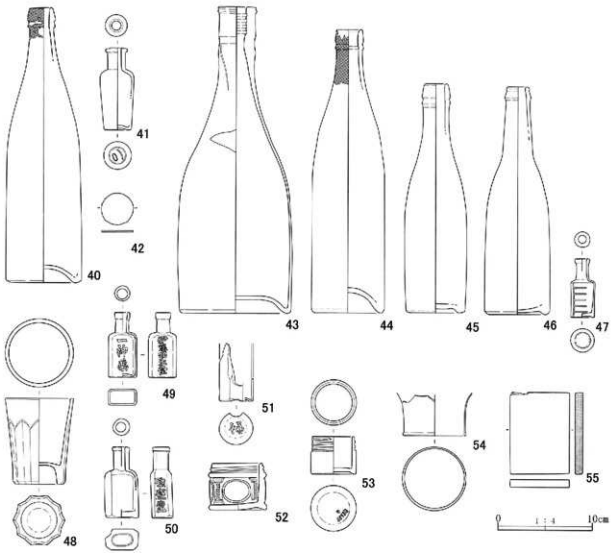
図Ⅱ-10　MIZO-03-D 出土遺物(1)



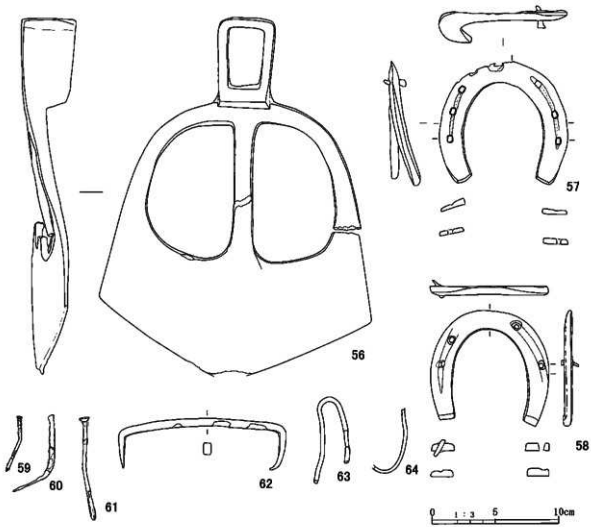
図Ⅱ-11 MIZO-03-C 出土遺物(2)



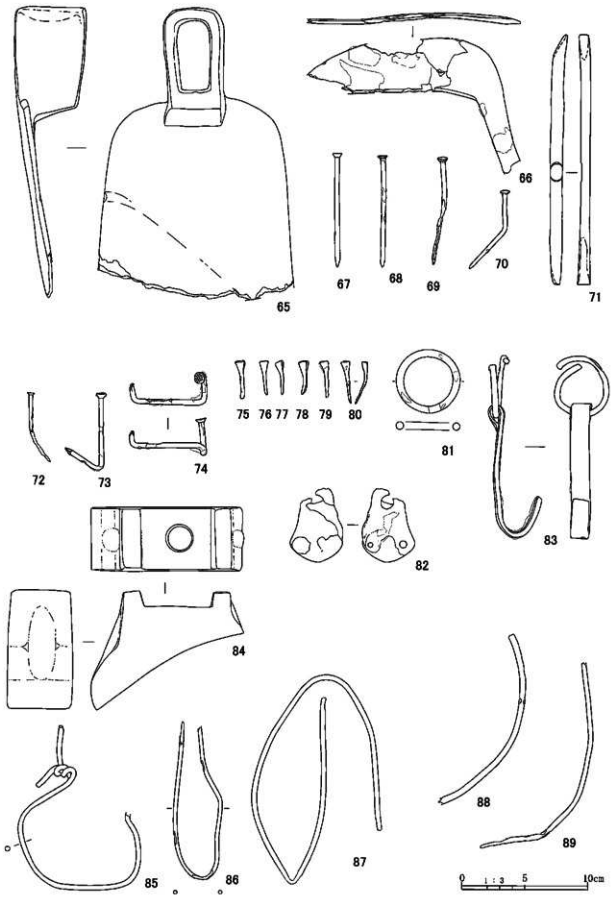
図Ⅱ-12　MIZO-03・MIZO-03-B　出土遺物(3)



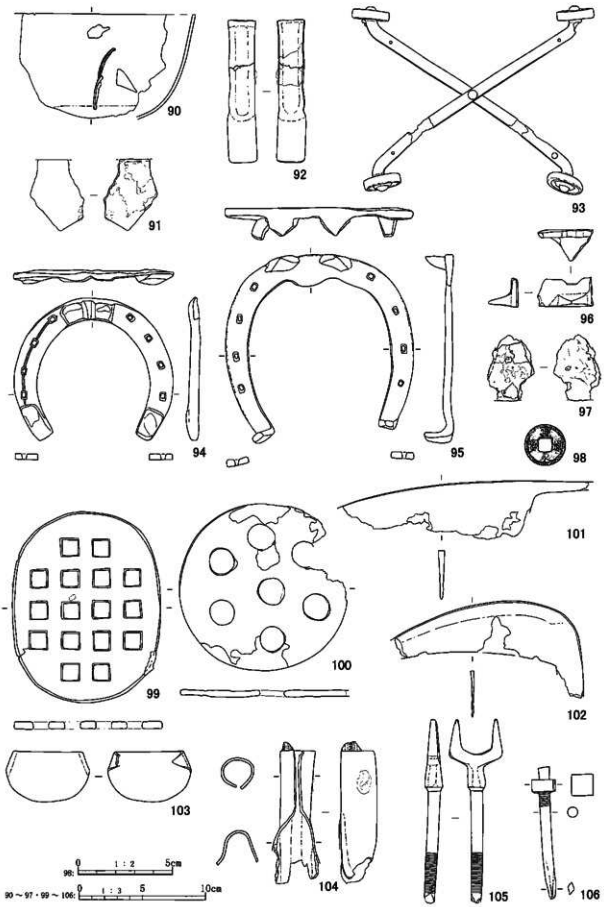
図Ⅱ-13　MIZO-03 出土遺物 (4)



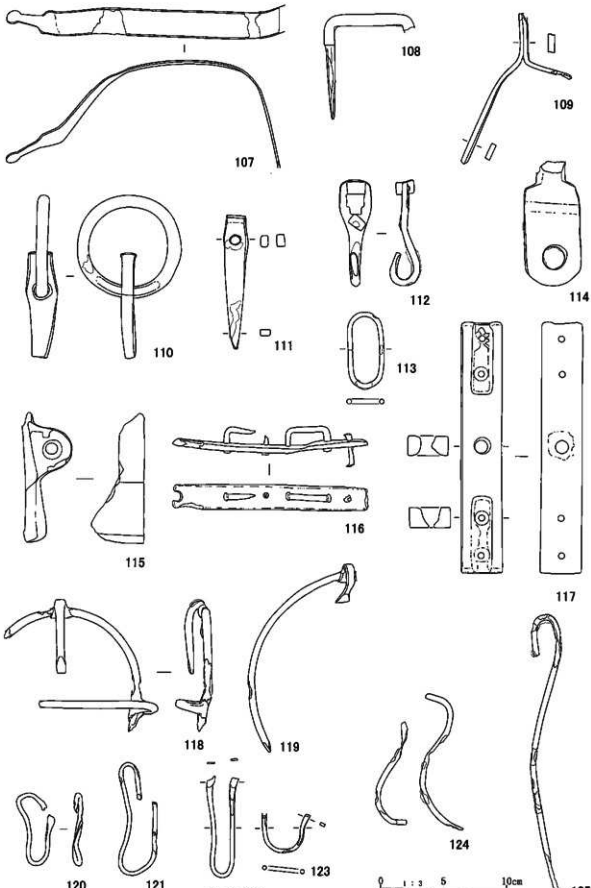
図Ⅱ-14 MIZO-03 出土遺物(5)



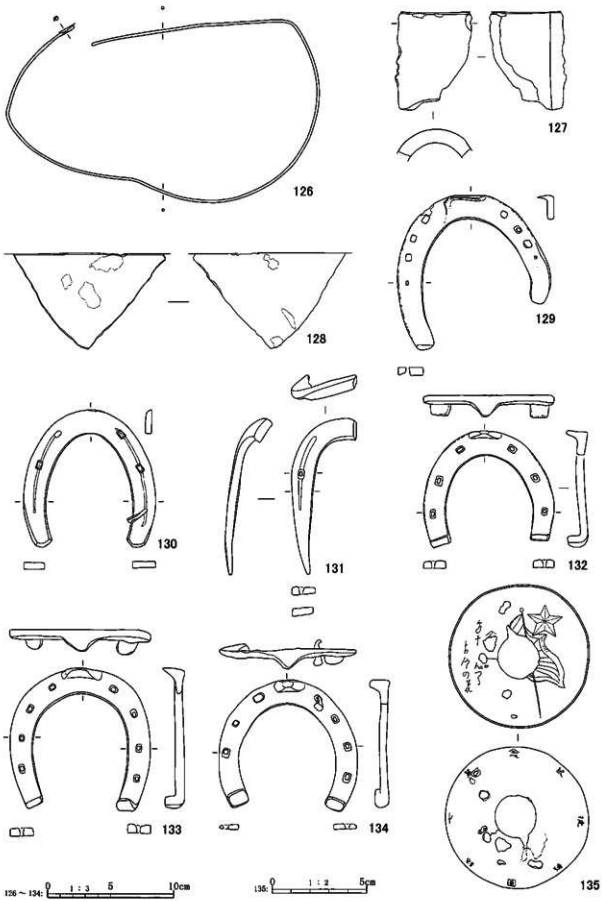
図Ⅱ-15 MIZO-03 出土遺物(6)



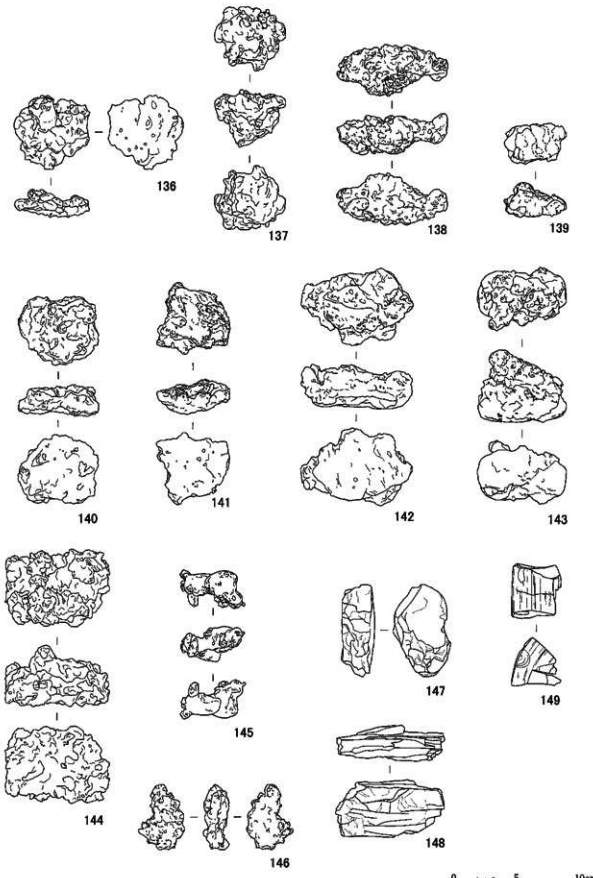
図Ⅱ-16　MIZO-03 出土遺物 (7)



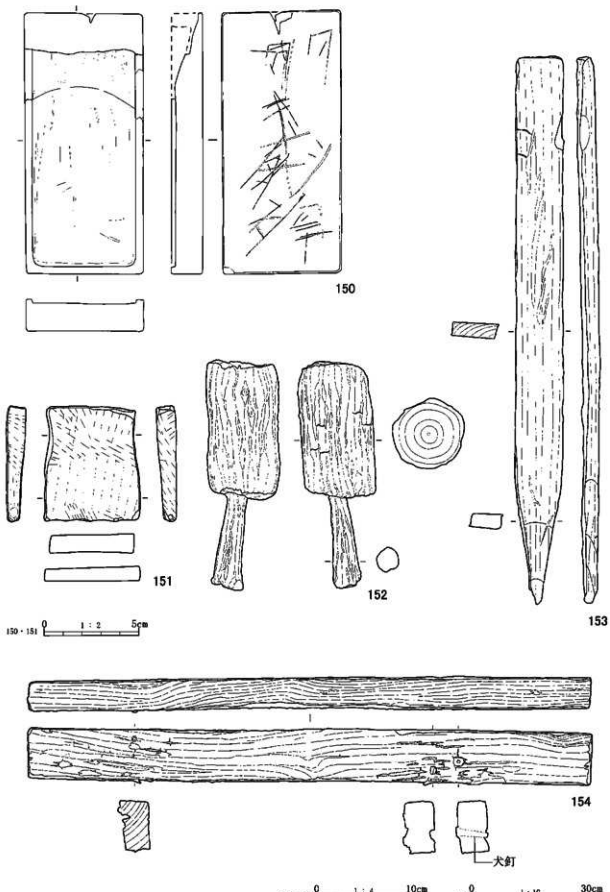
図Ⅱ-17 MIZO-03 出土遺物(8)



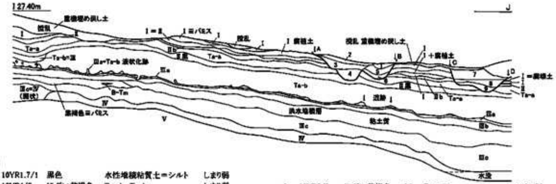
図Ⅱ-18　MIZO-03 出土遺物 (9)



図Ⅱ-19 MIZO-03 出土遺物 (10)

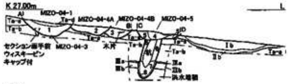


図Ⅱ-20 MIZO-03 出土遺物(11)



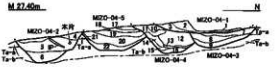
I−J

1.	10YR1.7/1	黒色	水性堆積粘質土＝シルト	しまり弱
2.	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d－Ta-b	しまり弱
3.	10YR3/2	黒褐色	Ⅰb－Ⅱa(斑状)	しまり弱
4.	2.5Y3/1	黒褐色	Ta-a－Ⅰb・Ⅱa(斑状)	しまり弱
5.	10YR2/1	黒色	粘質土－Ⅰb(斑状)	しまり弱
6.	10YR5/3	にぶい黄褐色	Ⅰb－Ⅱb＝Ta-a	しまり弱
7.	10YR5/2	灰黄褐色	粘質土－シルト	しまり強
8.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	しまり強
9.	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土－Ta-a＝Ⅱb (斑状)	しまり強



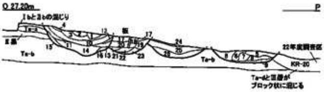
K−L

1.	2.5Y4/1	黄灰色	Ta-a＋Ⅰb＋パミスまじり黒褐色土(0層)
2.	2.5Y3/1	黒褐色	パミスまじり黒褐色土(0層)－Ⅲブロック＝Ⅰb (斑状)
3.	2.5Y3/2	黒褐色	パミスまじり黒褐色土(0層)－Ⅰb (斑状)
4.	2.5Y3/2	黒褐色	Ⅰb＋パミスまじり黒褐色土(0層)
5.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ⅰb－Ⅱ＝パミス (Ta-a)
6.	2.5Y5/2	暗灰黄色	Ta-a－Ⅰb(均一)
7.	2.5Y5/2	暗灰黄色	Ta-b＝Ta-a(均一)
8.	Ⅲbと同じ		



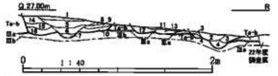
M−N

1.	7.5YR4/4	褐色	Ta-d＝Ⅰb(斑状)	しまり中
2.	2.5Y4/1	黄灰色	砂(Ta-a)＝Ta-b＝Ta-d	しまり弱
3.	7.5YR4/2	灰褐色	Ta-d－Ⅲ(斑状)＝Ta-b	しまり弱
4.	5Y4/1	灰色	Ta-a＋Ta-a＝Ⅲ(斑状)	しまり弱
5.	5Y5/2	灰オリーブ色	Ⅰb＋Ⅲ－Ta-a(斑状)	しまり弱
6.	2.5Y5/1	黄灰色	Ta-a－Ta-a＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
7.	5Y4/2	灰オリーブ色	Ta-b－Ta-a－ Ⅰb粘質土(斑状)	
8.	5Y5/1	灰色	Ta-b＋Ta-a(均一)	
9.	5Y4/1	灰色	Ⅰb(粘質土)－Ta-b＝Ⅲ(12からの流れ込み) しまり弱	
10.	2.5Y6/2	灰黄色	Ⅰb(粘質土)＋Ⅲ(ブロック状)	しまり弱
11.	2.5Y6/3	にぶい黄色	Ta-a＝Ⅰb	しまり弱
12.	2.5Y4/1	黄灰色	Ta-a・Ta-bとⅡb・Ⅰbの互層	しまり弱
13.	10YR1.7/1	黒色	Ⅲ(粘質)＝Ⅰb	しまり弱
14.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ⅰb(粘質土)＝Ta-a	しまり弱
15.	2.5Y3/1	黒褐色	粘質土－Ta-b(均一)	しまり弱
16.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ⅰb－Ⅱb－Ta-b(斑状)	しまり弱
17.	5Y3/2	オリーブ黒色	Ta-b＝Ⅱb? 粘質の黒褐色土	しまり弱
18.	5Y5/2	灰オリーブ色	Ta-a＝Ⅰb (均一)	しまり弱
19.	5Y3/2	オリーブ黒色	Ta-b＝Ⅱb ?	しまり弱
20.	5Y5/3	オリーブ黄色	Ⅰb粘質土(上部はシルト質)	しまり弱
21.	5Y3/1	オリーブ黒色	Ⅱbのくずれ	しまり弱
22.	5Y6/1	灰色	Ta-a＝Ⅰb(斑状)	しまり弱



O−P

1.	10YR6/3	にぶい黄橙色	Ⅰb	しまり強
2.	10YR3/3	暗褐色	Ta-d－Ⅰb	しまり強
3.	7.5YR4/2	灰褐色	Ta-d－Ⅲ(斑状)＝Ta-b	しまり弱
4.	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d＋玉砂利φ30↓	しまり強
5.	5Y4/1	灰色	Ta-a＋Ta-a＝Ⅲ(斑状)	しまり弱
6.	10YR2/1	黒色	Ⅲb(粘質)＝Ⅰb (均一)	しまり中
7.	5Y5/2	灰オリーブ色	Ⅰb＋Ⅲ－Ta-a(斑状)	しまり弱
8.	10YR3/1	黒褐色	Ⅲb(粘質)＝Ⅰb(斑状)	しまり中
9.	2.5Y5/1	黄灰色	Ta-a－Ta-b＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
10.	5Y4/2	灰オリーブ色	Ta-b－Ta-a－Ⅰb粘質土(斑状)	
11.	7.5YR4/2	灰褐色	Ⅰb(粘質)＝Ta-a (均一)	しまり中
12.	5Y3/2	オリーブ黒色	Ta-b＝Ⅱb? 粘質の黒褐色土 崩落土	しまり弱
13.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質土 Ⅲ＋Ⅰb(斑状) 崩落土	しまり弱
14.	5Y5/1	灰色	Ta-b＋Ta-a(均一)	
15.	5Y4/1	灰色	Ⅰb(粘質土)－Ta-b＝Ⅲ(12からの流れ込み)	
16.	5Y5/1	灰色	Ta-a＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
17.	2.5Y3/1	黒褐色	粘質土＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
18.	2.5Y2/1	黒色	粘質土	しまり弱
19.	2.5Y6/2	灰黄色	Ⅰb(粘質土)＋Ⅲ(ブロック状)	しまり弱
20.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質土 Ⅲ＋Ⅰb(斑状)	しまり弱
21.	2.5Y6/3	にぶい黄色	Ta-a＝Ⅰb	しまり弱
22.	10YR1.7/1	黒色	Ⅲ(粘質)＝Ⅰb	しまり弱
23.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ⅰb－Ⅱb－Ta-b(斑状)	しまり弱
24.	5Y3/2	オリーブ黒色	Ta-b＝Ⅱb? 粘質の黒褐色土	しまり弱
25.	5Y6/3	オリーブ黄色	Ⅰb粘質土(上部はシルト質)	しまり弱
26.	5Y6/1	灰色	Ta-a＝Ⅰb(斑状)	しまり弱

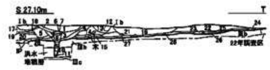


Q−R

1.	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d＋玉砂利φ30↓	しまり強
2.	5Y5/2	灰オリーブ色	Ⅰb＋Ⅲ－Ta-a(斑状)	しまり弱
3.	5YR4/1	灰色	Ta-b＋Ta-a＝Ⅲ(斑状)	しまり弱
4.	2.5YR5/1	黄灰色	Ta-a－Ta-b＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
5.	5Y3/2	オリーブ黒色	粘質土＝Ta－b＝Ⅰb(斑状)	しまり中
6.	5Y4/2	灰オリーブ色	Ta-a－Ⅰb＝Ta-b(斑状)	しまり中
7.	5Y3/1	オリーブ黒色	Ⅲb－Ta-b(斑状) 掘り具跡の覆土	しまり中
8.	2.5YR6/3	にぶい黄色	Ta-a＝Ⅰb	しまり弱
9.	10YR1.7/1	黒色	Ⅲ(粘質)＝Ⅰb	しまり弱
10.	2.5Y3/1	黒褐色	Ta-b＋Ⅲb(斑状)	しまり中
11.	5Y3/2	オリーブ黒色	Ta-b＝Ⅱb？	しまり弱
12.	2.5Y3/1	黒褐色	Ta-b＋Ⅲb＝Ⅰb(斑状)	しまり強
13.	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	Ta-b－Ta-a＝Ⅰb(均一)	しまり強
14.	2.5Y5/3	黄褐色	Ta-a＝Ⅰb＝Ta-b (斑状)	しまり強
15.	2.5Y5/2	暗灰黄色	Ta-a＝Ⅱ黒＝Ta-b (斑状)	しまり強
16.	2.5Y3/1	黒褐色	Ta-b＝Ta-a＝Ⅲb (斑状)	しまり強

図Ⅱ-21　MIZO-04　断面図（1）

MIZO-04

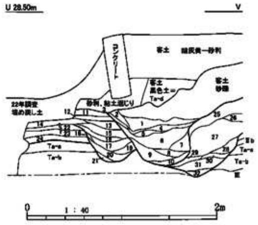


U-V

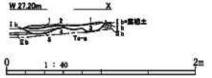
1.	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト＝Ta-a＝Ⅲb層ブロック(斑状)	しまり弱
2.	5Y5/2	灰オリーブ色	粘質土＝Ta-a(斑状)	しまり弱
3.	5Y4/1	灰色	シルト＝Ta-a(斑状)	しまり弱
4.	2.5Y5/2	暗灰黄色	Ta-a＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
5.	2.5Y3/2	黒褐色	Ta-a＋Ⅲb (斑状)	しまり弱
6.	5Y5/1	灰色	シルト－Ta-b＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
7.	5YR5/2	灰褐色	粘質土＝炭化物＝Ta-a(斑状)	しまり弱
8.	5Y3/1	オリーブ黒色	粘質土＝炭化物＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
9.	5Y3/1	オリーブ黒色	粘質土－炭化物＝Ta-a(斑状)	しまり弱
10.	5YR5/8	明赤褐色	鉄サビの間に灰色粘土入る	
11.	2.5Y4/1	黄灰色	シルト(Ta-a)＋Ⅰb(斑状)	しまり弱
12.	2.5Y3/1	黒褐色	シルト(Ta-a)－Ⅰb＝Ta-b(斑状)	しまり弱
13.	2.5Y4/1	黄灰色	シルト(Ⅰb)－Ta-a＝Ta-b(斑状)	しまり弱
14.	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト(Ⅰb)＝Ta-a(斑状)	しまり弱
15.	2.5Y5/2	暗灰黄色	シルト	しまり弱
16.	2.5Y4/1	黄灰色	シルト(Ta-a)＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
17.	10YR3/1	黒褐色	シルト＝Ta-a(斑状)	しまり弱
18.	2.5Y2/1	黒色	23のくずれ	しまり弱
19.	2.5Y3/2	黒褐色	粘質土＝Ta-a(斑状)	しまり弱
20.	10YR4/1	褐灰色	粘質土＝Ta-a＝Ta-b(斑状)	しまり弱
21.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ta-a＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
22.	10YR4/2	灰黄褐色	Ⅰb－Ta-d＝Ta-b(斑状)	
23.	10YR2/1	黒色	Ⅲb(客土)＝Ta-b(馬鉄工事によるもの) しまり弱	
24.	10YR3/4	暗褐色	Ⅰb＝Ta-b＝Ⅱb	
25.	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土(Ⅰb)＝Ta-b(均一)	しまり弱
26.	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト	
27.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ⅰb＝Ta-b(斑状)	
28.	2.5Y6/4	にぶい黄色	粘質土(Ⅰb)	
29.	2.5Y5/1	黄灰色	粘質土＝Ta-a(斑状)	
30.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質土	
31.	2.5Y5/1	黄灰色	粘質土＝Ⅰb＝Ta-b＝(斑状)	
32.	2.5Y4/1	黄灰色	Ta-b－Ta-a	

S-T

1.	10YR4/3	にぶい黄褐色	Ta-d＋玉砂利φ30↓	しまり弱
2.	2.5Y6/1	黄色	粘質土	しまり弱
3.	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘質土＝Ⅰb＝Ta-b(斑状)	しまり弱
4.	10YR3/1	黒褐色	粘質土＝Ta-b＝Ⅰb(斑状) ※Ⅰb上のパミス交じり黒褐色土と同一	しまり弱
5.	2.5Y5/1	黄灰色	粘質土＝Ta-b＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
6.	2.5Y4/1	黄灰色	粘質土＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
7.	2.5Y5/3	黄褐色	Ⅰb粘質土の流れ込み	しまり弱
8.	2.5Y5/1	黄灰色	粘質土＝Ⅰb＝Ta-b(斑状)	しまり弱
9.	2.5Y3/1	黒褐色	Ⅲ＋Ta-b＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
10.	2.5Y5/1	黄灰色	Ta-b＝Ⅲ(斑状)	しまり弱
11.	10YR1.7/1	黒色	Ⅲ＝Ta-b (斑状)	しまり弱
12.	10YR3/1	黒褐色	Ⅲ＝Ⅰb＝Ta-b(斑状)	しまり弱
13.	2.5Y6/2	灰黄色	Ⅰb＝Ⅱb(斑状)	しまり弱
14.	2.5Y4/1	黄灰色	粘質土＋Ⅰb＝Ta-b(斑状)	しまり弱
15.	2.5Y3/1	黒褐色	粘質土＝Ⅰb	しまり弱
16.	2.5Y6/3	にぶい黄色	Ⅰb粘質土とシルトの互層	しまり弱
17.	10YR3/2	黒褐色	粘質土＝Ⅰb(斑状)	しまり弱
18.	10YR4/1	褐灰色	粘質土＝Ta-a(斑状)	しまり弱
19.	10YR6/4	にぶい黄橙色	Ⅰb＝Ta-b (木片まじる)	しまり弱
20.	2.5Y4/1	黄灰色	Ta-b＝黄灰粘質土(均一)	しまり弱
21.	10YR3/2	黒褐色	粘質土＝Ⅰb(木片まじる)	しまり弱
22.	10YR3/3	暗褐色	粘質土＝Ⅰb＝Ta-b(斑状)	しまり弱
23.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土＋Ⅰb＝炭化物(斑状)	しまり弱
24.	5YR4/8	赤褐色	焼土(廃棄された焼土)	
25.	5YR3/2	暗赤褐色	焼土－炭化物(廃棄された焼土)	
26.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質土－Ⅰb(斑状)木片まじる(廃棄された焼土)	

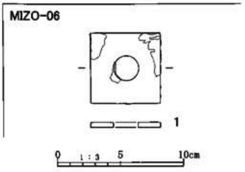


MIZO-06

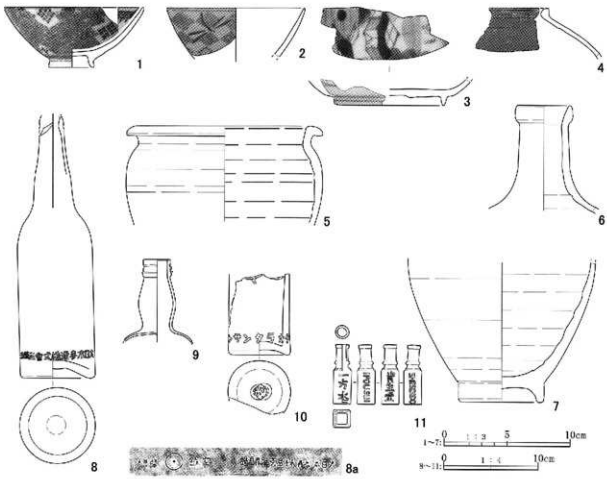


MIZO-06(W-X)

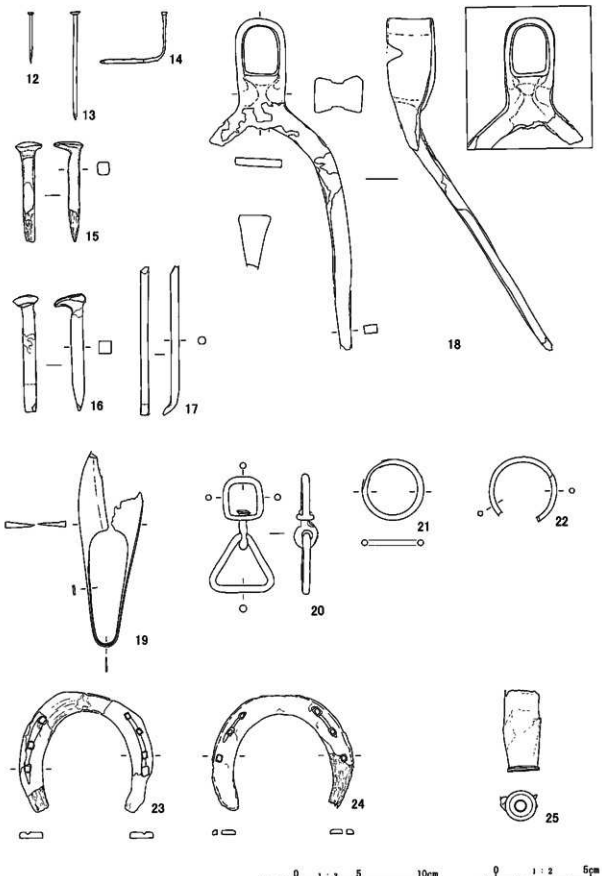
1.	2.5Y3/1	暗褐色	粘質土＝シルト　木片・木材を含む	
2.	7.5YR4/4	褐色	鉄分を含み、硬化した面	
3.	5Y3/1	オリーブ黒色	粘質土＝Ⅰb・Ta-a・Ta-b(斑状)	
4.	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘質土	
5.	5Y2/1	黒色	Ⅱb－Ta-a	



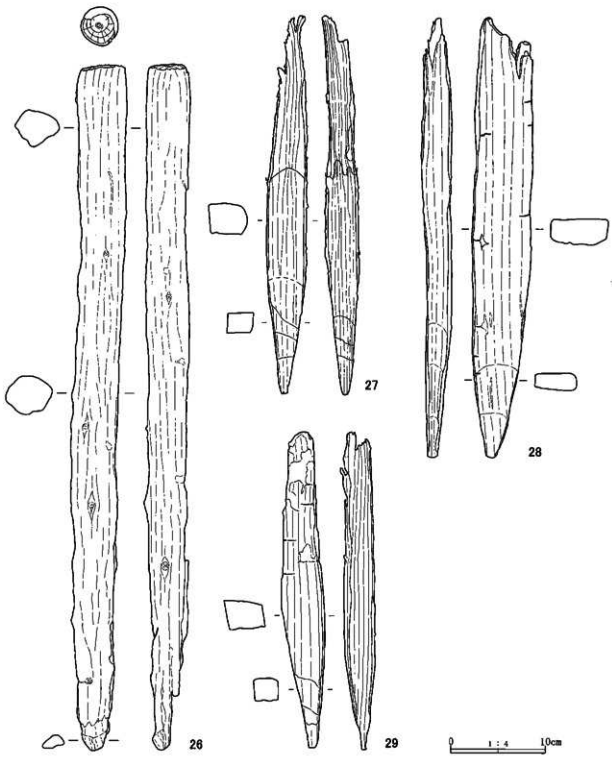
図Ⅱ-22　MIZO-04 (2)・MIZO-06 断面図・出土遺物



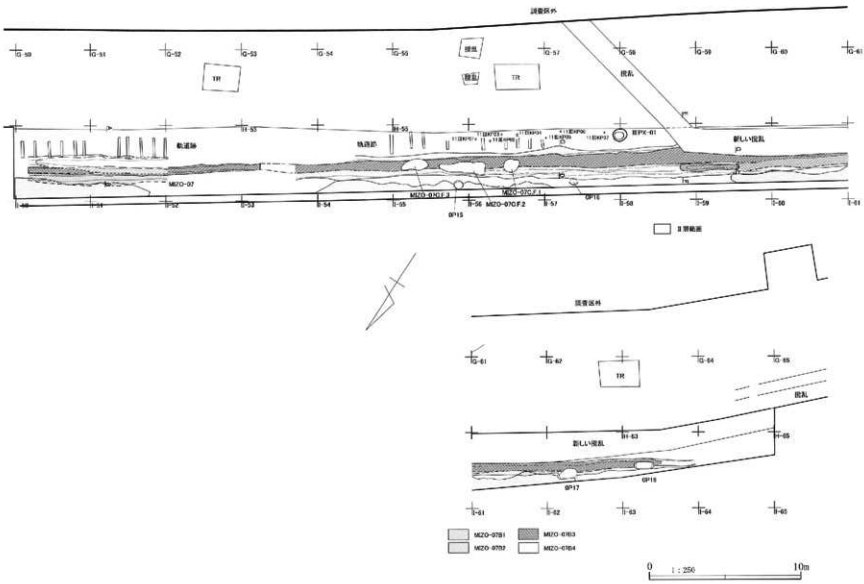
図Ⅱ-23　MIZO-04 出土遺物（1）



図Ⅱ-24 MIZO-04出土遺物(2)

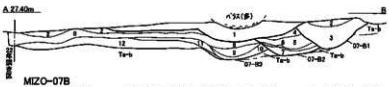


図Ⅱ-25　MIZO-04 出土遺物(3)



図Ⅱ-26 MIZO-07 平面図

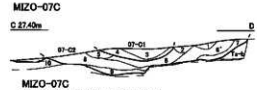
MIZO-07B



MIZO-07B

1. 10YR2/2 黒褐色　Ⅱ層＝Ta-b＝洪水シルト(五層)　パラス(多)
2. 10YR4/6 褐色　洪水シルト＝Ta-b(均一)
3. 10YR3/3 暗褐色　黒色土＝Ta-a(五層)＝Ta-b(均一)
4. 10YR3/2 黒褐色　黒＝粘土粒・炭化物(均一)
5. 10YR3/2 黒褐色　黒＝Ta-b(均一)
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色　洪水シルト　やや粘性有
7. 10YR2/3 黒褐色　黒＝Ta-b＝炭化物(均一)
8. 10YR3/2 黒褐色　黒＝Ta-a＝Ta-b(均一)
9. 10YR6/6 明黄褐色　周囲粘土＝黒色土(五層)
10. 10YR5/3 にぶい黄褐色　灰(投棄)
11. 10YR2/2 黒褐色　黒＝炭化物(均一)
12. 10YR3/1 黒褐色　黒(0黒相当?)やや砂質

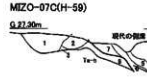
MIZO-07C



MIZO-07C

1. 10YR2/2 黒褐 色　黒＝Ta-b(均一)
2. 10YR3/4 暗褐色　Ta-d＝鍋・砂利(均一)新しい盛土
3. 10YR4/6 褐色　洪水シルト
4. 10YR2/3 黒褐色　Ⅱ層黒泥れ込み(やや砂質)
5. 10YR2/1 黒色　黒＝Ta-b(均一)
6. 10YR2/3 黒褐色　Ⅱ層黒＝Ta-a＝Ta-b(均一)
6'. 10YR2/3 黒褐色　6とほぼ同じだが洪水シルト多
7. 10YR3/3 暗褐色　Ⅱ層黒＝Ta-b(均一)
8. 10YR2/1 黒色　Ⅱ層黒＝Ta-b(均一)
9. 10YR2/1 黒色　黒(腐植)－Ta-b(均一)＝Ta-dp(均一)

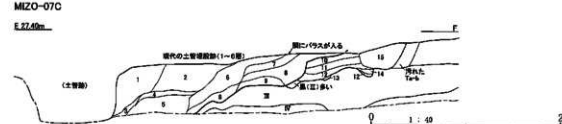
MIZO-07C(H-59)



MIZO-07C(H-59)

1. 10YR2/3 黒褐色　黒＝Ta-b(均一)　一番新しい層　A2
2. 10YR2/3 黒褐色　黒＝Ta-b(均一)上層よりやや柔らかい
3. 10YR3/4 暗褐色　Ta-b 粒　汚れる
4. 10YR3/4 暗褐色　黒＝Ta-dp(均一)　現代の畑
5. 10YR6/2 灰黄色　パラス　現代
6. 10YR3/2 黒褐色　褐色シルト＝Ta-b(均一)　現代
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色　Ta-b＝黒(均一)　現代
8. 10YR2/1 黒色　黒＝Ta-b＝Ta-a

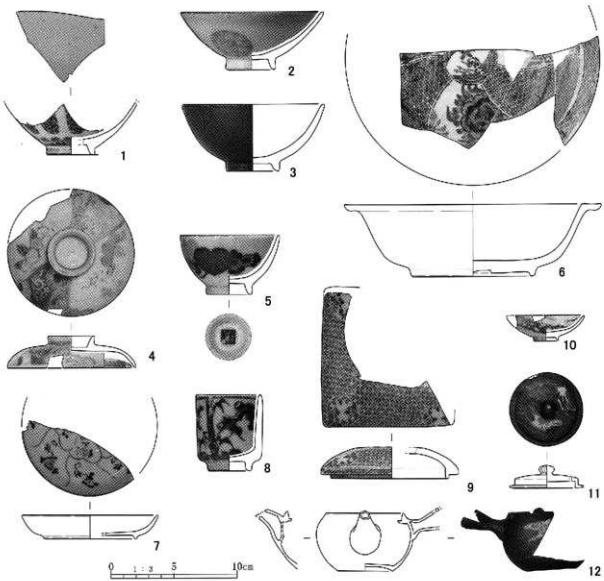
MIZO-07C



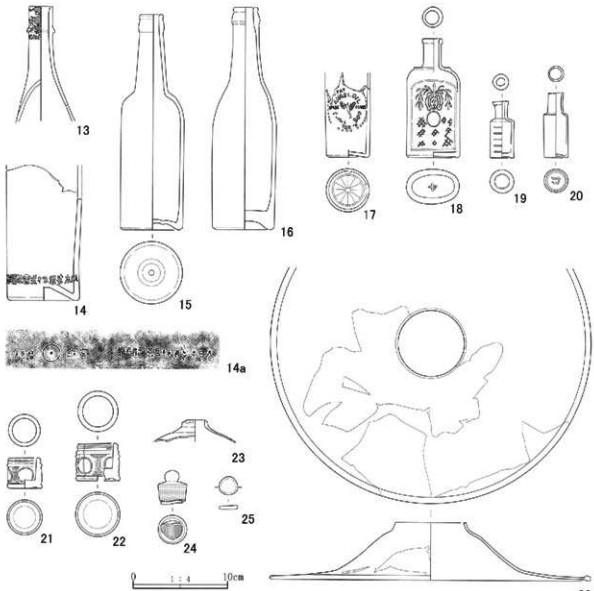
MIZO-07C

1. 10YR3/2 黒褐色　黒＝Ta-b＝2層＝粘土ブロック(斑状)
2. 10YR3/4 暗褐色　黒－Ta-dp＝円礫(斑状)
3. 10YR5/2 灰黄褐色　粘土質シルト＝Ta-dp(均一)
4. 10YR5/1 褐灰色　円礫(φ20)＝Ta-b(斑状)
5. 10YR3/4 暗褐色　Ta-dp－黒(均一)
6. 10YR6/2 灰黄褐色　粘土質シルト＝円礫(斑状)
7. 10YR3/2 黒褐色　黒＝Ta-b(均一)
8. 10YR5/2 灰黄褐　黒－粘土質シルト(均一)
9. 10YR2/2 黒褐色　黒－Ta-b(均一)
10. 10YR5/2 灰黄褐色　汚れたTa-a・Ta-b－黒(均一)
11. 10YR3/2 黒褐色　黒(腐植酸質)＝Ta-b(均一)
12. 10YR3/1 黒褐色　粗粒砂＝Ta-b(汚れたTa-b)
13. 10YR2/1 黒色　腐植＝Ta-b(工具痕)
14. 10YR4/1 褐灰色　粗粒砂
15. 10YR3/1 黒褐色　砂＝Ta-b(均一)＝炭化物　新しい側溝

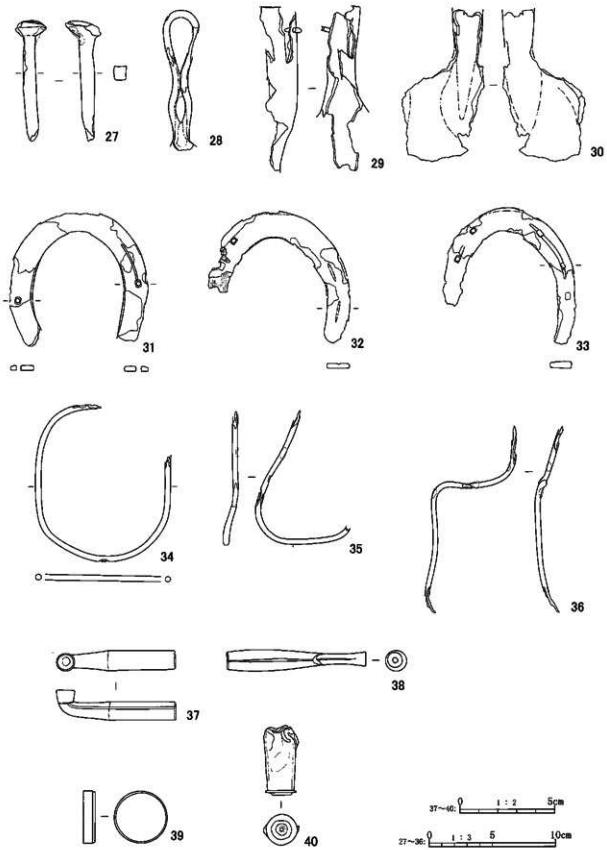
図Ⅱ-27　MIZO-07 断面図



図Ⅱ-28 MIZO-07出土遺物(1)



図Ⅱ-29　MIZO-07 出土遺物（2）



図Ⅱ-30　MIZO-07 出土遺物 (3)

第4節　焼土

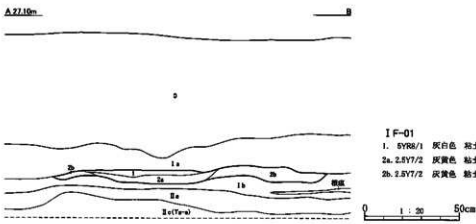
ⅠF-01は調査区の南西端、洪水堆積層のⅠb層上面に確認された。調査区の壁面で確認したため規模は不明である（図Ⅱ-35）。

第5節　土坑

土坑は0層で19基、Ⅱ層で1基検出した。0P-01・02は土壙跡、0P-03は馬橇の廃棄穴、0P-04～07はゴミ穴、0P-08は旧排水溝と考えられる。0P-01（図Ⅱ-33）は4隅に柱穴をもつ土壙跡で、Ⅱ層を掘り込んで構築されている。底面近くから2本の木材が出土している。覆土が60cmほど堆積した時点で窪みとなった部分から漆塗椀が1点出土した（図Ⅱ-34-4）。この他、ワイン瓶や蹄釘なども出土した。0P-03は木材運搬のための馬橇（玉橇）を埋めた廃棄穴と考えられ、内部からは蹄鉄が62個出土した。内訳は尋常蹄鉄23個、氷上蹄鉄39個である。氷上蹄鉄の鉄調は鍛接剤で固定した鍛着式である。北海道では大正末以降鍛着式が一般化したと言われることから、0P-03の時期は大正末以降と考えられる。

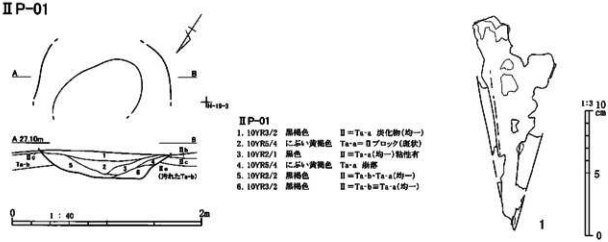
（荻野）

ⅠF-01

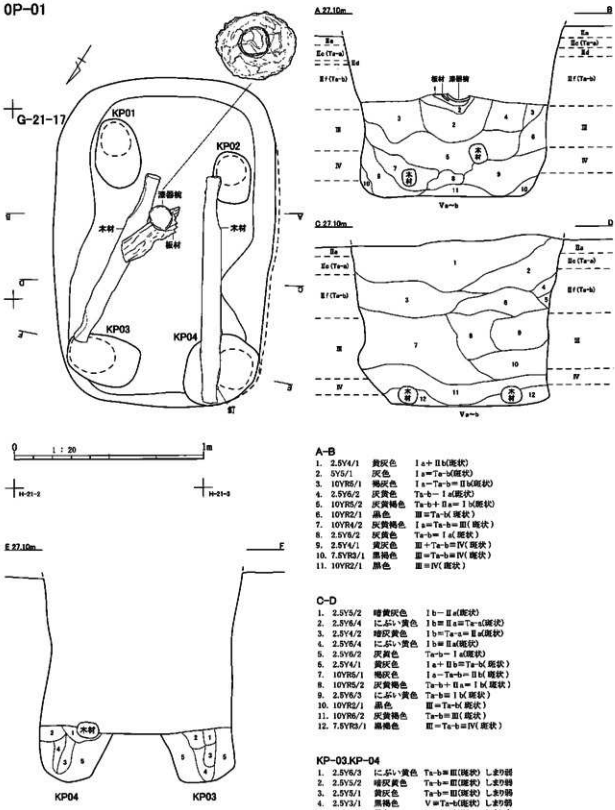


図Ⅱ-31　ⅠF-01 断面図

ⅡP-01



図Ⅱ-32ⅡP-01 平面及び断面図・出土遺物



A–B

1.	2.5Y4/1	黄灰色	Ⅰa＋Ⅱb(斑状)
2.	5Y5/1	灰色	Ⅰa＝Ta-b(斑状)
3.	10YR5/1	褐灰色	Ⅰa＝Ta-b＝Ⅱ(斑状)
4.	2.5Y6/2	灰黄色	Ta-b＝Ⅰa(斑状)
5.	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-b＋Ⅱa＝Ⅰb(斑状)
6.	10YR2/1	黒色	Ⅲ＝Ta-b(斑状)
7.	10YR4/2	灰黄褐色	Ⅰa＝Ta-b＝Ⅲ(斑状)
8.	2.5Y5/2	灰黄色	Ta-b＝Ⅰa(斑状)
9.	2.5Y4/1	黄灰色	Ⅲ＋Ta-b＝Ⅳ(斑状)
10.	7.5YR3/1	黒褐色	Ⅲ＝Ta-b＝Ⅳ(斑状)
11.	10YR2/1	黒色	Ⅲ＝Ⅳ(斑状)

C–D

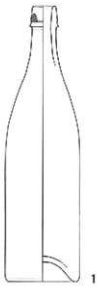
1.	2.5Y5/2	暗黄灰色	Ⅰb－Ⅱa(斑状)
2.	2.5Y5/4	にぶい黄色	Ⅰb＝Ⅱa＝Ta-a(斑状)
3.	2.5Y4/2	暗灰黄色	Ⅰb＝Ta-a＝Ⅱa(斑状)
4.	2.5Y5/4	にぶい黄色	Ⅰb＝Ⅱa(斑状)
5.	2.5Y6/2	灰黄色	Ta-b－Ⅰa(斑状)
6.	2.5Y4/1	黄灰色	Ⅰa＋Ⅱb＝Ta-b(斑状)
7.	10YR5/1	褐灰色	Ⅰa－Ta-b－Ⅱb(斑状)
8.	10YR5/2	灰黄褐色	Ta-b＋Ⅱa＝Ⅰb(斑状)
9.	2.5Y6/3	にぶい黄色	Ta-b＝Ⅰb(斑状)
10.	10YR2/1	黒色	Ⅲ＝Ta-b(斑状)
11.	10YR6/2	灰黄褐色	Ta-b＝Ⅲ(斑状)
12.	7.5YR3/1	黒褐色	Ⅲ＝Ta-b＝Ⅳ(斑状)

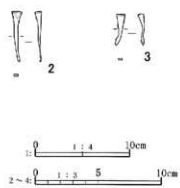
KP–03.KP–04

1.	2.5Y6/3	にぶい黄色	Ta-b＝Ⅲ(斑状) しまり弱
2.	2.5Y5/2	暗灰黄色	Ta-b＝Ⅲ(斑状) しまり弱
3.	2.5Y5/1	黄灰色	Ta-b＝Ⅲ(斑状) しまり弱
4.	2.5Y3/1	黒褐色	Ⅴ＝Ta-b(斑状) しまり弱
5.	10YR2/1	黒色	Ⅴ＝Ⅳ(斑状) しまり有

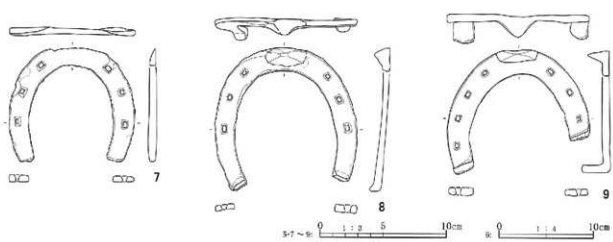
図Ⅱ-33　0P-01 平面図及び断面図

0P-01



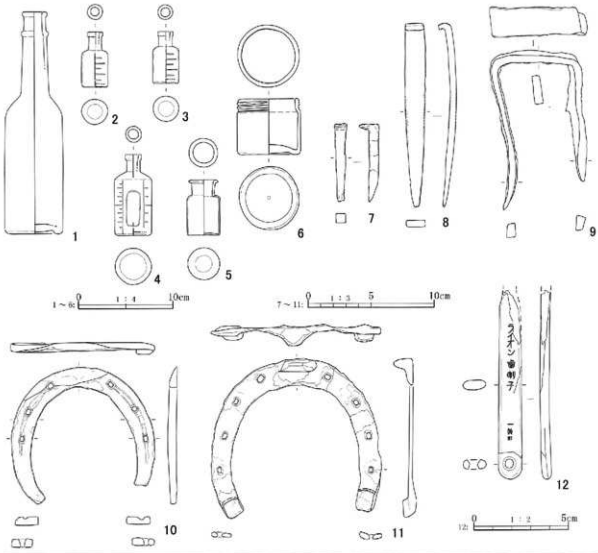


0P-03

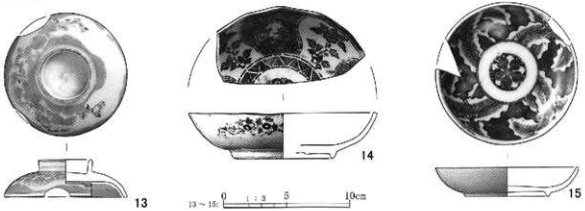


図Ⅱ-34　0P-01·03 出土遺物

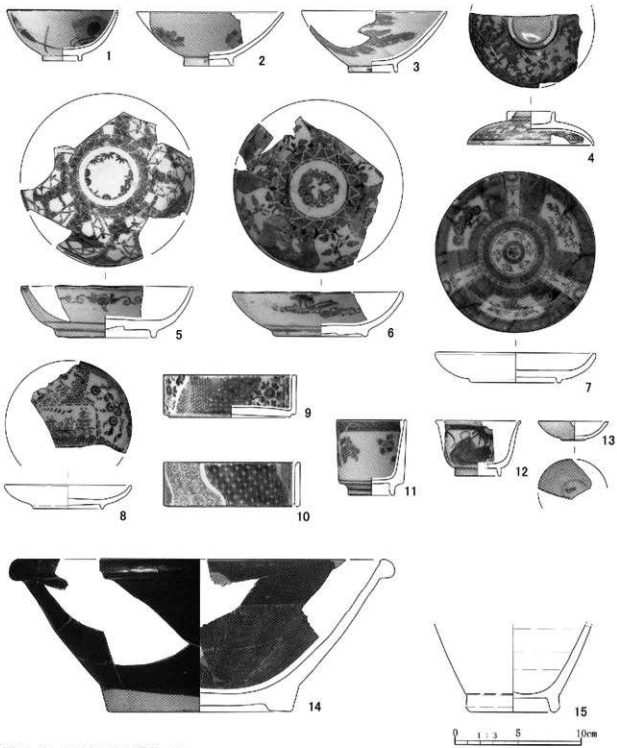
0P-04



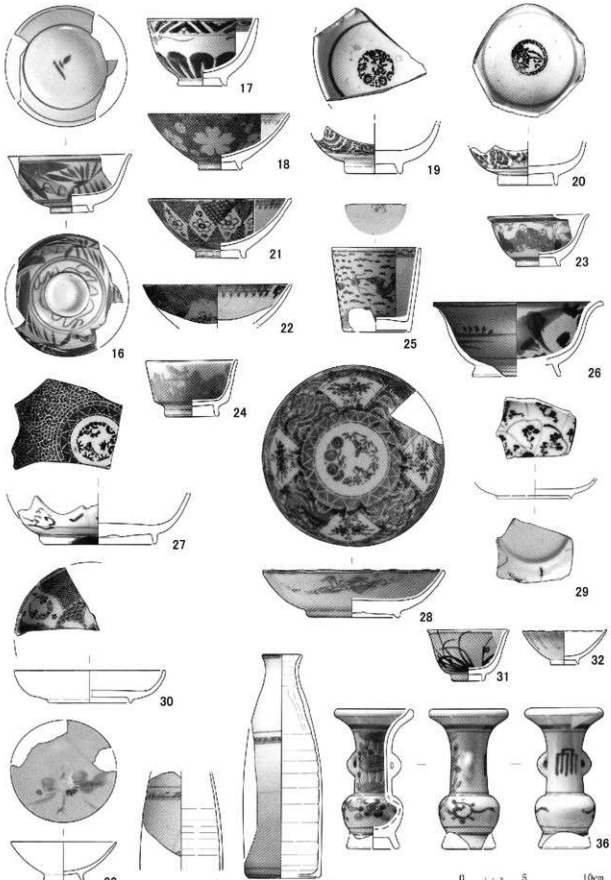
0P-05



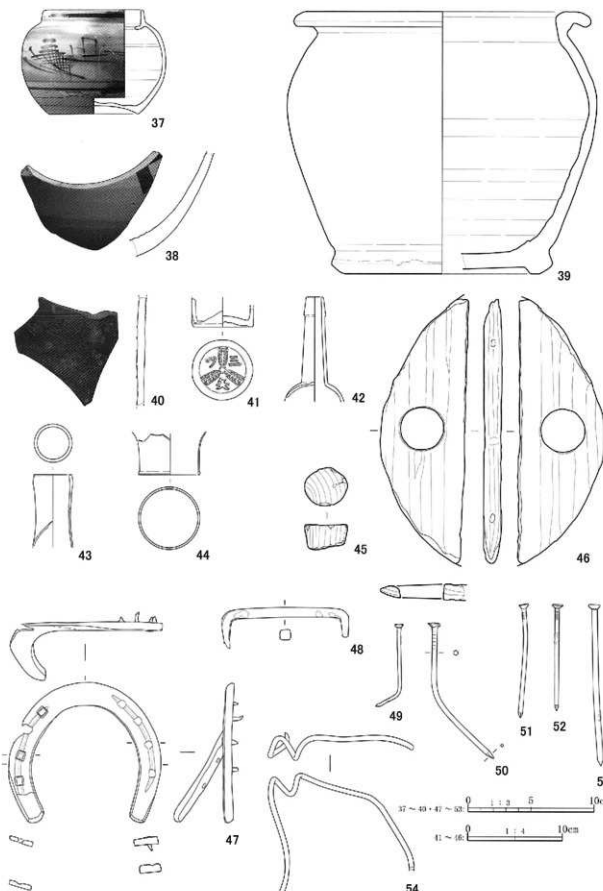
図Ⅱ-35　0P-04·05 出土遺物



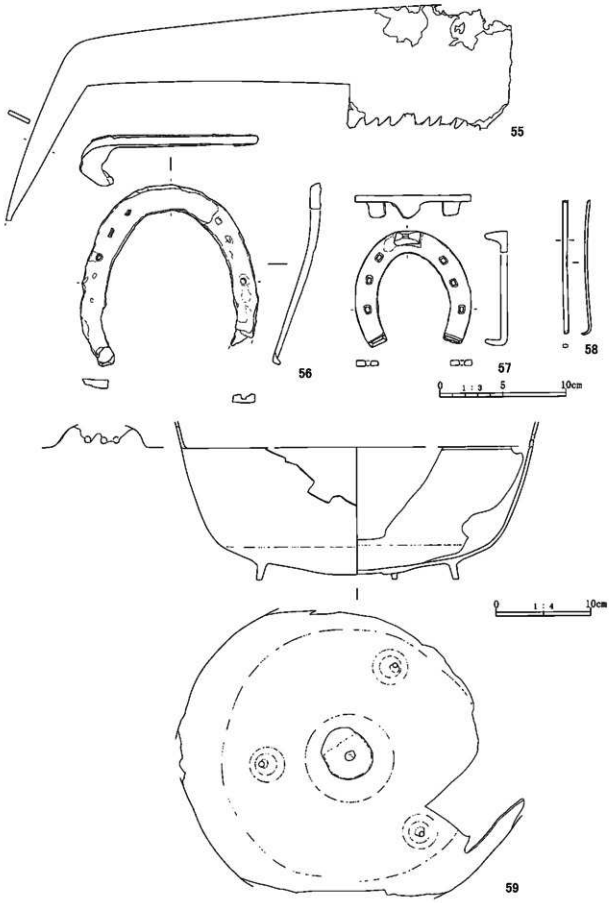
図Ⅱ-36　0P-06 出土遺物（1）



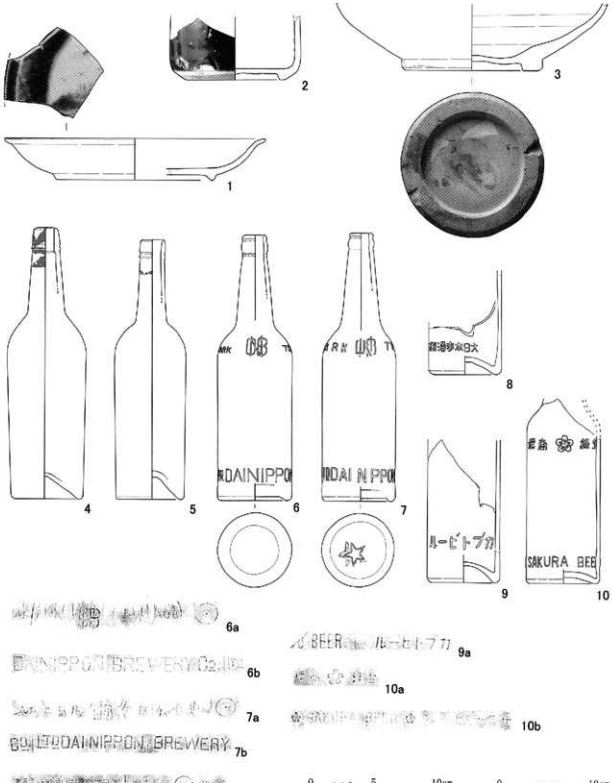
図Ⅱ-37　0P-06 出土遺物（2）



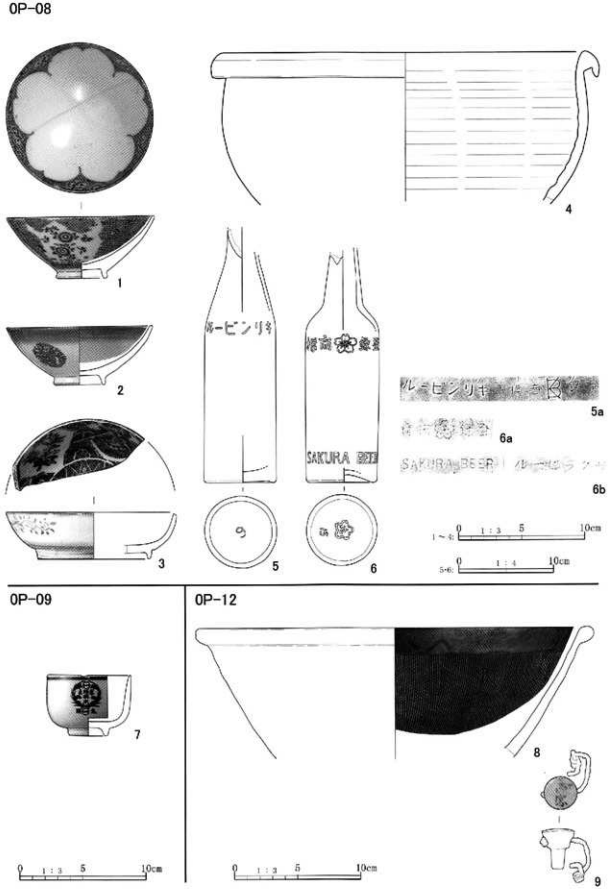
図Ⅱ-38　0P-06 出土遺物 (3)



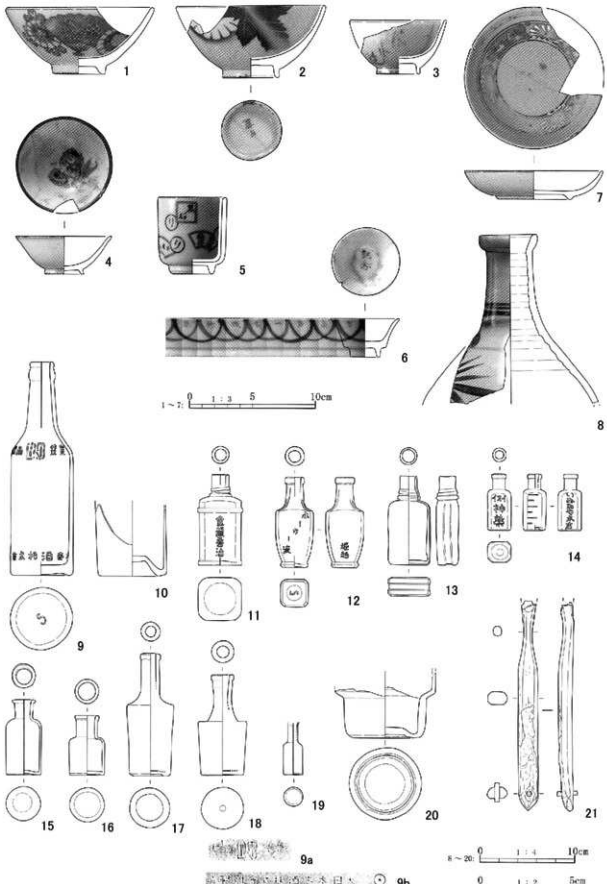
図Ⅱ-39 0P-06 出土遺物(4)



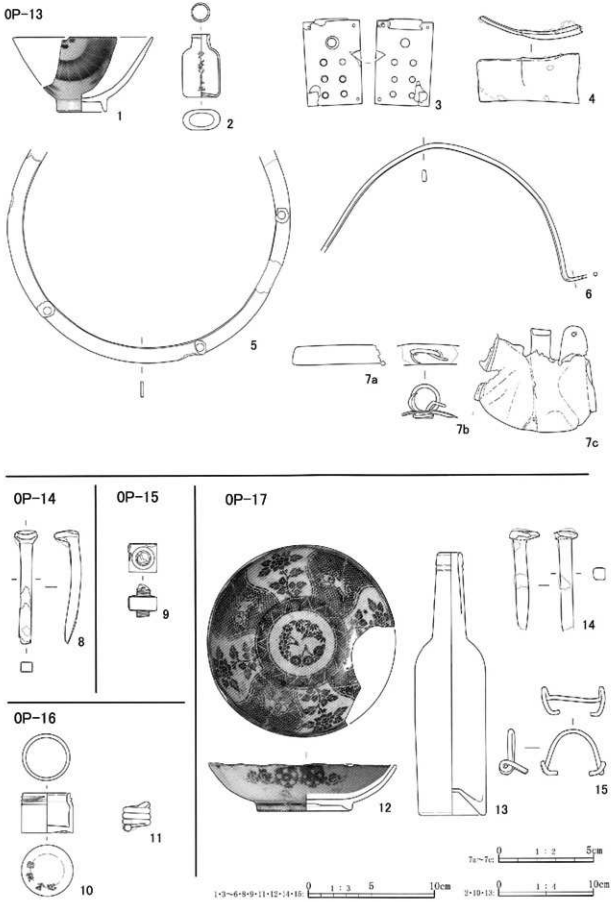
図Ⅱ-40　0P-07 出土遺物



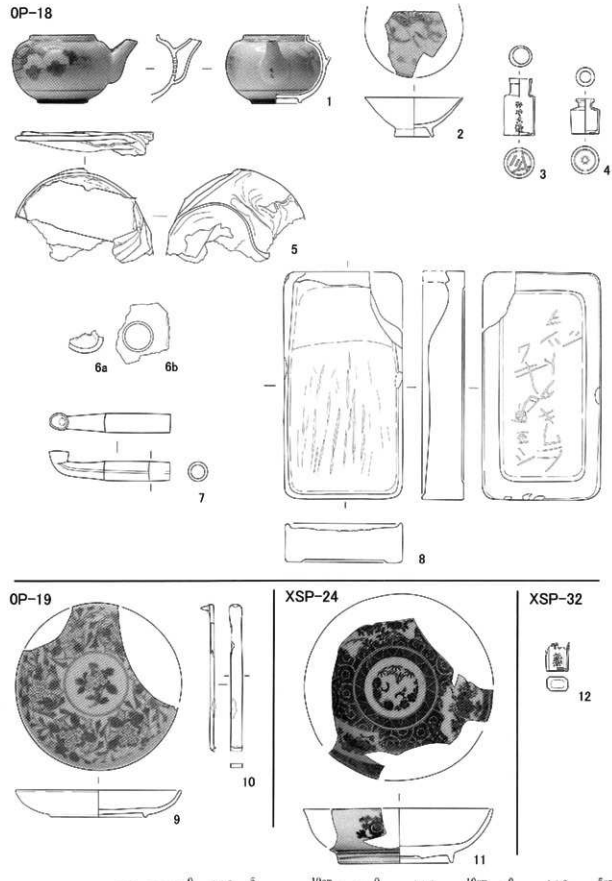
図Ⅱ-41　0P-08･09･12 出土遺物



図Ⅱ-42　OP-11 出土遺物



図Ⅱ-43　0P-13·14·15·16·17 出土遺物



図Ⅱ-44　0P-18・19及びXSP-24・32出土遺物

第6節　柵列跡

柵列跡は調査区の中央部からやや東寄りに2列検出した（図Ⅰ-15）。2列は近接し東西方向に延びている。柱の間隔は約1間である。馬柵などの可能性がある。（荻野）

第7節　包含層出土遺物

Ⅱ層は調査面積のおよそ15%が残存するのみで、他は撹乱を受けた部分がほとんどであった。撹乱層（0層）及び盛土層（Ⅰ層）からはⅡ層に由来すると考えられる遺物が多く出土したため、これらを合わせて報告を行う。なお出土層位等については表Ⅱ-2～76を参照願いたい。

1. 陶磁器（図Ⅱ-47～53、1～111）・陶磁製品（図Ⅱ-53、112～116）

1～96は磁器である。1～44は碗類で、8・10・11・36～39・42は染付、5・9は手描色絵、1～4・12～26・40・43は型紙摺絵、6・27～33・35・41は銅版転写、34はゴム印判により絵付けされている。染付の碗類には幕末から明治初期と思われるものが含まれる。型紙摺絵は明治15年頃から普及した絵付け方法である。1・2は見込みに目跡が残る端反りの丸碗で産地は砥部と推測される。碗類の口縁部内面には瓔珞文がつけられるものが多い。45～52は湯呑みで銅版転写（45～47）・ゴム印判（48・50～52）・吹き絵（49）のものがある。50は現在も厚真町に所在する鬼頭米穀店のものである。51は戦中の統制番号がみられる。52は大正6年から昭和34年に平取町で操業したクロム鉱山「日東鉱山事務所」のものである。53～60は鉢で染付（53）・型紙摺絵（54～56）・銅版転写（57～60）のものがある。58はクロム青磁のいわゆる丼で、産地は美濃（駄知）と考えられる。61～87は皿類で、61～74は瓢皿・三平皿とも呼ばれる中皿である。染付（63）・手描色絵（61）・型紙摺絵（62・64～74）により絵付けされ、62・64～66にはダミがけも見られる。67・68の外面には手描きの唐草文も見られる。75～87は小皿である。染付印刻（75・76）・型紙摺絵（77～80）・銅版転写（81～86）・ゴム印判（87）により絵付けされている。87の高台内には「丸許」と呼ばれる朱色の印があり、戦前から戦後間もなくのものと考えられる。88・89は燗徳利で88は型紙摺絵、89は銅版転写で絵付けされている。90は角ハマの酒坏、91は九谷焼きの小坏である。92・93は染付の急須と急須蓋である。94は赤絵の仏飯器。95は灰落しで見込みに蛇の目釉剥ぎが見られる。96は型紙摺絵の火鉢である。97～111は陶器である。97は大堀相馬焼きの湯呑。98・99は土瓶で鉄釉により山水文が染付されている。101～103は片口で角型の目跡が見られる。104・105は甕の底部で、105には「三」の墨書きが見られる。106～108は擂鉢で、108の高台内には「十七」の墨書きが見られる。109～111は焼酎徳利である。112～116は陶磁製品で、112は草文が黄色で上絵付けされたミニチュアの碗、113は笛、114は亀である。115は手活人形の足部分である。116は神像（稲荷）で瀬戸産と推測される。

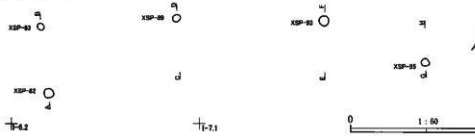
2. ガラス製品（図Ⅱ-54・55、117～142、図版22）

ガラス製品には117～138の容器とそれ以外のものがある。117・118は清酒瓶で117には機械栓が付いたままとなっている。119・120はビール瓶、121～126サイダーなどの飲料水瓶、127～131は調味料瓶、132～137は薬品瓶、138はランプの油壺部分である。容器以外のものには139の目薬瓶に付属するスポイト、140の瓶の蓋、141・142のガラス玉がある。ガラス玉は近世アイヌ文化期に属する可能性があるが、調査区内で明確な遺物包含層は確認されていないことから近代のものかも知れない。

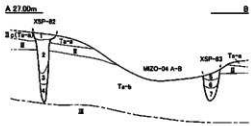
3. 金属製品（図Ⅱ-56～58、143～178、図版23・24）

143・144は針。145は出刃包丁。146は草削りの刃、147は鎌で生活に関連した鉄製品である。148～151は犬釘、152は座金で軌道に関連するものと考えられる。153・154は鉄板を加工したもので、締め金具など

XSP-82・83・89・93・95



XSP-82・83



XSP-82・83

1. 2.5Y3/2　黒褐色　粘質土＝Ⅰb(既状)　しまり弱
2. 2.5Y5/1　黄灰色　Ta-a～Ⅱ(既状)　しまり弱
3. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-a～Ta-b＝Ⅱ(既状)
4. 2.5Y4/2　暗灰黄色　Ta-b＝Ta-a(均一)
5. 2.5Y3/1　黒褐色　パミス混じり黒褐色土(粘質)～Ta-a(既状)　しまり弱
6. 2.5Y4/3　暗灰黄色　粘質土～Ta-a(均一)　しまり弱
7. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-b～暗灰灰褐質土(均一)　しまり弱

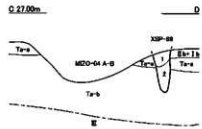
XSP-89

1. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質土＝Ⅰb(黒状)＝パミス　しまり弱
2. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-a＝Ⅰb(暗状)　しまり弱

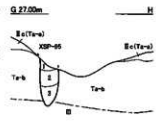
XSP-93

1. 2.5Y2/1　黒色　粘質土(パミス混じり)～Ⅰb　しまり弱
2. 2.5Y3/1　黒褐色　Ta-a～Ta-b　しまり弱
3. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-b～Ta-a　しまり弱

XSP-89



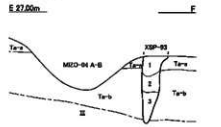
XSP-95



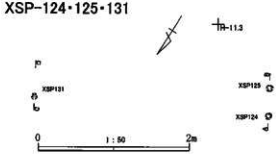
XSP-95

1. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質土～Ta-a　しまり弱
2. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-a～Ta-b＝Ⅰb　しまり弱
3. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-b～Ta-a＝Ⅰb　しまり弱

XSP-93



XSP-124・125・131



XSP-124・125

1. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-b＝黒色土
2. 10YR1.7/1　黒色　Ⅱa～Ⅱb
3. 2.5Y2/1　黒色　粘質土

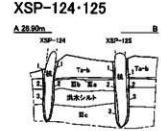
XSP-131

1. 2.5Y3/1　黒褐色　粘質土　しまり弱
2. 2.5Y4/1　黄灰色　粘質土　しまり弱
3. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐色　粘質土～Ta-a＝Ta-d～パミス
4. 10YR1.7/1　黒色　Ⅲb＝Ta-a
5. 10YR2/1　黒色　Ⅲb＝Ta-a＝Ⅰb(既状)
6. 2.5Y3/2　黒褐色　Ta-a＝Ⅲ＝Ⅰb(既状)
7. 2.5Y5/3　黄褐色　Ⅰb～Ⅱb(既状)
8. 10YR1.7/1　黒色　Ⅲb
9. 7.5Y3/2　オリーブ黒色　粘質土＝Ta-dp
10. 2.5Y4/1　黄灰色　Ta-a＝Ⅰb(既状)
11. 7.5Y2/2　オリーブ黒色　粘質土＝Ta-b

XSP-146

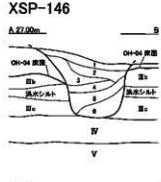
1. 5Y3/1　オリーブ黒色　Ta-b＝Ⅲb(既状)
2. 5Y6/2　灰オリーブ色　粘質土＝Ta-b(既状)
3. 5Y4/1　灰色　Ta-b＝粘質土＝炭化物(既状)
4. 5Y6/3　オリーブ黄色　粘質土
5. 5Y3/1　オリーブ黒色　Ⅲb＝淡水堆積物(既状)
6. Ta-b＝Ⅰb(既状)のくずれ＝Ⅲb(既状)

XSP-124・125



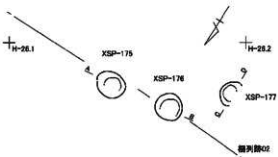
XSP-131

XSP-146

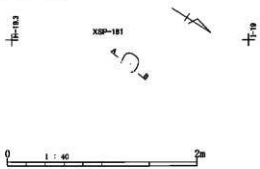


図Ⅱ-45　XSP 平面図及び断面図（1）

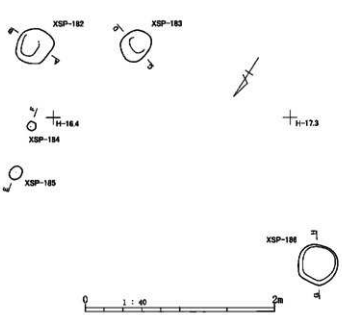
XSP-175・176・177



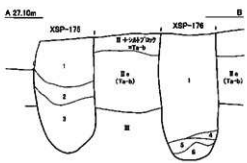
XSP-181



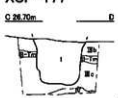
XSP-182・183・184・185・186



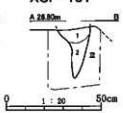
XSP-175・176



XSP-177

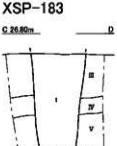


XSP-181



XSP-182

XSP-183



XSP-177

1. 10YR5/4　にぶい黄褐色　シルト－Ta-b
　　擬り方埋土

11KP-07

1. 10YR2/3　黒褐色　Ta-b＝Ⅲ(均一)
2. 10YR2/1　黒色　Ⅲ＝Ta-b(均一)

XSP-181

1. 10YR2/2　黒褐色　黒色土－洪水シルト＝Ta-b＝Ta-d(均一)
2. 10YR5/3　にぶい黄褐色　Ta-b
3. 10YR4/2　灰黄褐色　黒色土＝Ta-b(均一)
4. 10YR2/1　黒色　黒色土＝洪水シルト

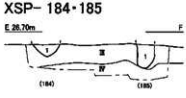
XSP-183

1. 10YR3/2　黒褐色　黒色土＝洪水シルト(縦状)＝Ta-dp(均一)

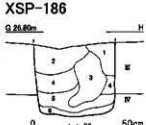
XSP-186

1. 10Y5/6　黄褐色　Ta-a＝Ⅱ層(縦状)
2. 10YR3/2　黒褐色　Ⅱ層＝Ta-b－黒色土瓦層堆積
3. 10YR3/1　黒褐色　Ⅱ＝Ta-a(均一)
4. 10YR2/2　黒褐色　黒色土＝Ta-b(均一)
5. 10YR2/1　黒色　黒色土(Ⅲ)＝Ta-b(均一)
6. 10YR2/1　黒色　黒色土(Ⅲ)＝Ⅴ＝Ta-c(均一)

XSP- 184・185



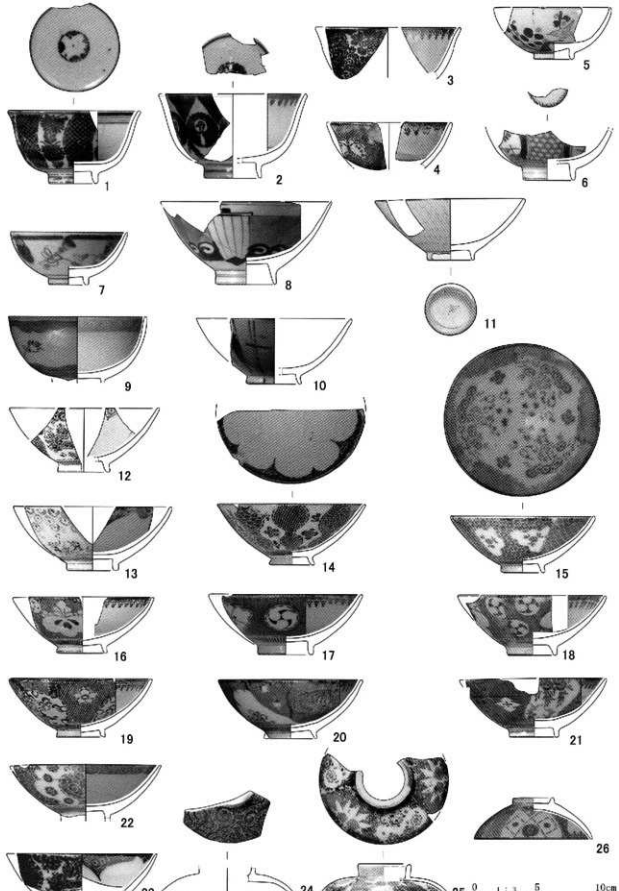
XSP-186



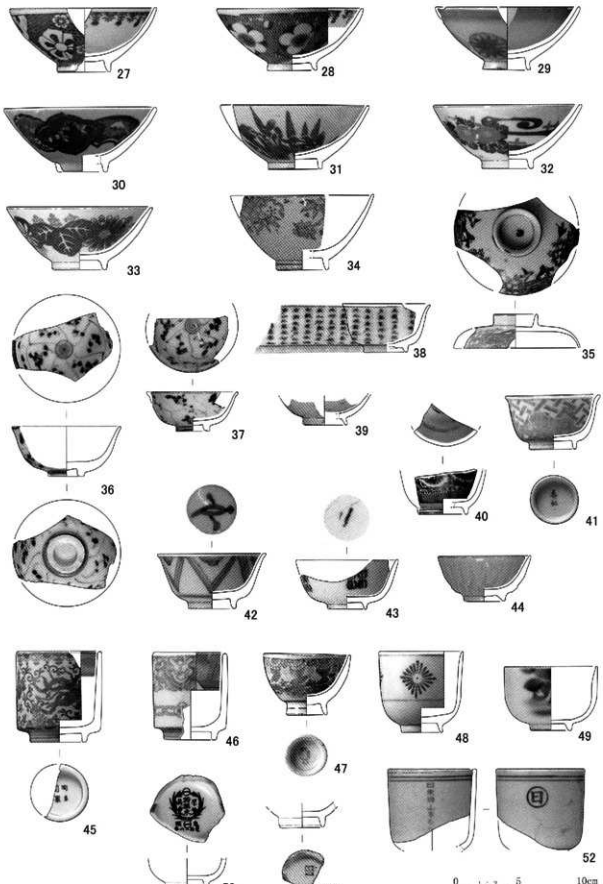
XSP-184・185

1. 10YR4/6　褐色　シルト－Ta-b(均一)

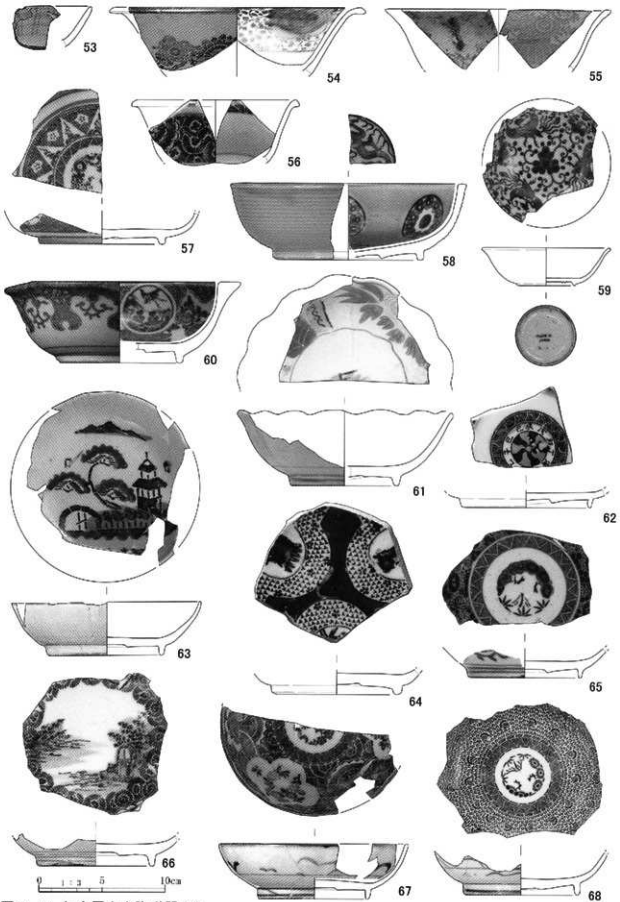
図Ⅱ-46　XSP 平面図及び断面図(2)



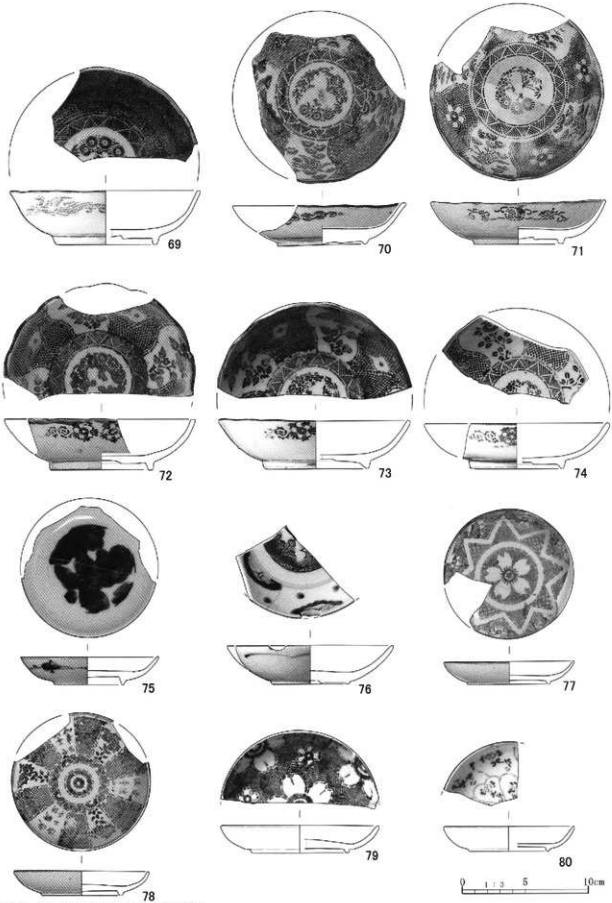
図Ⅱ-47　包含層出土陶磁器(1)



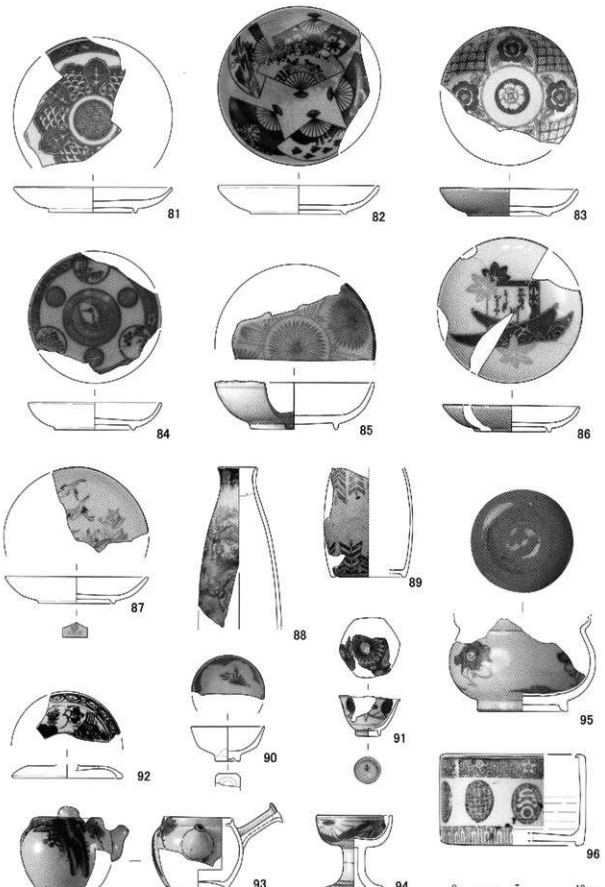
図Ⅱ-48　包含層出土陶磁器(2)



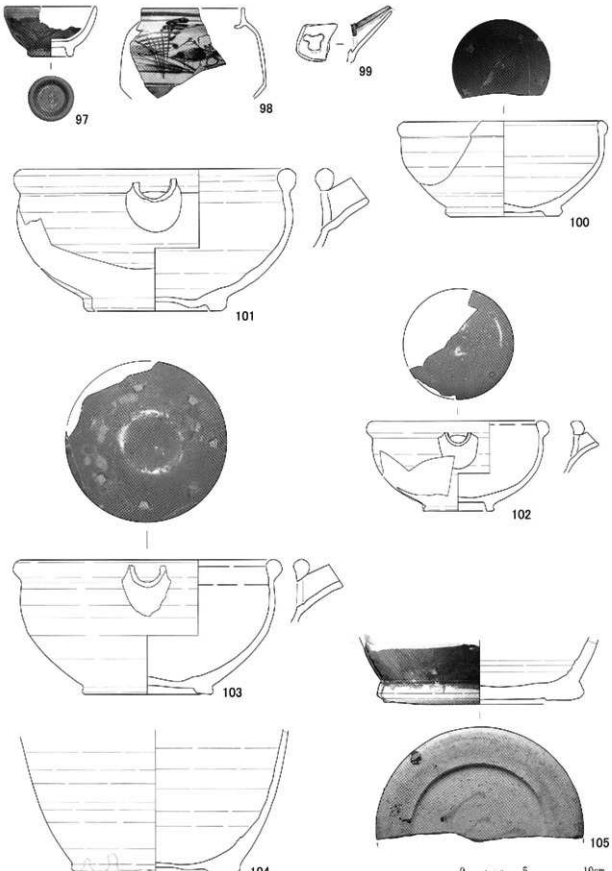
図Ⅱ-49　包含層出土陶磁器(3)



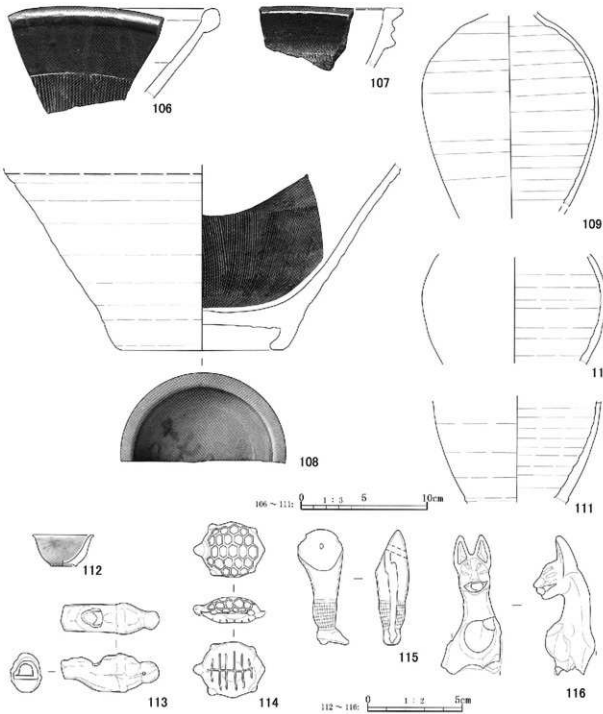
図Ⅱ-50　包含層出土陶磁器(4)



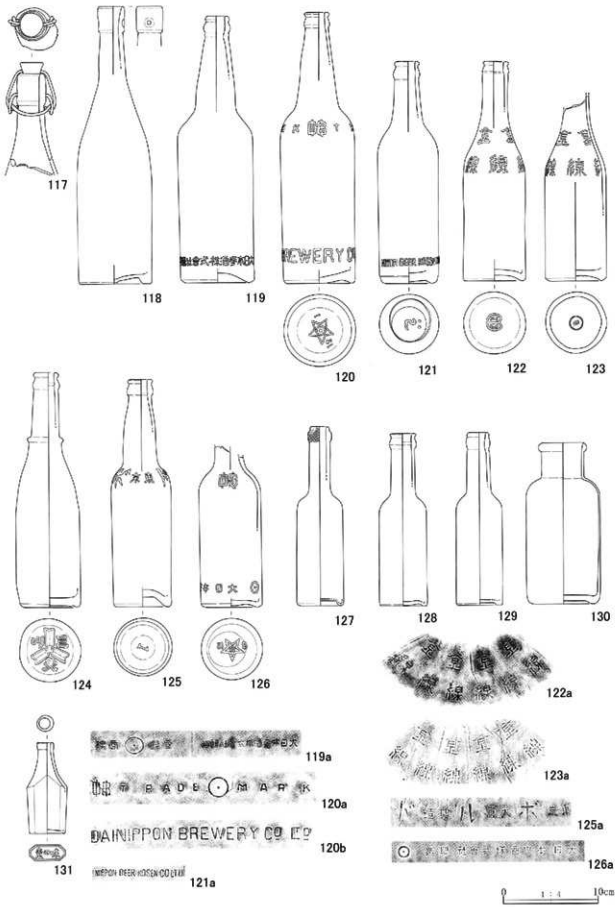
図Ⅱ-51　包含層出土陶磁器(5)



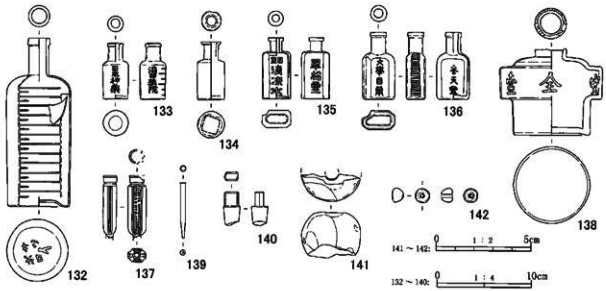
図Ⅱ-52　包含層出土陶磁器(6)



図Ⅱ-53　包含層出土陶磁器(7)・陶磁製品



図Ⅱ-54　包含層出土ガラス製品(1)



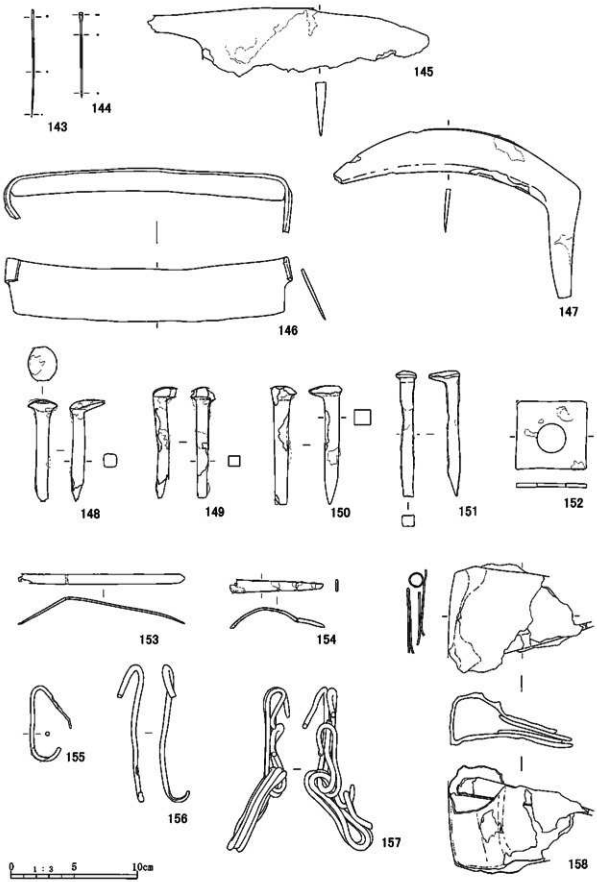
図Ⅱ-55　包含層出土ガラス製品（2）

と考えられている。155～157 は針金を素材としたもので、155 はリング状、156 はフック状、157 はリングが連結した製品である。158 は筒状の製品と組み合わせになる柄頭の可能性があるが、欠損により形状は不明である。159～163 は蹄鉄。159 は有溝の尋常蹄鉄で鉄唇が付いている。鉄唇の付いたものは出土量が僅かである。160 は尋常蹄鉄で 2 本の蹄釘が残存している。使用による摩耗が顕著に見られる。大きさ量ともに多いタイプである。161・162 は氷上蹄鉄。161 の前側鉄錆は鍛着によるもので、後側は折り曲げにより鉄錆を作出している。162・163 には人為的な切断痕が見られる。164 は用途不明のリング状金具の一部でである。165 は片口の鉄鍋で断面長方形の弦が付いている。166・167 は蹄鉄片で再利用のために一部溶解している。168・169 はスラグで、168 は椀形滓、169 は鋳物湯口である。170 はシガーライターで柄部分は磁製である。171 は真鍮製のリング状製品。172 銅板を加工したもので釘隠しの可能性がある。173 はキセルの雁首で火皿部分を欠く。174 はキセルの吸口である。175～178 は銭貨である。175 は方形の孔を有する鉄銭で、錆により銭名を読みとることはできない。176 は腐食により判然としないが文字の細さから新寛永と考えられる。177 は明治 14 年、178 は大正 8 年の銅 1 銭である。

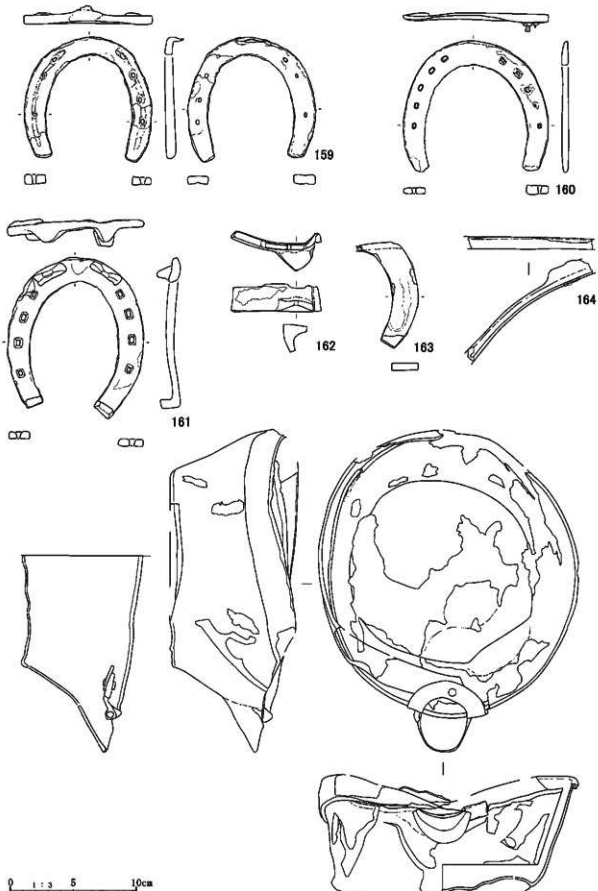
4. 石製品（図Ⅱ-58-179、図版 24）

179 は石製の硯である。撹乱層出土である。MIZO-03 や OP-18 からは裏面に人名の刻まれたものが出土している。

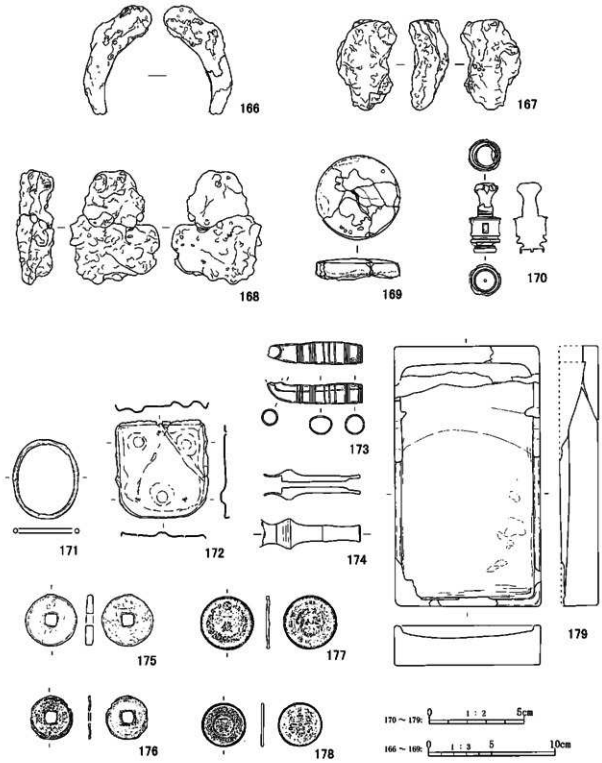
（荻野）



図Ⅱ-56　包含層出土金属製品（1）



図Ⅱ-57　包含層出土金属製品（2）



図Ⅱ-58　包含層出土金属製品(3)・石製品

表Ⅱ-2　0H-04出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-2-1	-	331	10636+10637+1683	磁器 線香立て	0H-04	G·H-6·7 H-14·15	0	上-下	銅版転写	-	49.3	(47.0)	23.5	(68.2)	-	七宝繋ぎ文、青海波文花菱文、窓絵草花文(青)	-	
Ⅱ-2-2	-	325	1685	陶器 土瓶	0H-04	H-14·15	0	口-胴	手描色絵	-	(67.9)	-	(44.1)	(24.8)	-	青釉に白色の流水文(かぶせ蓋タイプ)	-	信楽焼
Ⅱ-2-3	-	321	1786	陶器 擂鉢	0H-04	H-14·15	0	口-底	-	-	-	(133.5)	(170.1)	(775.0)	-	-	-	高取、幕末～明治

表Ⅱ-3　0H-04出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-2-4	12-1	444	1687	ワイン瓶	0H-04	H-14·15	Ⅰ	口	コルク-X	薄緑色-1-1	26.1	-	(83.6)	(43.5)	(48.0)	-	

表Ⅱ-4　0H-04出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-3-5	12-2	-	1921-1	マレック	0H-04	H-14	2	リング状	53.8	53.4	5.3	9.6	Fe.	柄部 断面方形
Ⅱ-3-6	12-4	-	1919	くつわ金具？	0H-04	H-14	2	-	116.5	114.0	16.0	41.0	Fe.	環状鉄製品
Ⅱ-3-7	12-3	-	1920	鎌	0H-04	H-14	2	-	180.0	30.7	6.3	57.0	Fe.	木柄・締め金具付
Ⅱ-3-8	12-5	-	1512	滑車	0H-04	H-14	2	-	416.0	270.0	84.8	2,240.0	Fe.	T字状フック

表Ⅱ-5　0H-05出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-5-1	12-6	-	1	ヤス	0H-05	H-17	2	-	195.0	19.8	7.8	66.4	Fe.	
Ⅱ-5-2	12-7	-	9	足袋の甲鉄	0H-05	H-17	2	-	15.8	13.0	0.3	(0.3)	Cu.	
Ⅱ-5-3	12-8	-	11	銭貨	0H-05	H-17	2	-	24.5	24.5	1.2	3.7	Cu.	

表Ⅱ-6　MIZO-03出土陶磁器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-10-1	-	239	1429+7236+7158	磁器 中碗(平)	MIZO-03-C2·D 0P-06	-	黒上	口-底	型紙摺絵	-	116.5	43.6	52.8	(96.2)	蛇文(桜花区画)	蛇文地楓葉文、花文	-	側溝底面付近出土
Ⅱ-10-2	-	238	1477+7152	磁器 中碗(平)	MIZO-03-B	-	4	口-底	型紙摺絵	-	118.8	44.9	52.4	(129.1)	蛇文(桜花区画)	蛇文地楓葉文、花文	-	
Ⅱ-10-3	-	248	8422+7156+1448+10215	磁器 中碗(平)	-	21～27	0	口-底	型紙摺絵	-	116.6	42.3	46.2	(118.0)	瓔珞文	蛇文地松皮菱、窓絵松樹草花文	-	No341の蓋とセットになる
Ⅱ-10-4	-	236	1611-1·3	磁器 中碗(平)	MIZO-03-D	-	Ⅰb	口-底	型紙摺絵	-	124.1	40.6	49.4	(133.4)	瓔珞文	蛇文地網文、三巴文	-	側溝、Ⅱ層上の洪水シルト流れ込みから出土
Ⅱ-10-5	-	261	1412+1476+7162+8423	磁器 中碗(平)	MIZO-03-C2·D 0P-06	21～27	0	口-底	型紙摺絵	-	114.7	39.1	42.3	(92.1)	みじん唐草松散らし文窓絵松樹文	みじん唐草松散らし文窓絵松樹下に人物文	-	
Ⅱ-10-6	-	233	1499+7237+7812	磁器 中碗(平)	MIZO-03-D 0P-06	H-23	黒上	口-底	型紙摺絵	-	116.5	40.9	40.8	(86.8)	みじん唐草松散らし文窓絵松樹文	みじん唐草松散らし文窓絵松樹下に人物文	-	

表Ⅱ-7 MIZO-03出土陶磁器属性表(2)

神記番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	成形方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-10-7	-	253	1619	磁器 中鉢底	MIZO-03-D	-	1b	完形	型紙摺絵	-	42.7	100.2	27.5	97.7	唐草文	青海波文地梅花散らし文	-	Ⅱ層上の流水シルト混れ込みから出土
Ⅱ-10-8	-	242	1482+7154 +6933+8325 +8588	磁器 中鉢(丸)	MIZO-03-C2・D 09~06	H-23 17~21	0	ロ~底	削痕転写+手描色絵	-	93.6	33.0	45.7	(90.8)	-	上絵銘日 家誌と鳥、ラッパ形、青、黄、赤)、銅版(赤)	-	
Ⅱ-10-9	-	286	1400+7262	磁器 手塩小皿	MIZO-03 09~06	-	高台	ロ~底	白磁	-	95.9	52.2	20.7	(52.9)	-	-	-	一番古い御器、瀬戸
Ⅱ-10-10	-	296	1380+1468 +8503	磁器 小皿	MIZO-03-C・D MIZO-03	-	3~4	完形	型紙摺絵	-	107.8	55.6	20.6	92.0	枠文地桜花と雷	-	転文地桜花文	1期工事掘当
Ⅱ-10-11	-	302	1428+7151	磁器 小皿	MIZO-03-C2・D	-	3~4	略完形	銅版転写	-	122.7	72.7	29.4	(139.8)	水辺に鷺雪柳花文(青、ピンク)	鷺線(青)	-	御隠底面付近出土
Ⅱ-10-12	-	316	1433+1434+ 1479+1480+ 1481-1・2・3 +7008+7927 +7116-1+ 7129+7547- 1・3	磁器 蓋指利	MIZO-03-C2・D・ MIZO-03	23	3	ロ~胴	銅版転写	-	-	-	(190.0)	(170.5)	-	雲に飛鶴	-	
Ⅱ-10-13	-	317	10557+723 +7230+7238 +7239	磁器 蓋指利	MIZO-03-D	21~24	0	胴~底	型紙摺絵	-	-	62.6	(105.1)	(126.3)	-	雲に飛鶴	-	
Ⅱ-10-14	-	320	1612	磁器 醤際利	MIZO-03-D	-	4	胴~底	銅版転写	-	-	58.6	(171.0)	(137.6)	-	雪文開鶴丸、吉祥文(青)	-	Ⅱ層上の流水シルト混れ込みから出土
Ⅱ-10-15	-	322	1622+1623 +1624	陶器 擂鉢	MIZO-03-D	-	3~4	ロ~胴		-	-	-	(165.5)	(158.9)	-	-	-	Ⅱ層上の流水シルト混れ込みから出土、産地不明
Ⅱ-10-16	-	324	1615+8141- 1+7034	陶器 蓋指利	MIZO-03-B・C・D	-	3~4	ロ~胴	-	-	56.7	-	(157.0)	(345.0)	-	団幡・吉~(重巻き) (団幡為政吉村銀造)	-	Ⅱ層上の流水シルト混れ込みから出土 鳥根県牛ノ戸焼
Ⅱ-10-17	-	244	7577+7032	磁器 小鉢(丸)	MIZO-03-3	15~20	0	ロ~底	手描色絵	-	-	33.2	44.9	(93.5)	菊綴(赤)	上絵 草花文、菊綴(赤)	宝文(赤)	破物
Ⅱ-10-18	-	227	1459+7134	磁器 中鉢(平)	MIZO-03-C2・MIZO-03	-	3~4	略完形	銅版転写	-	104.5	33.8	46.8	(127.8)	-	丸文4ヶ所(吉祥文、人物文、青海波文、梅灯竜文)(青)	-	御隠底面付近出土
Ⅱ-10-19	-	247	1358+1420 +8589	磁器 中鉢(平)	MIZO-03-B +MIZO-03	-	2~3	ロ~底	銅版転写	-	117.2	39.1	49.3	(139.9)	網目文地、丸文散らし(青)	網目文地、丸文散らし(青)	-	2期工事Tr-4盛土御隠底面付近出土
Ⅱ-10-20	-	256	7805+1427	磁器 蕎骨み	MIZO-03-C2	H-23	0	ロ~底	銅版転写	-	-	48.2	71.5	(48.2)	-	上絵雷海波文桜花文 窓絵銅文、山水文(赤、青、緑、ピンク、金)	-	御隠底面付近出土
Ⅱ-11-21	-	274	1454-1	磁器 七寸皿	MIZO-03-C2	-	3	ロ~底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	99.3	41.1	(290.0)	雪海波文、扇の要文、鳥文、みじん雪花、松葉文地幡花、窓絵松樹雀文	鳳凰	牡丹文	御隠底面付近出土

表Ⅱ-8　MIZO-03出土陶磁器属性表(3)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	給付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-11-22	-	298	7101+1409-1・2+1484+1410	磁器　中皿	MIZO-03 MIZO-03-C・C2	-	0	ロ-底	型紙摺輪	蛇の目凹型高台 目跡4ヶ所	150.1	90.7	43.6	(250.0)	みじん唐草文地牡丹文、宮絵牡丹文？	唐草梅文、圓線	松竹梅丸文	側濃底面付近出土、側溝
Ⅱ-11-23	-	299	1418+8331	磁器　中皿	MIZO-03-C2	H-23	0	ロ-底	型紙摺輪	蛇の目凹型高台	150.3	85.3	42.6	(300.0)	青海波文地飛鶴文、宮絵松、飛鶴文	鳳凰文、圓線	松竹梅丸文	側濃底面付近出土
Ⅱ-11-24		279	7067	磁器　中皿	MIZO-03-3	-	3	ロ-底	型紙摺輪	蛇の目凹型高台	-	76.6	34.7	(141.1)	松文に鳥、宮絵折枝菊文	圓線、唐草	-	
Ⅱ-11-25	-	272	1493+1494	磁器　段重	MIZO-03-C	-	3	ロ-底	手描色絵	-	102.8	95.0	44.5	(240.1)	-	上絵　松丹茨鶴、松鷲(黒、緑、茶、金、ピンク、赤)	-	
Ⅱ-12-26	-	355	7071-1・2	磁器　中鉢(端反)	MIZO-03	-	0	ロ-底	型紙摺輪	-	-	(36.3)	52.4	(51.8)	堰亀文	みじん唐草裏散らし文、宮絵植物文	-	美濃、釉が掛けていない不良品
Ⅱ-12-27	-	301	8246+7669-1+7533+7128+7011+1238	磁器　中鉢(平)	MIZO-03	H-22 21～27	0	ロ-底	型紙摺輪	-	119.7	35.8	48.3	(138.1)	堰亀文	松文地鳳凰文	-	
Ⅱ-12-28	-	341	7100+8287+10157	磁器　中鉢蓋	MIZO-03 A地区	-	0	ロ-底	型紙摺輪	-	41.4	103.9	28.0	(84.4)	堰亀文	松文地松皮菱、みじん唐草松散らし文、宮絵草花文	-	No.248の身とセット
Ⅱ-12-29	-	226	8510	磁器　中鉢(平)	MIZO-03	-	0	完形	側板転写	-	115.6	43.1	49.1	141.6	-	菊水文(青、茶)	-	
Ⅱ-12-30	-	245	7677	磁器　小鉢(端反)	MIZO-03	-	基下	ロ-底	側板転写	-	-	43.3	42.7	(63.8)	-	宮葵に梅花文、梅花文に文字(緑、瓜)有(青)、圓線(青)	-	
Ⅱ-12-31	-	252	1356+1357	磁器　小皿	MIZO-03-B2	-	2	完形	側板転写	-	106.0	63.7	21.1	83.8	梅花文(緑)	-	-	2期工事Tu-d盛土
Ⅱ-12-32	-	332	7055+8241+8242+8245-1・2	磁器　急須	MIZO-03-3	21～27	0	ロ-底	染付	-	62.8	60.5	59.9	(113.6)	-	鳳凰文、桐文、葵文	-	会津本郷
Ⅱ-12-33	-	270	1423	磁器　小鉢(端反)	MIZO-03-C2	-	3	ロ-底	染付	-	66.8	20.7	30.8	(50.5)	-	草文	-	側濃底面付近出土、平清水？東北産？
Ⅱ-12-34	-	352	7143+7670	磁器　酒坪	MIZO-03	-	0	ロ-底	手描色絵	-	-	-	(28.6)	(14.1)	上絵(歩兵第…)、金文字、日の丸旗	-	-	瀬戸
Ⅱ-12-35	-	319	7065+7259	磁器　鉄刷掃利	MIZO-3 0P-06	-	0	胴-底	染付	-	-	88.3	(78.8)	(156.6)	-	胴、圓線(青)	-	肥前系
Ⅱ-12-36	-	309	7019	陶器　擂鉢	MIZO-03	-	0	胴-底			-	-	(74.2)	(265.0)	-	-	-	
Ⅱ-12-37	-	330	7061	磁器　猫洗器	MIZO-03	-	0	ロ-底	型押し	-	-	-	27.3	(14.9)	-	-	-	瀬戸(西茨第1号窯跡に同一の物有)
Ⅱ-12-38	-	328	7043	磁器　神像経荷	MIZO-03	-	0	胴-底	型押し	-	-	28.2	(41.9)	(33.4)	-	-	-	頭・尾欠く
Ⅱ-12-39	-	327	7081	磁器　タイル	MIZO-03	-	0	完形	-	-	縦29.4	横18.8	厚6.9	6.8	-	-	-	

表Ⅱ-9　MIZO-03出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	分類 色・気泡	計測値(mm) 口径	計測値(mm) 底径	計測値(mm) 器高	計測値(mm) 幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-13-40	12-9	457	1606	ワイン瓶	MIZO-03	-	1b	完形	コルク-5	黄褐色-3-1	24.8	110.6	292.0	79.0	650.5	-	
Ⅱ-13-41	12-10	427	2561	化粧品瓶	MIZO-03-D	-	4	完形	コルク-3	透明-0-0	22.4	29.3	87.3	35.5	66.5	-	コルク栓入り
Ⅱ-13-42	12-11	428	1467	板ガラス	MIZO-03-D	-	4	完形	-	透明-0-0	-	-	-	32.8	3.6	-	円形に加工　厚さ1.6mm
Ⅱ-13-43	12-12	453	1306+1307+1308	酒瓶	MIZO-03-3	-	3	略完形	ネジ栓-2	水色-3-3	40.0	121.2	326.0	121.2	(655.0)	-	一升瓶（手吹き）　2期工事相当側溝
Ⅱ-13-44	12-13	436	1287	ワイン瓶	MIZO-03	-	3	完形	コルク-5	褐色-2-1	28.0	79.0	292.0	79.0	735.0	-	
Ⅱ-13-45	12-14	437	1489	ワイン瓶	MIZO-03	-	3	完形	コルク-3	褐色-1-1	26.2	64.8	250.0	77.9	735.0	-	
Ⅱ-13-46	12-15	449	1303	飲料水瓶	MIZO-03	-	1	完形	E型-3	緑色-2-2	-	65.8	242.0	67.4	390.0	-	
Ⅱ-13-47	12-16	426	1438	薬品瓶	MIZO-03	-	3	完形	コルク-3	水色-2-1	16.6	24.9	61.1	26.4	24.4	-	目盛り有
Ⅱ-13-48	13-17	433	1439	コップ	MIZO-03	-	3	略完形	広口-4	透明-1-1	74.5	53.8	92.3	73.5	(175.2)	-	
Ⅱ-13-49	13-18	456	1606	薬品瓶	MIZO-03	-	0	完形	コルク-3	青色-1-1	15.9	17.8	68.6	30.4	26.5	一神薬　伊藤回生堂	山口県伊藤回生堂
Ⅱ-13-50	13-19	401	2815	目薬瓶	MIZO-03	-	0	完形	コルク-2	青色-1-2	18.2	21.6	75.9	35.1	47.61	側面に「強壮堂」	
Ⅱ-13-51	13-20	415	2559	薬品瓶	MIZO-03	-	0	胴-底	不明-3	褐色-1-1	-	35.4	(62.6)	35.3	(28.9)	底に「對」	
Ⅱ-13-52	13-21	416	2754	化粧品瓶	MIZO-03	-	0	口-底	スクリュウ—2	乳白色-0-0	58.3	62.8	(49.5)	60.3	(93.0)	-	
Ⅱ-13-53	13-22	455	1472	化粧品瓶	MIZO-03	-	4	完形	スクリュウ—3	透明-1-1	43.6	48.2	40.2	48.6	69.24	底に「5178B」	
Ⅱ-13-54	13-23	431	2541+2542+2543	火屋	MIZO-03	-	4	口	広口-X	透明-0-0	66.6	-	(44.5)	(77.3)	(27.3)	-	
Ⅱ-13-55	13-24	443	2547	板ガラス	MIZO-03	-	0	胴-底	不明-X	透明-0-0	-	-	-	63.1	(110.8)	-	長さ87.3mm 厚さ8.3mm

表Ⅱ-10　MIZO-03出土金属製品属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	計測値(mm) 短軸	計測値(mm) 厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-14-56	13-25	-	1626	窓鍬	MIZO-03D	H-26	1B	-	281.0	216.0	42.4	1,450.0	Fe.	亀裂有り
Ⅱ-14-57	13-26	-	1627	鋤鉄	MIZO-03D	H-26	1B	尋常	98.0	101.3	5.7	121.3	Fe.	鋲釘1本付き
Ⅱ-14-58	13-27	-	1365	鋤鉄	MIZO-03-4	H-17	4	尋常	90.0	94.1	6.1	111.3	Fe.	鋲釘1本付き
Ⅱ-14-59	13-28	-	1336-1	洋釘	MIZO-03-3	H-17	3	1寸	44.6	8.5	4.4	1.3	Fe.	
Ⅱ-14-60	13-29	-	1339-1	洋釘	MIZO-03-3	H-17	3	3寸	71.0	20.0	4.5	4.2	Fe.	くの字状
Ⅱ-14-61	13-30	-	1339-2	洋釘	MIZO-03-3	H-17	3	3寸	81.7	7.6	3.6	4.4	Fe.	弓状
Ⅱ-14-62	13-31	-	1629-1	鎚	MIZO-03D	H-26	1B	-	132.1	37.9	6.5	55.9	Fe.	
Ⅱ-14-63	13-32	-	1629-2	針金	MIZO-03D	H-26	1B	-	69.3	30.5	3.6	9.6	Fe.	変形
Ⅱ-14-64	13-33	-	1336-2	針金	MIZO-03-3	H-17	3	J字状	52.9	20.7	3.0	2.5	Fe.	
Ⅱ-15-65	13-34	-	1389	唐 鍬	MIZO-03C	H-20	3	-	230.0	155.0	56.2	1,400.0	Fe.	刃部磨耗
Ⅱ-15-66	13-35	-	1446-1	鎌	MIZO-03C2	H-22	3	-	180.0	115.2	6.0	67.4	Fe.	先刃破損
Ⅱ-15-67	13-36	-	1497	洋釘	MIZO-03C	H-25	3	3寸	91.0	6.6	3.6	5.9	Fe.	
Ⅱ-15-68	13-37	-	1313	洋釘	MIZO-03-3	H-18	3	3寸	89.0	7.2	4.2	6.2	Fe.	
Ⅱ-15-69	13-38	-	1315	洋釘	MIZO-03-3	H-19	3	3寸	88.1	19.0	4.6	4.7	Fe.	使用済み
Ⅱ-15-70	-	-	5012	洋釘	MIZO-03C	-	0	2寸	69.3	12.0	3.0	4.0	Fe.	
Ⅱ-15-71	13-39	-	5095	バール状工具	MIZO-03C	-	0	-	200.0	10.1	7.6	75.6	Fe.	
Ⅱ-15-72	-	-	1496	洋釘	MIZO-03C	H-25	3	2寸	55.8	17.0	5.0	1.7	Fe.	
Ⅱ-15-73	13-40	-	5018	洋釘	MIZO-03B	-	3	3寸	60.8	29.6	3.1	6.2	Fe.	
Ⅱ-15-74	13-41	-	5057	フック状再加工品	MIZO-03C	-	0	-	61.4	33.3	8.3	11.0	Fe.	コの字状
Ⅱ-15-75	13-42	-	5098-1	鋲釘	MIZO-03C	-	0	-	30.2	7.8	4.0	1.8	Fe.	
Ⅱ-15-76	13-43	-	5098-2	鋲釘	MIZO-03C	-	0	-	27.7	6.9	3.5	1.4	Fe.	
Ⅱ-15-77	13-44	-	5098-3	鋲釘	MIZO-03C	-	0	-	27.5	6.6	5.9	1.1	Fe.	
Ⅱ-15-78	13-45	-	5098-4	鋲釘	MIZO-03C	-	0	-	26.5	8.1	6.2	2.0	Fe.	
Ⅱ-15-79	-	-	5098-5	鋲釘	MIZO-03C	-	0	-	28.9	7.5	4.1	1.5	Fe.	

表Ⅱ-11　MIZO-03出土金属製品属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-15-80	13-46	-	5098-6	蹄釘	MIZO-03C	-	0	-	34.7	7.0	4.1	1.4	Fe.	
Ⅱ-15-81	13-47	-	5094	リング状金具	MIZO-03C	-	0	断面丸	50.5	50.5	6.1	26.3	Fe.	
Ⅱ-15-82	13-48	-	1337-1	不明金具	MIZO-03-3	H-17	0	-	59.3	42.6	7.1	24.7	Fe.	靴底の金具？新宿
Ⅱ-15-83	13-49	-	5081	連結金具	MIZO-03C	-	0	-	106.3	42.8	6.2	76.6	Fe.	フックにリング状
Ⅱ-15-84	14-50	-	1386	鋼輪子	MIZO-03C	H-20	3	-	131.6	65.1	50.7	1,390.0	Fe.	有孔
Ⅱ-15-85	14-51	-	5010-4	針金	MIZO-03C	-	0	リング状	138.0	98.0	3.8	29.9	Fe.	
Ⅱ-15-86	-	-	5010-5	針金	MIZO-03C	-	0	U字状	125.0	37.3	13.0	12.7	Fe.	
Ⅱ-15-87	14-52	-	5011-1	針金	MIZO-03C	-	0	「の」字状	170.0	103.0	3.0	45.8	Fe.	
Ⅱ-15-88	14-53	-	5011-3	針金	MIZO-03C	-	0	弓状	107.0	70.0	4.1	15.2	Fe.	
Ⅱ-15-89	14-54	-	5011-2	針金	MIZO-03C	-	0	弓状	168.0	55.0	3.4	14.5	Fe.	
Ⅱ-16-90	14-55	-	1343-2	板状鉄製品	MIZO-03-3	H-17	3	薄板状	115.0	89.3	7.8	70.1	Fe.	
Ⅱ-16-91	14-58	-	5014	鉄鋼片	MIZO-03C	-	0	-	58.7	40.2	5.2	19.5	Fe.	
Ⅱ-16-92	14-56	-	5173	帯板状鉄製品	MIZO-03	B地区	0	-	112.4	21.8	9.0	24.0	Fe.	軌道枕木等の下　人為切断痕
Ⅱ-16-93	14-57	-	5029	キャスター	MIZO-03C	-	0	車軸4輪	190.0	147.0	15.2	170.6	Fe.	各端部に車付き
Ⅱ-16-94	14-59	-	1282	蹄鉄	MIZO-03-3	H-20	1	氷上	118.1	124.4	9.3	156.4	Fe.	左前、磨耗著
Ⅱ-16-95	14-60	-	5051-1	蹄鉄	MIZO-03	-	0	氷上	150.0	149.0	21.5	250.0	Fe.	右前
Ⅱ-16-96	14-61	-	5166	蹄鉄	MIZO-03C	-	0	氷上	44.1	23.2	6.3	47.0	Fe.	中央先端片、未使用
Ⅱ-16-97	14-62	-	5311	レンガ片	MIZO-03C	-	0	被熱発泡	52.0	34.9	16.5	17.9	-	ガラス質化著
Ⅱ-16-98	14-63	-	5315	銭貨	-	17～21	3	(新)寛永通宝	21.5	21.5	0.8	0.8	Cu.	
Ⅱ-16-99	14-64	-	1294	さな	MIZO-03-3	H-17	3	楕円形(ロストル)	151.0	117.2	6.8	435.0	Fe.	
Ⅱ-16-100	14-65	-	1293	さな	MIZO-03-3	H-17	3	円形(ロストル欠)	131.4	133.5	6.2	248.0	Fe.	
Ⅱ-16-101	14-66	-	5001	包丁	MIZO-03	-	0	-	197.0	45.6	3.7	90.0	Fe.	頭部破損
Ⅱ-16-102	14-67	-	5034	錠	MIZO-03B	-	0	-	150.8	83.4	7.6	69.9	Fe.	一部欠
Ⅱ-16-103	14-68	-	1331	建具かんな歯	MIZO-03B	H-22	2	半円状	66.8	40.3	6.1	23.2	Fe.	
Ⅱ-16-104	15-69	-	1369	スコップ製鉄製品	MIZO-03B	H-20	2	パイプ状	112.7	25.9	4.5	80.3	Fe.	
Ⅱ-16-105	15-70	-	5071	スパナ	MIZO-03	-	0	工具	147.4	41.7	15.2	101.2	Fe.	金属部分のみ
Ⅱ-16-106	15-71	-	5064	ボルト・ナット	MIZO-03	-	0	-	104.2	17.3	7.2	47.9	Fe.	ボルト・ナット付き
Ⅱ-17-107	15-72	-	5026	締め金具	MIZO-03	-	0	帯板状	215.0	22.9	2.6	44.3	Fe.	
Ⅱ-17-108	15-73	-	5073	錠	MIZO-03	-	0	断面丸形	82.6	71.9	10.2	52.0	Fe.	
Ⅱ-17-109	15-74	-	5153	不明金具	MIZO-07-B3	-	0	Y字状	126.1	56.8	8.8	54.0	Fe.	人為切断痕
Ⅱ-17-110	15-75	-	5004	連結金具	MIZO-03	-	0	-	128.8	82.0	11.7	200.0	Fe.	リング状と長方形連結
Ⅱ-17-111	15-76	-	5039	連結金具	MIZO-03	-	0	かん	105.9	19.8	10.9	69.1	Fe.	有孔
Ⅱ-17-112	-	-	5072	連結式フック	MIZO-03	-	0	-	81.8	25.1	6.0	40.1	Fe.	
Ⅱ-17-113	-	-	5324	リング状金具	MIZO-03C	-	0	楕円	83.0	28.1	5.4	13.0	Fe.	
Ⅱ-17-114	15-77	-	1330	蝶番？	MIZO-03B	H-22	2	厚板状	98.3	44.6	10.2	215.0	Fe.	ボルト有孔
Ⅱ-17-115	15-78	-	5003	不明金具	MIZO-03	-	0	-	102.4	40.9	13.8	218.0	Fe.	有孔
Ⅱ-17-116	15-79	-	5087	取付金具	MIZO-03	-	0	-	154.0	20.3	6.5	116.0	Fe.	把手、リベット付き
Ⅱ-17-117	15-80	-	5130	不明金具	MIZO-07-B3	-	0	板状	197.0	31.9	16.3	505.0	Fe.	有孔(5穴)
Ⅱ-17-118	15-81	-	5069-1	ベルトフック	MIZO-03	-	0	-	163.0	90.0	5.9	37.8	Fe.	欠損
Ⅱ-17-119	15-82	-	5069-2	ベルトフック	MIZO-03	-	0	-	104.0	130.0	8.6	68.8	Fe.	
Ⅱ-17-120	15-83	-	5019-4	針金	MIZO-03B	-	3	-	116.0	53.0	3.0	16.3	Fe.	
Ⅱ-17-121	15-84	-	1360	リング状金具	MIZO-03B	H-22	2	-	89.4	34.4	3.6	11.2	Fe.	
Ⅱ-17-122	15-85	-	5037-1	針金状製品	MIZO-03	-	0	U字状	82.0	24.4	3.8	12.9	Fe.	半円状連結
Ⅱ-17-123	15-86	-	5037-2	針金状製品	MIZO-03	-	0	U字状	34.5	38.7	3.4	4.5	Fe.	半円状連結
Ⅱ-17-124	15-87	-	5140-a	針金製品	MIZO-07-B2	-	0	S字状	83.0	28.1	5.4	7.5	Fe.	折れ
Ⅱ-17-124	15-87	-	5140-b	針金製品	MIZO-07-B2	-	0	S字状	112.0	32.5	7.1	11.5	Fe.	

表Ⅱ-12　MIZO-03出土金属製品属性表(3)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-18-125	-	-	5144	針金製品	MIZO-07-B2	-	0	J字状	225.0	29.3	6.3	22.1	Fe.	
Ⅱ-18-126	15-88	-	1329-1	針金	MIZO-03B	H-25	2	リング状	249.0	142.0	2.6	17.2	Fe.	
Ⅱ-18-127	15-89	-	1251	パイプ状鋼製品	MIZO-03B	H-25	2	-	78.7	57.3	12.4	235.0	Fe.	鋳造関係用品？
Ⅱ-18-128	15-90	-	5089	鉄鍋片	MIZO-03	-	0	-	105.2	95.5	3.4	69.7	Fe.	
Ⅱ-18-129	16-91	-	5092-2	蹄鉄	MIZO-03	-	0	尋常	120.0	124.0	6.5	160.0	Fe.	変形、鉄片付
Ⅱ-18-130	16-92	-	5002	蹄鉄	MIZO-03	-	0	尋常	113.7	103.7	5.5	150.1	Fe.	蹄釘3本付
Ⅱ-18-131	16-93	-	5078-4	蹄鉄	MIZO-03	-	0	尋常	128.7	58.0	84.0	89.8	Fe.	人為的断截
Ⅱ-18-132	16-94	-	5078-2	蹄鉄	MIZO-03	-	0	氷上	103.2	86.9	15.9	152.7	Fe.	摩耗
Ⅱ-18-133	16-95	-	5092-1	蹄鉄	MIZO-03	-	0	氷上	115.0	112.0	5.8	195.0	Fe.	左蹄
Ⅱ-18-134	16-96	-	5078-1	蹄鉄	MIZO-03	-	0	氷上	113.0	108.6	15.4	152.9	Fe.	摩耗、蹄釘1本付
Ⅱ-18-135	16-97	-	5093	杯	MIZO-03	-	0	-	75.3	74.4	16.2	32.0	Sn.	第七師団凱旋記念
Ⅱ-19-136	16-98	-	5280-1	スラグ	MIZO-03D	-	0	椀形滓	57.2	61.0	20.3	43.2	Fe.	
Ⅱ-19-137	-	-	5328-1	スラグ	MIZO-03C	-	0	流動滓	57.3	53.3	38.6	113.3	Fe.	
Ⅱ-19-138	-	-	5325-1	スラグ	MIZO-03C	-	0	流動滓	86.7	37.7	29.6	73.7	Fe.	
Ⅱ-19-139	-	-	5320	スラグ	MIZO-03C2	-	4	流動滓	49.4	31.5	27.7	15.8	Fe.	
Ⅱ-19-140	16-99	-	1275	スラグ	MIZO-03B	H-21	2	椀形滓	65.8	67.2	24.3	63.1	Fe.	
Ⅱ-19-141	16-100	-	1276	スラグ	MIZO-03B	H-22	2	椀形滓	58.2	56.0	24.7	69.7	Fe.	
Ⅱ-19-142	-	-	5283	スラグ	MIZO-03B	-	0	椀形滓	89.3	64.5	32.3	100.0	Fe.	
Ⅱ-19-143	-	-	5285	スラグ	MIZO-03	-	0	椀形滓	71.0	12.0	36.7	171.6	Fe.	
Ⅱ-19-144	-	-	1274	スラグ	MIZO-03B	H-21	2	流動滓	85.6	60.4	47.9	71.8	Fe.	塊状
Ⅱ-19-145	-	-	1271	スラグ	MIZO-03B	H-21	2	流動滓	53.1	28.6	24.9	14.6	Fe.	塊状
Ⅱ-19-146	-	-	5282	スラグ	MIZO-03B	-	0		51.3	37.3	18.7	15.0	Fe.	
Ⅱ-19-147	-	-	5280-2	石炭	MIZO-03D	-	0	-	74.7	41.9	26.7	59.6	Coa.	
Ⅱ-19-148	-	-	5323-2A	石炭	MIZO-03C2	-	0	-	83.9	42.7	26.2	65.9	Coa.	
Ⅱ-19-149	-	-	5323-1	木炭	MIZO-03C2	-	0	-	41.9	40.7	39.3	16.9	Cha.	

表Ⅱ-13　MIZO-03出土石製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	石質	備考
Ⅱ-20-150	16-101	-	2404	硯	MIZO-03-D	-	2	-	136.6	63.4	16.8	320.0	Sl.	背面に「ワキタトシヲ」
Ⅱ-20-151	16-102	-	1509	砥石	MIZO-03-D	-	4	-	90.9	74.4	14.7	168.3	Mud.	

表Ⅱ-14　MIZO-03出土木製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-20-152	16-103	11	1631	横槌	MIZO-03-D	-	0	-	243.0	78.0	75.0	-	-	完形　Ⅱ層上の洪水シルト流れ込みから出土
Ⅱ-20-153	16-104	-	1464-1	角杭	MIZO-03-02	-	0	板目	158.0	49.0	18.0	-	-	完形
Ⅱ-20-154	16-105	-	1645	枕木	MIZO-03-C	-	0	板柾	1,487.0	140.0	85.0	-	-	完形　釘跡2ヵ所

表Ⅱ-15　MIZO-04出土陶磁器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-23-1	-	249	1537+8014	磁器　中碗(平)	MIZO-04-5	17~21	0	口-底	型紙摺絵	-	-	37.1	48.5	(81.7)	瓔珞文	みじん唐草松皮菱区画、松樹文、青海波文、窓絵四弁花文と梅花文	-	

表Ⅱ-16 MIZO-04出土陶磁器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-23-2	-	342	7425	磁器 中碗(深形)	MIZO-04-AB-3	-	0	口	型紙摺絵	-	-	-	42.1	(20.9)	-	よろけ縞による市松文地に蝶鈴文	-	
Ⅱ-23-3	-	336	7421	磁器 中皿	MIZO-04-4	-	1	底	染付	蛇の目凹型高台	-	-	20.5	(44.8)	一旦山水文(?)		-	19c、肥前系
Ⅱ-23-4	-	337	7356	陶器 土瓶	MIZO-04-4	-	0	口	-	-	-	-	(41.3)	(18.2)			-	大堀相馬の青土瓶 19c前～中(幕末)
Ⅱ-23-5	-	315	7387	陶器 小甕	MIZO-04-5	-	0	口-胴	-	-	-	-	75.6	(83.1)	-	-	-	瀬戸
Ⅱ-23-6	-	308	7346	陶器 焼酎徳利	MIZO-04-3	-	0	口	-	-	45.4	-	83.5	(124.1)	-	-	-	新潟県松郷屋
Ⅱ-23-7	-	311	7345	陶器 焼酎徳利	MIZO-04-3	-	0	胴-底	-	-	-	67.5	113.5	(460.0)	-	-	-	新潟県松郷屋

表Ⅱ-17 MIZO-04出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-23-8	17-1	419	1510	ビール瓶	MIZO-04	-	1	胴-底	不明-1	濃褐色-3-2	-	79.2	(278.0)	81.1	(880.0)	大日本麦酒株式会社登録・商標	
Ⅱ-23-9	17-2	412	1536	ウィスキー瓶	MIZO-04	-	1	口-胴	スクリュー-X	薄褐色-0-0	28.8	-	(87.3)	70.2	(71.9)	-	アルミキャップ付き「ニッカウィスキー」昭和26年以降
Ⅱ-23-10	17-3	454	1535	飲料水瓶	MIZO-04	-	1	胴-底	不明-4	緑色-3-1	-	65.6	(87.0)	65.5	(153.8)	-	
Ⅱ-23-11	17-4	414	1508	薬品瓶	MIZO-04	-	1	完形	コルク-3	濃青色-0-0	13.6	18.8	62.5	18.9	23.2	-	

表Ⅱ-18 MIZO-04出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-24-12	17-5	-	5104-2	洋釘	MIZO-04-5	H-6～9	0	1寸	40.5	4.2	3.0	1.2	Fe.	
Ⅱ-24-13	17-6	-	5100	洋釘	MIZO-04-5	H-6～9	0	3寸	85.9	8.3	3.3	5.7	Fe.	
Ⅱ-24-14	17-7	-	1507	洋釘	MIZO-04-3	H-011	1	3寸	58.8	38.9	2.6	2.7	Fe.	
Ⅱ-24-15	17-8	-	1513	犬釘	MIZO-04-3	H-014	2	断面方形	77.8	20.6	9.3	45.5	Fe.	
Ⅱ-24-16	17-9	-	5113	犬釘	MIZO-04-3	H-6～9	0	断面方形	91.6	19.8	10.2	63.7	Fe.	
Ⅱ-24-17	17-10	-	5114	バール状工具	MIZO-04-3	H-6～9	0	棒状	117.4	10.4	7.0	21.4	Fe.	
Ⅱ-24-18	17-11	-	1502	備中鍬	MIZO-04-2	H-010	1	-	297.0	114.0	34.0	545.0	Fe.	爪3本
Ⅱ-24-19	17-12	-	1516	和ハサミ	MIZO-04-3	H-015	2	-	154.2	49.6	4.0	49.4	Fe.	一部欠
Ⅱ-24-20	17-13	-	1520	連結金具	MIZO-04-4	H-013	1	-	93.9	50.3	5.1	51.1	Fe.	△と□
Ⅱ-24-21	17-14	-	5101	リング状金具	MIZO-04	H-6～9	1	断面丸形	49.1	47.3	5.7	16.0	Fe.	
Ⅱ-24-22	17-15	-	5102	リング状金具	MIZO-04-5	H-6～9	0	断面丸形	53.3	51.1	4.1	11.0	Fe.	
Ⅱ-24-23	17-16	-	1534	蹄鉄	MIZO-04-2	H-010	1	尋常	99.4	103.9	5.5	88.2	Fe.	蹄釘4本付
Ⅱ-24-24	17-17	-	1503	蹄鉄	MIZO-04-2	H-010	1	尋常	86.5	111.7	4.6	70.2	Fe.	消耗
Ⅱ-24-25	17-18	-	1521	梁きょう	MIZO-04-4	H-013	2	付出紙	42.8	18.6	12.9	6.7	Br.	

表Ⅱ-19 MIZO-04出土木製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-25-26	17-19	-	1511	丸杭	MIZO-04-2	-	0	-	723.0	35.0	122.0	-	-	ほぼ完形 上端切断痕 先端加工不明瞭
Ⅱ-25-27	17-20	-	1527	角杭	MIZO-04-4	-	0	柾目	400.0	42.0	34.0	-	-	一部欠 上端腐食
Ⅱ-25-28	17-22	-	1532	角杭	MIZO-04-4	-	0	柾目	463.0	60.0	29.0	-	-	上部欠
Ⅱ-25-29	17-21	-	1525	角杭	MIZO-04-4	-	0	柾目	334.0	41.0	32.0	-	-	一部欠 上端欠

表Ⅱ-20　MIZO-06出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
図Ⅱ-22-1			5157	座金	MIZO-06-C	-	0	方形	57.8	57.8	6.2	69.6	Fe.	

表Ⅱ-21　MIZO-07出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-28-1	-	307	1680	磁器　中碗(平)	MIZO-07-B3・F	-	3	胴-底	型紙摺絵	目跡3ヶ所	-	39.7	(43.1)	(34.2)	-	波状区画に小紋尽くし文	-	底部
Ⅱ-28-2	-	231	7464+8480	磁器　中碗(平)	MIZO-07-A2	H-63	0	略完形	銅版転写	口縁部瑠璃釉	117.3	40.1	45.2	(141.0)	-	丸文(緑、青)	-	瀬戸・美濃 明治30年以降
Ⅱ-28-3	-	340	7623	磁器　中碗(丸)	MIZO-07	-	0	口-底	-	内外緑釉	-	42.4	52.5	(109.7)	-	-	-	瀬戸・美濃 明治20年以降
Ⅱ-28-4	-	278	1679+8256	磁器　中碗(蓋)	MIZO-07	51	0	略完形	手描色絵	銅版転写	37.2	102.0	25.4	(71.5)	瓔珞文(青)(銅版)	上絵　桐文、唐草文、花文(水色、赤、青、緑、黄)	-	
Ⅱ-28-5	-	243	7501-3+7844+7489	磁器　小碗	MIZO-07-A2	61～63	0	口-底	銅版転写	-	79.5	37.3	47.2	(96.6)	-	菊花文、雲文(青、ピンク)	-	
Ⅱ-28-6	-	273	7437+7463+7490-1	磁器　鉢	MIZO-07-A2	-	1	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	98.2	56.6	(205.0)	青海波文地、窓絵牡丹文(青、緑)	圏線(青)	鶴丸文	
Ⅱ-28-7	-	267	7505	磁器　小皿	MIZO-07-B3	-	0	口-底	型紙摺絵	-	(91.7)	(65.3)	19.5	(25.0)		-	-	
Ⅱ-28-8	-	306	1657	磁器　湯呑	MIZO-07-C2	-	2	完形	銅版転写	-	51.9	36.9	60.8	120.0	-	松竹梅文(青)	-	
Ⅱ-28-9	-	293	7507+7876	磁器　段重蓋	MIZO-07-B3	22～25	0	上-下	型紙摺絵	-	-	-	27.2	(135.8)	-	七宝繋ぎ文地丸文	-	
Ⅱ-28-10	-	260	7465	磁器　酒杯	MIZO-07-A2	-	0	略完形	銅版転写	-	20.3	62.0	20.5	(23.1)	-	牡丹文(青)	-	
Ⅱ-28-11	-	284	1668	炻器　急須蓋	MIZO-07-B2	-	0	-	手描色絵	-	-	57.8	18.2	(19.6)	-	上絵　富士山と丹頂鶴	-	B1より古く、B3より新しいⅡ-28-12と同一個体
Ⅱ-28-12	-	314	1655+1655-3・4+1667	炻器　急須	MIZO-07-B2・C2	-	0	口-底	手描色絵	-	62.5	42.3	47.0	(48.1)	-	上絵　鶴(白、赤、黒)	-	萬古焼 B1より古く、B3より新しいⅡ-28-12と同一個体

表Ⅱ-22　MIZO-07出土ガラス製品属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-29-13	18-1	445	1577	清酒瓶	MIZO-07	-	1	口-胴	コルク-X	水色-1-3	25.6	-	(121.6)	(36.3)	(71.4)	-	
Ⅱ-29-14	18-2	420	2579	ビール瓶	MIZO-07	-	0	胴-底	不明-4	濃褐色-3-1	-	76.0	(144.0)	82.0	(490.0)	大日本麦酒株式会社登録商標	
Ⅱ-29-15	18-3	439	1580+1579+1582	飲料水瓶	MIZO-07	-	1	完形	王冠-X	緑色-2-1	26.0	63.6	229.0	66.2	320.0	-	
Ⅱ-29-16	18-4	438	1819	飲料水瓶	MIZO-07	-	1	完形	王冠-3	薄緑-2-1	26.4	66.0	236.0	67.1	495.0	-	
Ⅱ-29-17	18-5	423	1287	食品瓶	MIZO-07	-	1	胴-底	不明-2	褐色-2-1	-	45.4	(89.3)	47.8	(101.5)	ANGEL OIL	
Ⅱ-29-18	18-6	421	1574	化粧品瓶	MIZO-07	-	1	完形	コルク-3	透明-1-1	21.6	37.4	126.1	55.8	143.3	胴　底に「4」	
Ⅱ-29-19	18-7	425	1585	薬品瓶	MIZO-07	-	1	完形	コルク-4	濃青色-2-3	17.6	25.8	59.8	26.9	26.7	-	目盛り有
Ⅱ-29-20	18-8	435	1588	化粧品瓶	MIZO-07	-	1	完形	コルク-3	透明-1-3	16.3	24.7	68.8	25.7	24.0	底に「コ」	
Ⅱ-29-21	18-9	422	2745+1562+1563+1565	化粧品瓶	MIZO-07	-	3	完形	スクリュウー-2	乳白色-0-0	33.4	87.2	32.4	35.3	45.1	-	
Ⅱ-29-22	18-10	424	1562	化粧品瓶	MIZO-07	-	1	完形	スクリュウー-4	乳白色-2-1	41.9	43.3	39.4	42.6	37.7	-	胴上復元
Ⅱ-29-23	18-11	429	1671	ランプ油壺	MIZO-07-2	-	2	口-胴	-	透明-1-2	22.0	-	(22.0)	(81.2)	(26.5)	-	
Ⅱ-29-24	18-12	434	2626	瓶蓋	MIZO-07	-	0	完形	-	透明-1-3	-	-	36.4	30.6	19.6	-	

表Ⅱ-23　MIZO-07出土ガラス製品属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類		計測値(mm)				重量(g)	エンボス	備考
									口・底形状	色・気泡	口径	底径	器高	幅			
Ⅱ-29-25	18-13	430	2725	おはじき	MIZO-07	-	0	完形	-	青色-1-2	-	19.2	4.4	19.3	2.9	-	
Ⅱ-29-26	-	458	2624+2649～2654+2656+2658～2661+2721～2723+2757	照明器具ランプ笠	MIZO-07	-	1	1/2残存	-	乳白色-0-0	-	-	-	-	(245.0)	-	

表Ⅱ-24　MIZO-07出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-30-27	18-14	-	5152	大釘	MIZO-07-B3	-	0	-	96.1	28.1	12.0	68.6	Fe.	
Ⅱ-30-28	18-15	-	5134	移植ごて	MIZO-07-A2	-	0	柄	111.4	28.2	8.1	35.5	Fe.	プレス加工製品
Ⅱ-30-29	18-16	-	1650	パイプ状鉄製品	MIZO-07-C2	-	2	薄板状	131.1	28.5	9.8	64.2	Fe.	針金ノ有
Ⅱ-30-30	18-17	-	1812	スコップ状製品	MIZO-07CF	-	1	薄板状	121.8	63.8	13.4	68.0	Fe.	欠損
Ⅱ-30-31	18-18	-	5155-2	蹄鉄	MIZO-07-B3	-	0	通常	109.1	108.9	7.2	110.1	Fe.	磨耗著、鋳造？
Ⅱ-30-32	18-19	-	5155-4	蹄鉄	MIZO-07-B3	-	0	通常	103.0	115.1	5.6	75.3	Fe.	一部欠 後ん？
Ⅱ-30-33	18-20	-	5155-3	蹄鉄	MIZO-07-B3	-	0	通常	96.1	104.6	7.0	81.8	Fe.	蹄釘1本付 一部欠
Ⅱ-30-34	18-21	-	5128	針金	MIZO-07-B3	-	0	リング状	117.0	117.0	4.0	28.4	Fe.	
Ⅱ-30-35	18-22	-	1813-2	針金製品	MIZO-07CF	-	1	J字状	97.3	85.1	5.0	16.0	Fe.	
Ⅱ-30-36	18-23	-	1813-1	針金製品	MIZO-07CF	-	1	S字状	160.0	50.0	5.3	15.3	Fe.	
Ⅱ-30-37	18-24	-	5300	キセル	MIZO-07CF	-	1	雁首	63.8	10.4	10.2	15.7	Cu.	
Ⅱ-30-38	18-25	-	5302	キセル	MIZO-07	-	0	吸口	73.5	10.9	10.9	11.9	Cu.	
Ⅱ-30-39	18-26	-	5308	蓋	MIZO-07	-	0	-	27.8	27.8	5.8	5.5	Br.	
Ⅱ-30-40	18-27	-	5304-2	紫きよう	MIZO-07	-	0	-	36.0	16.5	14.2	13.8	Br.	

表Ⅱ-25　ⅡP-01出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-31-1	-	-	1642	漏斗状鉄製品	ⅡP-01	Ⅱ-18	6	薄板状	170.0	66.0	19.0	50.0	Fe.	

表Ⅱ-26　0P-01出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類		計測値(mm)				重量(g)	エンボス	備考
									口・底形状	色・気泡	口径	底径	器高	幅			
Ⅱ-34-1	19-1	10	11019	ワイン瓶	0P-01	G-21	0	完形	コルク-4	濃褐色-2-1	22.6	79.0	292	78.5	770.0	-	

表Ⅱ-27　0P-01出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-34-2	19-2	-	11232	鰭釘	0P-01	G-21	0	-	39.7	8.1	5.6	1.7	Fe.	
Ⅱ-34-3	19-3	-	11231	鰭釘	0P-01	G-21	0	-	25.3	7.2	4.6	1.4	Fe.	

表Ⅱ-28　0P-01出土木製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	高台径	高台高さ			
Ⅱ-34-4	19-4	-	-	漆器	0P-01	G-21	覆土	椀蓋	127.0	45.0	8.0	19.1	-	一部木質残り、内面赤漆、外面黒漆

表Ⅱ-29　0P-03出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	施付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-34-5	-	201	10018	磁器 小碗	0P-03	G-21	0	完形	銅版転写	-	80.4	30.1	45.8	103.1	-	桔梗、菊、鳥と川(青、緑、茶)、圏線(青)	-	-

表Ⅱ-30　0P-03出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類 部位・状態	口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-34-6	19-5	-	11022	清酒瓶	0P-03	G-21	0	胴-底	不明-5	水色-2-2	-	70.5	(120.0)	73.5	(260.0)	-	

表Ⅱ-31　0P-03出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-34-7	19-6	-	11108	蹄鉄	0P-03	G-21	0	平常	88.9	99.2	6.7	88.40	Fe.	前右
Ⅱ-34-8	19-7	-	11105	蹄鉄	0P-03	G-21	0	氷上	110.0	111.1	6.7	148.00	Fe.	後左
Ⅱ-34-9	19-8	-	11103	蹄鉄	0P-03	G-21	0	氷上	85.0	114.1	16.9	138.10	Fe.	後右

表Ⅱ-32　0P-04出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類 部位・状態	口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-35-1	19-9	-	11061	調味料瓶	0P-04	G-II-22	0	完形	コルク-4	水色-2-2	26.5	61.0	234.0	62.0	345.0	-	
Ⅱ-35-2	19-10	-	10997	薬瓶	0P-04	G-II-22	0	完形	コルク-3	濃青色-2-2	16.0	28.0	58.0	26.3	23.8	-	目盛り有
Ⅱ-35-3	19-11	-	10994	薬瓶	0P-04	G-II-22	0	完形	コルク-3	濃青色-2-2	16.0	27.3	54.5	27.1	26.2	-	目盛り有
Ⅱ-35-4	19-12	-	11003	薬瓶	0P-04	G-II-22	0	完形	コルク-3	透明-2-1	17.0	39.0	85.0	40.5	41.3	-	目盛り有
Ⅱ-35-5	19-13	-	11013	薬瓶	0P-04	G-II-22	0	完形	ガラス栓-1	透明-1-1	30.6	36.5	84.2	37.8	28.3	-	
Ⅱ-35-6	19-14	-	11015	糊瓶	0P-04	G-II-22	0	完形	スクリュウ--3	水色-3-1	64.5	67.0	59.0	67.8	162.1	-	

表Ⅱ-33　0P-04出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-35-7	19-15	-	11100	大釘	0P-04	G-II-22	0	-	88.9	99.2	6.7	88.4	Fe.	
Ⅱ-35-8	19-16	-	11105	和釘	0P-04	G-II-22	0	-	110.0	111.1	6.7	148.0	Fe.	
Ⅱ-35-9	19-17	-	11230	鎹	0P-04	G-II-22	0	-	124.0	69.5	72.1	172.5	Fe.	
Ⅱ-35-10	19-18	-	11101	蹄鉄	0P-04	G-II-22	0	氷上	128.0	129.0	7.0	220.0	Fe.	
Ⅱ-35-11	19-19	-	11229	蹄鉄	0P-04	G-22	0	氷上	104.4	113.7	113.7	6.5	Fe.	

表Ⅱ-34　0P-04出土骨製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-35-12	19-20	-	11089	骨製歯ブラシ	0P-04	G-II-22	0	II	(99.4)	12.0	5.0	(8.2)	B	

表Ⅱ-35　0P-05出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-35-1	-	30	10115	磁器 中碗蓋	0P-05	H-22	0	口-底	手描色絵+銅版転写	-	42.5	97.4	30.1	(100.8)	雷文(青)	上絵手描、草花文(橙、緑、青、黒、金)、圏線(青)	松竹梅丸文(銅版)	高台内銘「錦盛精製」
Ⅱ-35-2	-	136	10139	磁器 中皿	0P-05	H-22	0	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	(78.1)	37.8	(84.9)	粒文地唐獅子文、窓絵牡丹文	桜花唐草文	松文	
Ⅱ-35-3	-	205	10460	磁器 小皿	0P-05	H-22	0	口-底	銅版転写	-	117.8	69.1	23.7	(104.5)	ばしょう文(青)	-	五弁花丸文(青)	

表Ⅱ-36　0P-06出土陶磁器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-36-1	-	228	7293-1	磁器 中碗(丸)	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	手描色絵	-	89.2	31.2	40.8	(74.2)	-	上絵 唐人?団扇?(赤、肌色、黄、黒、緑)	-	口縁部(赤)
Ⅱ-36-2	-	268	7292	磁器 中碗(平)	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	銅版転写	-	(66.0)	39.2	42.7	(56.7)	-	花文、圏線(青、緑、茶)	-	瀬戸・美濃 明治30年以降
Ⅱ-36-3	-	255	7120+7303	磁器 中碗(平)	0P-06 MIZO-03-D	H-23·24	黒下	口-底	銅版転写	-	(67.2)	38.8	47.1	(83.3)	-	孔雀?文(青)	-	
Ⅱ-36-4	-	269	7309	磁器 中碗蓋	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	銅版転写	-	-	-	27.9	(52.5)	-	松竹梅文(青)	-	
Ⅱ-36-5	-	304	1639+7316+7328	磁器 中皿	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台 目跡4ヶ所	138.8	82.6	40.2	(197.3)	青海波文地熨斗文	みじん唐草梅花文、圏線	松竹梅丸文	銘部?軌道より古い
Ⅱ-36-6	-	303	7253+7254+7542	磁器 中皿	0P-06	H-23	黒上 0	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	(136.0)	77.3	35.9	(16.7)	粒文地鼠、窓絵折枝菊文	鳳凰文、圏線	松竹梅丸文	
Ⅱ-36-7	-	265	1641+7166-3+7256+7324	磁器 小皿	0P-06 MIZO-03-D	H-23·24	黒下	完形	型紙摺絵	-	126.7	72.5	23.9	172.8	粒文、窓絵松文、竹文、梅文	-	千鳥丸文	軌道より古い
Ⅱ-36-8	-	266	7311	磁器 小皿	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	型紙摺絵	-	-	57.3	18.5	(38.8)	みじん唐草、窓絵松樹文	-	波紋、千鳥	
Ⅱ-36-9	-	257	7319	磁器 段重	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	型紙摺絵	-	108.2	99.6	33.3	(120.3)	-	毘沙門亀甲、七宝繋ぎ、窓絵折枝菊文(青、緑)	-	接ぎ?の痕跡有
Ⅱ-36-10	-	258	1640+1638+7336+10140	磁器 段重	0P-06	H-23·24	黒下	略完形	型紙摺絵	-	104.6	35.6	105.1	(93.8)	-	七宝繋ぎ文、窓絵菊文(青、緑)	-	軌道より古い
Ⅱ-36-11	-	229	7307	磁器 湯呑み	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	銅版転写	-	50.5	36.4	59.8	(42.6)	-	上絵唐子、花文(緑、青、ピンク、赤、黄)、圏線(赤)	-	
Ⅱ-36-12	-	295	7304	磁器 小杯(端反)	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	染付	-	-	(28.6)	45.2	(20.8)	-	上絵人物文(赤)	-	
Ⅱ-36-13	-	271	7330	磁器 紅猪口	0P-06	H-23·24	黒下	口-底	-	型押し	-	(20.2)	15.0	(6.8)	-	蛸唐草文	-	接ぎ?の痕跡有
Ⅱ-36-14	-	334	7119+7266+7285+7286+7287+7800+10619	陶器 擂鉢	0P-06 MIZO-03-D	H-23	0	口-底	-	-	-	(140.1)	(140.0)	(1,160.0)	-	底に「小」の刻押し有(産地不明)	-	
Ⅱ-36-15	-	312	7289	陶器 焼酎徳利	0P-06	H-23·24	黒下	胴-底	-	-	-	73.5	(69.9)	(119.9)	-	-	-	[illegible]
Ⅱ-37-16	-	8	10001	磁器 中碗(端反)	0P-06	H-23·24	0	口-底	手描色絵	-	101.3	35.0	46.2	(98.3)	-	上絵、草花文(赤、青、緑、黒)	宝文(赤)	
Ⅱ-37-17	-	241	7241	磁器 小坏	0P-06	H-23·24	0	完形	染付	口唇部鉄釉	87.9	39.6	52.8	161.4	四方襷文	連弁文	-	
Ⅱ-37-18	-	234	1636+7245	磁器 中碗(平)	0P-06	H-23·24	黒上	口-底	型紙摺絵	-	117.6	35.1	45.5	(105.8)	瓔珞文	粒文地桜花文、五弁花文、千鳥	-	軌道より古い
Ⅱ-37-19	-	145	10254	磁器 中碗(丸)	0P-06	H-23·24	0	胴-底	型紙摺絵	目跡3ヶ所	-	45.2	(37.1)	(81.2)	-	花文、圏線	松竹梅丸文	銘部?
Ⅱ-37-20	-	144	10126	磁器 中碗(丸)	0P-06	H-23·24	0	底	型紙印判	-	-	46.7	(31.2)	(104.5)	-	花文、圏線	竹丸文	底辺?
Ⅱ-37-21	-	18	10135+7290	磁器 中碗(平)	0P-06	H-23·24	黒下	完形	型紙摺絵	-	113.7	41.5	49.5	149.6	瓔珞文	粒文七宝繋ぎ文地、菱型区画内桜花二文巴	-	
Ⅱ-37-22	-	165	10238	磁器 中碗(平)	0P-06	H-23·24	0	口	型紙摺絵	-	(104.4)	-	(38.4)	(21.6)	瓔珞文	粒文地 富士、鷹、茄子	-	

表Ⅱ-37　0P-06出土陶磁器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-37-23	-	23	10019	磁器 小碗	0P-06	H-23・24	0	口-底	銅版転写	赤銅版+下絵き	(61.8)	36.1	41.1	(58.6)	-	上絵唐人図(赤、黒、緑、青)、圏線(赤、金)	-	
Ⅱ-37-24	-	104	10437	磁器 小碗	0P-06	H-23・24	0	口-底	銅版転写	-	74.9	43.9	45.5	(75.5)	-	草花文、雲(青)、圏線(青)	-	瀬戸・美濃 明治22年以降
Ⅱ-37-25	-	109	10463	磁器 蕎麦猪口	0P-06	H-23・24	0	口-底	銅版転写	-	(59.7)	56.1	68.0	(72.6)	七宝繋ぎ文(青)	竜雲	雲(青)	
Ⅱ-37-26	-	220	10084	磁器 鉢	0P-06	H-23・24	0	口-底	染付	-	(119.7)	-	53.6	(55.8)	草花文(青)	草花文(青)	-	
Ⅱ-37-27	-	139	10252	磁器 中皿	0P-06	H-23・24	0	胴-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	(61.2)	(46.0)	(97.0)	みじん唐草、松散らし文	下描き唐草文	松竹梅丸文	
Ⅱ-37-28	-	264	7252+7331-1・2+10141	磁器 中皿	0P-06	H-23・24	黒上 黒下 0	略完形	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	147.7	76.5	37.7	255.0	花唐草文、窓絵折枝菊文に蝶	鳳凰、圏線	松竹梅丸文	
Ⅱ-37-29	-	148	10284	磁器 小皿	0P-06	H-23・24	0	底	型紙摺絵	-	-	58.0	(10.9)	(24.0)	松芝祝寿文(くし歯線手描き)、内外面同一模様	-	-	
Ⅱ-37-30	-	143	10259	磁器 小皿	0P-06	H-23・24	0	口-底	型紙摺絵	-	-	-	25.7	(26.2)	鞍文、窓絵桐、桜花文	-	青海波文地桜花文	
Ⅱ-37-31	-	108	10016	磁器	0P-06	H-23・24	0	口-底	染付	-	64.0	27.9	42.9	(47.7)	-	草文、圏線(青)	-	平清水？
Ⅱ-37-32	-	349	7248	磁器 酒坏	0P-06	H-23・24	黒下	口-底	染付？	-	64.1	23.5	26.7	(17.8)	口縁瑠璃釉	口縁瑠璃釉	-	瀬戸・美濃 明治30年以降
Ⅱ-37-33	-	294	7242	磁器 酒坏	0P-06	H-23・24	黒上	口-底	下描色絵	-	83.1	30.7	36.0	(43.1)	上絵丹頂鶴と松文(緑、茶、黒、赤)	-	-	
Ⅱ-37-34	-	318	7271+10567	磁器 瓶徳利	0P-06	H-23・24	黒下	胴	染付	-	-	-	(79.0)	(28.4)	-	渦文	-	
Ⅱ-37-35	-	120	10561	磁器 瓶徳利	0P-06	H-23・24	0	口-底	銅版転写	-	-	-	(153.0)	(85.6)	-	渦文、圏線(青)	-	
Ⅱ-37-36	-	119	10125	磁器 仏花瓶	0P-06	H-23・24	0	口-底	下描色絵	-	66.5	-	116.8	(150.5)	圏線(赤)	上絵 菊、唐草、源氏香文(赤、緑、黄、緑、青)	-	瀬戸
Ⅱ-38-37	-	118	10006+7332+8023	陶器 上瓶	0P-06	H-23・24	黒上 0	口-底	染付	-	85.9	75.0	84.1	(160.1)	-	山水文	-	
Ⅱ-38-38	-	217	10681	陶器 俳徳利	0P-06	H-23・24	0	胴	-	-	-	-	108.6	(100.6)	文字有	-	-	
Ⅱ-38-39	-	162 169	10678+10679+10680+7274	陶器 甕	0P-06	H-23・24	黒上	口-底	-	-	-	(170.0)	158.3	(1,330.0)	-	-	-	
Ⅱ-38-40	-	326	7276	陶器 火鉢	0P-06	H-23・24	0	胴	-	-	-	-	84.3	(52.9)	-	雷文、瓔珞文型押し	-	常滑焼き？

表Ⅱ-38　0P-06出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-38-41	19-21		11052	サイダー瓶	0P-06	H-23・24	0	底	不明 3	濃緑色 1 1		64.0	(33.0)	66.1	(83.2)	底に「三ツ矢」	
Ⅱ-38-42	19-22	441	2517	清酒瓶	0P-06	H-23・24	黒下	口	コルク-X	水色-3-1	20.1	-	(107.0)	(26.9)	(59.6)	-	
Ⅱ-38-43	19-23	442	2504	火屋	0P-06	H-23・24	黒下	口	広口-X	透明-0-0	41.1	-	(75.1)	(39.6)	(34.7)	-	
Ⅱ-38-44	19-24	440	2502	火屋	0P-06	H-23・24	黒下	口	広口-X	透明-1-1	64.6	-	(40.5)	(74.4)	(22.0)	-	

表Ⅱ-39　0P-06出土金属製品属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-38-47	20-27	-	5108	蹄鉄	0P-06	H-23・24	黒下	通常	112.8	121.0	8.1	163.2	Fe.	蹄釘4本付
Ⅱ-38-48	20-32	-	5107	鎹	0P-06	H-23・24	黒下	断面方形	101.1	31.0	8.5	44.1	Fe.	
Ⅱ-38-49	-	-	5109-2	洋釘	0P-06	H-23・24	黒下	4寸	65.1	22.0	7.1	3.3	Fe.	
Ⅱ-38-50	20-28	-	5106-1	洋釘	0P-06	H-23・24	黒下	4寸	118.7	38.0	8.4	14.0	Fe.	くの字状
Ⅱ-38-51	20-29	-	5112-1a	洋釘	0P-06	H-23・24	黒下	3寸	91.1	8.5	4.0	7.1	Fe.	
Ⅱ-38-52	20-30	-	5112-1b	洋釘	0P-06	H-23・24	黒下	3寸	85.1	8.4	4.3	7.1	Fe.	

表Ⅱ-40　0P-06出土金属製品属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-38-53	-	-	5109-1	障釘	0P-06	H-23・24	黒下	4寸	129.0	9.6	5.7	14.0	Fe.	
Ⅱ-38-54	20-31	-	5105	針金製品	0P-06	H-23・24	黒下	-	117.0	118.0	4.2	24.4	Fe.	ねじれ
Ⅱ-39-55	20-33	-	5165	木挽鋸	0P-06	H-23・24	黒上	バラ目	413.0	93.9	4.1	210.0	Fe.	
Ⅱ-39-56	20-34	-	11110	鎹鉄	0P-06	H-23・24	黒上	平常	135.0	143.0	9.3	188.2	Fe.	
Ⅱ-39-57	20-35	-	11104	鎹鉄	0P-06	H-23・24	黒上	水上	92.2	91.7	5.3	125.6	Fe.	
Ⅱ-39-58	20-36	-	5163	棒状金具	0P-06	H-23・24	黒上	帯板状	107.4	8.3	2.3	4.3	Fe.	
Ⅱ-39-59	-	-	5277・5077	鉄鍋	0P-06	H-23・24	黒上	吊耳	360.0	-	-	1,830.0	Fe.	器高(163.0)、脚数3　丸型鍋耳

表Ⅱ-41　0P-06出土木製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-38-45	-	-	3025-2	木栓	0P-06	H-23・24	0	-	43.0	37.0	25.0	-	-	
Ⅱ-38-46	-	-	3025-1	曲物蓋	0P-06	H-23・24	0	桜皮	(280.0)	(90.0)	18.0	-	-	欠損

表Ⅱ-42　0P-07出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-40-1	-	209	10992	磁器 七寸皿	0P-07	G-26	0	口-底	染付	墨はじき技法	-	-	(34.1)	(46.2)	山水文(青、黒)	-	-	
Ⅱ-40-2	-	159	10686	陶器 徳利	0P-07	G-26	0	底	-	-	-	82.0	(50.5)	(104.3)	-	-	-	
Ⅱ-40-3	-	125	10606	陶器 片口鉢	0P-07	G-26	0	胴-底	-	目跡5ヶ所(?)	-	112.4	(53.3)	(430.0)	-	-	-	

表Ⅱ-43　0P-07出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-40-4	20-37	-	10726	ワイン瓶	0P-07	G-26	0	完形	コルク-5	緑色-3-2	26.0	76.0	287.0	83.5	645.0	-	
Ⅱ-40-5	20-38	-	11079	ワイン瓶	0P-07	G-26	0	完形	コルク-5	濃褐色-2-2	26.0	72.0	275.0	76.2	600.0	-	
Ⅱ-40-6	20-39	-	11078	ビール瓶	0P-07	G-26	0	完形	王冠-4	濃褐色-2-2	26.1	79.0	281.0	79.3	705.0	DAINIPPON BREWERY co.LTD	
Ⅱ-40-7	20-40	-	10727	ビール瓶	0P-07	G-26	0	完形	王冠-4	濃褐色-2-3	26.5	77.5	283.0	78.3	700.0	DAINIPPON BREWERY co.LTD	
Ⅱ-40-8	20-41	-	11067	ビール瓶	0P-07	G-26	0	胴-底	不明-3	褐色-2-1	-	76.1	(105.0)	76.8	(225.0)	大日本麦酒株式会社醸造	
Ⅱ-40-9	20-42	-	10724	ビール瓶	0P-07	G-26	0	胴-底	不明-3	濃褐色-1-1	-	76.7	(151.0)	77.5	(300.0)	カブトビール	
Ⅱ-40-10	20-43	-	10725	ビール瓶	0P-07	G-26	0	胴-底	不明-3	褐色-1-1	-	77.8	(195.0)	77.5	(505.0)	サクラビール　SAKURA BEER	

表Ⅱ-44　0P-08出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-41-1	-	7	10004	磁器 中碗(平)	0P-08	H-27	0	口-底	型紙摺絵	-	118.1	41.0	49.1	(154.3)	松文地松樹	みじん唐草松散らし文 窓絵荒磯	-	
Ⅱ-41-2	-	13	10440	磁器 中碗(平)	0P-08	H-27	0	口-底	銅版転写	口縁内外瑠璃釉	(113.4)	42.2	44.4	(114.5)	-	丸文散らし(青)	-	
Ⅱ-41-3	-	138	10276	磁器 中皿	0P-08	H-27	0	口-底	型紙摺絵	-	-	-	38.3	(50.1)	花唐草文、窓絵ざくろ文	牡丹唐草文	-	
Ⅱ-41-4	-	310	10600+7824-1	陶器 こね鉢	0P-08	H-27	0	口-胴	-	-	-		118.2	(380.0)		-	-	瀬戸?

表Ⅱ-45　0P-08出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	分類 色・気泡	計測値(mm) 口径	計測値(mm) 底径	計測値(mm) 器高	計測値(mm) 幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-41-5	21-44	-	11058	ビール瓶	0P-08	H-27	0	口-胴	不明-2	濃飴色-2-1	-	76.5	(268.0)	78.3	(665.0)	キリンビール登録商標	
Ⅱ-41-6	21-45	-	11059	ビール瓶	0P-08	H-27	0	口-胴	不明-3	濃飴色-3-2	-	75.0	(245.0)	77.5	(665.0)	サクラビール SAKURABEER	

表Ⅱ-46　0P-09出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	計測値(mm) 底径	計測値(mm) 器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-41-1	-	202	10015	磁器 湯呑み	0P-09	G-21	0	口-底	ゴム印判	型押し	69.3	33.8	49.5	(107.3)	-	外宮特撰米、鬼殺	-	

表Ⅱ-47　0P-11出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	計測値(mm) 底径	計測値(mm) 器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-42-1	-	14	10020	磁器 中碗(平)	0P-11	G・H-19	0	口-底	銅版転写	畳付きに砂	118.0	43.7	51.6	(160.9)	-	菊花文、扇文(青、緑)(扇に鳳凰)	-	
Ⅱ-42-2	-	10	10458	磁器 中碗(端反)	0P-11	G・H-19	0	口-底	吹き絵	一部手描き	121.3	45.6	57.4	(178.7)	-	菊花文(黒)	-	
Ⅱ-42-3	-	107	10118	磁器 小碗	0P-11	G・H-19	0	口-底	手描色絵	-	78.5	35.8	44.3	(75.5)	-	上絵(清水焼)(赤)	-	清水焼
Ⅱ-42-4	-	110	10438	磁器 酒杯	0P-11	G・H-19	0	口-底	銅版転写+染付	-	77.4	30.7	30.4	(39.3)	上絵恵比寿、鯛、印(多色使)(赤、青、黒、緑)	-	-	
Ⅱ-42-5	-	203	10021	磁器 湯呑み	0P-11	G・H-19	0	口-底	ゴム印判	-	55.4	37.5	60.9	(94.6)	-	扇区画に鳴海商店、七五三、方形区画に黒石、丸にり	-	青森県黒石市の老舗造り酒屋鳴海商店
Ⅱ-42-6	-	200	10017	磁器 小杯	0P-11	G・H-19	0	完形	染付	-	53.4	23.5	31.1	28.4	-	厚備第一学校新築(青、茶)	記念(青)	
Ⅱ-42-7	-	26	10121	磁器 小皿	0P-11	G・H-19	0	口-底	手描色絵	型押し	112.3	61.4	21.9	(94.5)	上絵 菊花文(オレンジ、白、緑、赤)	-	-	
Ⅱ-42-8	-	122	10006	磁器 焼酎徳利	0P-11	G・H-19	0	口-胴	染付	-	46.1	-	131.5	(210.1)	-	笹文(青)	-	

表Ⅱ-48　0P-11出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	分類 色・気泡	計測値(mm) 口径	計測値(mm) 底径	計測値(mm) 器高	計測値(mm) 幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-42-9	21-46	-	11083	サイダー瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	E近-2	濃緑色-1-1	25.5	66.5	225.0	66.5	440.0	大日本麦酒株式会社製造	
Ⅱ-42-10	21-47	-	11042	清酒瓶	0P-11	G・H-19	0	胴-底	不明-5	水色-2-1	-	73.2	(75.7)	73.5	(124.4)	-	
Ⅱ-42-11	21-48	-	10716	香油瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	スクリュウー-1	透明-1-1	18.0	45.8	98.0	43.9	142.3	金鵄香油	
Ⅱ-42-12	21-49	-	10717	化粧水瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	コルク-1	透明-1-1	20.7	29.6	95.5	41.8	86.1	ホーカー液 輸越 底に「5」	
Ⅱ-42-13	21-50	-	11033	不明瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	スクリュウー-1	透明-2-2	18.0	21.7	94.0	44.7	45.4	-	
Ⅱ-42-14	21-51	-	10718	薬瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	コルク-3	濃青色-1-2	15.2	23.0	59.5	24.3	21.5	イヌイ神薬 いぬゐや本店	
Ⅱ-42-15	21-52	-	10996	薬瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	コルク-3	青色-1-1	25.5	36.5	80.0	37.8	44.6	-	
Ⅱ-42-16	21-53	-	11036	薬瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	コルク-2	透明-1-1	25.6	36.8	63.5	37.7	42.2	-	
Ⅱ-42-17	21-54	-	11040	椿油瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	コルク-4	透明-1-2	24.5	44.7	149.6	48.0	161.9	-	
Ⅱ-42-18	21-55	-	10715	椿油瓶	0P-11	G・H-19	0	完形	コルク-1	透明-1-1	20.5	43.5	130.0	52.4	151.7	-	
Ⅱ-42-19	21-56	-	11032	薬瓶	0P-11	G・H-19	0	胴-底	-	水色-2-3	-	20.0	(55.5)	20.5	(10.8)	-	
Ⅱ-42-20	21-57	-	11043	ランプ油壺	0P-11	G・H-19	0	胴-底	-	水色-3-3	-	83.1	(71.7)	(102.8)	(205.0)	-	

表Ⅱ-49　0P-11出土骨製品属性表

報告番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-12-21	21-58	-	11090	竹製歯ブラシ	0P-11	G-H-19	0	-	(110.3)	11.0	7.3	(9.0)	竹	

表Ⅱ-50　0P-12出土陶磁器属性表

報告番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	釉付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-41-1	-	168	10613	陶器 灯鉢	0P-12	G-18	0	口-胴	-	-	-	-	(100.5)	(360.1)	-	-	-	
Ⅱ-41-2	-	354	10646	陶磁製品	0P-12	G-18	0	-	-	-	-	-	31.7	19.9	「○家」	-	-	施釉独

表Ⅱ-51　0P-13出土陶磁器属性表

報告番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	釉付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-43-1	-	339	7685	磁器 中鉢(深形)	0P-13	H-25	0	口-底	吹き掛	-	-	40.8	59.2	(65.3)	-	花と鳥(青、緑)	-	瀬戸・美濃 明治27年以降

表Ⅱ-52　0P-13出土ガラス製品属性表

報告番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口-底形状	色・気泡	計測値(mm) 口厚	底厚	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-43-2	21-59	494	2696	薬品瓶	0P-13	H-25	0	完形	コルク-3	褐色-2-2	19.8	30.8	66.4	40.0	29.6	クレオソート丸	

表Ⅱ-53　0P-13 出土金属製品属性表

報告番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-43-3	21-60	-	5208	煙管	0P-13	H-25	0	長方形	69.0	46.0	11.5	53.3	Fe.	オス型
Ⅱ-43-4	21-61	-	5192	板状鉄片	0P-13	H-25	0	隅板状	82.1	38.8	9.6	22.7	Fe.	
Ⅱ-43-5	21-62	-	5193-2	リング状金具	0P-13	H-25	0	楕板状	222.0	185.0	8.1	87.2	Fe.	留め打ち銅有
Ⅱ-43-6	21-63	-	5193-1	飾鋲の笠	0P-13	H-25	0	-	205.0	95.0	4.8	55.1	Fe.	
Ⅱ-43-7a	-	-	5191-1	留め金具	0P-13	H-25	0	-	50.8	10.5	1.1	1.7	Cu.	
Ⅱ-43-7b	21-64	-	5191-2	留め金具	0P-13	H-25	0	-	29.9	17.9	5.9	2.8	Cu.	
Ⅱ-43-7c	-	-	5191-3	留め金具	0P-13	H-25	0	-	65.8	51.9	3.5	7.7	Cu.	

表Ⅱ-54　0P-14 出土金属製品属性表

報告番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-43-8	21-65	-	5194	天釘	0P-14	H-29	0	頭部丸形	91.0	20.0	9.0	50.9	Fe.	

表Ⅱ-55　0P-15 出土金属製品属性表

報告番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-43-9	21-66	-	5297	ボルト・ナット	0P-15	H-35	0	-	27.3	23.3	23.2	66.2	Fe.	人為的回転痕有

表Ⅱ-56 OP-16出土ガラス製品属性表

検索番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 11-底形状	分類 色・気泡	計測値(mm) 口径	底厚	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-43-10	21-67	406	2675	乾湿瓶	OP-16	H-57	0	完形	スクリュー3	水色-1-3	50.1	54.5	42.8	55.0	96.0	底に「Ⅱ乾湿瓶」	

表Ⅱ-57 OP-16 出土金属製品属性表

検索番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-43-11	21-68	-	5207	バネ	OP-16	H-57	0	-	23.2	23.5	9.7	16.4	Fe.	

表Ⅱ-58 OP-17出土陶磁器属性表

検索番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	釉付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-43-12	-	263	7699	碗蓋 中皿	OP-17	H-62	0	口-底	型紙摺絵	型の目回型高台	149.7	77.1	35.8	(190.1)	蛇文地文、型絵付枝垂文	みじん唐草桐花文、圏線	他竹梅矢文	染錦(欠損)、大正以降

表Ⅱ-59 OP-17出土ガラス製品属性表

検索番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 12-底形状	分類 色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-43-13	21-69	450	2715	ワイン瓶	OP-17	H-62	0	完形	コルク-5	緑色-1-3	27.3	71.2	277.0	75.6	550.9	-	

表Ⅱ-60 OP-17 出土金属製品属性表

検索番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-43-14	21-70	-	5206	皮革	OP-17	H-62	0	用途不明	79.5	21.5	11.5	50.4	Fe.	断面方形
Ⅱ-43-15	21-71	-	5201	機械部	OP-17	H-62	0	-	37.3	52.3	7.7	9.5	Fe.	針金部分

表Ⅱ-61 OP-18出土陶磁器属性表

検索番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	釉付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-44-1	-	313	7644	碗器 急須	OP-18	H-63	0	口-底	銅版転写	-	54.0	40.9	55.0	(106.8)	-	上絵 唐子、菊花文、施文(金、緑、水色、黄、茶、黒)	-	
Ⅱ-44-2	-	333	7647	磁器 湯呑	OP-18	H-63	0	口-底	手描色絵	-	-	30.1	34.0	(22.7)	上絵 地Ⅱ草紋(「長谷川」金文字(金、赤)	-	-	

表Ⅱ-62 OP-18出土ガラス製品属性表

検索番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 11-底形状	分類 色・気泡	計測値(mm) 口径	底厚	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-44-3	21-72	405	2686	化粧品瓶	OP-18	H-63	0	完形	コルク-2	透明-1-1	23.4	32.3	60.8	33.4	31.8	みやこ当物 底に「Ⅱ印」	
Ⅱ-44-4	21-73	446	2687	薬品瓶	OP-18	H-63	0	完形	ガラス栓-2	褐色-1-1	19.7	29.1	37.4	29.8	18.0	-	

表Ⅱ-63　0P-18出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-44-5	21-75	-	5197	円盤状鉄製品	0P-18	H-63	0	-	110.6	74.6	19.0	77.2	Fe.	折り取れ刃部、被熱部融解
Ⅱ-44-6a	21-74	-	5184	缶の蓋	0P-18	H-63	0	-	29.3	18.4	11.3	2.6	Fe.	
Ⅱ-44-6b	21-74	-	5184	缶の蓋	0P-18	H-63	0	-	51.3	42.7	6.1	7.2	Fe.	
Ⅱ-44-7	-	-	5301	キセル	0P-18	H-63	0	雁首	84.1	10.5	15.6	15.1	Cu.	

表Ⅱ-64　0P-18出土石製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	石質	備考
Ⅱ-44-8	21-77	-	2400	石製品	0P-18	H-63	0	硯	121.4	63.2	21.5	245.0	Tu-Sa.	背面に「ワキタトシヲ」

表Ⅱ-65　0P-19出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-44-9	-	297	1556	磁器 小皿	0P-19	H-10	Ⅰ	口-底	銅版転写	-	132.1	76.7	20.7	(105.5)	花唐草文(緑)	-	-	

表Ⅱ-66　0P-19出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅱ-44-10	21-76	-	1557-1	留め金具	0P-19	H-10	2	板状	116.7	10.2	9.7	19.2	Fe.	

表Ⅱ-67　XSP-24出土陶磁器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-44-11	-	3	683	磁器 中皿	XSP-24	17～20	Ⅰ	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	(139.7)	92.8	44.1	(210.2)	花唐草、総絵折枝菊文	蝸唐草文	松竹梅丸文	

表Ⅱ-68　XSP-32出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-44-12	21-78	24	11012	薬瓶	XSP-32	13～15	覆土	胴-底	不明-3	濃青色-1-1	-	15.5	(30.0)	23.7	(10.5)	神薬	

表Ⅱ-69　包含層等出土陶磁器属性表(1)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-47-1	-	250	8037+10128	磁器 小碗(端反)	6～12 G・H-8・9	0	口-底	型紙摺絵	目跡6ヶ所	107.1	40.9	58.0	(121.1)	圏線	絵花尽画、小紋尽くし文 窓絵菊文	圏線、松竹梅丸文	銘款？圏線
Ⅱ-47-2	-	282	8053	磁器 中碗(端反)	6～12	0	口-底	型紙摺絵	目跡1ヶ所	-	(41.8)	69.4	(48.4)	瓔珞文	粒文地蝶丸文、圏線	松丸文、圏線	銘款
Ⅱ-47-3	-	151	10218	磁器 中碗(端反)	G・H-8・9	0	口-胴	型紙摺絵	-	-	-	(60.7)	(13.2)	瓔珞文	青海波文地牡丹文、花唐草文	-	
Ⅱ-47-4	-	153	10222	磁器 中碗(丸)	28～31	0	口-胴	型紙摺絵	-	-	-	(56.2)	(9.3)	瓔珞文	粒文地蝶文	-	
Ⅱ-47-5	-	22	10120	磁器 小碗	22～24	0	口-底	手描色絵	-	(85.9)	33.9	43.1	(76.7)	-	上絵梅うぐいす (赤、緑、黒、金)、圏線(赤)	-	
Ⅱ-47-6	-	345	8144	クロム青磁 中碗(丸)	6～12	0	胴-底	銅版転写	-	-	(41.9)	(37.2)	(38.0)	-	亀甲繋ぎ文、蓮弁文	丸文	
Ⅱ-47-7	-	240	7840	磁器 中碗(丸)	61～63	0	略完形	銅版転写 手描色絵		94.1	32.6	41.8	(101.7)	-	上絵吉祥文(だるまなど) (赤、黄、緑、紫)、圏線(赤)	-	

表Ⅱ-70　包含層等出土陶磁器属性表(2)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm)			重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
										口径	底径	器高					
Ⅱ-47-8	-	338	10963	磁器 大碗(平)	F-69	0	口-底	染付	-	-	50.2	66.3	(182.7)	-	帆船	-	瀬戸・美濃
Ⅱ-47-9	-	356	8364+10114	磁器 中碗(丸)	22～24	0	口-底	手描色絵	-	-	(42.5)	(56.2)	(65.0)	雷文(青)	上絵、草花文、雷文 松竹梅(青、茶、緑、黒)	丸文(青)	
Ⅱ-47-10	-	221	10031	磁器 中碗(平)	21～27	0	口-底	染付	-	-	(40.9)	53.5	(45.0)	-	よろけ縞文	-	
Ⅱ-47-11	-	11	724	磁器 中碗(平)	G-19	Ⅱa	口-底	染付	-	120.3	38.6	48.3	(83.6)	-	網目文(青)、圏線(青)	-	
Ⅱ-47-12	-	158	10213	磁器 中碗(平)	65～75	0	口-底	型紙摺絵	-	-	-	55.2	(19.0)	粒文地松文	みじん唐草松散らし 窓絵松樹下に人物文	-	
Ⅱ-47-13	-	166	10276	磁器 中碗(平)	0P-08	0	口-底	型紙摺絵	-	-	-	41.2	(50.1)	粒文地松樹文	松樹下に人物文、蝶文	-	
Ⅱ-47-14	-	230	8230	磁器 中碗(平)	21～27	0	口-底	型紙摺絵	-	118.0	36.1	48.2	(65.4)	粒文地松樹文(桜花区画)	ひょうたん区画粒文、みじん唐草松散らし文、窓絵梅花文、花文	-	
Ⅱ-47-15	-	235	7839	磁器 中碗(平)	61～63	0	完形	型紙摺絵	-	117.7	35.9	45.7	125.3	粒文地昌富上区画、松樹、鹿の斜線、瑞雲	青海波文、亀甲繋ぎ文、窓絵花文	-	
Ⅱ-47-16	-	20	10136	磁器 中碗(平)	G・H-6・7・11	0	口-底	型紙摺絵	-	(104.0)	39.7	44.1	(61.9)	瓔珞文	粒文地桐文、三巴文	-	
Ⅱ-47-17	-	281	8234	磁器 中碗(平)	21～27	0	口-底	型紙摺絵	-	-	(38.1)	48.3	(43.9)	瓔珞文	粒文地、三巴文、花菱文	-	
Ⅱ-47-18	-	16	10130	磁器 中碗(平)	G-34	0	口-底	型紙摺絵	-	118.5	41.5	48.2	(115.9)	瓔珞文	粒文地、桐文、三巴文	-	
Ⅱ-47-19	-	15	10131	磁器 中碗(平)	21～24	0	口-底	型紙摺絵	-	-	38.5	47.9	(91.7)	瓔珞文	粒文地、梅花文、窓絵松樹鹿文	-	
Ⅱ-47-20	-	348	8441	磁器 中碗(平)	21～27	0	口-底	型紙摺絵	-	112.4	40.4	46.1	(70.5)	瓔珞文(青)	粒文地桜花、鷹と扇子、富士区画茄子(青)	-	
Ⅱ-47-21	-	19	10134	磁器 中碗(平)	22～24	0	口-底	型紙摺絵	-	(113.3)	(40.4)	46.4	(71.7)	瓔珞文	みじん唐草松散らし文、粒文地松皮菱区画、窓絵松樹草花文	-	
Ⅱ-47-22	-	17	10176	磁器 中碗(平)	66～78・B調TR・P-69	0	口-胴	型紙摺絵	-	-	-	(40.6)	(96.9)	蔦文	青海波文地梅花、蔦文、窓絵梅花松樹文	-	
Ⅱ-47-23	-	167	10210	磁器 中碗(平)	21～27	0	口	型紙摺絵	-	79.9	-	(38.8)	(21.8)	粒文地松散らし文	みじん唐草松樹文、窓絵松樹下に人物文	-	
Ⅱ-47-24	-	149	10162	磁器 中碗蓋	G・H-8・9	0	口-底	型紙摺絵	-	-	-	(23.6)	(19.6)	瓔珞文	花唐草文	-	
Ⅱ-47-25	-	112	10133	磁器 中碗蓋	10～13	0	口-底	型紙摺絵	-	43.4	102.2	23.7	(56.2)	瓔珞文	粒文地、松樹文、竹文	-	
Ⅱ-47-26	-	9	10002	磁器 中碗蓋	G・H-6・7	0	口-底	型紙摺絵	-	-	33.0	33.4	(58.1)	瓔珞文	みじん唐草松樹文、青海波文、窓絵、日章旗、菊文、桐文	-	
Ⅱ-48-27	-	21	10452	磁器 中碗(平)	17～20	0	口-底	銅版転写	-	-	-	50.1	(67.1)	瓔珞文	七宝詰め文地梅花文(青)	-	
Ⅱ-48-28	-	225	1397	磁器 中碗(平)	H-19	0	口-底	銅版転写	-	119.0	39.3	49.7	(101.2)	瓔珞文	網目文、地紋文、梅花文、千鳥(青)	-	
Ⅱ-48-29	-	16	10439	磁器 中碗(平)	35～38	0	-	銅版転写	口縁内外環補釉	(74.8)	37.5	49.7	(90.2)	-	丸文散らし(青、緑)	-	
Ⅱ-48-30	-	117	10446	磁器 中碗(平)	27～31	0	口-底	銅版転写	-	(117.1)	-	50.2	(75.8)	-	窓絵、富士、梅花、雲海?(青緑)	-	
Ⅱ-48-31	-	12	10453	磁器 中碗(平)	G・H-8・9	0	口-底	銅版転写	-	119.2	43.7	49.8	(139.7)	-	あやめ文(青、緑)	-	
Ⅱ-48-32	-	237	7841+8294	磁器 中碗(平)	61～63 H-62	0	略完形	銅版転写	-	119.2	43.4	51.9	(167.8)	-	流水文、牡丹文(青、緑)	-	
Ⅱ-48-33	-	232	7842+7865-1	磁器 中碗(平)	61～63	0	口-底	銅版転写	-	116.0	44.2	50.0	(146.5)	-	桐文、菊文(青、緑)	-	
Ⅱ-48-34	-	283	7962	磁器 中碗(端反)	6～12	0	口-底	ゴム印判	-	-	(34.0)	(60.4)	(48.9)	-	袈裟襷、雪文と笹、圏線(青)	-	瀬戸・美濃、大正～戦前
Ⅱ-48-35	-	111	10442	磁器 中碗蓋	21～24	0	口-底	銅版転写	-	36.4	100.5	25.7	(56.2)	-	流水文、草花文、雲(青)	-	
Ⅱ-48-36	-	24	10013	磁器 小碗(端反)	G・H-6	0	口-底	染付	-	(43.5)	29.7	40.2	(64.8)	仙芝祝寿文	仙芝祝寿文(青)、圏線(青)	-	

表Ⅱ-71　包含層等出土陶磁器属性表(3)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-48-37	-	246	8039	磁器 小碗(端反)	6～12	0	口-底	染付	-	-	27.4	30.4	(26.0)	仙芝祝寿文(青)	仙芝祝寿文(青)、圏線(青)	渦文(青)	瀬戸・美濃
Ⅱ-48-38	-	25	10014	磁器 小碗(端反)	38～43	0	口-底	染付	-	(67.4)	36.3	37.9	(41.4)	-	文字文(漢詩)、赤壁賦	-	瀬戸・美濃
Ⅱ-48-39	-	355	8366	磁器 小碗	-	0	胴-底	染付	-	-	-	(24.6)	(8.6)	網目文(青)	網目文(青)	-	
Ⅱ-48-40	-	160	10127	磁器 小碗	5～6	0	胴-底	型紙摺絵	輪花見込みに布目跡	-	-	34.1	(14.9)	圏線	牡丹文、雷文、圏線	丸文	美濃？
Ⅱ-48-41	-	105	10455	磁器 小碗(端反)	G-41	0	略完形	銅版転写	-	77.7	38.7	44.4	(81.3)	-	斜格子、牡丹文(青)、圏線(青)	-	瀬戸・美濃、明治22年以降
Ⅱ-48-42	-	251	7801	クロム青磁 小碗(端反)	H-23	0	略完形	染付	-	85.4	38.7	43.3	(103.9)	-	鋸歯状(青)	寿文(青)	
Ⅱ-48-43	-	305	7584+8383	磁器 小碗	H-22	0	口-底	型紙摺絵	口唇部鉄釉	-	31.6	(40.5)	(52.7)	-	稲束文	-	
Ⅱ-48-44	-	285	7826	クロム青磁 小碗	H-26	0	口-底	-	-	(73.3)	34.1	37.1	(44.4)	-	焼継	-	
Ⅱ-48-45	-	101	10444	磁器 湯呑み	22～24	0	口-底	銅版転写	-	68.2	46.4	74.2	(108.8)	手描き山水文(青)	桐、鳳凰文、唐草文(青)、圏線(青)	-	
Ⅱ-48-46	-	102	10451+7277	磁器 湯呑み	21～24	0	口-底	銅版転写	-	60.3	42.6	70.7	(100.7)	手描き山水文(青)	瓔珞文？ 青海波文、雷文	-	
Ⅱ-48-47	-	204	10443	磁器 湯呑み	21～24	0	完形	銅版転写	-	70.5	33.2	49.4	99.0	-	草花文、唐草文(青)、圏線(茶)	-	
Ⅱ-48-48	-	103	10967	磁器 湯呑み	I-62	0	口-底	ゴム印判	-	67.2	33.8	66.2	(93.5)	-	菊菱文(青)、圏線(青)	-	
Ⅱ-48-49	-	347	8243	磁器 湯呑み	21～27	0	口-底	吹き絵	-	65.7	34.5	53.3	(39.0)	-	菜花文(青)	-	瀬戸・美濃、明治27年以降
Ⅱ-48-50	-	210	10012	磁器 湯呑み	13～15	0	胴-底	ゴム印判	-	-	36.0	21.9	(26.9)	-	-	原真特選米、鬼瓶、電話二六番(青)	
Ⅱ-48-51	-	211	10470	磁器 湯呑み	G・H-6・7	0	底	ゴム印判	-	-	36.3	19.7	(14.7)	-	圏線(青)	-	美濃、昭和17年以降 高台内に統制番号「岐404」
Ⅱ-48-52	-	292	7968	磁器 湯呑み	6～12	0	口-胴	ゴム印判	-	71.1	-	65.0	(121.6)	-	日東鉱山事務所、丸に「日」(緑)	-	
Ⅱ-49-53	-	213	10084	磁器 鉢？	10～13	0	口-胴	染付	-	-	-	(34.9)	(9.0)	-	格子、(青)	-	
Ⅱ-49-54	-	163	10177	磁器 鉢	43～48	0	口-胴	型紙摺絵	-	-	-	(64.6)	(59.9)	牡丹、唐草文	花文	-	
Ⅱ-49-55	-	164	10176	磁器 鉢	17～20	0	口	型紙摺絵	-	-	-	(53.4)	(22.1)	花籠文	唐草文	-	
Ⅱ-49-56	-	166	10212	磁器 鉢	24～28	0	口-胴	型紙摺絵	-	-	-	(52.6)	(18.8)	松文	松樹文、菊花文	-	
Ⅱ-49-57	-	350	1237	磁器 鉢	I-06	Ⅰb	底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	(73.9)	(23.2)	(69.7)	青海波文地桜花	青海波文	松竹梅丸文	美濃 Ⅰb上の黒褐色粘質土
Ⅱ-49-58	-	289	7990	クロム青磁 鉢	17～21	0	口-底	銅版転写	蛇の目凹型高台	-	-	60.5	(169.1)	桜花丸文(緑、青)	-		美濃(駄知)
Ⅱ-49-59	-	277	8238+8429	磁器 鉢	21～27	0	口-底	銅版転写	-	102.1	47.9	29.6	(64.1)	唐草文地に桐、鳳凰文	-	-	高台内「MADE IN JAPAN」
Ⅱ-49-60	-	223	10454	磁器 鉢	10～13	0	口-底	銅版転写	蛇の目凹型高台	-	-	72.2	(171.6)	唐草文、牡丹文、窓絵鶴など(青)	瓔珞文、圏線(青)	-	美濃(岐阜？) 明治20年以降
Ⅱ-49-61	-	287	7521	磁器 中皿	H-26	0	口-底	手描色絵	蛇の目凹型高台	-	85.3	57.7	(148.1)	上絵草花文(緑、黄、赤、紫、金、白)	圏線(青)	圏線(赤)	美濃(駄知)
Ⅱ-49-62	-	142	10158	磁器 中皿	G・H-18	0	底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	(78.6)	(12.6)	(49.2)	-	圏線	十二支文、丸文	
Ⅱ-49-63	-	2	10009+10068	磁器 中皿	D-71	0	口-底	染付	蛇の目凹型高台	150.1	94.7	40.8	(220.0)	山水楼閣文	-	-	
Ⅱ-49-64	-	141	10159	磁器 中皿	22～27	0	底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	103.4	(15.8)	(196.7)	紗文地桜花文散らし文 窓絵松竹梅文？	唐草文	-	
Ⅱ-49-65	-	344	8089	磁器 中皿	6～12	0	底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	92.7	24.3	(135.3)	紗文地花文	手描き唐草文、圏線	松竹梅丸文	美濃 ダミ掛け
Ⅱ-49-66	-	291	8485	磁器 中皿	H-6	0	底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	93.4	26.2	(225.0)	花文	圏線	山水楼閣文	
Ⅱ-49-67	-	5	675+784	磁器 中皿	G-17・20	Ⅱb	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	(151.7)	92.1	44.7	(127.3)	花唐草、窓絵菊と蝶	手描き楊柳台	松梅丸文	
Ⅱ-49-68	-	290	7991	磁器 中皿	17～21	0	胴-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	94.0	37.0	(187.5)	みじん唐草松散らし文	手描き唐草文、圏線(青)	松竹梅丸文	美濃？
Ⅱ-50-69	-	134	10137	磁器 中皿	G-68	0	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	(84.5)	43.1	(99.4)	みじん唐草楓散らし文	鳳凰文	松竹文	
Ⅱ-50-70	-	4	10143	磁器 中皿	G・H-8・9	0	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	-	74.1	31.7	(215.0)	青海波文地鶴、窓絵松鶴	唐草文、圏線	松竹梅丸文	美濃
Ⅱ-50-71	-	1	10003	磁器 中皿	21～28	0	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	141.7	73.2	35.1	(220.0)	紗文地桜花文、窓絵桃鶴	宝づくし、圏線	松竹梅丸文	美濃

表Ⅱ-72　包含層等出土陶磁器属性表(4)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-50-72	-		10160	磁器 中皿	22~24	0	-	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	150.7	84.2	39.0	143.2	粒文地日章旗	みじん唐草桜花文、圏線	松竹梅丸文	美濃(駄知)、大正以降
Ⅱ-50-73	-	6	10142	磁器 中皿	22~24	0	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台	(152.0)	(85.2)	39.7	(128.9)	粒文地日章旗、窓絵折枝牡丹文	桜唐草文、圏線	松竹梅丸文	
Ⅱ-50-74	-	140	10167	磁器 中皿	34~35	0	口-底	型紙摺絵	蛇の目凹型高台 型成形	-	76.2	37.4	(59.0)	粒文地　窓絵折枝菊文	桜唐草文	竹梅文	
Ⅱ-50-75	-	262	7742+8221	磁器 小皿	17~21	0	口-底	染付型打	口縁部鉄釉	108.2	58.2	21.6	(120.7)	牡丹文に唐獅子(青)	手描き模様有(青)	-	
Ⅱ-50-76	-	207	10052	磁器 中皿	13~15	0	口-底	染付	蛇の目凹型高台	-	-	31.2	(58.7)	印判、草花文、(青)	圏線(青)	草花丸文(青)	瀬戸
Ⅱ-50-77	-	28	10209	磁器 小皿	27~31	0	口-底	型紙摺絵	-	103.7	67.4	18.9	(60.9)	粒文地桜花つぼみ、七宝繋文	-	粒文地桜花文	
Ⅱ-50-78	-	27	10007	磁器 小皿	G・H-6・7	0	口-底	型紙摺絵	-	109.0	66.9	20.5	(84.3)	粒文地、窓絵漢詩、折枝菊花文	-	菊丸文	
Ⅱ-50-79	-	146	10138	磁器 小皿	27~31	0	口-底	型紙摺絵	口縁部鉄釉	(125.4)	78.8	24.1	(67.0)	粒文地桜花文	-	-	
Ⅱ-50-80	-	147	10295	磁器 小皿	38~43	0	口-底	型紙摺絵	-	-	-	(20.3)	(18.0)	仙芝祝寿文	-	-	
Ⅱ-51-81	-	343	7999	磁器 小皿	17~21	0	口-底	銅版転写	口縁部鉄釉	-	72.7	20.1	(69.1)	菱型繋ぎ文、植物文(青)	-	菱型繋ぎ丸文(青)	美濃(丸山窯に同一モチーフ有)
Ⅱ-51-82	-	276	8143	磁器 小皿	6~12	0	口-底	銅版転写	-	127.8	77.0	22.9	(134.9)	扇子文(青)	-	-	
Ⅱ-51-83	-	14	10010	磁器 小皿	43~48	0	口-底	銅版転写	型押し	112.6	67.8	22.0	(88.5)	格子窓絵牡丹文(緑)	-	牡丹文(緑)	
Ⅱ-51-84	-	275	7966	磁器 小皿	6~12	0	口-底	銅版転写	-	105.8	63.9	20.8	(80.7)	亀甲繋ぎ梅花文、松竹梅丸文、寿丸文(青)	-	鶴丸文(青)	
Ⅱ-51-85	-	206	10459	磁器 中皿	G・H-6・7	0	口-底	銅版転写	口縁部鉄釉	-	70.9	36.8	(73.9)	丸文、文字文(寿)(緑)	圏線(緑)	-	
Ⅱ-51-86	-	113	10467	磁器 小皿	0P~07	0	口-底	銅版転写	口縁部鉄釉	111.0	63.7	21.1	(79.7)	船、紅葉、割絵、文字文	-	-	
Ⅱ-51-87	-	335	7568	磁器 小皿	50	0	口-底	ゴム印判	口縁部上絵(赤)	-	-	31.3	(32.9)	向い鶴(黒、赤、茶)	-	-	瀬戸・美濃 明治17年以降
Ⅱ-51-88	-	121	10008	磁器 燗徳利	15~17	0	口-底	型紙摺絵	-	32.5	-	(129.0)	(83.1)	-	瓔珞文、雲鶴文	-	
Ⅱ-51-89	-	216	10465	磁器 燗徳利	38~43	0	胴-底	銅版転写	-	-	-	(86.5)	(30.5)	-	矢羽根文(青)	-	
Ⅱ-51-90	-	351	8401	磁器 酒杯	21~27	0	口-底	手描色絵	-	(57.9)	(21.0)	30.1	(18.9)	上絵　桜花区画、旭日章旗?(赤)	-	-	
Ⅱ-51-91	-	280	8288	磁器 小杯	A地区	0	口-底	染付		-	21.4	32.9	(15.6)	上絵菊花文(黄、青、緑、黒、金、白)	上絵草花文(染付)、圏線(青)	菊文(赤、金)	九谷焼
Ⅱ-51-92	-	208	10082	磁器 急須蓋	G・H-6	0	口-胴	染付	-	-	-	(9.2)	(15.5)	-	草花文、渦文(青)	-	会津本郷
Ⅱ-51-93	-	29	10083	磁器 急須	17~20	1	口-底	染付	-	58.2	49.8	57.7	(96.5)	-	松樹(青)	-	
Ⅱ-51-94	-	288	8034	磁器 仏飯器	6~12	0	口-底	手描色絵	-	57.4	47.7	59.4	(76.5)	-	上絵草花文(赤、緑、青、黒)	-	
Ⅱ-51-95	-	346	7524+8290	磁器 灰落とし	H-26	0	胴-底	染付	蛇の目凹型高台	-	72.6	(76.1)	(270.0)	-	人物文	蛇の目釉剥ぎ	瀬戸・美濃?
Ⅱ-51-96	-	259	7717	磁器 火鉢	0P~13	0	口-底	型紙摺絵	-	-	-	73.1	(127.1)	-	紗綾形文地に花文、楕円区画に青海波文、七宝文、文字文	-	
Ⅱ-52-97	-	254	7845	陶器 湯呑み	61~63	0	口-底	-	-	-	35.9	39.8	(68.9)	緑	茶、緑、黒	-	大堀相馬
Ⅱ-52-98	-	214	10499	陶器 土瓶	63~65	0	口-胴	染付	-	-	-	(74.6)	(25.8)	山水文	-	-	
Ⅱ-52-99	-	215	10498	陶器 土瓶	38~43	0	注口	染付	-	-	-	-	(15.0)	山水文(茶)	-	-	
Ⅱ-52-100	-	123	10588+10808	陶器 片口鉢	21~24	0	口-底	-	目跡4ヶ所(推定5)	170.1	95.3	74.9	(450.0)	-	-	-	
Ⅱ-52-101	-	124	10610+10611	陶器 片口鉢	G-28	0	口-底	-	目跡3ヶ所(推定5)	220.1	(104.3)	114.9	(760.0)	-	-	-	
Ⅱ-52-102	-	300	7843-1・2	陶器 片口鉢	61~63	0	口-底	-	目跡3ヶ所	143.2	58.0	70.4	(260.0)	-	-	-	石見焼?
Ⅱ-52-103	-	323	8267	陶器 片口鉢	51	0	口-底	-	目跡7ヶ所	201.4	103.6	110.0	(875.0)	-	-	-	石見焼?
Ⅱ-52-104	-	126	10684	陶器 甕	21~24	0	胴-底	-	目跡7ヶ所	-	133.8	(116.1)	(660.1)	-	-	-	
Ⅱ-52-105	-	160	10685	陶器 甕	13~15	0	底	-	目跡3ヶ所	-	160.7	(52.3)	(440.0)	-	-	-	
Ⅱ-53-106	-	170	10625	陶器 擂鉢	G・H-6・7	0	口-底	-	-	-	-	(83.2)	(143.3)	-	-	-	
Ⅱ-53-107	-	171	10622	陶器 擂鉢	43~48	0	口	-	-	-	-	(45.0)	(60.2)	-	-	-	

表Ⅱ-73　包含層等出土陶磁器属性表(5)

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	部位	絵付方法	技法	計測値(mm) 口径	底径	器高	重量(g)	内面文様	外面文様	見込文様	備考
Ⅱ-53-108	-	126	10620	陶器 擂鉢	F-68 TR-04	0	胴-底	-	-	-	141.9	(154.2)	(800.1)	-	-	-	
Ⅱ-53-109	-	127	10515	陶器 焼酎徳利	H-17・F-19・BH-01	Ⅱb 0	胴	-	-	-	-	(150.9)	(290.1)	-	-	-	
Ⅱ-53-110	-	219	10481	陶器 焼酎徳利	20~21	0	胴	-	-	-	-	(84.6)	(85.2)	-	-	-	松澤屋
Ⅱ-53-111	-	312	7289	陶器 焼酎徳利	0P-06	0	胴-底	-	-	-	73.5	(71.1)	(119.9)	-	-	-	恒神
Ⅱ-53-112	-	115	10643	磁器製品 ミニチュア	38~43	0	口-底	手描色絵	-	(32.6)	15.7	17.9	(6.7)	-	梵文上絵(黄)、圏線(黄)	-	
Ⅱ-53-113	-	130	10639	磁器製品 笛	43~48	0	-	-	-	-	-	-	11.9	-	-	-	長軸51.8mm
Ⅱ-53-114	-	129	10641	磁器製品 亀	5~6	0	完形	-	-	-	-	-	6.6	-	-	-	長軸37.4mm 短軸29.3mm 厚さ14.3mm
Ⅱ-53-115	-	329	8255	磁器製品 予祝人形	21~27	0	略完形	-	-	-	-	61.2	(21.9)	-	-	-	長軸61.4mm 幅23.7mm
Ⅱ-53-116	-	353	10638	磁器製品 神像	G-II-8・9	0	口-胴	釉彩	-	-	-	-	(32.6)	-	上絵 赤、茶	-	高さ(72mm)

表Ⅱ-74　包含層等出土ガラス製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	部位・状態	分類 口・底形状	色・気泡	計測値(mm) 口径	底径	器高	幅	重量(g)	エンボス	備考
Ⅱ-54-117	22-1	432	2790	清酒瓶	MIZO-03-C	3	口-胴	コルク-X	水色-0-0	30.1	-	(107.4)	(52.2)	(139.7)	-	磁製栓(金具付)
Ⅱ-54-118	22-2	14	11080	清酒瓶	30~34	0	完形	コルク-X	水色-1-1	28.0	78.0	292.0	78.3	465.0	-	
Ⅱ-54-119	22-3	6	10728	ビール瓶	24~28	0	完形	王冠-3	褐色-2-2	26.0	78.0	281.0	80.0	720.0	大日本麦酒株式会社製造	
Ⅱ-54-120	22-4	418	2738	ビール瓶	0P-18	0	完形	王冠-2	褐色-0-0	26.1	76.0	287.0	78.2	680.0	DAINIPPON BREWERY CO LTD 底に「旭・12・1」	
Ⅱ-54-121	22-5	411	2778	飲料水瓶	21~27	0	完形	王冠-3	水色-2-1	26.2	62.6	295.0	64.7	460.0	NIPPON BEER KOSEN CO LTD 底に「2」	
Ⅱ-54-122	22-6	408	2787	飲料水瓶	6~12	0	完形	王冠-2	濃緑色-2-3	26.8	65.6	233.0	66.9	460.0	金線 底に「KO」	
Ⅱ-54-123	22-7	16	11086	飲料水瓶	G-16	0	胴-底	不明-3	緑色-3-1	-	65.0	(196.0)	65.0	(455.0)	金線 底に「丸B」	
Ⅱ-54-124	22-8	417	2788	飲料水瓶	MIZO-03-C	3	完形	王冠-2	緑色-3-1	26.2	66.2	248.0	67.1	420.0	底に「三ツ矢」	
Ⅱ-54-125	22-9	409	2779	飲料水瓶	23~27	0	完形	王冠-4	薄褐色-2-3	26.5	61.5	123.9	64.3	160.0	東京大倉製造 ボルド 底に「1」	
Ⅱ-54-126	22-10	410	2799	飲料水瓶	22~25	0	胴-底	不明-3	水色-1-1	-	64.5	174.0	65.6	(39.0)	大日本麦酒株式会社製造　底に「旭・B・12」	
Ⅱ-54-127	22-11	20	11085	調味料瓶	H-11	0	完形	コルク-4	水色-2-2	25.0	48.5	191.0	49.5	156.4	-	
Ⅱ-54-128	22-12	447	2797	食品瓶	6~12	0	完形	王冠-2	水色-2-3	27.6	50.3	181.0	51.6	187.1	-	
Ⅱ-54-129	22-13	19	11084	調味料瓶	G-H-11	0	完形	王冠-4	水色-2-2	25.0	49.5	182.0	49.0	225.0	-	
Ⅱ-54-130	22-14	18	11082	調味料瓶	21~23	0	略完形	広口-3	水色-3-1	51.0	144.0	170.0	78.7	(255.0)	-	
Ⅱ-54-131	22-15	403	2768	調味料瓶	63~65	0	完形	コルク-3	透明-1-1	16.9	17.2	97.2	42.4	56.1	底に「味の素」	
Ⅱ-55-132	22-16	407	2758	薬品瓶	H-23	0	略完形	コルク-3	透明-2-3	23.4	66.8	180.0	68.3	(159.4)	底に「サッポロ イ」	目盛り有
Ⅱ-55-133	22-17	22	10719	薬瓶	H-17	0	完形	コルク-3	緑青色-1-1	16.6	26.5	59.0	27.5	23.3	日本神薬　浦田薬院	目盛り有
Ⅱ-55-134	22-18	31	11014	薬瓶	G・II-8・9	0	完形	コルク-4	透明-1-1	20.9	28.0	61.0	29.0	33.4	-	
Ⅱ-55-135	22-19	402	2770	目薬瓶	H-20	0	完形	コルク-2	濃青色-0-0	15.6	29.5	65.4	30.1	224.4	目薬　清涼水　翠松堂	
Ⅱ-55-136	22-20	28	10720	目薬瓶	G・II-18	0	完形	コルク-3	透明-1-1	17.0	19.8	71.0	34.5	41.5	大学目薬　参天堂	
Ⅱ-55-137	22-21	29	10721	目薬瓶	38~43	0	口-胴	コルク-X	水色-0-0	15.5	-	(66.5)	19.2	(10.5)	EYE WATER ROHTO	
Ⅱ-55-138	22-22	413	2796	ランプ油壺	6~12	0	完形	-3	水色-3-2	32.6	78.0	90.6	108.7	435.0	安全器	
Ⅱ-55-139	22-23	448	2818	スポイト	H-23	I期黒	完形	-	透明-0-0	5.6	-	58.7	5.6	1.2	-	目薬ビンに付属するスポイト
Ⅱ-55-140	22-24	42	11047	ビンの栓	G-11	0	完形	-	水色-0-0	17.2	14.7	36.2	17.7	13.8	-	
Ⅱ-55-141	22-25	44	10723	ガラス玉	G-45	0	欠損	-	水色-0-0	-	-	(24.3)	(30.8)	(13.3)	-	
Ⅱ-55-142	22-26	43	10722	ガラス玉	F-67	0	完形	-	青色-0-0	-	-	5.9	0.4	0.4	-	

表Ⅱ-75 包含層出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	分類	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-56-143	23-1	-	5212-2	針	H-22	0	-	87.4	2.9	2.5	1.1	Fe.	
Ⅱ-56-144	23-2	-	5212-1	針	H-22	0	-	57.4	3.4	2.2	0.9	Fe.	孔有
Ⅱ-56-145	23-3	-	5249	包丁	H-13	0	出刃包丁	223.0	53.2	11.3	224.0	Fe.	
Ⅱ-56-146	23-4	-	5224	草刈鎌	H-23	0	-	227.0	45.6	5.2	161.4	Fe.	
Ⅱ-56-147	-	-	5177	鎌	B地区	表採	頭部楕円形	212.0	125.0	5.7	133.2	Fe.	
Ⅱ-56-148	23-5	-	5180	犬釘	B地区	表採	頭部隅丸方形	81.4	26.7	23.4	58.3	Fe.	
Ⅱ-56-149	23-6	-	5178	犬釘	B地区	表採	頭部楕円形	88.1	22.8	12.9	49.6	Fe.	
Ⅱ-56-150	-	-	5253	犬釘	51	0	頭部方形	93.4	26.0	20.1	69.6	Fe.	
Ⅱ-56-151	23-7	-	11098	犬釘	H-15	0	頭部方形	100.1	18.5	12.4	67.5	Fe.	
Ⅱ-56-152	23-8	-	5268	座金	23	0	四角形	56.2	54.9	3.2	33.9	Fe.	
Ⅱ-56-153	-	-	5251	帯板状鉄製品	14	0	薄板状	132.5	8.5	2.6	84.7	Fe.	
Ⅱ-56-154	-	-	5270	締め金具？	23	0	薄板状	75.5	11.0	2.0	2.9	Fe.	延伸破損
Ⅱ-56-155	23-9	-	5211	リング状金具	H-22	0	-	61.2	32.8	4.9	6.6	Fe.	延伸破損
Ⅱ-56-156	-	-	5273-2	針金製品	23	0	フック状	110.2	20.7	6.8	12.3	Fe.	延伸破損
Ⅱ-56-157	-	-	5273-1	連結針金製品	23	0	リング状	138.0	27.6	13.3	89.8	Fe.	
Ⅱ-56-158	23-10	-	5296	鉄鍋？	H-23	0	薄板状	109.6	81.4	46.3	99.8	Fe.	筒状製品と組合せ
Ⅱ-57-159	23-11	-	11106	鋳鉄	21～24	0	通常	99.0	102.0	7.8	135.0	Fe.	有溝 鉄桝付
Ⅱ-57-160	23-12	-	11109	鋳鉄	21～24	0	通常	104.0	115.6	7.8	133.4	Fe.	
Ⅱ-57-161	23-13	-	11102	鋳鉄	G-20	0	氷上	121.5	107.4	7.7	210.0	Fe.	
Ⅱ-57-162	23-14	-	5275-1	鋳鉄片	23	0	氷上	71.0	23.2	21.8	73.6	Fe.	人為切断痕
Ⅱ-57-163	23-15	-	5245-3	鋳鉄	H-26	3	通常	84.4	44.0	7.9	67.7	Fe.	欠損、半折、使用済み
Ⅱ-57-164	23-16	-	5255	リング状金具	6～12	0	不明金具？	121.8	18.2	9.8	29.6	Fe.	欠損
Ⅱ-57-165	24-17	-	-	鉄鍋	-	0	-	262.0	210.0	96.0	375.0	Fe.	
Ⅱ-58-166	24-18	-	5245-2	鋳鉄	H-26	3	通常？	91.9	43.2	26.7	76.3	Fe.	再利用、一部溶解
Ⅱ-58-167	24-19	-	5246-2	スラグ	H-26	3	流動滓	71.2	45.2	25.9	105.1	鉄滓質	
Ⅱ-58-168	24-20	-	5246-1	スラグ	H-26	3	椀形滓	91.9	73.1	29.6	157.7	鉄滓質	
Ⅱ-58-169	24-21	-	5244	スラグ	H-26	3	鋳物湯口	66.2	65.6	15.4	57.9	-	
Ⅱ-58-170	-	-	5309	シガーライター	H-14	0	-	54.9	25.5	25.7	26.3	-	磁製柄付、側部ハガレ
Ⅱ-58-171	24-22	-	11094	リング状銅製品	G-16	0	-	42.0	34.9	2.5	3.6	Br.	
Ⅱ-58-172	24-23	-	756	針隠し？	G-20	Ⅱa	-	61.7	49.3	0.1	4.7	Cu.	
Ⅱ-58-173	24-24	-	11096	キセル	H-11	0	雁首	(49.9)	11.7	0.8	(9.3)	Cu.	
Ⅱ-58-174	-	-	5256	キセル	6～12	0	吸口	52.1	15.7	15.6	10.9	Cu.	
Ⅱ-58-175	24-25	-	776	銭貨	F-18	Ⅱa	-	(23.2)	-	4.0	4.0	Fe.	鉄銭
Ⅱ-58-176	24-26	-	786	銭貨	F-18	Ⅱa	(新)寛永通寳	22.0	22.0	1.1	1.4	Cu.	
Ⅱ-58-177	24-27	-	11087	銭貨	G-55	0	明治14年1銭	28.0	-	1.5	6.2	Cu.	
Ⅱ-58-178	24-28	-	11088	銭貨	G-55	0	大正8年1銭	23.0	-	1.3	3.5	Cu.	

表Ⅱ-76 包含層出土石製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	分類	計測値(mm)			重量(g)	石質	備考
								長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-58-179	24-29	-	11093	硯	H-23	0	-	138.0	77.0	20.5	358.0	Sl.	

第Ⅲ章　アイヌ文化期の調査

アイヌ文化期の遺構・遺物は調査区西側で僅かに張り出しをもつ南緩斜面に集中して確認された。検出層位はⅢb層の上位（ⅢbU）から中位（ⅢbM）である。遺構は灰集中1か所、焼土2か所、礫集中3か所、獣骨集中4か所を検出した。焼土周辺の包含層からは蝦夷太刀1振と鉄鍋片が出土している。獣骨集中からはシカの歯や四肢骨が出土している。またこれらとは離れた調査区北東端に道跡2条を検出した。　（荻野）

表Ⅲ-1　アイヌ文化期遺構一覧表

遺構名	規模(cm) 長軸	短軸	厚さ・深さ	グリッド	層位	備　考
ⅢAS-01	123	105	3	G-53	ⅢbM	
ⅢF-01	144	90	4	G-54	ⅢbM	
ⅢF-02	124	85	4	G・H-55	ⅢbM	
道跡01	(734)	41	3	G・H-6	ⅢbU	
道跡02	(1,490)	42	2	G・H-6・7・8・9	ⅢbU	
ⅢBB-01	447	229	-	F・G-59・60	ⅢbM	
ⅢBB-02	(527)	(255)	-	F-60・61	ⅢbM	
ⅢBB-03	123	86	-	G-54	ⅢbM	
ⅢBB-04	(507)	(278)	-	H-51・52	ⅢbM	
ⅢSB-01	88	66	-	F-61	ⅢbM	
ⅢSB-02	145	(39)	-	F-61・62	ⅢbM	
ⅢSB-03	153	86	-	F-62	ⅢbM	

第1節　灰集中

灰集中01　〔ⅢAS-01〕　（図Ⅲ-1）

位置：G-53区　　規模：123×105㎝　　平面形：楕円形

確認・調査　G-53区のⅢb層中位を精査中に灰層と焼骨片の広がりを確認した。周辺のⅢb層中位には北西に約5mの位置に焼土ⅢF-01と獣骨集中ⅢBB-03が位置している。

灰集中の中から出土した炭化クルミ片を用い放射性炭素年代測定を行ったところ、710±30yrBPという結果が得られた。焼骨片はシカの四肢骨が出土している。炭化種子はブドウ科・ミズキ属・クルミ属・キハダ属・サクラ属が検出された（第Ⅴ章参照）。　（荻野）

第2節　焼土

ⅢF-01（図Ⅲ-2）

位置：G-54区　　規模144×90㎝　　平面形：楕円形

確認・調査　G-54区のⅢb層上面を精査中に焼土の広がりを確認した。南に近接して獣骨集中ⅢBB-03が位置している。焼土中から棒状礫が1点出土している。

ⅢF-02　（図Ⅲ-2）

位置：G・H-55区　　規模124×85㎝　　平面形：不整形

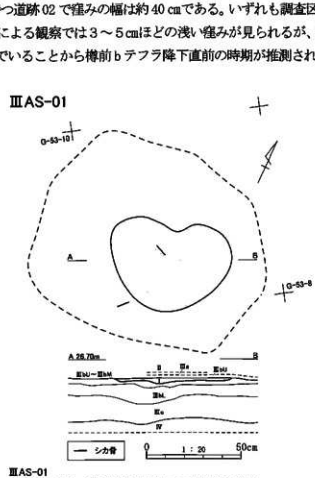
確認・調査　G・H-55区のⅢb層中位を精査中に焼土の広がりを確認した。東側7～10mに焼土ⅢF-01と獣骨集中ⅢBB-03、灰集中ⅢAS-01が位置している。焼土中から礫が1点出土している。　（荻野）

第3節　道跡

道跡01・02（図Ⅲ-3）

位置：G・H-6～9区　　規模：道跡01（734）×41cm・道跡02（1490）×42cm

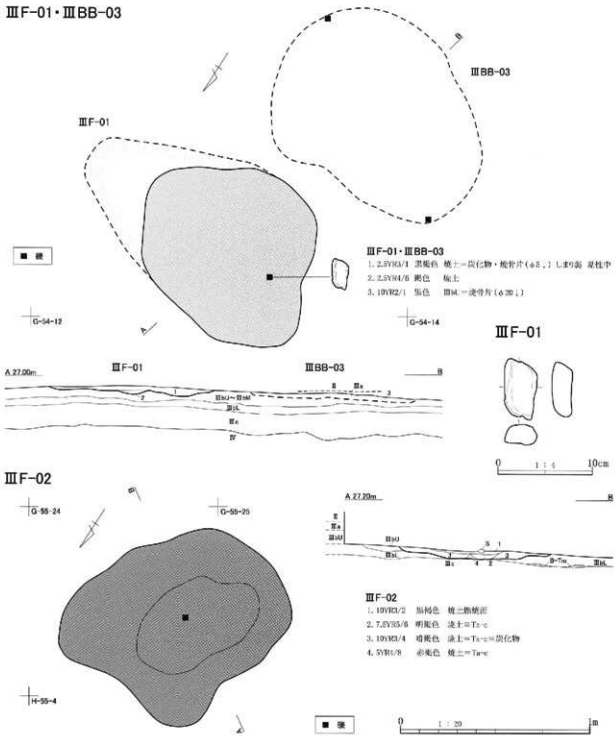
確認・調査　G・H-6～9区でⅢ層上面で浅い溝状の窪みを2条検出した。N-25°-Wに長軸を持つ道跡01とN-35°-Eに長軸を持つ道跡02で窪みの幅は約40cmである。いずれも調査区外へ延びるため全体の規模は不明である。土層断面による観察では3～5cmほどの浅い窪みが見られるが、窪みの内外ともに硬く締まっていた。Ⅲa層が窪んでいることから樽前bテフラ降下直前の時期が推測され、近世初頭のアイヌ文化期の所産である。　（荻野）



図Ⅲ-1　ⅢAS-01 平面及び断面図

表Ⅲ-2　ⅢF-01出土礫属性表

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺構名	グリッド	層位	状態	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	長短比	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-6-1	25-1-1	201	ⅢF-01	G-54	1	完形	65.7	33.9	21.6	1.9	58.3	Mud.	被熱

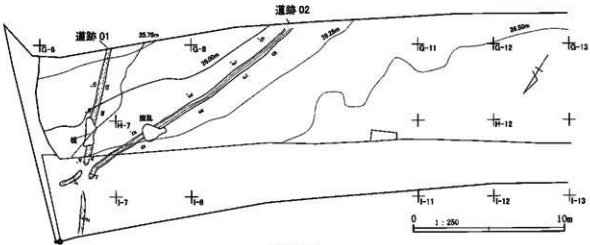


ⅢF-01・ⅢBB-03

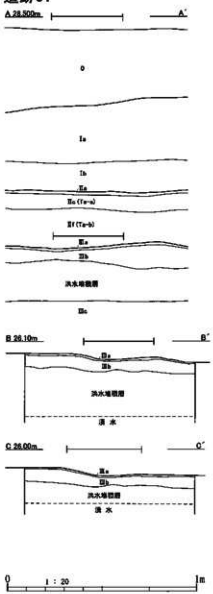
1 ⅢF-01　2.5Y3/1 黒褐色　Ⅲb/L やや砂質　焼骨片＝炭化物
2 ⅢF-01　褐色　2.5YR4/6　やや砂質　ブロック状
3 ⅢBB-03 黒色　10YR2/1　やや砂質　しまり弱い　焼骨片0.5～1.5cm大まじる　密度薄されたと考えられる

図Ⅲ-2　ⅢF-01・02・ⅢBB-03 平面及び断面図・出土礫

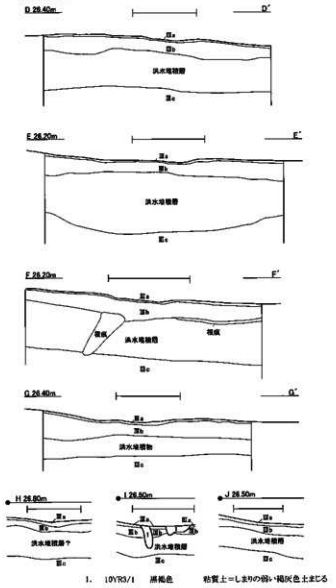
道跡 01・02



道跡01



道跡02



図Ⅲ-3　道跡 01・02 平面及び断面図

第4節　獣骨集中

獣骨集中は4か所検出した。ⅢBB-01・02・04は近接し、ⅢBB-03は25mほど北東に離れた位置で検出された。検出層位はいずれもⅢbM層である。

ⅢBB-01（図Ⅲ-4）

位置：F・G-59・60区　　規模：447×229cm　　平面形 - 不整形

未被熱のシカの歯・四肢骨が主体である。

ⅢBB-02（図Ⅲ-4）

位置：F-60・61区　　規模：(527)×(225)cm　　平面形 - 不整形

未被熱のシカの四肢骨が主体である。

ⅢBB-03（図Ⅲ-2）

位置：G-54区　　規模：124×86cm　　平面形 - 楕円形

被熱したのシカの四肢骨細片が出土している。

ⅢBB-04（図Ⅲ-4）

位置：H-51・52区　　規模：(507)×(278)cm　　平面形 - 不整形

未被熱のシカの歯・四肢骨が主体である。　　（荻野）

第5節　礫集中

礫集中は3か所検出された。ⅢSB-01・02は近接し、03も西に3mほどに位置している。検出層位はいずれもⅢbM層である。

ⅢSB-01（図Ⅲ-6・7）

位置：F-61区　　規模88×66cm　　平面形 - 楕円形

88×66cmの範囲から棒状を呈する礫を主体とした82個（完形）と滑沢面のある礫1点が出土した。礫は積み重なるように出土し、掘り込みは確認されていない。被熱したものが多い。

表Ⅲ-3　ⅢSB-01出土石器属性表

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-6-1	25-1-2	87	滑沢面のある礫	ⅢSB-01	-	ⅢbM		135.0	123.3	45.8	1,400.0	Se.	被熱

ⅢSB-02（図Ⅲ-5・6）

位置：F-60・61区　　規模：145×(39)cm　　平面形 - 不整形

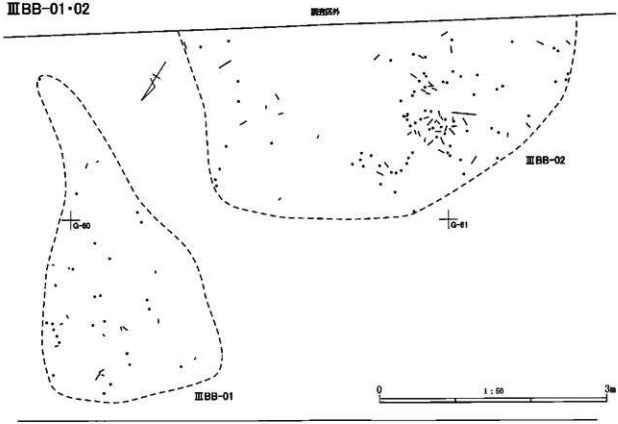
南側は調査区外に広がるため全体の規模は不明である。棒状礫を主体とする礫19個（完形）が出土した。被熱したものはない。

ⅢSB-03（図Ⅲ-5・6）

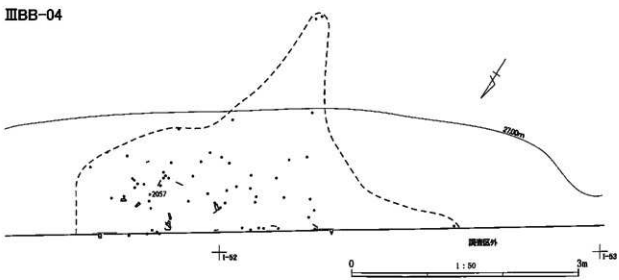
位置：G-54区　　規模：123×86cm　　平面形 - 楕円形

棒状を呈する礫8個（完形）が出土した。被熱したものはない。　　（荻野）

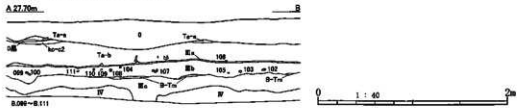
ⅢBB-01・02



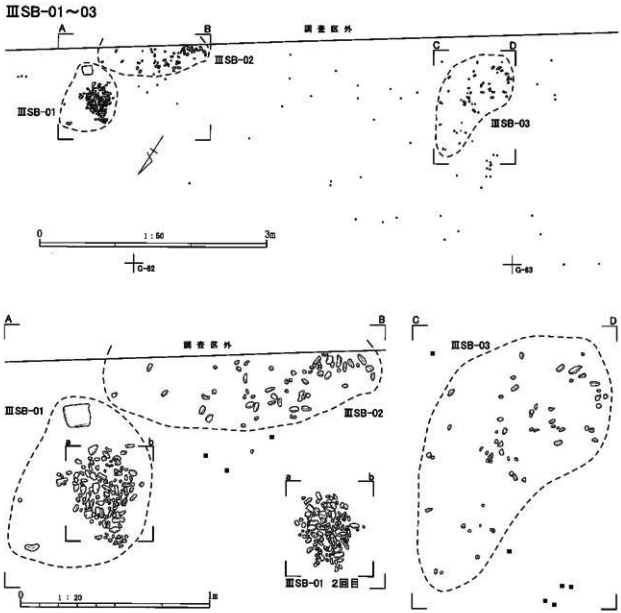
ⅢBB-04



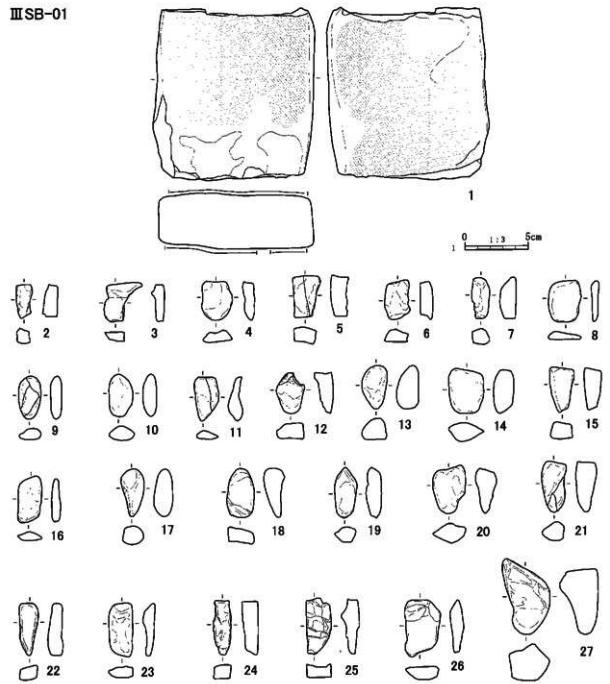
ⅢBB-04・壁面セクション



図Ⅲ-4　ⅢBB-01・02・04 平面図



図Ⅲ-5　ⅢSB-01 ～ 03 平面図



図Ⅲ-6　ⅢSB-01～03出土遺物

表Ⅲ-4　ⅢSB-01出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅲ-6-2	25	-	133	ⅢbM	完形	34.1	-15.0	16.6	-8.7	16.0	1.1	2.1	0.1	10.6	●	Mud.	
-	25	-	240	ⅢbM	完形	34.8	-14.3	30.8	5.5	23.5	8.6	1.1	-0.9	15.3		Mud.	
Ⅲ-6-3	25	ⅢS09	139他	ⅢbM	完形	36.9	-12.2	19.4	-5.9	12.9	-2.0	1.9	-0.1	16.1		Mud.	
-	25	ⅢS06	280他	ⅢbM	完形	37.9	-11.2	16.4	-8.9	16.8	1.9	2.3	0.3	14.2		Mud.	
Ⅲ-6-4	25	-	99	ⅢbM	完形	40.8	-8.3	32.8	7.5	12.2	-2.7	1.2	-0.8	14.5		Sa.	
Ⅲ-6-5	25	ⅢS05	132他	ⅢbM	完形	41.1	-8.0	21.0	-4.3	16.9	2.0	2.0	-0.0	26.5	●	Mud.	
-	25	-	262	ⅢbM	完形	41.5	-7.6	28.9	3.6	10.4	-4.5	1.4	-0.6	14.4	●	Mud.	
-	25	ⅢS11	209他	ⅢbM	完形	41.8	-7.3	24.9	-0.4	20.7	5.8	1.7	-0.3	26.5		Mud.	
-	25	ⅢS01	208他	ⅢbM	完形	41.8	-7.3	24.9	-0.4	20.7	5.8	1.7	-0.3	26.5		Mud.	
-	25	ⅢS02	286他	ⅢbM	完形	42.0	-7.1	24.3	-1.0	18.8	3.9	1.7	-0.3	20.6		Mud.	
-	25	-	259	ⅢbM	完形	42.0	-7.1	27.4	2.1	9.8	-5.1	1.5	-0.5	14.8	●	Sa.	
Ⅲ-6-6	35	-	368	ⅢbM	完形	42.7	-6.4	28.1	2.8	12.7	-2.2	1.5	-0.5	17.0		Mud.	
-	25	-	106	ⅢbM	完形	42.8	-6.3	28.6	3.3	15.3	0.4	1.5	-0.5	23.1		Mud.	
-	25	-	232-1	ⅢbM	完形	43.0	-6.1	24.2	-1.1	12.9	-2.0	1.8	-0.2	15.9	●	Mud.	
-	25	-	266-1	ⅢbM	完形	43.0	-6.1	31.6	6.3	15.7	0.8	1.4	-0.6	26.8	●	Mud.	
Ⅲ-6-7	25	-	214	ⅢbM	完形	43.1	-6.0	15.7	-9.6	17.4	2.5	2.7	0.7	14.9		Mud.	
-	25	-	245	ⅢbM	完形	43.1	-6.0	29.0	3.7	15.3	0.4	1.5	-0.5	26.4	●	Sa.	
Ⅲ-6-8	25	-	170	ⅢbM	完形	43.4	-5.7	34.8	9.5	8.5	-6.4	1.2	-0.8	18.1	●	Sa.	
-	25	-	247	ⅢbM	完形	43.7	-5.4	24.7	-0.6	17.6	2.7	1.8	-0.2	22.8		Sa.	
Ⅲ-6-9	25	ⅢS04	215他	ⅢbM	完形	44.1	-5.0	22.6	-2.7	10.7	-4.2	2.0	-0.0	14.4	●	Mud.	
-	25	-	130	ⅢbM	完形	44.1	-5.0	24.6	-0.7	18.8	3.9	1.8	-0.2	21.8	●	Mud.	
-	25	-	248	ⅢbM	完形	44.4	-4.7	24.0	-1.3	10.4	-4.5	1.9	-0.2	10.6		Mud.	
-	25	-	152	ⅢbM	完形	44.5	-4.6	26.4	1.1	14.7	-0.2	1.7	-0.3	16.3	●	Mud.	
-	25	-	225	ⅢbM	完形	44.7	-4.4	25.1	-0.2	15.0	0.1	1.8	-0.2	18.9	●	Sa.	
Ⅲ-6-10	25	-	181	ⅢbM	完形	44.7	-4.4	25.6	0.3	14.2	-0.7	1.7	-0.3	19.7	●	Mud.	
-	25	-	109	ⅢbM	完形	44.7	-4.4	30.0	4.7	9.8	-5.1	1.5	-0.5	8.8	●	Mud.	
-	25	ⅢS15	126他	ⅢbM	完形	44.8	-4.3	22.5	-2.8	9.2	-5.7	2.0	-0.0	12.7		Mud.	
-	25	-	372	ⅢbM	完形	45.0	-4.1	25.0	-0.3	11.4	-3.5	1.8	-0.2	15.3		Sa.	
Ⅲ-6-11	25	ⅢS10	277他	ⅢbM	完形	45.1	-4.0	21.2	-4.1	14.5	-0.4	2.1	0.1	12.1	●	Mud.	
Ⅲ-6-12	25	ⅢS14	357他	ⅢbM	完形	45.6	-3.5	28.8	3.5	14.5	-0.4	1.6	-0.4	18.6		Mud.	
-	25	-	104	ⅢbM	完形	46.0	-3.1	18.2	-7.1	14.0	-0.9	2.5	0.5	12.3	●	Mud.	
Ⅲ-6-13	25	-	111	ⅢbM	完形	46.1	-3.0	23.5	-1.8	25.2	10.3	2.0	-0.0	32.8	●	Sa.	
-	25	-	200	ⅢbM	完形	46.3	-2.8	25.0	-0.3	13.4	-1.5	1.9	-0.1	17.4	●	Mud.	
-	25	-	137	ⅢbM	完形	46.4	-2.7	24.9	-0.4	20.9	6.0	1.9	-0.1	23.0	●	Mud.	
-	25	-	244	ⅢbM	完形	46.9	-2.2	22.5	-2.8	13.6	-1.3	2.1	0.1	15.6	●	Mud.	
Ⅲ-6-14	25	-	167	ⅢbM	完形	47.5	-1.6	36.8	11.5	20.0	5.1	1.3	-0.7	32.9	●	Mud.	
-	25	-	195	ⅢbM	完形	48.0	-1.1	25.3	-	19.0	4.1	1.9	-0.1	18.5	●	Mud.	
-	25	-	94	ⅢbM	完形	48.0	-1.1	29.2	3.9	18.6	3.7	1.6	-0.4	27.8	●	Sa.	
-	25	-	207	ⅢbM	完形	48.3	-0.8	24.4	-0.9	17.6	2.7	2.0	-0.0	16.4		Mud.	
-	25	-	112	ⅢbM	完形	48.3	-0.8	28.2	2.9	12.5	-2.4	1.7	-0.3	19.3		Mud.	
-	25	-	270	ⅢbM	完形	48.4	-0.7	26.2	0.9	9.5	-5.4	1.8	-0.2	8.9		Mud.	
Ⅲ-6-15	25	-	143	ⅢbM	完形	48.4	-0.7	26.4	1.1	17.2	2.3	1.8	-0.2	24.8		Mud.	
-	25	-	100	ⅢbM	完形	48.6	-0.5	30.5	5.2	9.2	-5.7	1.6	-0.4	14.4	●	Sa.	
-	25	-	250	ⅢbM	完形	48.8	-0.3	22.7	-2.6	17.3	2.4	2.1	0.1	19.9		Sa.	
Ⅲ-6-16	25	-	364	ⅢbM	完形	48.8	-0.3	24.1	-1.2	8.5	-6.4	2.0	0.0	11.4		Mud.	
-	25	-	96	ⅢbM	完形	48.8	-0.3	28.6	3.3	17.3	2.4	1.7	-0.3	19.4	●	Mud.	
-	25	-	223	ⅢbM	完形	49.0	-0.1	25.1	-0.2	10.4	-4.5	2.0	-0.0	13.5		Mud.	
-	25	-	265-1	ⅢbM	完形	49.4	0.3	18.7	-6.6	19.4	4.5	2.6	0.6	18.8		Mud.	
Ⅲ-6-17	25	-	179	ⅢbM	完形	49.4	0.3	24.0	-1.3	19.1	4.2	2.1	0.1	21.4	●	Sa.	
-	25	-	267	ⅢbM	完形	49.6	0.5	27.4	2.1	13.3	-1.6	1.8	-0.2	20.3	●	Mud.	
-	25	-	193	ⅢbM	完形	49.7	0.6	26.9	1.6	12.4	-2.5	1.8	-0.2	13.7	●	Mud.	
Ⅲ-6-18	25	ⅢS08	226他	ⅢbM	完形	50.9	1.8	26.8	1.5	13.6	-1.3	1.9	-0.1	26.0	●	Mud.	
-	25	-	367	ⅢbM	完形	51.1	2.0	25.4	0.1	20.3	5.4	2.0	0.0	23.2		Mud.	
-	25	-	134	ⅢbM	完形	51.3	2.2	24.2	-1.1	8.1	-6.8	2.1	0.1	15.9	●	Mud.	
-	25	-	120	ⅢbM	完形	51.8	2.7	32.2	6.9	7.5	-7.4	1.6	-0.4	13.4	●	Mud.	
-	25	-	121	ⅢbM	完形	51.8	2.7	32.2	6.9	7.5	-7.4	1.6	-0.4	13.4	●	Mud.	
Ⅲ-6-19	25	-	257	ⅢbM	完形	52.0	2.9	23.1	-2.2	14.8	-0.1	2.3	0.3	16.6		Mud.	
-	25	-	194	ⅢbM	完形	52.2	3.1	23.5	-1.8	11.6	-3.3	2.2	0.2	13.0	●	Mud.	
Ⅲ-6-20	25	-	281	ⅢbM	完形	52.3	3.2	34.1	8.8	22.2	7.3	1.5	-0.5	26.8		Mud.	
-	25	-	289	ⅢbM	完形	53.2	4.1	25.6	0.3	13.2	-1.7	2.1	0.1	19.5	●	Mud.	
-	25	-	365	ⅢbM	完形	53.3	4.2	15.9	-9.4	13.3	-1.6	3.4	1.4	13.3		Mud.	
-	25	-	107	ⅢbM	完形	53.3	4.2	19.2	-6.1	8.4	-6.5	2.8	0.8	8.8		Mud.	
-	25	-	279	ⅢbM	完形	53.3	4.2	21.2	-4.1	12.4	-2.5	2.5	0.5	12.9		Mud.	
Ⅲ-6-21	25	ⅢS12	135他	ⅢbM	完形	53.5	4.4	21.2	-4.1	18.4	3.5	2.5	0.5	27.9	●	Mud.	
-	25	-	154	ⅢbM	完形	54.4	5.3	20.6	-4.7	8.6	-6.3	2.6	0.6	11.3		Mud.	
-	25	-	114	ⅢbM	完形	54.7	5.6	20.7	-4.6	21.3	6.4	2.6	0.6	23.2	●	Mud.	
-	25	-	101	ⅢbM	完形	55.0	5.9	28.4	3.1	21.2	6.3	1.9	-0.1	25.3	●	Mud.	
-	25	-	90	ⅢbM	完形	55.0	5.9	34.1	8.8	17.5	2.6	1.6	-0.4	27.5	●	Mud.	
-	25	-	105	ⅢbM	完形	55.1	6.0	30.6	5.3	10.0	-4.9	1.8	-0.2	17.1	●	Mud.	
-	25	-	151	ⅢbM	完形	55.2	6.1	24.1	-1.2	13.2	-1.7	2.3	0.3	22.7	●	Mud.	
Ⅲ-6-22	25	-	369	ⅢbM	完形	55.3	6.2	20.1	-5.2	16.5	1.6	2.8	0.8	22.4		Sa.	
-	25	-	127	ⅢbM	完形	55.6	6.5	26.9	1.6	12.9	-2.0	2.1	0.1	17.4	●	Mud.	
-	25	-	108	ⅢbM	完形	55.8	6.7	24.3	-1.0	14.3	-0.6	2.3	0.3	22.9	●	Mud.	
Ⅲ-6-23	25	-	237	ⅢbM	完形	56.3	7.2	25.2	-0.1	11.8	-3.1	2.2	0.2	19.6		Mud.	
Ⅲ-6-24	25	ⅢS13	164他	ⅢbM	完形	56.8	7.7	17.6	-7.7	13.7	-1.2	3.2	1.2	23.3	●	Mud.	
-	25	ⅢS03	251他	ⅢbM	完形	59.0	9.9	20.4	-4.9	11.2	-3.7	2.9	0.9	13.4		Mud.	
Ⅲ-6-25	25	ⅢS16	162他	ⅢbM	完形	59.2	10.1	25.4	0.1	16.1	1.2	2.3	0.3	25.6	●	Mud.	
-	25	-	258	ⅢbM	完形	60.2	11.1	17.9	-7.4	10.2	-4.7	3.4	1.4	10.6		Mud.	
Ⅲ-6-26	25	ⅢS07	198他	ⅢbM	完形	60.7	11.6	33.7	8.4	11.9	-3.0	1.8	-0.2	33.7	●	Mud.	
-	25	-	103	ⅢbM	完形	64.9	15.8	21.8	-3.5	11.1	-3.8	3.0	1.0	14.9	●	Mud.	
-	25	-	271	ⅢbM	完形	69.0	19.9	16.9	-8.4	14.6	-0.3	4.1	2.1	17.6		Mud.	
Ⅲ-6-27	25	-	88	ⅢbM	完形	82.0	32.9	41.3	16.0	45.1	30.2	2.0	-0.0	123.0		Mud.	
平均値						49.1		25.3		14.9		2.0		20.0			

表Ⅲ-5　ⅢSB-02出土礫属性表

掘図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅲ-6-28	25	-	507	ⅢbU	定形	28.2	-31.0	10.4	-23.0	5.4	-14.5	2.5	0.7	2.4		Sa.	
Ⅲ-6-29	25	-	424	ⅢbU	定形	32.6	-24.6	29.8	-3.9	20.8	0.9	1.1	-0.7	17.3		Mud.	
-	25	-	421	ⅢbU	定形	36.4	-20.8	27.3	-6.1	19.0	-0.9	1.3	-0.5	19.5		Sa.	
-	25	-	364	ⅢbU	定形	39.6	-17.6	32.6	-0.8	21.1	1.2	1.2	-0.6	27.9		Sa.	
Ⅲ-6-30	25	-	420	ⅢbM	定形	41.4	-12.8	27.1	-6.3	12.7	-7.2	1.5	-0.2	21.6		Mud.	
-	25	-	393	ⅢbM	定形	47.8	-9.4	32.9	-0.5	23.2	3.3	1.5	-0.3	41.2		Mud.	
-	25	-	373	ⅢbM	定形	48.7	-8.5	35.6	2.2	18.3	-1.6	1.4	-0.4	30.6		Mud.	
Ⅲ-6-31	25	-	427	ⅢbM	定形	50.2	-7.0	31.6	-1.8	23.7	3.8	1.6	-0.2	48.9		Sa.	
-	25	-	385	ⅢbM	定形	59.9	2.7	32.8	-0.6	15.9	-4.0	1.8	0.0	39.5		Sa.	
-	25	-	376	ⅢbM	定形	60.3	3.1	31.4	-2.0	16.8	-3.1	1.9	0.1	39.8		Mud.	
-	25	-	390	ⅢbM	定形	61.5	4.1	32.7	-10.7	19.1	-0.8	2.7	0.9	38.8		Mud.	
-	25	-	426	ⅢbM	定形	63.2	6.0	39.5	6.1	17.2	-2.7	1.6	-0.2	33.6		Mud.	
-	25	-	509	ⅢbM	定形	63.9	6.7	34.3	0.9	34.9	15.0	1.9	0.1	86.0		Sa.	
-	25	-	419	ⅢbM	定形	65.1	7.9	39.5	6.1	17.7	-2.2	1.6	-0.2	51.3		Mud.	
Ⅲ-6-32	25	ⅢS25	377他	ⅢbM	定形	68.9	11.7	25.3	-8.1	17.9	-2.0	2.7	0.9	25.8		Mud.	
-	25	-	379	ⅢbM	定形	74.0	16.8	38.1	5.0	19.3	-0.6	1.9	0.1	60.7		Mud.	
-	25	-	416	ⅢbM	定形	78.3	21.1	52.7	19.3	17.0	-2.9	1.5	-0.3	68.0		Sa.	
-	25	-	401	ⅢbM	定形	78.6	21.4	45.5	12.1	30.6	10.7	1.7	-0.1	137.1		Sa.	
Ⅲ-6-33	25	-	409	ⅢbU	定形	86.2	29.0	45.2	11.8	23.3	3.4	1.9	0.1	75.3		Mud.	
平均値						57.2		33.4		19.9		1.8		44.5			

表Ⅲ-6　ⅢSB-03出土礫属性表

掘図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	長短比 標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅲ-6-34	25	-	513	ⅢbM	定形	10.0	-26.8	7.8	-10.8	4.7	-5.5	1.3	-0.5	0.5		Sa.	
-	25	-	518	ⅢbM	定形	10.1	-26.7	8.5	-9.9	6.1	-4.1	1.2	-0.6	0.6		Sa.	
-	25	-	519	ⅢbM	定形	12.1	-24.7	6.9	-11.5	4.5	-5.7	1.8	-0.0	0.3		Sa.	
-	25	-	459	ⅢbM	定形	13.1	-23.4	10.3	-8.1	6.2	-4.0	1.3	-0.5	1.1		Sa.	
-	25	-	455	ⅢbM	定形	53.0	16.2	28.7	10.3	16.4	6.2	1.8	0.0	22.3		Mud.	
-	25	-	473	ⅢbM	定形	59.5	22.7	25.8	7.4	17.3	7.1	2.3	0.5	24.5		Mud.	
Ⅲ-6-35	25	ⅢS29	438他	ⅢbM	定形	62.3	25.5	26.3	7.9	15.3	5.1	2.4	0.5	11.4		Mud.	
Ⅲ-6-36	25	-	485	ⅢbM	定形	74.2	37.4	32.8	14.4	11.4	1.2	2.3	0.5	17.5		Mud.	
平均値						36.8		18.4		10.2		1.8		9.8			

第6節　包含層出土遺物

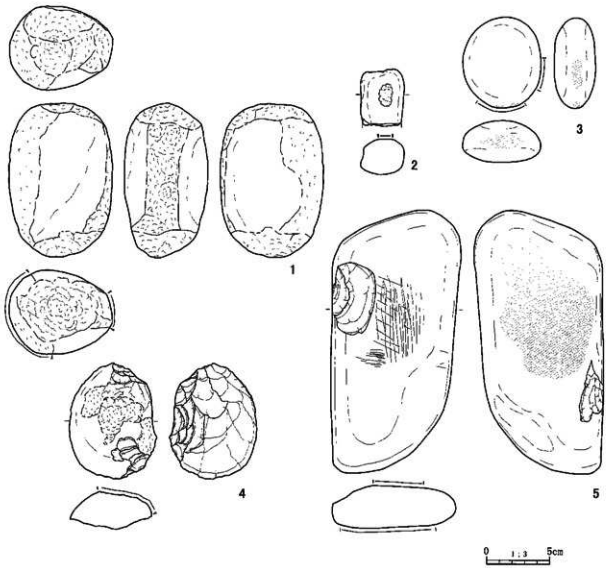
ⅢbU層・ⅢbM層出土の遺物をアイヌ文化期のものとして扱った。遺物は焼土や獣骨集中・礫集中などを検出した調査区西側に多く見られ、その他の地点では散漫的に出土する傾向がある。

1．石器（図Ⅲ-7-1～5）

1・2はたたき石である。1は棒状礫の両端と1側縁に敲打痕が見られる。2は棒状礫の1面に浅く窪む敲打痕が見られる。3は扁平礫の一端と側縁の一部に滑沢面のある礫である。4は打ち欠きによる加工痕のある礫で、被熱している。5は緑色片岩製の砥石で、扁平礫の両面に使用痕が確認でき、1面には線条痕も観察される。

2．金属製品（図Ⅲ-8-1～5）

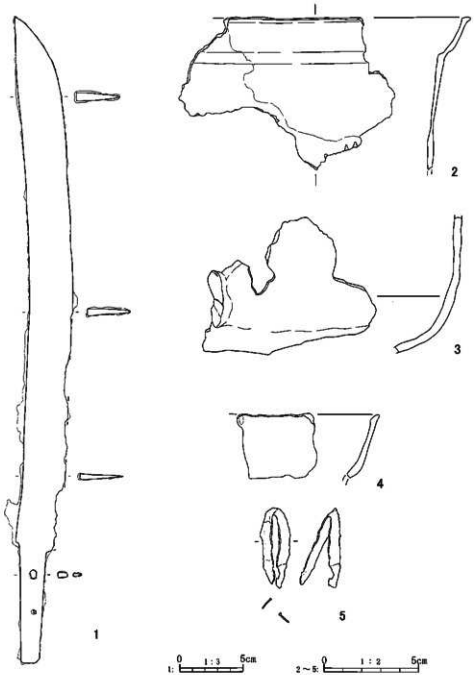
1は蝦夷大刀で、長軸51.3cm、厚さ0.7cmを測る。中央部分に反りが認められる。平棟の両区で、茎部分には目釘穴が2ヶ所認められる。刃部と茎は断面逆三角形を呈する。2・3は同一個体の鉄鍋片である。2の口唇部は若干内傾する切り出し形で肥厚する。3は底部付近の破片で、底部から胴部への立ち上がりは丸みを帯びる。4は鉄鍋の口縁部片で、口唇部は内傾する。5は銅製品で2点接して出土したものが接合した。本来、楕円形に近い環状を呈していたものと推測され、刀装具の可能性がある。（荻野）



図Ⅲ-7　アイヌ文化期包含層出土石器

表Ⅲ-7　アイヌ文化期包含層出土石器属性表

挿図番号	図版番号	遺物番号	遺物名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-7-1	25-2-1	665	たたき石	G-9	ⅢbM	-	119.5	84.0	65.9	960.0	And.	
Ⅲ-7-2	25-2-2	674	たたき石	G-25	ⅢbM	-	(43.2)	32.6	26.3	(53.1)	Sa.	
Ⅲ-7-3	25-2-3	74	滑沢面のある礫	G-53	ⅢbM	-	71.7	61.6	32.4	225.0	Sa.	
Ⅲ-7-4	25-2-4	36	加工痕のある礫	G-54	ⅢbM	-	67.0	89.4	30.9	185.4	And.	被熱
Ⅲ-7-5	25-2-5	40	礫石	G-51	ⅢbM	-	210.0	100.1	33.7	1,400.0	Gsh.	



図Ⅲ-8　アイヌ文化期包含層出土金属製品

表Ⅲ-8　アイヌ文化期包含層出土金属製品属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅲ-8-1	26-1	－	2	蝦夷太刀	－	G-53	ⅢbM	－	513.0	34.0	7.0	380.0	Fe.	
Ⅲ-8-2	26-2	－	2004	鉄鍋片	－	G-53	ⅢbM	ロ－胴	113.5	83.8	3.3	86.2	Fe.	
Ⅲ-8-3	26-3	－	3	鉄鍋片	－	G-53	ⅢbM	胴－底	63.9	93.3	46.3	65.0	Fe.	
Ⅲ-8-4	26-4	－	1994	鉄鍋片	－	G-53	ⅢbM	ロ	41.5	36.3	4.5	20.7	Fe.	
Ⅲ-8-5	26-5	－	527	銅製品	－	G-56	ⅢbM	－	42.3	15.9	0.4	2.3	Cu.	

第Ⅳ章　擦文・続縄文文化期の調査

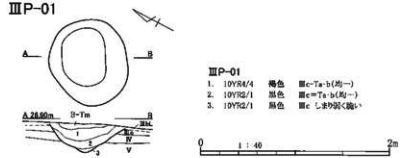
擦文文化期と続縄文文化期の遺構・遺物は調査区の北東側で確認された。擦文文化期の検出層位はⅢb層の下位（ⅢbL）である。遺構は土坑１基、焼土６か所、土器集中１か所、礫集中１か所を検出した。焼土周辺の包含層からは少量の擦文土器片が出土している。続縄文文化期は土器集中が１か所検出されたのみで、検出層位はⅢc層である。遺物は土器２個体と破片が少量、石斧１点などが出土している。（荻野）

表Ⅳ-1　擦文・続縄文文化期遺構一覧表

遺構名	規模(cm) 長軸	短軸	厚さ・深さ	グリッド	層位	備　考
ⅢP-01	91	81	30	H-59	Ⅲc	擦文文化期
ⅢF-03	106	81	6	G･H-13･14	ⅢbL	擦文文化期
ⅢF-04	47	42	4	F･G-13	ⅢbL	擦文文化期
ⅢF-05	35	20	6	H-13	ⅢbL	擦文文化期
ⅢF-06	67	38	4	G-14	ⅢbL	擦文文化期
ⅢF-07	59	37	3	G-13	ⅢbL	擦文文化期
ⅢF-08	40	32	4	G-13	ⅢbL	擦文文化期
ⅢSB-04	228	115	-	F･G-12･13	ⅢbL	擦文文化期
ⅢPB-01	224	185	-	G･H-19	Ⅲc	続縄文文化期
ⅢPB-02	52	49	-	H-07	ⅢbL	擦文文化期

第1節　擦文文化期土坑

調査区西側のⅢb層下位からⅢc層を精査中にB-Tm火山灰が円形に堆積しているのを検出した。半裁したところⅢb層下位から掘り込まれた落ち込みが見られた。壁は開き気味に立ち上がり、坑底は丸みを帯びる。遺物は出土していない。（荻野）



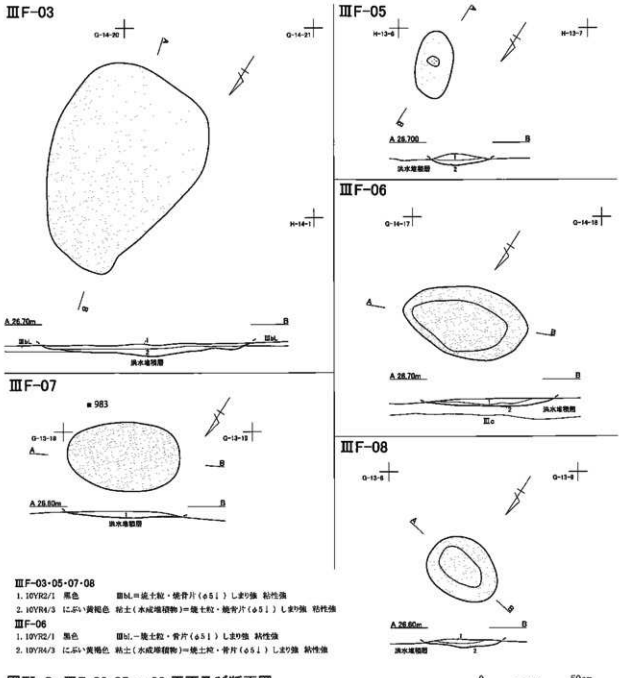
図Ⅳ-1　ⅢP-01 平面及び断面図

第2節　撚文文化期焼土

撚文文化期の焼土は、Ⅲbl層とその直下に堆積する洪水堆積層上面で焼土や焼骨片の広がりが見られたことから検出した。焼土から出土した焼骨片はいずれも粉末状で、種が同定可能な資料は得られなかった。

ⅢF-03・04・05・06・07・08（図Ⅳ-2・3）

6か所の焼土はG・H-13・14区の10m四方で検出された。平面形は03・05～08が楕円形、04が円形で、規模は長軸35～106cmである。焼土の断面観察ではいずれも洪水堆積層よりも浅く窪む部分まで焼骨片を含んでいる。このことから、浅く掘り込んだうえでこの場所で形成された屋外炉と推測される。（狄野）



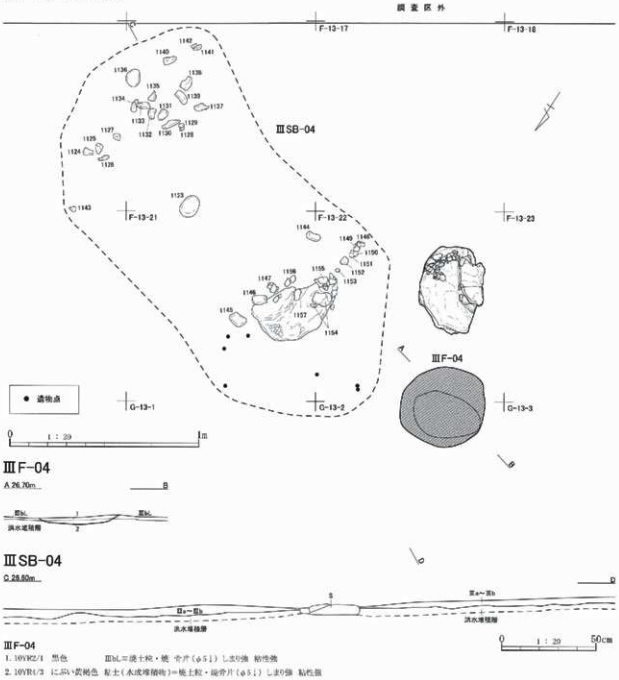
図Ⅳ-2　ⅢF-03・05～08平面及び断面図

第3節　擦文文化期礫集中

ⅢSB-04（図Ⅳ-3・4）

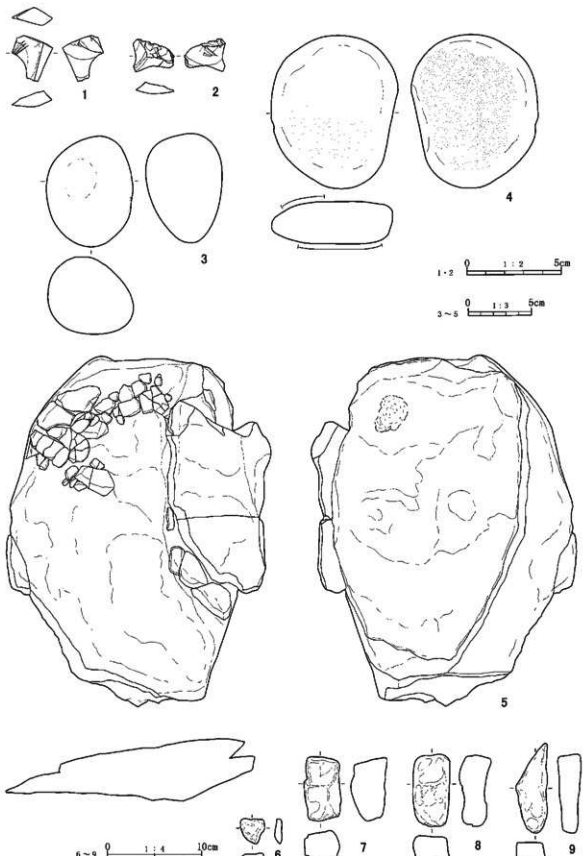
擦文文化期の礫集中は、調査区東側のF・G-12・13区、ⅢbL層で検出した。平面形は東西に長軸をもつ楕円形で、規模は228×115㎝である。西に接して焼土ⅢF-04が位置している。集石の東側には棒状礫15個（完形）と滑沢面のある礫2点（図Ⅳ-4-3・4）が見られ、西側には砂岩製の台石（図Ⅳ-3-5）と黒曜石のフレイク・チップ（図Ⅳ-4-1・2）が、礫集中周辺からは擦文土器が少量出土している。（荻野）

ⅢF-04・ⅢSB-04



図Ⅳ-3　ⅢF-04・ⅢSB-04 平面図及び断面図

ⅢSB-04



図Ⅳ-4　ⅢSB-04 出土遺物

表Ⅳ-2　ⅢSB-04出土礫属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm) 長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
Ⅳ-4-6	28	-	1150	Ⅲbl.	完形	29.5	+6.7	25.4	+20.0	7.4	+21.2	1.2	-0.5	5.4		Mud.	
-	28	-	1135	Ⅲbl.	完形	66.5	+18.7	44.2	+1.2	21.4	-7.2	1.3	-0.4	77.9		Mud.	
-	28	-	1124	Ⅲbl.	完形	57.2	+8.0	42.5	-2.9	28.9	0.3	1.3	-0.4	72.7		Mud.	
-	28	-	1131	Ⅲbl.	完形	60.9	+14.3	45.7	1.3	19.1	-9.5	1.3	-0.4	64.2		Mud.	
-	28	-	1132	Ⅲbl.	完形	62.0	-13.2	49.6	4.2	27.3	-1.3	1.3	-0.5	72.4		Mud.	
Ⅳ-4-7	28	-	1140	Ⅲbl.	完形	64.2	+11.0	36.8	-8.6	40.2	11.6	1.7	0.0	109.6		Mud.	
-	28	-	1125	Ⅲbl.	完形	69.2	-6.0	39.6	-5.8	20.8	-7.9	1.7	0.0	61.7		Mud.	
-	28	第587	1142	Ⅲbl.	完形	70.4	-4.8	43.3	-2.1	29.1	0.5	1.6	-0.1	92.0		Sa.	
-	28	-	1133	Ⅲbl.	完形	73.1	-2.1	48.5	3.1	31.3	5.7	1.5	-0.2	93.1		Mud.	
Ⅳ-4-8	28	-	1144	Ⅲbl.	完形	75.7	0.5	34.8	-10.6	27.4	-1.2	2.2	0.5	130.9		Mud.	
-	28	-	1139	Ⅲbl.	完形	80.9	5.7	42.1	-3.3	16.1	-12.5	1.9	0.2	130.9		Mud.	
-	28	-	1134	Ⅲbl.	完形	85.5	10.3	47.2	1.8	27.4	-1.2	1.8	0.1	77.9		Mud.	
-	28	-	1138	Ⅲbl.	完形	85.6	10.4	47.6	2.2	35.0	7.4	1.8	0.1	110.4		Mud.	
-	28	-	1145	Ⅲbl.	完形	90.8	15.6	61.0	15.6	26.1	-2.5	1.5	-0.2	168.9		Sa.	
Ⅳ-4-9	28	-	1139	Ⅲbl.	完形	94.5	19.3	27.6	-17.8	20.0	-8.6	3.4	1.7	69.7		Mud.	
平均値						70.4		42.5		25.4		1.7		84.5			

表Ⅳ-3　ⅢSB-04出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-4-1	28-1	-	1157-4	FC	ⅢSB-04	-	ⅢbL	-	24.2	21.5	9.9	1.9	Obs.	
Ⅳ-4-2	28-2	-	1157-5	FC	ⅢSB-04	-	ⅢbL	-	17.2	21.6	6.0	1.2	Obs.	
Ⅳ-4-3	-	-	1123	擦痕面のある礫	ⅢSB-04	-	ⅢbL	-	118.0	90.1	76.6	1,150.0	Mud.	被熱
Ⅳ-4-4	28-3	-	1136	擦痕面のある礫	ⅢSB-04	-	ⅢbL	-	120.7	96.8	33.8	700.4	Gnl.	
Ⅳ-4-5	28-4	-	1157	台石	ⅢSB-04	-	ⅢbL	-	374.0	281.0	66.5	5,940.0	Sa.	

第4節　撚文・繊維文文化期の土器集中及び包含層出土遺物

1. 土器（図Ⅳ-6-1～7）

ⅢPB-01（図Ⅳ-5・Ⅳ-6-5・6）

Ⅵ群E1類土器　調査区東側のⅢc層で、直径約2mの範囲から繊維文土器が2個体出土した。5は口縁部を欠く深鉢で、胴部は張り出し底部付近が括れる。口縁部に隆起のやや弱い突き瘤が見られる。胴部上半には微隆起線風の沈線文による逆三角形を単位とする文様が施される。6a・6b・6cは片口と推測される同一個体の土器である。口唇断面形はやや尖り、口縁部直下に円形刺突文と突瘤文がめぐる。文様構成は1とほぼ同様と思われる。ともに胎土に小礫を多く含む。

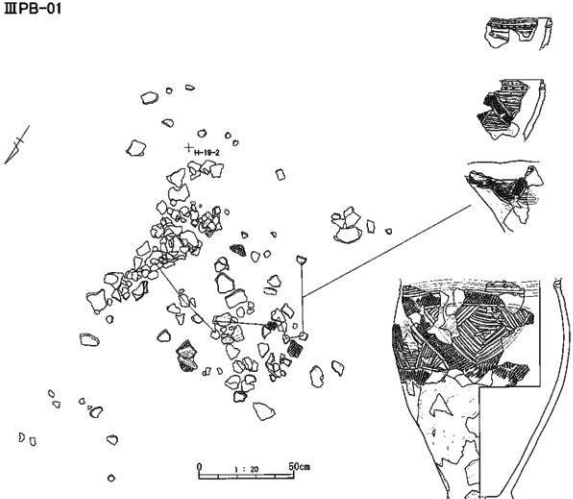
Ⅵ群C類土器　7a・7bは包含層から出土した同一個体の破片で、縄文が施された上げ底の土器である。

ⅢPB-02　（図Ⅳ-5・Ⅳ-6-1）

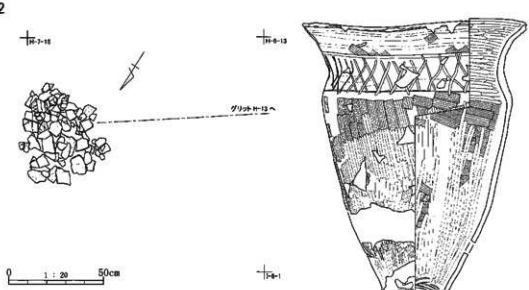
Ⅶ群土器　H-7区から一括で出土した口縁部から胴下半部に約15m北西に離れた地点から出土した底部が接合した。周辺には水成堆積層がやや厚く堆積するが、土器はこの上面のⅢbL層で出土した。

1は完形の甕で、口縁部は開き、口縁下はやや強く括れる。口唇部は尖り、底部は張り出し緩く開く。内外面共にハケメ調整後にミガキが施されている。頸部の括れた部分に平行沈線と斜格子状の沈線が施文される。外面には輪積み痕が残り、胎土には砂粒を少量含む。2・3は胴部破片、4はミガキ調整が施された底部で、包含層から出土した。（依野）

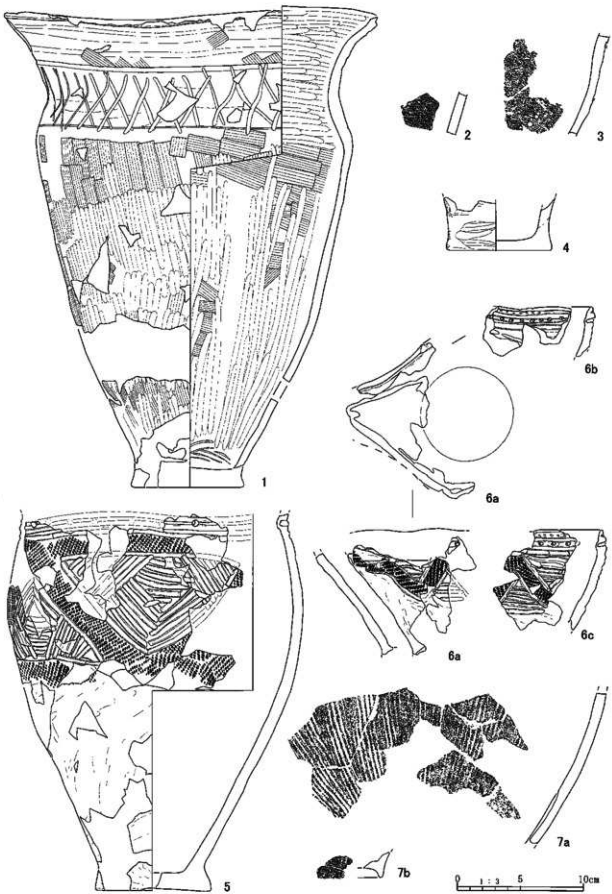
ⅢPB-01



ⅢPB-02



図Ⅳ-5　土器集中 平面図



図Ⅳ-6　擦文・続縄文文化期包含層出土土器

2. 石器（図Ⅳ-7-1～7）

1・3～5はⅢbL層から出土したもので擦文文化期、2はⅢc層出土で続縄文文化期の石器と考えられる。1は黒曜石製のRフレイク。2は打ち欠きと研磨により整形された石斧。3は4点が接合したたたき石。4は緑色片岩製のたたき石で扁平礫の両端と側縁に敲打痕が見られる。5は滑沢面のある礫。6は1面が使用された砥石。7は加工痕のある礫である。（荻野）

図Ⅳ-7　擦文・続縄文文化期包含層出土石器

表Ⅳ-4　擦文・続縄文文化期包含層出土土器属性表

※グリッド取上げ遺物に関しては調査区名も遺物番号に含まれるため調査区の記載を省いている。

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号/調査区/層位	部位	器形等	文様	胎土	備考
						口縁ー口唇/胴部/底側面/変換点ー底面	口唇ー口縁ー内面/胴部ー内面/底側面ー内面		
Ⅳ-6-1	27-1	SP-001	Ⅶ		完形	線下括れ開く/緩く開く/「く」の字状に張り出す/平底	ハケメ調製・ミガキ・汎線/内面ハケメ調製・ミガキ	砂粒少量	Ⅲ PB-02
Ⅳ-6-2	27-2		Ⅶ	971	胴部	直立		砂粒少量	
Ⅳ-6-3	27-3		Ⅶ	814・815-1・815-2 Ⅲ bL	胴部	直立		砂粒少量	
Ⅳ-6-4	27-4		Ⅶ	Ⅲ bL	底部	僅かに張り出す-隅丸角状/平底		砂粒少量	
Ⅳ-6-5	27-5	ZP-003	VIF1	Ⅲ c	胴部上半～底部	口縁下括れ/丸く張り出す/「く」の字状に張り出す/平底	板状工具による沈線文・OI突瘤文・LR斜行縄文	小礫多い	Ⅲ PB-01
Ⅳ-6-6a	27-6a	ZP-002-3	VIF1	Ⅲ c	胴部上半～下半	外傾/片口状の張り出し	OI突瘤文・LR斜行縄文を囲む沈線文	小礫多い	Ⅲ PB-01
Ⅳ-6-6b	27-6b	ZP-002-1	VIF1	Ⅲ c	口縁部	平縁ー尖状	横走沈線施文後上段に小刺突列・下段にOI突瘤列	小礫多い	Ⅲ PB-01
Ⅳ-6-6c	27-6c	ZP-002-2	VIF1	Ⅲ c	口縁部～胴部	平縁ー尖状/外傾	横走沈線施文後上段に小刺突列・下段にOI突瘤列/LR斜行縄文を囲む沈線文	小礫多い	Ⅲ PB-01
Ⅳ-6-7a	27-7	ZP-001-1	VIC	Ⅲ c	胴部下半	外傾	RL縄縄文	砂粒少量	
Ⅳ-6-7b	27-8	ZP-001-2	VIC	941・996 Ⅲ c	底部	上げ底	RL縄縄文	砂粒少量	

表Ⅳ-5　擦文・続縄文文化期包含層出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺構名	グリッド	層位	分類	計測値(mm) 長軸	短軸	厚さ	重量(g)	材質	備考
Ⅳ-7-1	28-6	1	992	RF	Ⅲ SB-04	D-14	Ⅲ bL	-	41.6	29.0	7.3	10.7	Obs.	
Ⅳ-7-2	28-6	2	1207	石斧	Ⅲ SB-04	F-14	Ⅲ c	-	125.9	55.2	15.2	186.6	Bt-Sch.	
Ⅳ-7-3	28-7	3	881	たたき石	Ⅲ SB-04	G-14	Ⅲ bL	-	119.0	129.0	111.0	1,116.5	Mud.	4点接合
Ⅳ-7-4	28-8	4	1821	たたき石	Ⅲ SB-04	I-8	Ⅲ bL	-	172.5	79.8	17.3	330.0	Cr-Mud.	
Ⅳ-7-5	28-9	5	840	滑沢面のある礫	Ⅲ SB-04	G-20	Ⅲ bL	-	98.9	71.3	21.9	280.0	Gni.	
Ⅳ-7-6	28-10	6	871	砥石	Ⅲ SB-04	H-15	Ⅲ bL	-	189.9	121.7	18.5	600.0	Sa.	被熱
Ⅳ-7-7	28-11	7	870	加工痕のある礫	Ⅲ SB-04	H-16	Ⅲ bL	-	42.9	55.0	34.0	112.7	Mud.	

第Ⅴ章　自然科学及び動植物遺存体分析

第1節　ヲイカルマイ遺跡における放射性炭素年代(AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1　測定対象試料

ヲイカルマイ遺跡の測定対象試料は、灰集中1出土クルミ(No.1:IAAA-102692)、炭化物集中2出土炭(No.2:IAAA-102693)の合計2点である(表1)。

2　化学処理工程

(1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

(2) 酸-アルカリ-酸(AAA:Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

(3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO_2)を発生させる。

(4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。

(6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

3　測定方法

3MVタンデム加速器(NEC Pelletron 9SDH-2)をベースとした^{14}C-AMS専用装置を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度(^{13}C/^{12}C)、^{14}C濃度(^{14}C/^{12}C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOxⅡ)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

4　算出方法

(1) δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C 濃度(^{13}C/^{12}C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2) ^{14}C年代(Libby Age:yrBP)は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。^{14}C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差(±1σ)は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい(^{14}Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上

の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

5　測定結果

試料の^{14}C年代は、灰集中1出土クルミNo.1が710±30yrBP、炭化物集中2出土炭No.2が1190±30yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、No.1が1272～1292cal ADの範囲、No.2が780～878cal ADの間に2つの範囲で示される。

試料の炭素含有率は70%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ13C (‰) (AMS)	δ13C補正有	
						LibbyAge(yrBP)	pMC (%)
AAA-102692	No1	灰集中1 Ⅲ AS-01 1層	クルミ	AAA	-27.23±0.56	710±30	91.57±0.29
AAA-102693	No2	炭化物集中2 Ⅲ CB-02 Ⅲbl.	炭	AAA	-27.23±0.67	1190±30	86.18±0.31

表2

[#4080]

測定番号	δ13C補正なし		暦年較正用	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC (%)			
AAA-102692	740±20	91.15±0.27	707±25	1272calAD-1292calAD (68.2%)	1262calAD-1301calAD (87.6%) 1368calAD-1382calAD (7.8%)
AAA-102693	1200±30	86.16±0.29	1194±28	780calAD-792calAD (9.2%) 805calAD-878calAD (59%)	722calAD-741calAD (2.6%) 770calAD-895calAD (91.0%) 925calAD-937calAD (1.8%)

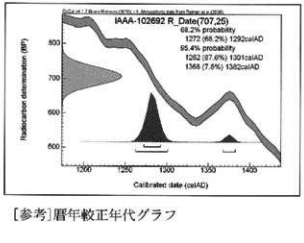
[参考値]

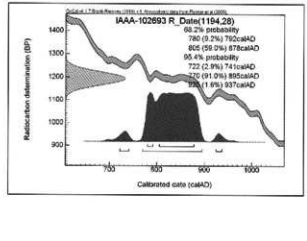
文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150





[参考]暦年較正年代グラフ

第２節　平成 22・23 年度北海道勇払郡厚真町ヲイカルマイ遺跡の動物

高橋　理　千歳市埋蔵文化財センター

はじめに

ヲイカルマイ遺跡は道道上幌内早来停車場線特改１種工事（道州）に伴う事前調査として、厚真町教育委員会によって発掘調査が行われた。

今回の調査では、続縄文時代、擦文文化期、中近世アイヌ文化期、幕末～明治時代の遺構・遺物が検出され、それにともなう動物骨が認められた。

また、平成 23 年には、明治から昭和 20 年代までの包含層を調査した。開拓期の馬車軌道前後の資料が新たに加わることとなった。２ヵ年の調査面積は 3,037 ㎡である。

筆者に分析の機会を与えられた厚真町教育委員会各位に心より御礼申し上げます。

出土動物

出土した動物骨は、明治時代までを含むこともありやや多彩といえよう。

表(1)～(5)にハンドピックによって回収された動物を層位・遺構別に示している。スクリーンが施された遺物は、保存状態不良で回収不能であるとの担当者の判断のもとに、骨の種類や位置、写真のみの記録をとった後に破棄したことを示している。この記録がもたらした情報もけっして少なくなく、担当者の措置に敬意を表するところである。それらは次のように分類、整理される。

二枚貝綱　Pelecypoda
　カキ目　Osteoida
　　イタヤガイ科　Pectinidae
　　ホタテガイ　*Patinopecten yessoensis*
　マルスダレガイ目　Veneroida
　　バカガイ科　Mactridae
　　ウバガイ　*Pseudocardium sachalinensis*
　　マルスダレガイ科　Veneridae
　　ハマグリ　*Meretrix lusoria*
　イシガイ目　Unionoida
　　カワシンジュガイ科　Margaritiferidae
　　カワシンジュガイ　*Margaritifera laevis*

腹足綱　Gastropoda
　カサガイ目　Nacellidae
　　ユキノカサガイ科　Acmaeidae　sp.

鳥綱　Aves
　キジ目　Galliformes
　　キジ科　Phasianidae　sp..

哺乳綱 Mammalia
　食肉目 Carnivora
　　クマ科 Ursidae
　　　ヒグマ *Ursus arctos*
　　イヌ科 Canidae
　　　イヌ *Canis familiaris*
　奇蹄目 Perissodactyla
　　ウマ科 Equidae
　　　ウマ *Equus caballus*
　クジラ偶蹄目 Cetartiodactyla
　　シカ科 Cervidae
　　　ニホンジカ *Cervus nippon*
　　イノシシ科 Suidae
　　　イノシシ　*Sus scrofa leucomystax*
　　　ブタ　　*Sus scrofa domesticus*

コメント

平成 23 年度の調査においては、ウバガイや小型だがサイズのそろったハマグリなどの貝類が検出された。また大型の鳥類の中足骨が検出された。距突起（蹴爪）があることより、キジ目キジ科の中足骨である。長さ 109mm を計る大型個体であり、いわゆるニワトリの一品種の可能性もある。

ウマについては特に四肢骨に金属器によるカットが多数みられ、作業用の他に食用に供されたことがわかる。ウマの体サイズは現代の農耕馬に比べてかなり小型であることが指摘できる。それは千歳市末広遺跡において出土した中近世のウマ遺体（未発表）のサイズに近い。またイノシシあるいはブタの犬歯や臼歯が認められるが、同様に食料として持ち込まれたのであろう。

シカはほぼ椎骨を除くほぼ全身の部分が検出されている。現場において解体され、体幹骨以外の肉付きの部位のみが遺跡内に持ち込まれたものと考えられる。

平成 23 年ではヒグマの上顎犬歯が確認されている。成獣と考えられる。

参考文献

大泰司紀之 1980「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別・年齢・死亡時期査定法」『考古学と自然科学』 13, pp. 51-73

Carden, R. F. and Hayden, T. J. 2002
Epiphyseal Fusion in the Postcranial Skeleton as an Indicator of Age at Death of European Fallow Deer (*Dama dama dama*, Linnaeus, 1758)
9th ICAZ Conference, Durham 2002
Recent Advance in Ageing and Sexing Animal Bones, 227-236 Oxbow Books

Perdue, J. R. 1983 Epiphyseal closure in white-tailed deer. *Journal of Wildlife Management* 47(4), 1207-1213.

表1　ハンドピック法動物遺存体一覧表（1）

No.	グリッド	遺構名	層位	動物	部位	出土部位	L/R	数量	備考
1	G60	-	ⅢbM	不明	部位不明	不明		3	
2	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
3	G60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
4	G60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
5	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	踵骨	骨体上部	L	1	
6	G60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
7	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
8	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
9	G59	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
10	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
11	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
12	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
13	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
14	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
15	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	上腕骨	遠位肘頭窩	L	1	
16	G60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
17	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
18	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
19	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
20	G59	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
22	G59	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
23	G59	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
24	G59	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
25	G59	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
26	G59	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
27	G59	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
28	G59	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
29	G59	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
31	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
32	G60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
33	G60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
34	G60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
35	F60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
36	F60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
37	G60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
38	G60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
39	F60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
40	F60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
41	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
43	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
44	F60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
46	F60	ⅢBB01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
47	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
48	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ?	頭骨?	前頭骨角突起?	?	1	
49	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	肩甲骨	肩甲棘から肩峰基部	L	1	
50	F60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
52	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ?	頭骨?	前頭骨角突起?	?	1	
55	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
56	F60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
57	F60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
58	F59	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
59	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		8	
60	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		3	
61	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		3	
62	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	踵骨	載距突起部	R	1	
65	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	M3歯冠	R	1	W.L:7 他に歯冠破片
66	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		4	
67	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ?	距骨?	踵骨関節面	?	1	
68	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
69	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
70	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		5	
71	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		10	
72	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		2	
73	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
74	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
75	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
76	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
77	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
78	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
79	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
80	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
81	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		5	
82	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
83	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	2	
84	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	距骨	完形	L	1	
86	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	上腕骨	遠位端	R	1	
87	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ?	尺骨?	近位端?	?	1	
88	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
89	F60	ⅢBB01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	3	
90	F60	ⅢBB01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
91	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	M3歯冠	R	1	W.L:7
92	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
93	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
94	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	下顎骨	M1-M3および下顎体	L	1	摩耗程度不明
97	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	3	
98	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		2	
99	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
100	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
101	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	長管骨	骨幹	?	1	
102	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		2	
103	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	滑車部?
104	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ?	上腕骨	遠位端滑車一部	?	1	
105	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	距骨	内側一部	R	1	
106	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
107	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
108	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
109	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
110	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
111	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ?	上腕骨	遠位端	L?	1	
112	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
113	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
114	F61	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		3	
115	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
116	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		9	
117	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
118	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
119	F61	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
120	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		7	
121	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		9	
122	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
123	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		3	
124	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
125	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		4	
126	F61	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
127	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	上腕骨	遠位骨幹	L	1	
128	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		3	
129	F61	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		2	
130	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		3	
131	F61	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		4	
132	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		4	
133	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
134	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
135	F61	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	上腕骨	遠位滑車上部	?	1	
136	F61	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
137	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
138	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
139	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	距骨	踵骨関節面	?	1	
140	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		7	
141	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
142	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		5	
143	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		6	
144	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
145	F60	ⅢBB02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		2	
146	F60	ⅢBB02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
			ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
147	F60	ⅢBB02	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		4	

表1　ハンドピック法動物遺存体一覧表（2）

No.	グリッド	遺構名	層位	動物	部位	出土部位	L/R	数量	備考
148	F60	Ⅲ溝02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
149	F60	Ⅲ溝02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		2	
150	F60	Ⅲ溝02	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		5	
151	F60	Ⅲ溝02	ⅢbM	不明	部位不明	不明		5	
153	G53	ⅢAS01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
154	G53	ⅢAS01	ⅢbM	シカ?	肋骨	骨幹内側一部	?	1	
155	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
156	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
157	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	1点のみ
161	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
162	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
163	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
164	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	シカ	橈骨・尺骨	癒合状態完部	L	1	風化著しい
165	F60	Ⅲ溝01	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片		1	
166	G7	-	ⅢbM	不明	部位不明	不明		1	
168	G7	-	ⅢbM	シカ	後臼歯	歯冠破片		4	
169	G7	-	ⅢbM	不明	部位不明	不明		5	
171	F20	-	Ⅱb	シカ	上顎後臼歯	歯冠破片		5	
173	F20	-	Ⅱb	シカ	後臼歯	歯冠破片		2	
174	G20	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	長管骨		?	2	
176	G20	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		4	
179	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		6	
180	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
181	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
183	G19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
184	G19	-	Ⅱb	シカ	距骨	完形	L	1	
185	G20	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
186	G20	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		4	
188	G19	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
190	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		5	
191	G19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		3	
192	F19	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
193	-	-	Ⅱb	シカ	大腿骨	近位骨幹後面小転子寄	R	1	
194	-	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1?	
195	-	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
196	-	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
197		-	Ⅱb	不明					
198	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
199	F19	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		4	
199				シカ	下顎骨	L:P4M1-M2, R:M1-3	L+R	1	同番号あり！
200	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
201	F19	-	Ⅱb	ウマ?	寛骨?	坐骨体?	?	1	金属器による細いカット3条
202	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		3	
203	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
204	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		4	
205	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
206	G18	-	Ⅱb	シカ?	角?			1	
207	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
208	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
209	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		3	
210	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
211	G18	-	Ⅱb	シカ	角			1	
213	G18	-	Ⅱb	不明	椎骨?			1	
214	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
216	G18	-	Ⅱb	土器					
218	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
219	H18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
220	H18	-	Ⅱb	シカ	尺骨	近位端	L	1	
221	H18	-	Ⅱb	ヒグマ	中節骨	遠位端一部		1	
223	F18	-	Ⅱb	シカ	上腕骨	遠位端	R	1	成長線残る
224	F18	-	Ⅱb	シカ	肩甲骨	関節窩から頸部	L	1	大型個体
225	H18	0	Ⅱb	ウマ?	長管骨	不明	?	1	金属器によるカット、抉り
226	H18	-	Ⅱb	シカ	中足骨	骨幹中部	?	1	
228	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
229	G18	-	Ⅱb	ウマ?	椎骨	椎体		1	
230	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
231	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
232	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
233	G18	-	Ⅱb	イノシシorブタ	上顎歯	切歯	R	1	
235	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
236	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
238	G18	-	Ⅱb	シカ	下顎歯	第一前臼歯	L	1	
239	F18	-	Ⅱb	シカ	中手骨	ほぼ完形	R?	1	
240	F18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
242	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	11	大型哺乳類
243	G18	-	Ⅱb	シカ	肩甲骨	関節窩から肩甲頸	L	1	
244	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	長管骨	骨幹	?	2	
245	G17	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
246	G17	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1?	
248	G19	-	Ⅱb	シカ	橈骨	遠位端	R	1	遠位骨幹全面に金属器による部位のカット
249	G19	-	Ⅱb	シカ	距骨	完形	R	1	距骨関節面内側を金属器により大きく削除
250	F19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
251	H17	ⅡH01	Ⅱa	不明	部位不明	不明		1	
252	H17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	長管骨	不明	?	1	
253	H17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
254	H17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
255	H17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	長管骨	不明		1	
256	H17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
257	H17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
258	H17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
259	G17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	長管骨	近位端?		1	
260	H17	ⅡH01	Ⅱa	イノシシorブタ?	臼歯	歯冠・歯根	?	1	
261	G17	ⅡH01	Ⅱa	シカ?	肋骨	骨幹内側	?	1	
262	G17	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	肋骨?	骨幹後面	?	1	大型哺乳類
263	H19	-	Ⅱb	イヌ	上腕骨	近位端を欠く	R	1	骨端は動物の齧歯による欠失
264	H19	-	Ⅱb	ウマ?	腓骨?	骨幹後面一部?	?	1	
265	G19	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
266	G19	-	Ⅱa	シカ?	肋骨	肋骨体一部		2	
267	G18	-	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		10	
268	G18	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		2	
269	G18	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		6	
270	F19	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		2	
271	G19	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		2	
272	F19	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		2	
273	G19	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		2	
274	G19	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		3	
276	F18	-	Ⅱa	シカ?	中節骨?	近位端一部		1	
277	F18	-	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明			
278	F18	-	Ⅱa	シカ	脛骨	近位端を欠く	R	1	
279	F18	-	Ⅱa	シカ	尺骨	滑車切痕から肘頭一部	R	1	
280	F18	-	Ⅱa	シカ	腓骨	骨片化するもほぼ完形	?	1	
281	F18	-	Ⅱa	シカ	大腿骨	骨幹後面粗線上部	L	1	
282	F18	-	Ⅱa	シカ?	大腿骨?	骨幹一部	?	1	
283	F18	-	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
284	F18	-	Ⅱa	シカ?	腓骨?	骨幹?	?	1	
285	C21	-	ⅢbM	シカ	臼歯	歯冠破片			
286	F18	-	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明			破片多数

表1　ハンドピック法動物遺存体一覧表（3）

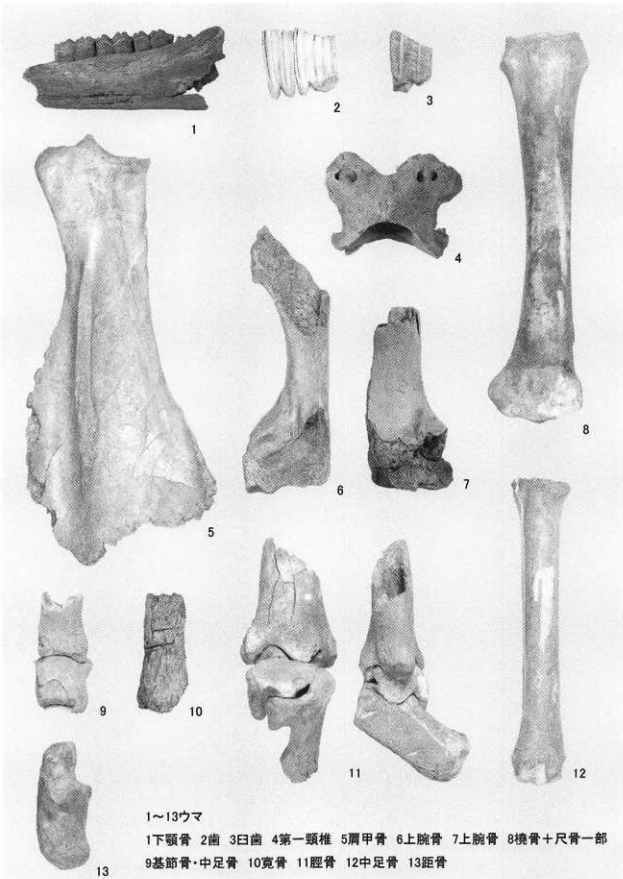
No.	グリッド	遺構名	層位	動物	部位	出土部位	L/R	数量	備考
287	G18	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		2	
288	G18	-	Ⅱa	不明	部位不明	不明		1	
290	F20	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	下顎骨	筋突起・関節突起	R	1	大型哺乳類
291	F20	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		3	
292	F20	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		8	
293	H20	-	Ⅱb	シカ	肋骨	肋骨角部	L	1	
294	G20	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
295	H21	-	Ⅱb	シカ	寛骨	坐骨一部	L	1	
296	G20	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	長管骨	骨幹一部	?	1	金属器による カット、抉り
297	G20	-	Ⅱb	ウマ	下顎骨	下顎体一部	R	1	
298	H17	ⅡH01	Ⅱa	シカ	基節骨	遠位端		1	
299	H17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
301	H17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
302	H17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
303	H17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
304	G20	ⅡH01	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
305	G20	ⅡH01	攪乱	ウマ？	下顎骨	下顎体一部	?	1	
306	G19	ⅡH01	攪乱	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	大型哺乳類
307	G18	-	Ⅱb	シカ	角		R?	1?	
308	F18	-	Ⅱb	シカ	中足骨	骨体	R	1	咬痕あり
309	G17	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	長管骨		?	1	一端に抉り
310	G18	ⅡSD01	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
311	G18	ⅡSD01	Ⅱb	シカ	中足骨	骨幹近位端	L	1	
312	G18	-	Ⅱb	シカ	中手・中足骨	近位端一部	?	1	
313	G18	-	Ⅱb	シカ	上腕骨	遠位端	L	1	
314	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
315	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		3	
316	G18	-	Ⅱb	シカ	上腕骨	遠位端	L	1	金属器によるカット痕跡一部残る
					橈骨	近位端	R?	1	
317	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		5	
318	G18	-	Ⅱb	シカ	基節骨	遠位端		1	
319	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		4	
320	G18	-	Ⅱb	シカ	肩甲骨	肩甲頸	R	1	
321	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
323	G18	-	Ⅱb	シカ	上腕骨	骨幹一部	L		
324	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		3	
325	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		2	
326	G18	-	Ⅱb	シカ	上顎臼歯	M1, M2	L	2	歯根残存（新しい？）
327	G18	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明			微細片
328	G19	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
329	G17	-	Ⅱb	シカ	基節骨	遠位端		1	
331	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		4	
332	G18	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		1	
333	G17	-	Ⅱb	不明	部位不明	不明		2	
334	G17	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	種子骨			1	
335	G17	-	Ⅱb	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
336	-	-	-	シカ	種子骨			6	
337	H17	ⅡH01	Ⅱal.	ウマ	第一頸椎			1	
338	H17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	肋骨	肋骨体	?	1	大型哺乳類
339	H17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	椎骨？	骨幹内側？		1	
340	H17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	肋骨	肋骨体	?	2	大型哺乳類
341	H17	ⅡH01	Ⅱal.	シカ	肩甲骨	関節窩から肩甲頸	L	1	
342	H17	ⅡH01	Ⅱal.	不明	部位不明	不明		1	
343	H17	ⅡH01	Ⅱal.	シカ	脛骨	関節窩	?	1	
344	G17	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	椎骨	関節突起？	?	1	
345	G19	ⅡH01	Ⅱal.	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
346	H18	-	Ⅱa	シカ	肩甲骨	関節窩	R?	1	動物の咬痕多
347	H18	-	Ⅱa	シカ	中手・中足骨	遠位滑車一部	?	1	金属器により切断
348	H18	-	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
349	H18	-	Ⅱa	ウマ	肋・肋骨	肋骨端部	R	1	
350	H18	-	Ⅱa	哺乳綱sp.	部位不明	不明		1	
351	H18	-	Ⅱa	不明	不明	不明		2	

No.	グリッド	遺構名	層位	動物	部位	出土部位	L/R	数量	備考
353	G41	-	攪乱	ウマ	上腕骨	遠位骨幹	L	1?	前面および外側に多数のカット
354	G27	-	攪乱	哺乳綱sp.	部位不明	不明		5	大型哺乳類
355	G21	-	攪乱	イノシシ orブタ？	犬歯	尖端	L	1	
356	G・F 24～28	-	攪乱	ウマ	上腕骨	骨幹から遠位端	R	1	外側に金属器による2条のカット
				シカ	上腕骨	遠位骨幹 肘頭窩上位	R	1	
357	G12	-	攪乱	哺乳綱sp.	部位不明	脛骨？	?	1	
358	H17	-	攪乱	シカ	頭骨・角	前頭骨 角突起	L?	1	角突起外側の金属器によるカット
359	G10	-	攪乱	哺乳綱sp.	部位不明	不明			
360	H23	-	攪乱	哺乳綱sp.	部位不明	不明			
361	-	ⅡH01	攪乱	哺乳綱sp.	部位不明	不明			
362	I7		Ⅰb上	シカ	大腿骨	内顆？	R	1	金属器による カット
363	I7		Ⅰb上	ウマ	距骨	完形	L	1	
364	I6		Ⅰb上	ウマ	踵骨		L	1	363と同一個体 踵骨隆起縁に咬痕多数
365	I6		Ⅰb上	シカ	橈骨	近位骨幹前縁周辺	L	1	
366	I-8		Ⅰb	シカ？	脛骨？	近位骨幹後面	?	1	
367	H17		Ⅰb	シカ	脛骨	遠位端	R	1	
368	H17		Ⅰb	シカ	橈骨	骨体下端	R	1	
369	H17		Ⅰb	シカ	踵骨	踵骨隆起	R	1	
370	H18		Ⅰb	哺乳綱sp.	長管骨	骨幹	?	1	
371	H18		Ⅰb	シカ	下顎骨・下顎歯	PM1-3,M1	R	1	小型だが咬耗進行
372		MIZO03B	2	ウバガイ	殻	殻片		7	被熱 灰白色化
373		MIZO03B	2	ウバガイ	殻	殻片		10	被熱 灰白色化
374	H26	MIZO03C	3	ヒグマ	上顎犬歯	完形	R	1	
375	H26	MIZO03C	3	イヌ科sp.	第2～5中足骨	各完形	L	4	同一個体
376	H26	MIZO03C	3	ウマ	中足骨	ほぼ完形		1	
377	H22	MIZO03C2	4	ウマ	上腕骨	遠位端から骨幹	R	1	遠位に金属器によるカット
378	H26	MIZO03D	4	ウマ	橈骨	遠位端	L	1	Ⅲ層 シルト上面
				ウマ	踵骨	完形	L	1	
				ウマ	距骨	完形	L	1	下端金属器によりカット 3点同一個体
379	H26	MIZO03D	4	ウマ	距骨	完形	R	1	Ⅲ層 シルト上面
380	H25	MIZO03D	4	ウマ	大腿骨	近位端	L	1	大腿骨頭あり
381	H20		NR	ウマ	臼歯			1	
382	H51	MIZO07B2	1	哺乳綱sp.	長管骨	骨幹	?	1	大型哺乳類
383	H51	MIZO07B2	1	ウマ	大腿骨	骨幹	L	1	
384		MIZO07B2	1	ウバガイ	殻	殻頂部破片	R	8	2個体
385		MIZO07C1	1	ウマ	肩甲骨	ほぼ完形	R	1	
386		MIZO07C1	1	ハマグリ			R	1	完形
387		MIZO07C1	1	ウバガイ	殻	殻頂部破片	L	2	
388		MIZO07A2	1	ウバガイ	殻		L	1	ほぼ完形 大型
389		MIZO07A2	1	ウバガイ	殻		L	2	被熱
390		MIZO07A2	1	ハマグリ			R	1	完形
391		MIZO07A2	1	ハマグリ			R	1	完形
392		MIZO07A2	1	ハマグリ			L	1	完形

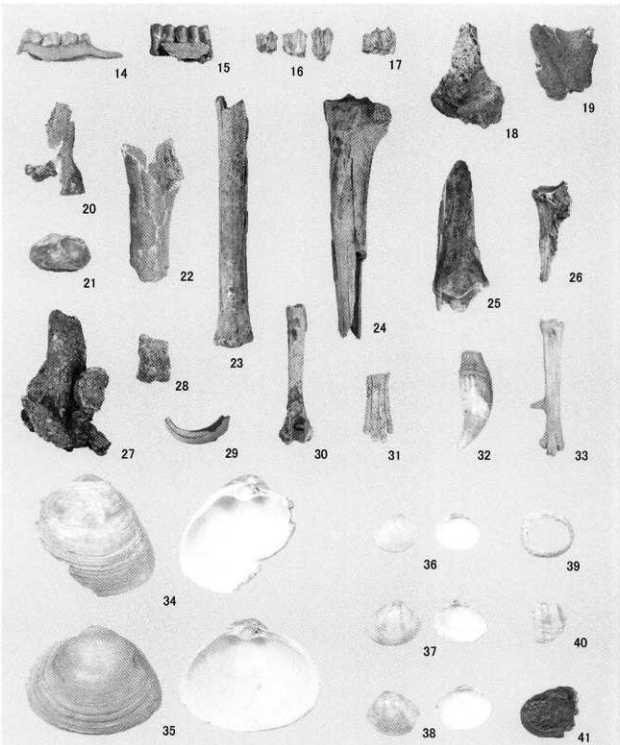
表1　ハンドピック法動物遺存体一覧表（4）

No.	グリッド	遺構名	層位	動物	部位	出土部位	L/R	数量	備考
393		MZO07B2	1	ハマグリ	殻	殻頂部破片	L	1	
394	H51	MZO07B2	1	ウバガイ	殻		L	8	
395	H51	MZO07B2	1	ウバガイ			?	2	
396	H51	MZO07B2	1	ウバガイ	殻	殻頂部破片	R	7	
397		MZO07C2	2	ウバガイ	殻	殻頂部破片	?	1	
398	H53		[illegible]bM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
399	H52		[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		7	
400	H51		[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
401	H51		[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		6	
402	H51		[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
404	H52		[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
405	H52		[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
406	H52		[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
409	H53	[illegible]04	[illegible]bL	シカ	歯	歯冠破片		9	
410	H53	[illegible]04	[illegible]bL	シカ	歯	歯冠破片		9	
411	H53	[illegible]04	[illegible]bL	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
412	H53	[illegible]04	[illegible]bL	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
413	H53	[illegible]04	[illegible]bL	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
414	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
415	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
416	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	後臼歯	歯冠破片	?	7	
417	H53	[illegible]04	[illegible]bM		四肢			4	
418	H53	[illegible]04	[illegible]bM		不明			3	
419	H53	[illegible]04	[illegible]bM		不明				[illegible]
420	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
421	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		5	
423	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
427	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		9	
429	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		10	
431	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
432	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	上腕骨	遠位端	R	4	
433	H53	[illegible]04	[illegible]bM	不明	部位不明	不明	?	2	
436	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		7	
439	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
441	H53	[illegible]04	[illegible]bM		四肢			6	
443	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	距骨		L	1	
444	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		3	
445	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
446	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	M1-M3歯冠	L		破片多数
447	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	後臼歯	歯冠	?		破片多数
448	H53	[illegible]04	[illegible]bM	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
449	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	下顎骨	下顎体一部	R	3	
450	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯			破片多数	
451	H53	[illegible]04	[illegible]bM		四肢			4	
453	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		7	
454	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		4	
455	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
456	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		6	
457	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
458	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		7	
459	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	
460	H53	[illegible]04		シカ	歯	第三後臼歯	L	2	
461	H53	[illegible]04	[illegible]bM	不明	部位不明	不明		1	
462	H-6	II層洪水堆積		ウマ	下顎骨	下顎骨	?	1	
				哺乳綱sp.	歯	歯冠破片		1	
463	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		6	
464	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		7	
465	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		9	
466	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	乳臼歯		1	
467	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		9	
468	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		6	
469	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		10	
471	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯			2	
473	H53	[illegible]04	[illegible]bM	シカ	歯	歯冠破片		破片多数	

No.	グリッド	遺構名	層位	動物	部位	出土部位	L/R	数量	備考
474		MZO03		シカ	大腿骨	近位骨幹小転子部	L	2	金属器によるカット多数
475		MZO03		ウマ	寛骨	臼蓋部	R	1	
476		MZO032B		哺乳綱sp.	部位不明	不明		6	被熱白色化
477		MZO07C2		ネズミsp.	中足骨	完形	L	1	[illegible]
478	54～59		0	哺乳綱sp.	部位不明	不明	?	1	
479	6		0	ウマ	歯			2	
480	6～12		0	哺乳綱sp.	長管骨	骨幹	?	1	
481	8		0	ウマ	寛骨	臼蓋部	L	1	
				ウマ	中心足根骨	完形	L	1	
482	51		TK	ウマ	大腿骨？	小転子付近？	?	1	
483	34		0	ウマ？	椎骨？	椎体破片？	同一個体	割れ側	OIH
484	15～20		0	シカ	歯	臼歯		1	
485	7		0	哺乳綱sp.	四肢骨	不明	?	1	
				ウバガイ	殻	破片		1	
				ウマ	橈骨＋尺骨一部	橈骨完形・尺骨体	L	1	
486	H26		0	ウマ	基節骨		L?	1	中節骨と同一個体・関節
				ウマ	中節骨		L?	1	
487	表採		0	ウマ	肩甲骨	骨体	L	1	関節窩付近焦げ
488	表採		0	ウマ	寛骨	寛骨臼	L	1	
				シカ	距骨	完形	R	1	
489		MZO07		ウバガイ	殻	殻頂部破片	L	3	被熱灰白色化
490		MZO07		ウバガイ	殻	殻頂部破片	R	多数	被熱灰白色化
491		MZO07		ユキノカサガイ	殻			1	殻頂上部を欠く
492		0P06	床下	カワシンジュガイ	殻皮		?	1	
493		KJ007		ウバガイ			L	1	完形
494		KJ004		ウバガイ	殻		L	1	
495		KJ006		ホタテガイ	殻	殻片	R	1	
496		KJ008		ウバガイ	殻	殻頂部破片	R	1	
497		KJ009		ウバガイ	殻	殻頂部破片	L	1	破片多数 被熱灰白色
498		表採	0	ウバガイ			L	1	完形
499		KP-15		ウバガイ	殻	殻頂部破片	L	1	



図版1　ヲイカルマイ遺跡出土動物骨(1)



14 シカ 下顎骨　15 シカ 下顎骨　16 シカ 歯冠　17 シカ 第3後臼歯　18 シカ 頭骨角 前頭骨角突起
19 シカ 角　20 シカ 上腕骨　21 シカ 大腿骨内顆　22 シカ 大腿骨　23 シカ 中手骨　24 シカ 脛骨
25 シカ 脛骨　26 シカ 脛骨関節窩　27 シカ 距骨　28 シカ 距骨　29 イノシシorブタ 犬歯尖端
30 イヌ上腕骨　31 イヌ 第2～5中足骨　32 ヒグマ 上顎犬歯　33 キジ 中足骨
34.35 ウバガイ　36.37.38 ハマグリ　39 ユキノカサガイ　40 ホタテガイ　41 カワシンジュガイ 殻皮

図版2　ヲイカルマイ遺跡出土動物骨(2)

第３節　厚真町ヲイカルマイ遺跡から検出された植物種子

札幌国際大学博物館　客員研究員
椿　坂　恭　代

1. 遺跡の所在と性格

遺跡の名称　：ヲイカルマイ遺跡（J-13-128）
所　在　地　：北海道勇払郡厚真町字吉野24-1ほか
発掘調査期間　：平成22年9月1日～同年11月30日、平成23年10月1日～同年11月16日
発掘調査面積　：3,037㎡
調査担当者　：荻野幸男、奈良智法、乾　哲也
遺構の年代　：続縄文時代、擦文文化、中近世アイヌ文化期、近代
遺跡の立地
ヲイカルマイ遺跡は厚真町市街地より約4Kmの厚真川中流域に形成された河岸段丘上に所在する。
その他の検出遺構・遺物などの詳細については本編を参照されたい。

2. 扱った資料

分析対象として扱った資料はⅢ層（中世アイヌ文化期）の灰集中1、焼土2から土壌を採取し、フローテーション処理を行った。Ⅱ層（近代と考えられる）の遺物集中1と包含層からは肉眼で見えるクルミ核片をハンドピックで採取を行った。その後、第1次選別で炭化種子などを抽出し送付されてきたものである。資料は実体顕微鏡で観察と撮影を行った。検出された植物種子の出土表は表１に示しておく。

3. 検出された植物種子

ブドウ科VITIDACEAE（図版1-1a：灰集中1から出土）

Ⅲ層の灰集中1から9粒と5片、Ⅱ層の遺物集中1から酸化した状態で2粒出土。堅果は広倒卵形。背面は円みがあり、倒ヘラ形の凹みがある。腹面の中央に稜をなし稜の両側に針形の凹みがある。これらの特徴からブドウ属に分類される。形態の類似した種子にヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat,、サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb.、エビヅル*Vitis ficifolia* Bunge var. lobata, があるが、サンカクズル，エビヅルの分布域は北海道の南部に限られているという。形態の特徴からヤマブドウ　*Vitis coignetiae* Pulliatであろう。計測値はL4.20×W3.30×T2.60（mm）

ミズキ属　*Cornus* L.　（図版1-2：灰集中1から出土）

Ⅲ層の灰集中1から1片出土。核は偏球形で浅い縦溝があり先に穴がある。この特徴からミズキ　*Cornus controversa*　Hemsleyと判断される。計測値はL3.00×W4.00（mm）

キハダ属　*Phellodendron* Rupr.　（図版1-3：灰集中1から出土）

Ⅲ層の灰集中1から1片出土。種子の破片はキハダ属特有の表皮に浅い凹みによる網目模様が観察されたことからキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断される。破片のため計測はしていない。

サクラ属　*Prunus salicina* Lindl.　(図版1-4a：灰集中1から出土)

Ⅲ層の灰集中1から2片出土。核の表面は粗面でスモモ核の特徴を示すことからスモモ *Prunus salicina* Lindl. と判断さる。破片のため計測はしていない。

クルミ属　*Juglans* L.　(図版1-6：灰集中1から出土)

Ⅲ層の灰集中1からと焼土2から出土。Ⅱ層の遺物集中1、包含層からはすべて酸化した状態で出土。いずれも細片で出土。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maximと判断される。細片のため計測はしていない。

ユリ科 LILIACEAE　(図版1-7：OP-18から出土)

近代の土坑（OP-18）から1片出土。鱗茎はやや円形の形態を示す。手元にある現生資料で鱗茎の形体差が大きいなどで、種の特定はできなかった。円形の態の違いなどを中心に観察を行ってみた。しかし、現生の比較資料が少ないうえ、鱗茎そのものの個形態を示す鱗茎にはノビル *Allium grayi* Regel.、ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim. などがある。他に広卵形の鱗茎を持つキバナノアマナ属 *Gagea* Salisb. などが知られる。計測値はL24.4×W016.4 (mm)

菌類？　(図版1-5a：灰集中1から出土)

Ⅲ層の灰集中1から片出土。出土資料は同じ種類であるが、大きさがそれぞれ違う。種子や堅果類ではないようであるが、その実態は不明である。計測値はL3.30×W5.00 (mm)

その他に保存状態が窮めて悪いため分類できなかった資料を不明として扱った。

4. 若干のコメント

検出できた植物遺体は中世アイヌ文化期の遺構から木本類のブドウ科、ミズキ属、サクラ属、クルミ属であった。この中でクルミ属の内果皮片が纏まって得られている。その他にⅡ層の遺構からはクルミ属とユリ科の鱗茎が検出されているが、これは肉眼で観察できる植物遺体をハンドピックで取り上げたものである。両時期から検出された植物遺体はいずれも集落の周辺に一般的に認められるもので、可食性あるいは利用可能のものばかりである。

今回、中世アイヌ文化期の遺構から検出された植物遺体は木本類のみであった。これまでフローテーション法で得られた植物遺体のデータを見ると、この時期の遺構からは栽培植物、野生植物の草本類、木本類の組成で検出されているのが一般的である。しかし、この遺構からはその組成は見られなかった。このような偏った出土状況は遺跡の保存状態や土壌のサンプリング方法に問題があると推定されるが、本当の理由はまだ解っていないので、今後も情報を集めながら検討して行くことが必要である。

表1　ヲイカルマイ遺跡炭化種子出土表

委託番号	SDNo.	時期	遺構名		グリッド	層位	ユリ科 片	ブドウ科 粒	ブドウ科 片	ミズキ属 片	キハダ属 片	クルミ属 g	サクラ属 片	不明 片	菌核? 片	備考
1	46～67	中世 アイヌ文化期	炭集中1	ⅢAS01	FLT.03・05～11・14	ⅢbM		9	5	1	3			6	1	
2	68	中世 アイヌ文化期	炭集中1	ⅢA01	FLT.1～6・8～14	ⅢbM						18.080	2			年代測定No.1
3	44	中世 アイヌ文化期	焼土2	ⅢF02	FLT.20・21	ⅢbM						0.794				
4	1	中世 アイヌ文化期	－	－	G60	ⅢbM										現生スギナの塊茎
5	6	近代	遺物集中1	0H05	F19	Ⅱa						0.046				
6	7	近代	遺物集中1	0H05	F19	Ⅱa						0.419				
7	8	近代	遺物集中1	0H05	G19	Ⅱa						0.354				
8	9	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.158				
9	10	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.742				
10	11	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.118				
11	12	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.970				
12	13	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.062				
13	14	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.327				
14	27	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.278				
15	28	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.070				
16	29	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.161				
17	30	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.031				
18	31	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.152				
19	32	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.179				
20	33	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.225				
21	35	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.080				
22	36	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.137				
23	37	近代	遺物集中1	0H05	G17	Ⅱa						0.031				
24	38	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.306				
25	39	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.108				
26	41	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.272				
27	69	近代	遺物集中1	0H05	FLT.25	Ⅱa1						0.252				
28	70・71	近代	遺物集中1	0H05	FLT.26	Ⅱa1		2								
29	2	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.234				
30	3	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.216				
31	4	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.651				
32	5	近代	遺物集中1	0H05	H17	Ⅱa						0.729				
33	16	近代	包含層	－	H18	Ⅱa						0.053				
34・35	19・20	近代	包含層	－	H17	Ⅱa						3.166				
36	22	近代	包含層	－	G21	Ⅱa						0.028				
37・38・39	23・24・25	近代	包含層	－	F19	Ⅱa						1.621				
40	26	近代	包含層	－	G18	Ⅱa						0.078				
41・42	42・43	近代	包含層	－	H18	Ⅱa						0.326				
43	15	近代	包含層	－	－	Ⅱa						0.150				
44		近代	土坑	0P18	H63	覆土	1									

酸化状態を示す

1a
ブドウ科背面

1b
腹面

2
ミズキ属

3
キハダ属

4a
スモモ核片

4b
内面

5a
菌類？

5b
内面

6
クルミ属内果皮片

7
ユリ科

図版1　ヲイカルマイ遺跡出土植物種子

第４節　厚真町ヲイカルマイ遺跡から出土した木製遺物の樹種同定

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター　　田口　尚

１．はじめに

試料はオイカルマイ遺跡より発見された木製遺物である。これらは1904年（明治37年）に厚真町に敷設された物流と旅客輸送を担った馬車鉄道の軌道跡周辺から出土した杭や土木材、生活用具の一部である。調査時に取上げられた木製品34点についてサンプルを採取し樹種同定を行った。

２．試料

試料は遺跡の調査過程で発見された腐食した生木材や部分的に炭化した木製品である。多くの木製品は不朽菌などにより劣化が著しく、依頼を受けた段階では、①水漬けビニールパックされたもの、②半乾燥状態のもの、③表面からアクリル樹脂（パラロイドB72）の10%溶液を厚く塗布したものの三種が遺跡整理事務所に保管されていた。このうち②半乾燥状態のものや③アクリル樹脂を塗布したものに付いては、木材組織の収縮変形が著しく、同定可能箇所の選択に苦慮した。①については、試料から直接一年輪以上が含まれる良好な箇所を片刃安全剃刀、ピンセットを用いて、木口、板目、柾目の３断面を採取し、プレパラートを作成した。②③の木製品からは、概ね1.0㎝角程度のサンプル切出して採取した。②についてはアンモニア水溶液にて収縮の復元を試み、エタノールによる脱水と乾燥を行った。③については、表面から細胞内部まで付着したアクリル樹脂を除去するために、アセトン＋キシレン溶液に浸漬し、さらにアセトン溶液による溶脱を繰り返し、検鏡可能となるまでアクリル樹脂の除去に努力した。しかし、検鏡段階では充分にアクリル樹脂を溶脱できていない部分もあり、事前の試料調整は困難を極めた。

３．観察と方法

樹種同定の準備として、プレパラートを作成した①の試料以外は、１試料から木口面、板目面、柾目面の３断面を採取し、実体顕微鏡（Nikon SMZ-10）にて検鏡しながら各面をカミソリで平滑に調整した。さらに走査電子顕微鏡（JEOL　JSM-T200）にて観察可能と思われる試料については、各観察表面の微調整を行い、カーボンテープにて試料台に固定し、金コーティングを行った。しかし、機器の諸般の事情から木材の観察、識別には、乾燥試料を両面テープあるいはゴム粘土でプレパラートに固定し、デジタルマイクロスコープ（KEYENCE　VHX-1000）、落射照明装置付き光学顕微鏡（Nikon　ECLIPCE　ME600）にて検鏡した。通常プレパラートは生物顕微鏡（Nikon　ECLPSE80I）にて同定を行った。

４．観察結果

針葉樹

１　ヒノキアスナロ　*Thujopsis dolabrata* Sieb.et Zucc.（アスナロ属　*Thujopsis* ）

（ひのき科　CUPRESSACEAE）

仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなり、樹脂道、放射仮道管は存在しない。仮道管にらせん肥厚は存在しない。樹脂細胞は晩材部の接線状に散在する。早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。分野壁孔はヒノキ型が多いがスギ型も見られる。１分野に２～５個存在する。仮道管の内壁表面にはイボ状突起が存在する。ヒノキの可能性もある。

２　モミ属　*Abies*　（まつ科　PINACEAE）

仮道管と放射柔細胞からなり、分野壁孔は典型的なスギ型である。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁を有する。トドマツ[フプ]が推定される。

広葉樹

3　ハンノキ属　*Alnus*　(かばのき科　BETULACEAE)

散孔材であり、多くの道管は2～4個が放射方向に複合する。放射組織は単列で同性である。集合放射組織を形成する。道管には階段せん孔をもち、内壁にらせん肥厚は存在しない。

ハンノキ［ケネ］、ケヤマハンノキ等が推定される。

4　コナラ亜属　*Quercus*　(ぶな科　FAGACEAE)

環孔材であり、孔圏外の道管は急激に大きさを減じ、やや放射状や火炎状に配列することがある。道管にチロースが見られる。放射組織は単列と広放射組織からなり同性である。道管要素は単せん孔を有する。ミズナラ［ペロニ・他］、コナラ［チカッポペロニ］、カシワ［コムニ・トゃンニ］等が推定される。

5　ブナ属　*Fagus*　(ぶな科　FAGACEAE)

散孔材であり、木口面では道管がほぼ平均に分布、年輪前半部の道管が大きく、外向かって大きさと数が減少する。放射組織は単列のもの、2～数列のもの、広放射組織が見られ、ほとんど同性である。道管は、年輪の前半部で単せん孔、外側で階段（網状）せん孔を有する。らせん肥厚は存在しない。ブナ［ピラニ］(北海道南部が北限）が推定される。

6　カツラ　*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.

(カツラ属　*Cercidiphyllum*) (かつら科　CERCIDIPHYLLACEAE)

散孔材である。殆どの道管は単独で数が極めて多く、年輪内全体を通じて平等に分布する。放射組織は1～2細胞幅で、直立細胞の間に、方形細胞と平服細胞が入り込む典型的な異性である。道管要素は階段せん孔をもち、バーの数も20本以上と非常に多い。らせん肥厚は存在しない。カツラ［ランコ］が推定される。

7　モクレン属　*Magnolia*（もくれん科　MAGNOLIACEAE)

散孔材である。単独または2～数個の放射方向に接続した道管が平等に分布する。放射組織は1～2細胞幅で5～35細胞高と高い。上下縁辺の1～2列のみが直立細胞ないし方形細胞で、そのほかは平伏細胞の異性である。道管要素は単せん孔と階段せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。道管には階段壁孔と対列壁孔が認められる。ホオノキ［プシニ、イカヨプニ］、キタコブシ・コブシ［オマウクシニ、オプケニ］が推定される。

8　ノリウツギ　*Hydrangea paniculata* Sieb. et Zucc.

(アジサイ属　Hydrangea　)（ゆきのした科　SAXIFRAGACEAE)

散孔材であり、道管が単独または2～3個複合して年輪内に平均的に分布する。木口面では軸方向柔細胞が放射方向へと連続して認められる。放射組織は1～2細胞幅、3～5細胞高で、板目面では上下方向で軸方向柔細胞と接する。道管は階段せん孔を有する。らせん肥厚は存在しない。ノリウツギ［ラスパニ・ラスパ・他］が推定される。

9　ニシキギ属　*Euonymus*　(にしきぎ科　CELASTRACEAE)

散孔材であり、道管の径は非常に小さく、年輪内に平均的に分布する。放射組織は単列で同性である。道管は単せん孔を有する。らせん肥厚が見られる。ニシキギ、マユミ［カスプニ・ケプシニ・

他]、ツリバナ［ｺﾛｹﾆ・クニッ］等が推定される。

10　シナノキ属　*Tilia*　（しなのき科　TILIACEAE）

散孔材である。道管は２～５個の複合管孔を形成し、柔細胞は短接線状に並ぶことが多い。放射組織は１～４細胞幅、５～50細胞高さで同性である。特に３～４細胞幅の放射組織の場合は紡錘型というよりも角ばった矢じり形に見えることが多い。道管要素は単せん孔をもち、顕著ならせん肥厚が存在する。シナノキ［ニペシニ、クペルケプニ］、オオバボダイジュ［ヤイニペシニ］等が推定される。

11　トネリコ属　*Fraxinus*　（もくせい科　OLEACEAE）

環孔材であり、道管は大きく１～２列配列、その外では急激に小さくなる。単独のものと２～３個が放射方向に複合するものがある。放射組織は１～４細胞幅、高さは10細胞高前後で比較的均一で、同性である。らせん肥厚は存在しない。ヤチダモ［ピンニ・ヤチトゥンニ］、アオダモ［イワニ］等が推定される。

12　サクラ属　*Prunus*（ばら科　ROSACEAE）

散孔である。道管は単独または２～３個が複合して年輪内に平等に分布する。放射組織は１～４細胞幅で、20細胞高以上になる場合が多い。異性であるが、板目面では判別しにくい。道管要素は単せん孔をもつ。らせん肥厚が存在する。エゾヤマザクラ[カリンパニ]、ミヤマザクラ、シウリザクラ[シウリ]、ウワミズザクラ[チカッポキキンニ]などが推定される。

５．まとめと考察

以上の観察結果から、ひのき科（アスナロ属ヒノキアスナロ）、まつ科（モミ属）、かばのき科（ハンノキ属）、ぶな科（コナラ亜属、ブナ属）、かつら科（カツラ属カツラ）、もくれん科（モクレン属）、ゆきのした科（アジサイ属ノリウツギ）、ばら科（サクラ属）、にしきぎ科（ニシキギ属）、しなのき科（シナノキ属）、もくせい科（トネリコ属）の針葉樹２科２属、広葉樹材９科10属２種、その他に広葉樹環孔材・散孔材、樹皮などが観察された。木材組織の観察項目・特徴は当センター既報告（北埋調報 114）による。今回は木材組織の良好な画像が得られていないができる限り掲載した。各観察結果は表１のとおりである。

本地域周辺の森林植生はコナラ亜属（ミズナラ）を主としており、用材としては遺跡周辺の山林に生育していた樹木を利用したことが推定される。針葉樹材は東北地域で製作された樽または桶が搬入され、廃棄されたものであろう。ただし、ブナ属は黒松内周辺が北限とされることから搬入材の可能性も考慮する必要がある。

なお、樹種同定など、分析や同定の必要な遺物については、安易なアクリル樹脂強化や他の樹脂含浸により試料が汚染される場合があるので注意が必要である。できる限り、可逆性のある保存材料を選択することをお勧めする。試料の汚染状況によっては、観察や機器分析が困難となる場合もあるので、試料の状態について、事前に依頼者と詳細に連絡調整し、予め試料のサンプルを採取しておくことが肝要である。

参考文献

佐伯　浩　1982　走査顕微鏡図説『木材の構造』日本林業技術協会

島地　謙，伊東隆夫　1982　『図説　木材組織』地球社

知里真志保 1987『知里真志保著作集』分類アイヌ語辞典　植物編・動物編，平凡社

中川　裕 1995『アイヌ語千歳方言辞典』，草風館

福岡イト子 1995『アイヌ植物誌』，草風館

岡本育子・田口　尚　1997　「1　木製品の樹種同定」『北埋調報 114　美沢川流域の遺跡群ＸＸ　千歳市美々8遺跡低湿部』
(財) 北海道埋蔵文化財センター

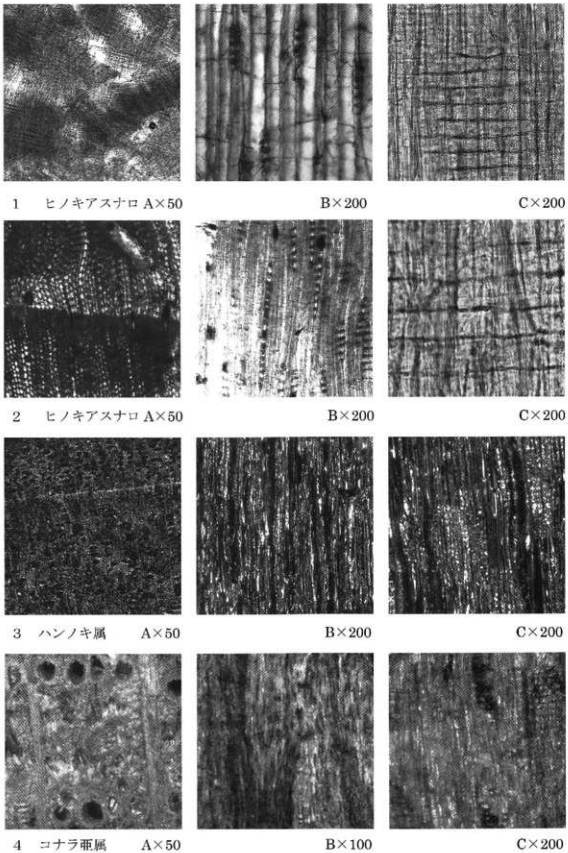
パリノ・サーヴェイ株式会社　2003　「2　オルイカ２遺跡から出土した炭化材の樹種」『北埋調報 189　オルイカ２遺跡』
(財) 北海道埋蔵文化財センター

植田弥生（パレオ・ラボ）2005　「2. 千歳市オルイカ２遺跡出土炭化材の樹種同定」『北埋調報 221　オルイカ２遺跡（２）』
(財) 北海道埋蔵文化財センター

三浦正人・田口　尚　2012　「Ⅴ　遺跡出土木製品の種類と地域性　11 章　北海道」『木の考古学
―出土木製品用材データベース』　伊藤隆夫・山田昌久編　海青社

表１　ヲイカルマイ遺跡　樹種同定試料一覧

試料番号	遺構名	遺物名	遺物No.	樹種名（種名／属名）		科名		備考（推測される樹木名）
1	MIZO-03B	丸材	1241	モクレン属	*Magnolia*	もくれん科	MAGNOLIACEAE	ホウノキ・キタコブシ・コブシ
2	MIZO-03B	丸材	1243	ニシキギ属	*Euonymus*	にしきぎ科	CELASTRACEAE	ニシキギ・マユミ・ツリバナ
3	MIZO-03B	丸材 一端又状	1242	未確定				
4	MIZO-04-4	角柱	1528	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
5	MIZO-04-4	角柱	1532	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
6	MIZO-04-4	角柱	1531	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
7	MIZO-04-4	角柱	1526	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
8	MIZO-04-4	角柱	1529	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
9	MIZO-03-3	角材	1299	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
10	MIZO-03-4	角材	1364	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
11	MIZO-03B	角材	1376	外樹皮				
12	MIZO-03D	板材	1633	外樹皮				
13	MIZO-03-3	角柱	1298	カツラ	*Cercidiphyllum japonicum Sieb.et.Zucc*	かつら科	CERCIDPHYLLACEAE	カツラ
14	MIZO-03-4	丸材	1361	シナノキ属	*Tilia*	しなのき科	TIRIACEAE	シナノキ・オオバボダイジュ
15	MIZO-03-3	角材	1281-3-②	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
16	MIZO-03-3	角材	1281-3-①	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
17	0P-06	曲物蓋 木栓	3025-1,2	ヒノキアスナロ	*Thujopsis dolabrata Sieb.et Zucc.*	ひのき科	CUPRESSACEAE	ヒノキアスナロ
18	MIZO-04-2	丸柱	1511	モミ属	*Abies*	まつ科	PINACEAE	トドマツ
19	MIZO-03D	横槌	1631	ブナ属	*Fagus*	ぶな科	FAGACEAE	ブナ
20	MIZ-04-4	角柱	1525	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
21	MIZ-04-4	角柱	1526	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
22	OH-04	鍬柄	1920	ニシキギ属	*Euonymus*	にしきぎ科	CELASTRACEAE	ニシキギ・マユミ・ツリバナ
23	MIZO-03-2	板柱	1464	カツラ	*Cercidiphyllum japonicum Sieb.et.Zucc*	かつら科	CERCIDPHYLLACEAE	カツラ
24	MIZ-04-4	角柱	1532	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
25	MIZO-03C	杭木	1645	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
26	MIZ-03B	板材	1261	不明				
27	MIZO-03-3	板材	1324	コナラ亜属	*Quercus*	ぶな科	FAGACEAE	ミズナラ・コナラ・カシワ
28	MIZO-03-4	角材	1362	ノリウツギ	*Hydrangea*	ゆきのした科	SAXIFRAGACEAE	ノリウツギ
29	MIZO-03C	角柱	1487	ブナ属	*Fagus*	ぶな科	FAGACEAE	ブナ
30	MIZO-03B	鍬柄	1253-5	ハンノキ属	*Alnus*	かばのき科	BETULACEAE	ハンノキ・ケヤマハンノキ
31	MIZO-03B	加工痕の ある木片	1377	不明				
32	MIZO-03B	角柱	1265	トネリコ属	*Fraxinus*	もくせい科	OLEACEAE	ヤチダモ・アオダモ
33	MIZO-03	板柱	3016	ハシドイ	*Syringa*	もくせい科	OLEACEAE	ハシドイ
34	MIZO-03-2	板材	1460	ノリウツギ	*Hydrangea*	ゆきのした科	SAXIFRAGACEAE	ノリウツギ



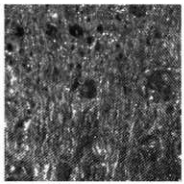
1　ヒノキアスナロ　A×50　　B×200　　C×200

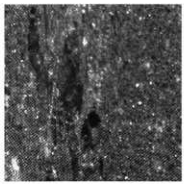
2　ヒノキアスナロ　A×50　　B×200　　C×200

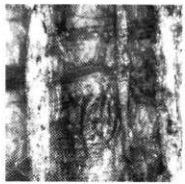
3　ハンノキ属　A×50　　B×200　　C×200

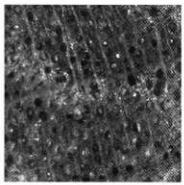
4　コナラ亜属　A×50　　B×100　　C×200

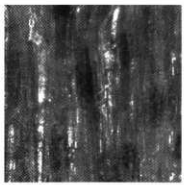
木製品の顕微鏡画像 1

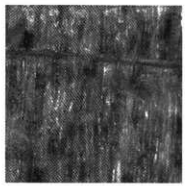

5　ブナ属　　A×50

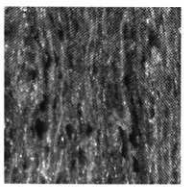

B×100

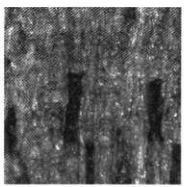

C×200

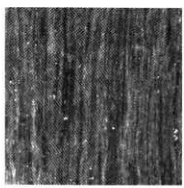

6　カツラ　　A×100

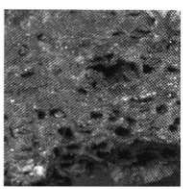

B×200

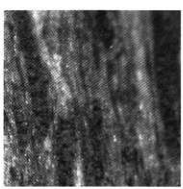

C×200

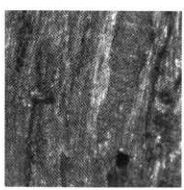

7　モクレン属　　A×100


B×200

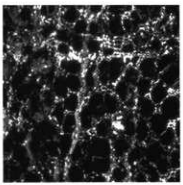

C×200


8　サクラ属　　A×100


B×200

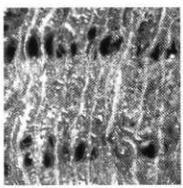

C×200

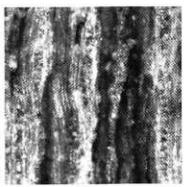
木製品の顕微鏡画像２


9　ノリウツギ属　A×100

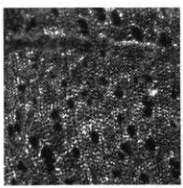
B×200

C×200


10　トネリコ属　A×100


B×200

C×200


11　シナノキ属　A×200

B×600

C×600

木製品の顕微鏡画像３とサンプリング状況

ヲイカルマイ遺跡

写真図版

図版1

1. 吉野・東和・富里地区鳥瞰写真(SW→)

2. 遺跡遠景(E→)

図版2

1. 調査前現況(NE→)

2. G-35区 基本土層(SW→)

3. G･H-09区 液状化跡検出

4. G･H-09区 液状化跡断面(E→)

5. G･H-09区 液状化跡土層断面(SE→)

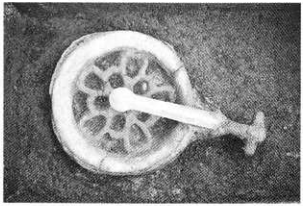
図版3

1. 0H-03 柱穴検出(SW→)

2. 0H-05 遺物出土状態(SE→)

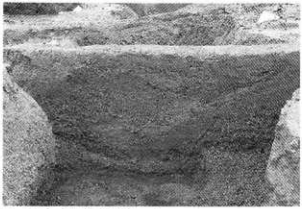
3. 0H-04 堆積(S→)

4. 0H-04 床面金属製品出土状態(SE→)



5. 0H-04 床面滑車出土状況(SE→)

6. MIZO-01 完掘(S→)



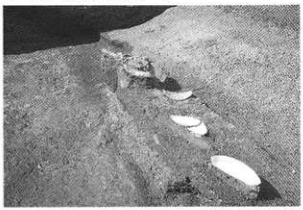
7. MIZO-01 断面(SW→)

8. G-19区 Ⅱ層獣骨出土状態(S→)

図版4

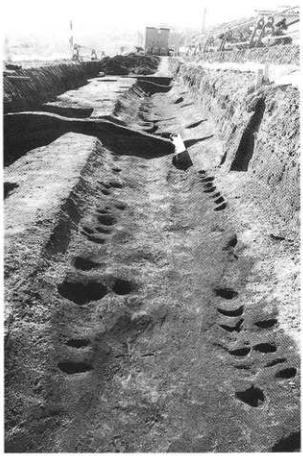
1. MIZO-03A 断面(SW→)

2. MIZO-03 断面(SW→)



3. MIZO-03B 覆土中遺物出土状態(E→)

4. MIZO-03 遺物出土状態(S→)



5. MIZO-03C 掘り具痕完掘(NE→)

6. MIZO-03C 枕木出土状態(S→)

7. MIZO-03 作業状況(S→)

図版5

1. MIZO-04 1～5 完掘(NE→)

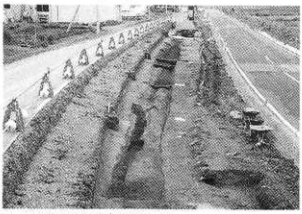
2. MIZO-04 1～5 完掘(SW→)

3. MIZO-04 1～5 断面(SW→)

4. MIZO-04 土留め遺構検出(N→)

5. MIZO-04 角杭断面(N→)

6. MIZO-07 完掘(NE→)



7. MIZO-07C 完掘(SW→)

図版6

1. MIZO-07C 完掘(NE→)

2. MIZO-07 断面(NE→)

3. A地区軌道跡 検出(SW→)

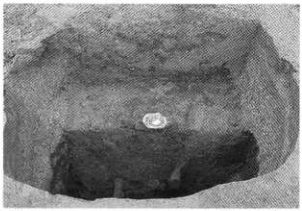
4. B地区軌道跡 完掘(EW→)

5. A地区軌道跡 完掘(SW→)

図版7

1. ⅡP-01 断面(N→)

2. 0XSP-24 陶磁器出土状態(W→)



3. 0P-01 断面(S→)

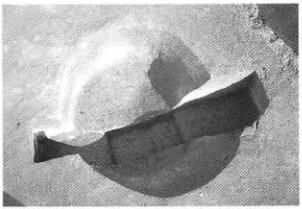
5. 0P-01 完掘(S→)

4. 0P-01 漆椀出土状態(W→)

6. 0P-02 柱材出土状態(S→)

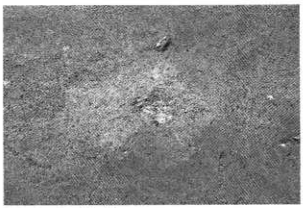
7. 0P-03 玉穂？出土状態(SE→)

図版8



1. ⅢP-01 完掘(W→)

2. ⅢP-01 断面(W→)



3. ⅢAS-01 検出(N→)

4. ⅢAS-01 断面(S→)

5. ⅢF-01・ⅢBB-03・ⅢAS-01 検出(E→)

6. ⅢF-01・ⅢBB-03 検出(W→)

7. ⅢBB-02 検出(1)(NW→)

8. ⅢBB-02 検出(2)(NW→)

図版9

1. 道跡01・02 検出(NE→)

2. 道跡02 断面TR01(E→)

3. ⅢSB-01・02 検出(NW→)

4. ⅢSB-01 検出(SW→)

5. ⅢBB-04 獣骨出土状態(E→)

図版10

1. G-53区 蝦夷太刀出土状態(E→)

2. G-53区 鉄鍋出土状態(E→)

3. G-56区 銅製品出土状態(W→)

4. G-56・57区 Ⅲ層遺物出土状態(E→)

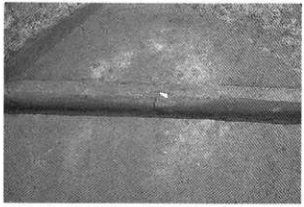
5. 51～55区 Ⅲ層調査状況(SW→)

6. 59～64区 Ⅲ層調査状況(NE→)

7. Ⅲ層遺物出土状態(NE→)

8. 15～18区 Ⅲ層調査状況(NE→)

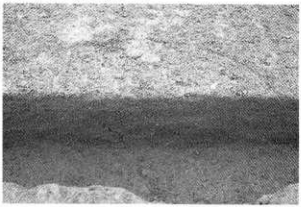
図版11



1. ⅢF-02 検出及び断面(S→)

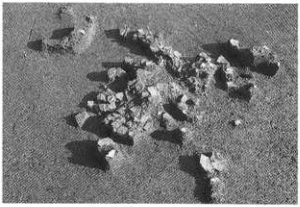
2. ⅢF-05 検出(SE→)

3. ⅢF-07 検出(SW→)



4. ⅢF-07 断面(SW→)

5. ⅢSB-04 検出状態(NW→)

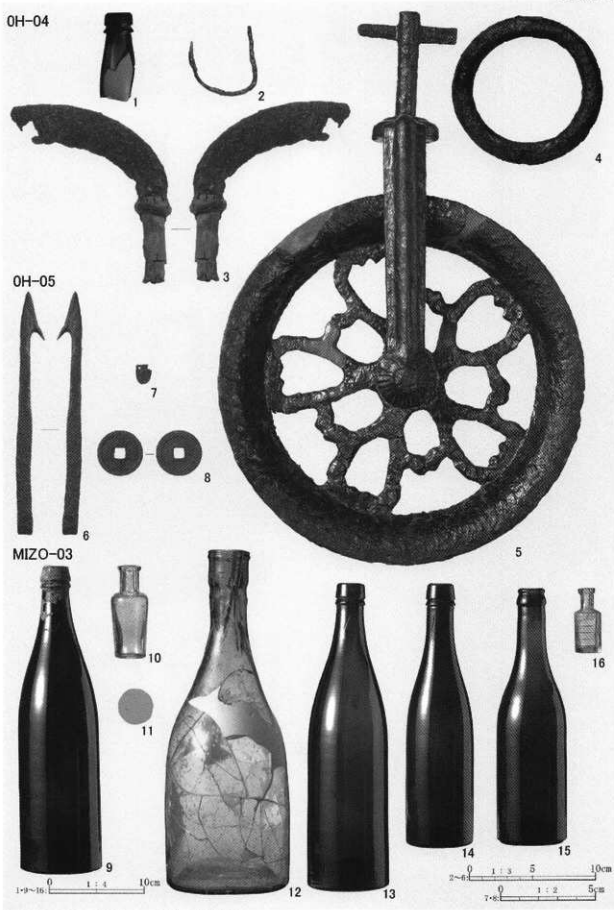


6. ⅢPB-01 出土状態(SE→)

7. ⅢPB-02 擦文土器出土状態(NE→)

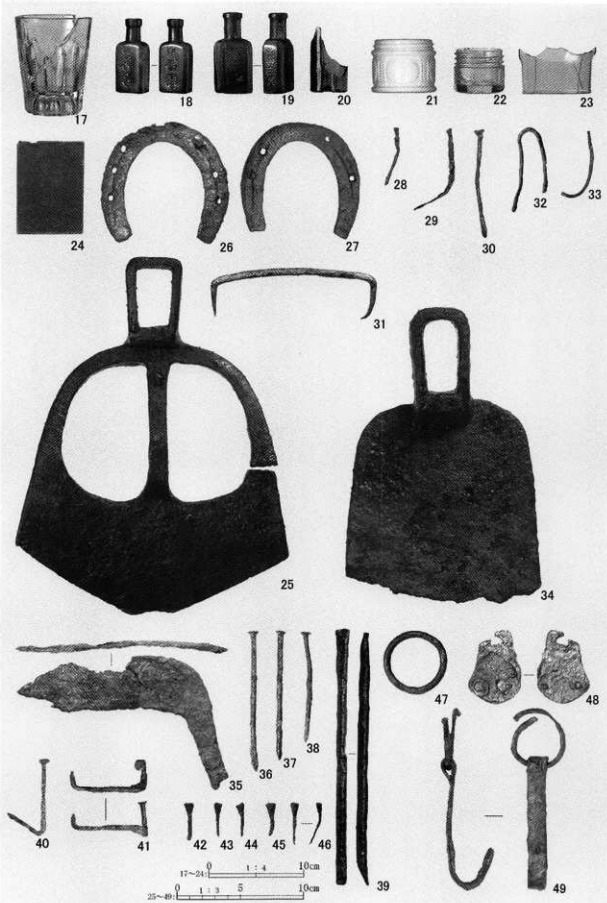
8. ⅢPB-02 擦文土器出土層位断面(NE→)

図版12



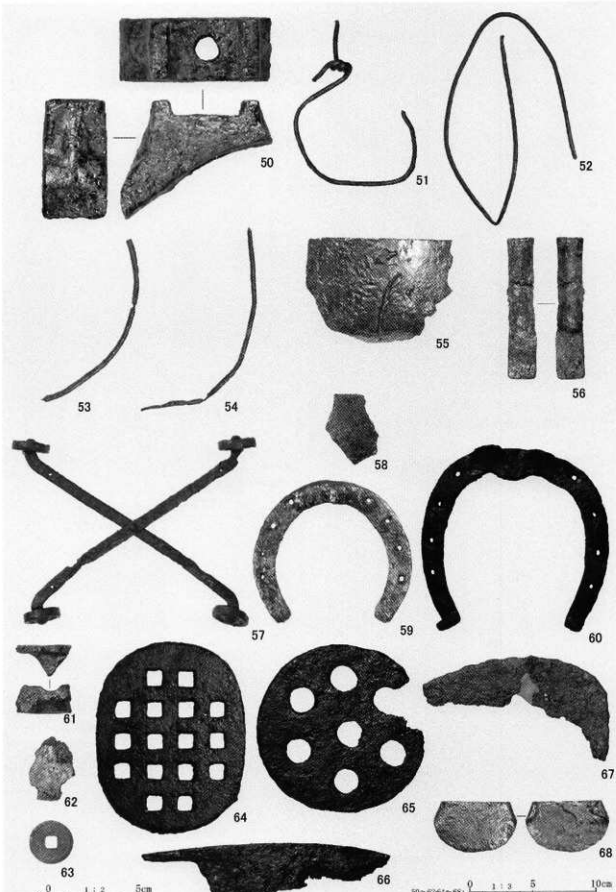
1．0H-04・05及びMIZO-03出土遺物(1)

図版13



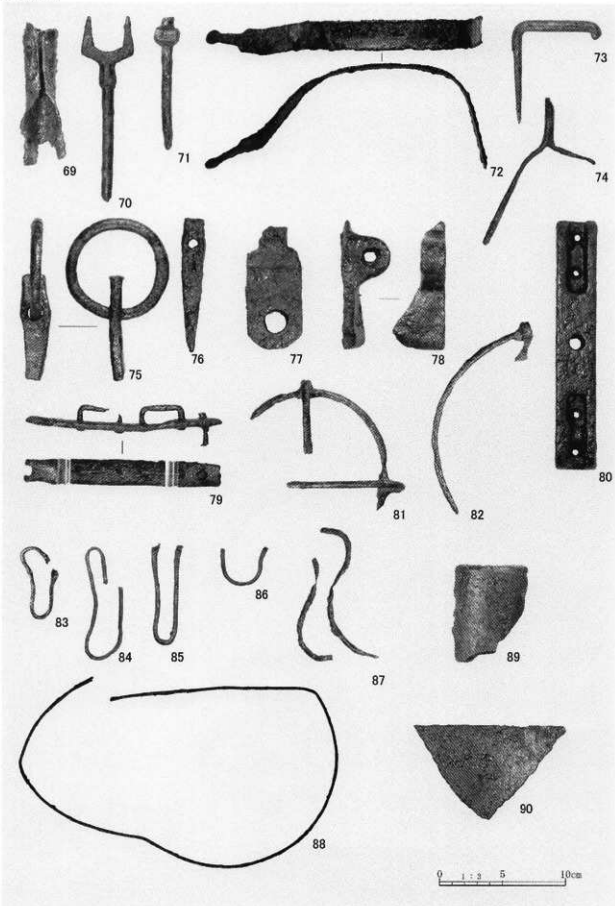
1. MIZO-03出土遺物(2)

図版14



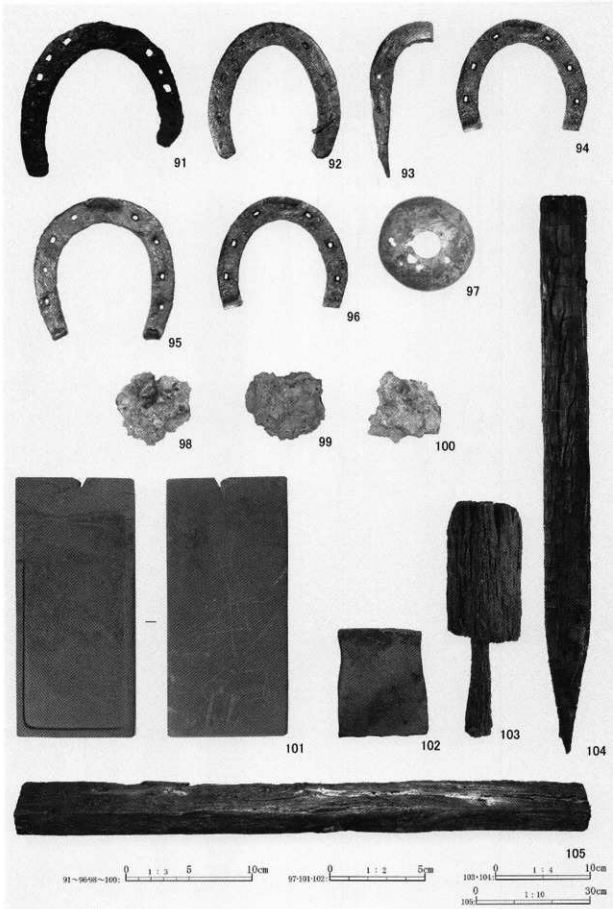
1. MIZO-03出土遺物(3)

図版15



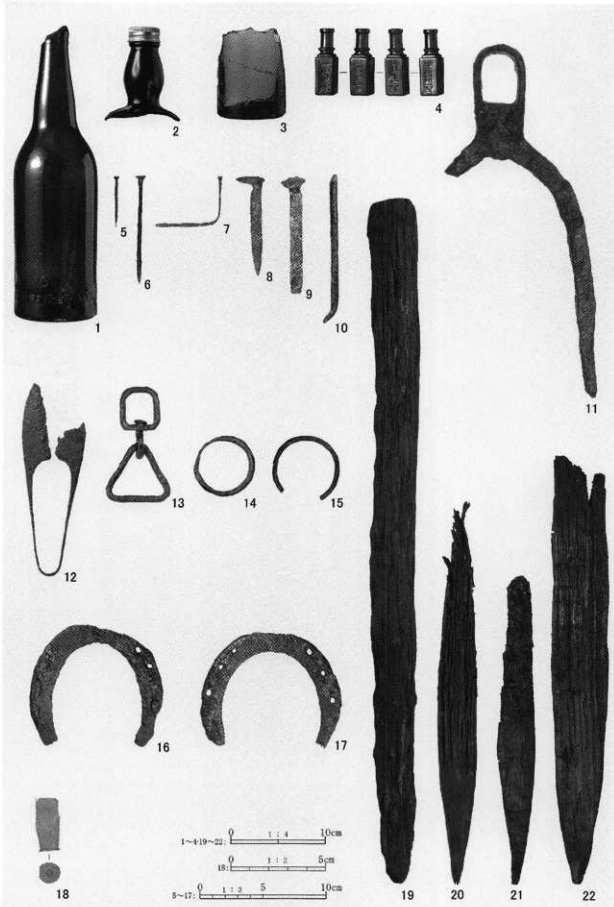
1. MIZO-03出土遺物(4)

図版16



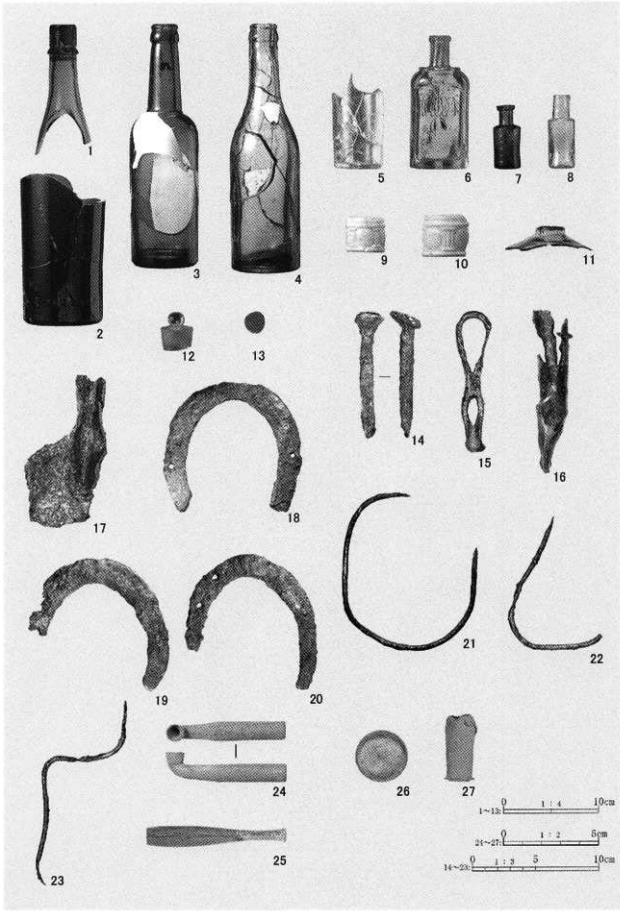
1. MIZO-03出土遺物(5)

図版17



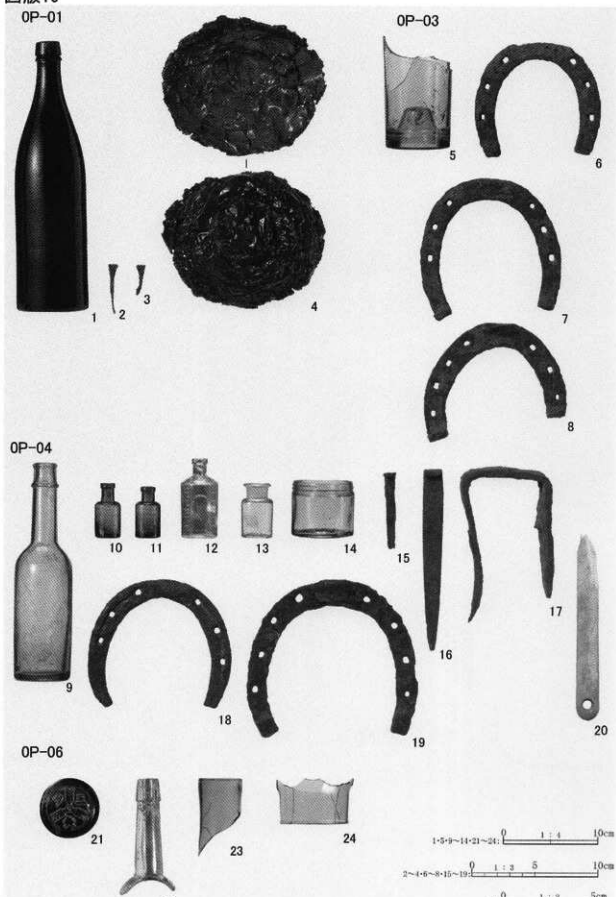
1．MIZO-04出土遺物

図版18



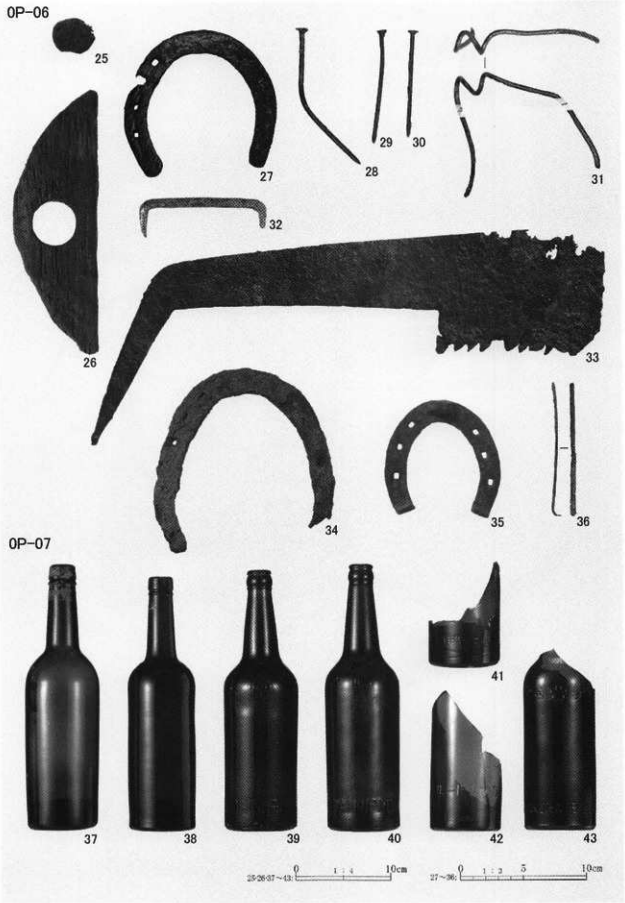
1. MIZO-07出土遺物

図版19



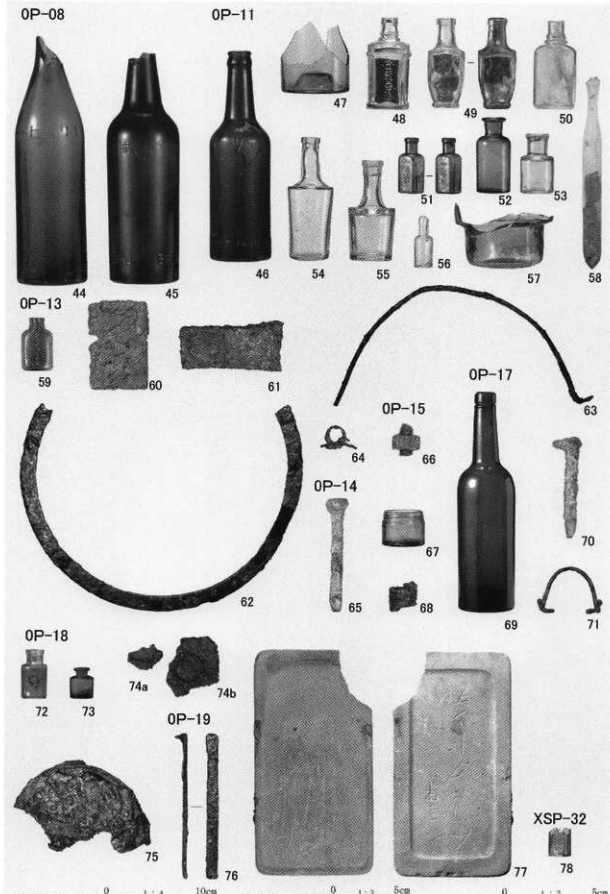
1．0P出土遺物(1)

図版20



1. 0P出土遺物(2)

図版21

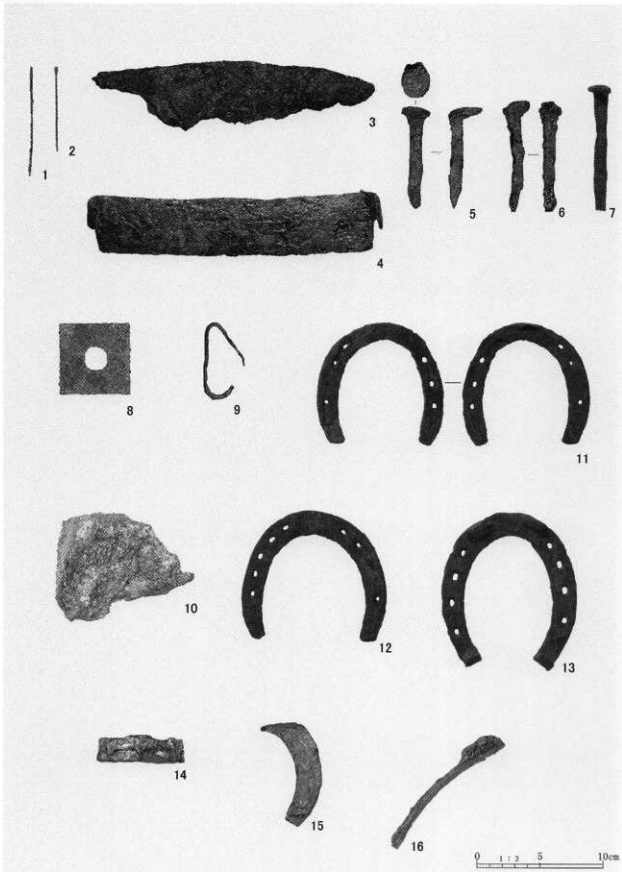


1．0P出土遺物(3)

図版22

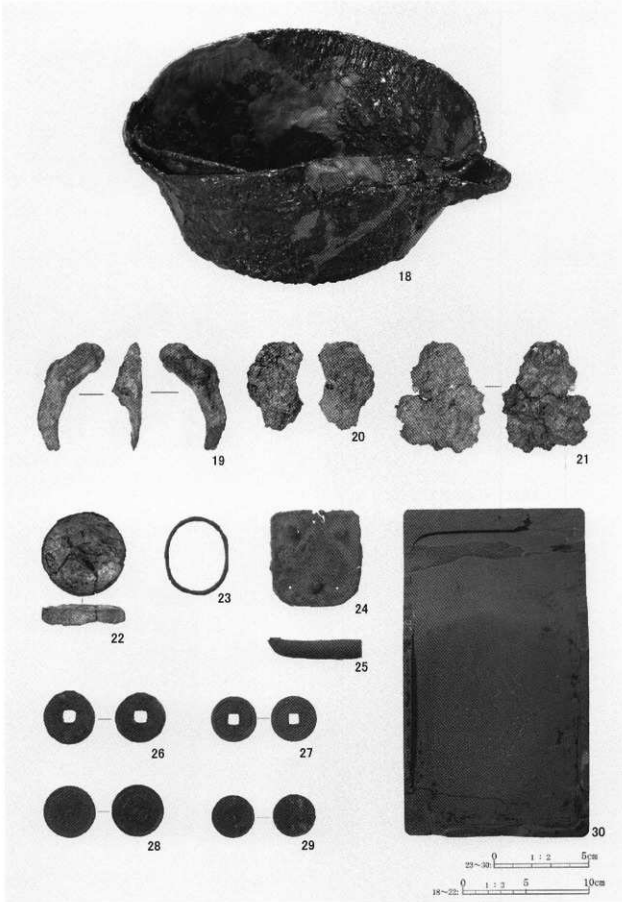
1. 近代包含層等出土ガラス製品

図版23



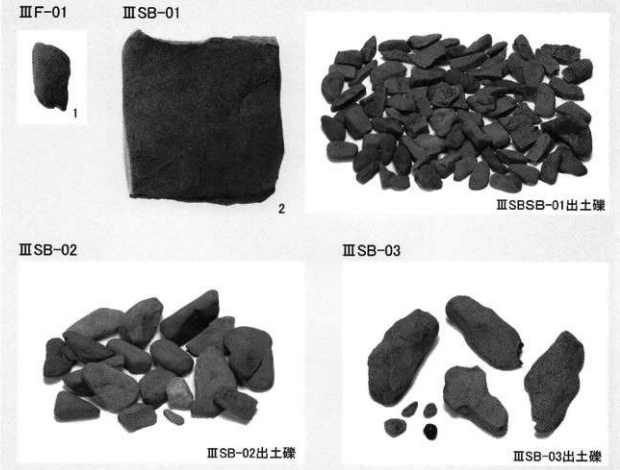
1. 近代包含層出土金属製品(1)

図版24

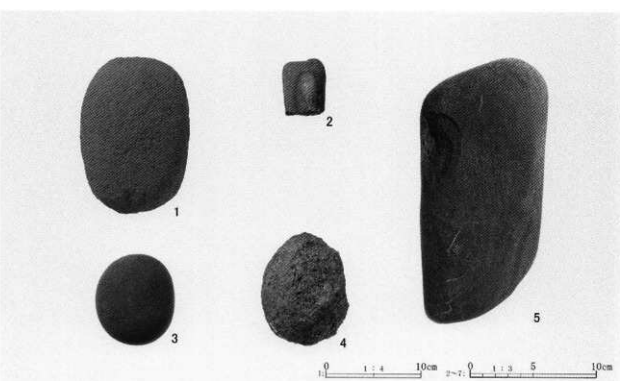


1. 近代包含層出土金属製品(2)・石製品

図版25

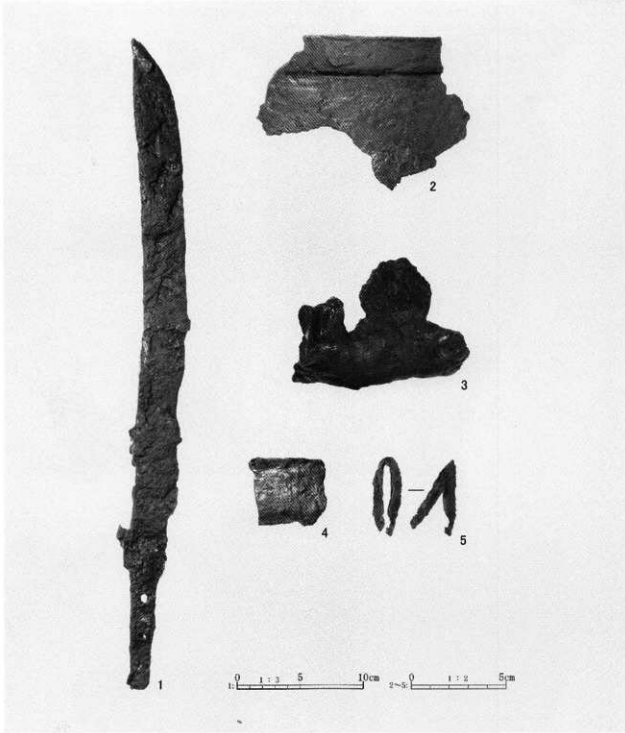


1. ⅢF-01・ⅢSB01～04出土石器・礫



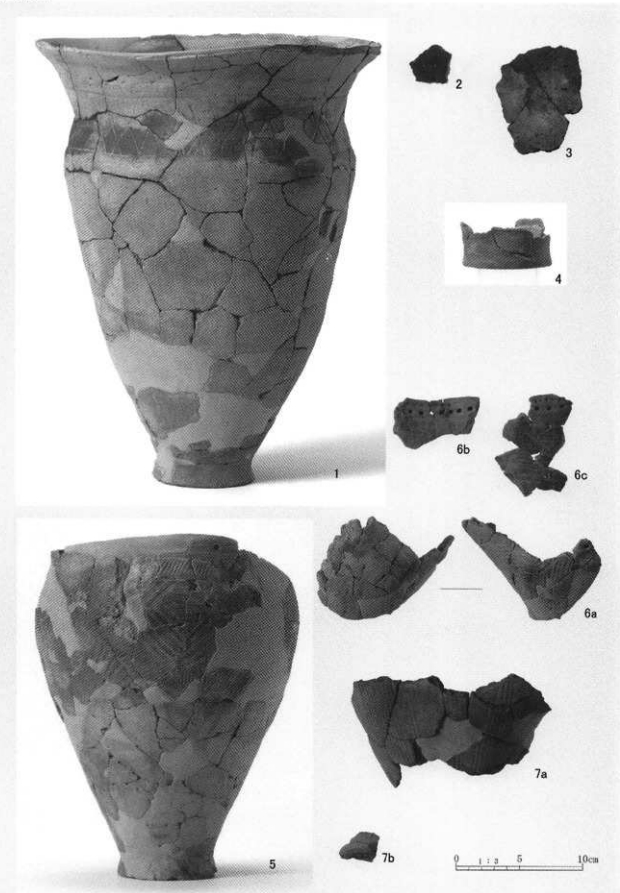
2. アイヌ文化期包含層出土石器

図版26



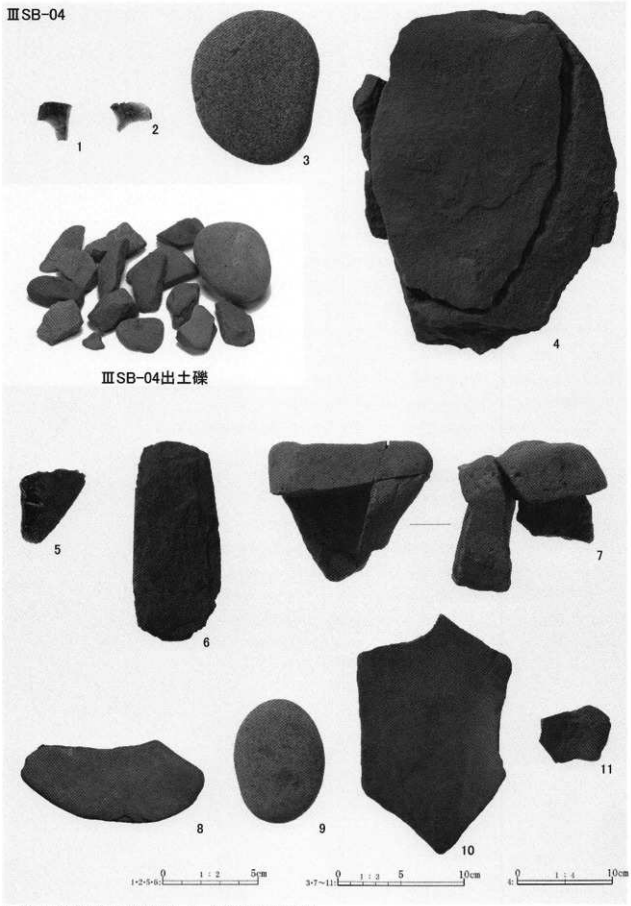
1．アイヌ文化期包含層出土金属製品

図版27



1．擦文・続縄文文化期土器集中及び包含層出土土器

図版28



1．擦文・続縄文文化期ⅢSB-04・包含層出土石器

引用・参考文献

厚真町　1986　『厚真町史』

厚真町　1998　『増補　厚真町史』

厚真村　1956　『厚真村史』

厚真町教育委員会　2006a　『上幌内モイ遺跡（1）』

厚真町教育委員会　2007a　『上幌内モイ遺跡（2）』

厚真町教育委員会　2009a　『上幌内モイ遺跡（3）』

厚真町教育委員会　2009b　『ニタップナイ遺跡（1）』

浅川滋之　2007　『飯茶碗の考古学』　近世・近現代考古学入門　慶応義塾大学出版株式会社

江別市教育委員会　2000　『大麻３遺跡(9)』

大樹町教育委員会　1995・1996　『大樹大官所跡発掘調査報告書』

公益財団法人ポーラ美術振興財団　2011『岐阜県立多治見工業高等学校所蔵の近代陶器資料の調査研究』

桜井準也　2006　「ガラス瓶の考古学」六一書房

上ノ国町教育委員会　1987『上ノ国漁港遺跡：昭和 58・60 年度発掘調査報告書．（1）』

菅野修広　2009　『アイヌ文化における物に対する認識の変化―貝塚からごみ穴へ―』北方島文化研究第７号

岐阜県土岐市教育委員会・(財)土岐市埋蔵文化財センター　1995　『丸山窯跡発掘調査報告書』

多治見市教育委員会　1993　『美濃窯の焼物』多治見の古窯第３号

東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター　2003　『旧汐留貨物駅跡地内の調査３第３分冊』

東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1999　『東北大学埋蔵文化財調査年報 11』

（財）瀬戸市文化振興財団　2012　『瀬戸・美濃窯の近代−生産と流通−シンポジウム資料集』

瀬戸市歴史民俗資料館　2002『特別企画展　大正二年のせともの展』

関根達人　1999　『明治 14 年相馬中村大火関連の陶磁器』福島考古 40 号

関根達人・佐藤雄生　2009　『出土近世陶磁器からみた蝦夷地の内国化』日本考古学第 28 号

丹治輝一　1973　『母常師鉄および氷上師鉄にみる造鉄技術の諸特徴』北海道開拓記念館研究年報２号

苫小牧市教育委員会　1989『弁天貝塚 幕末期以降に於けるアイヌ貝塚の発掘調査報告書 第３巻』

松下亘・氏家等　1981　『駄知産三平皿について』北海道開拓記念館研究年報９号

松下亘・氏家等・笹木義友　1978　『焼酎徳利について』北海道開拓記念館研究年報６号

報告書抄録

ふりがな	をいかるまいいせき
書　名	ヲイカルマイ遺跡
副書名	道道上幌内早来停車場線特改１種工事（道州）事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	1
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	荻野幸男・奈良智法・乾　哲也
編集機関	厚真町教育委員会
所在地	〒059-1601　北海道勇払郡厚真町京町 165 番地の１
発行機関	厚真町教育委員会
発行年月日	2012 年３月 25 日
ふりがな	をいかるまいいせき
収録遺跡	ヲイカルマイ遺跡
所在地	勇払郡厚真町字吉野 202-4, 203-3, 206-2, 215-2, 237-4, 239-6 他
市町村コード	01581
遺跡番号	J-13-128
北　緯	42° 44′ 50″
東　経	141° 54′ 54″
調査期間	2010 年９月１日～2010 年 11 月 30 日・2011 年 10 月１日～2011 年 11 月 16 日
調査面積	2,400 ㎡（2010 年）・　637 ㎡（2011 年）　　合計 3,037 ㎡
調査原因	道道改良工事
種　別	遺物包含地
主な時代	続縄文文化期・擦文文化期・アイヌ文化期・近代
主な遺構	擦文文化期：土坑・焼土・礫集中 アイヌ文化期：灰集中・焼土・道跡・礫集中・獣骨集中 近代：建物跡・土坑・軌道跡・溝跡
主な遺物	続縄文文化期：北大式土器、後北式土器、石器 擦文文化期：擦文土器、剥片、礫 アイヌ文化期：蝦夷太刀・鉄鍋、礫、獣骨 近代：陶磁器・ガラス製品・金属製品・木製品・漆製品・種子・獣骨・貝殻

要　約

調査では続縄文文化期から明治開拓期以降に及ぶ遺構や遺物を検出した。続縄文文化期は北大式土器が２個体と後北式土器片が少量出土した。擦文文化期は焼土群と集石を確認し、擦文土器が２個体と破片が少量出土した。中世アイヌ文化期は灰集中や焼土周辺から蝦夷太刀一振と鉄鍋片などが出土し鏃石と考えられる棒状礫の集中やシカの四肢骨・歯冠からなる獣骨集中を確認した。年代測定値は 13 世紀代である。近世アイヌ文化期では樽前ｂ火山灰に覆われた状態で道跡２条を確認した。近代は建物跡や軌道跡・溝跡などを確認した。これらの周辺からは幕末から昭和（戦前）の陶磁器やガラス瓶、古銭、蹄鉄、木製品、シカ・ウマの骨、貝殻などが出土した。遺跡が所在する厚真町吉野地区は明治 17 年に農業入植のため和人が移住しており、開拓期の資料が中心と考えられる。

ヲイカルマイ遺跡

道道上幌内早来停車場線特改1種工事(道州)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1

発　行　日　　平成25年3月25日
編集・発行　　厚真町教育委員会
〒059-1601　北海道勇払郡厚真町京町165番地1
TEL　0145－27－2495　　FAX0145－27－3178
印　　刷　　ひまわり印刷株式会社